

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2019 外国語学部 授業
計画
外国語学科

II

外 国 語 学 部

(学部略号：L)

Faculty of Foreign Studies

外国語学科

(学科略号：L)

Department of Foreign Studies

授 業 計 画

※本書(外国語学部 外国語学科Ⅱ)に掲載している科目は、専門科目：
P. 519 ～ P. 970 です。

専門科目：P. 15 ～ P. 518 はⅠに、基礎科目：P. 971 ～ P. 1088、
教養科目：P. 1089 ～ P. 1202、キャリア形成科目：P. 1203 ～ P. 1234、
教職科目：P. 1235 ～ P. 1273 はⅢに掲載しております。

科目名	担当者	ページ
ア		
アーバンツーリズム論	麻 生 将	17
Academic Writing	西 川 眞由美	18
Academic Writing	高 橋 真理子	20
Academic Reading	フーパー トッド	22
Academic Reading	天 野 貴 史	23
Advanced English a	高 橋 真理子	24
Advanced English b	高 橋 真理子	25
アドバンスト ライティング a	高 橋 真理子	26
アドバンスト ライティング b	江 崎 早 苗	27
アメリカ文化論	鳥 居 祐 介	28

科目名	担当者	ページ
イ		
ESP(English for Specific Purposes) a	永 富 真 梨	30
ESP(English for Specific Purposes) a	矢 野 涼 子	32
ESP(English for Specific Purposes) a	西 川 眞由美	33
ESP(English for Specific Purposes) a	齋 藤 安以子	35
ESP(English for Specific Purposes) a	三 宅 一 平	36
ESP(English for Specific Purposes) a	久 田 歩	38
ESP(English for Specific Purposes) a	平 野 惟	40
ESP(English for Specific Purposes) a	マイケル ハーキー	42
ESP(English for Specific Purposes) b	三 宅 一 平	44
ESP(English for Specific Purposes) b	矢 野 涼 子	46
ESP(English for Specific Purposes) b	永 富 真 梨	48
ESP(English for Specific Purposes) b	齋 藤 安以子	50
ESP(English for Specific Purposes) b	江 崎 早 苗	51
ESP(English for Specific Purposes) b	久 田 歩	52
ESP(English for Specific Purposes) b	平 野 惟	54
異文化コミュニケーション論	門 脇 薫	56
異文化接触論	藤 井 嘉 祥	58
異文化ビジネス論	中 島 直 嗣	60
イベント企画論	田浦 アマンダ	62
English for Global Communication a	マイケル ハーキー	64
English for Global Communication a	アイビス ウィリアム	65
English for Global Communication a	リチャード ダイアース	66
English for Global Communication a	田浦 アマンダ	67
English for Global Communication b	マイケル ハーキー	68
English for Global Communication b	アイビス ウィリアム	69
English for Global Communication b	リチャード ダイアース	70
English for Global Communication b	田浦 アマンダ	71
English for TOEFL	松 田 早 恵	72
イングリッシュ プレゼンテーション I b	ダニエル マリンズ	74
English Writing Workshop a	田浦 アマンダ	75
English Writing Workshop a	マイケル ハーキー	77
English Writing Workshop b	田浦 アマンダ	79
English Writing Workshop b	マイケル ハーキー	81
English Lecture I a	フーパー トッド	83
English Lecture I a	ジョセフ シウンシ	85
English Lecture I b	ジョセフ シウンシ	87
English Lecture I b	フーパー トッド	89
English Lecture II a	高 橋 真理子	91
English Lecture II b	田浦 アマンダ	92

科目名	担当者	ページ
インターンシップ I	石 井 三 恵	1205
インターンシップ II	石 井 三 恵	1207
Integrated Skills Training	天 野 貴 史	94
Integrated Skills Training	後 藤 一 章	95
インドネシア・マレー語圏概論	上 田 達	96
インドネシア語 I	山 口 玲 子	973
インドネシア語 II	大 坪 紀 子	975
インドネシア語 II a	山 口 玲 子	98
インドネシア語 II b	大 坪 紀 子	100
インドネシア語 III	大 坪 紀 子	976
インドネシア語 III a	大 坪 紀 子	101
インドネシア語 III b	大 坪 紀 子	103
インドネシア語 IV	大 坪 紀 子	978
インドネシア語コミュニケーション II a	エニ レスタリ	105
インドネシア語コミュニケーション II b	エニ レスタリ	106
インドネシア語コミュニケーション I a	エニ レスタリ	107
インドネシア語コミュニケーション I b	エニ レスタリ	108
インドネシア語コミュニケーション II a (1)	エニ レスタリ	109
インドネシア語コミュニケーション II a (2)	エニ レスタリ	110
インドネシア語コミュニケーション III a	エニ レスタリ	111
インドネシア語コミュニケーション III b	エニ レスタリ	112
インドネシア語入門 a (1)	山 口 玲 子	114
インドネシア語入門 a (2)	山 口 真佐夫	115
インドネシア語入門 b (1)	山 口 玲 子	116
インドネシア語入門 b (2)	山 口 真佐夫	117
インドネシア語表現法	エニ レスタリ	118
インドネシア語表現法 a	エニ レスタリ	119
インドネシア語ボキャブラリー a	山 口 真佐夫	120
インドネシア語ボキャブラリー b	エニ レスタリ	121
インドネシア・マレー語学研究	山 口 真佐夫	122

科目名	担当者	ページ
エ		
エアラインビジネス論	塩 崎 裕 司	123
エアラインビジネス論 I	塩 崎 裕 司	125
映画のスペイン語 I	オラシオ ゴメス	127
映画のスペイン語 I	ディアス イバン	128
映画のスペイン語 II	オラシオ ゴメス	129
映画のスペイン語 II	ディアス イバン	130
映画のスペイン語 II	オラシオ ゴメス	131
映画のスペイン語 II	ディアス イバン	132
映画のスペイン語 III	オラシオ ゴメス	133
映画のスペイン語 III	ディアス イバン	134
英語 I	関 初 海	980
英語 I	井 原 駿	982
英語 I	有 本 好一郎	984
英語 I	曾 我 直 隆	985
英語 I	関 初 海	986
英語 I	李 孝 聖	988
英語 I	金 原 眞由美	990
英語 II	関 初 海	991
英語 II	井 原 駿	993
英語 II	有 本 好一郎	995
英語 II	曾 我 直 隆	996

科目名	担当者	ページ
英語Ⅱ	関 初 海	997
英語Ⅱ	李 孝 聖	999
英語Ⅱ	金 原 真由美	1001
英語Ⅲ	松 井 信 義	1002
英語Ⅳ	松 井 信 義	1003
英語意味論・語用論	藤 原 崇	135
英語科教育法Ⅰ	松 田 早 恵	1237
英語科教育法Ⅱ	齋 藤 安以子	1238
英語科教育法Ⅲ	齋 藤 安以子	1240
英語科教育法Ⅳ	松 田 早 恵	1242
英語学Ⅰ	杉 浦 秀 行	137
英語学Ⅱ	藤 原 崇	138
英語学Ⅲ	鈴 木 大 介	140
英語学概論	杉 浦 秀 行	141
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	高 橋 真理子	142
英語圏概論（北米・ヨーロッパ）	フーパー トッド	143
英語圏概論	高 橋 真理子	144
英語圏概論	フーパー トッド	145
英語構造論	鈴 木 大 介	146
映像中国語 a	中 西 正 樹	147
映像中国語 b	中 西 正 樹	149
英米文学	天 野 貴 史	151
エコツーリズム論	手代木 功 基	153
エリアスタディーズ（アフリカ）	早 川 真 悠	154
エリアスタディーズ（オセアニア）	杉 浦 秀 行	156
エリアスタディーズ（北アメリカ）	鳥 居 祐 介	157
エリアスタディーズ（東南アジア）	上 田 達	159
エリアスタディーズ（日本）	赤 澤 春 彦	160
エリアスタディーズ（東アジア）	小 都 晶 子	161
エリアスタディーズ（ヨーロッパ）	林 田 敏 子	162
エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）	北 條 ゆかり	163
エンプロイメントデザインⅠ	石 井 三 恵	1209
エンプロイメントデザインⅡ	石 井 三 恵	1211

オ

Oral Communication a	ダンカン ホワイト	164
Oral Communication b	ダンカン ホワイト	165
オーラル コミュニケーションⅠ a	中 道 英美子	166
オーラル コミュニケーションⅠ b	中 道 英美子	167
オーラル コミュニケーションⅡ a	曾 我 直 隆	168
オーラル コミュニケーションⅡ b	曾 我 直 隆	169
音声学	中 島 直 嗣	170

カ

海外インターンシップ	中 島 直 嗣	172
海外実習	田浦 アマンダ	173
海外実習	兪 鳴 蒙	174
海外実習	安 達 直 樹	175
海外実習	上 田 達	176
海外ビジネスインターンシップ	西之坊 穂	1091
海外留学事前演習	杉 浦 秀 行	177
海外留学事前演習	中 島 直 嗣	178
海外留学事前演習	鈴 木 大 介	179

科目名	担当者	ページ
海外留学事前演習	鈴 木 大 介	180
海外留学事前演習	兪 鳴 蒙	181
海外留学事前演習	兪 鳴 蒙	182
海外留学事前演習	中 西 正 樹	183
海外留学事前演習	中 島 直 嗣	184
海外留学事前演習	北 條 ゆかり	185
海外留学事前演習	北 條 ゆかり	186
海外留学事前演習	安 達 直 樹	187
海外留学事前演習	藤 井 嘉 祥	188
海外留学事前演習	安 達 直 樹	189
海外留学事前演習	山 口 真佐夫	190
海外留学事前演習	山 口 真佐夫	191
海外留学事前演習	上 田 達	192
海外留学事前演習	上 田 達	193
海外留学事前演習	中 西 正 樹	194
海外留学事前演習	藤 井 嘉 祥	195
海外ワークキャンプ	浅 野 英 一	196
外国語通訳法	湊 由妃子	197
外国語通訳法	段 飛 虹	198
外国語通訳法	北 條 ゆかり	199
外国語通訳法	エニ レスタリ	200
外国語翻訳法	湊 由妃子	201
外国語翻訳法	安 達 直 樹	202
外国語翻訳法	段 飛 虹	203
株式投資と企業家育成	林 正 浩	1092
カレント イングリッシュ a	ニール カー	204
カレント イングリッシュ a	三 宅 一 平	205
カレント イングリッシュ a	藤 原 崇	206
カレント イングリッシュ a	廣 野 允 紀	207
カレント イングリッシュ b	ニール カー	208
カレント イングリッシュ b	三 宅 一 平	209
カレント イングリッシュ b	藤 原 崇	210
カレント イングリッシュ b	平 野 惟	211
環境学	手代木 功 基	1094
観光中国語 a	孫 輝	212
観光中国語 b	孫 輝	213
韓国語Ⅰ	北 島 由紀子	1004
韓国語Ⅰ	沈 明 姫	1005
韓国語Ⅱ	北 島 由紀子	1007
韓国語Ⅱ	沈 明 姫	1008
韓国語Ⅱ a	北 島 由紀子	214
韓国語Ⅱ a	沈 明 姫	215
韓国語Ⅱ b	北 島 由紀子	217
韓国語Ⅱ b	沈 明 姫	218
韓国語Ⅲ	李 知 垠	1010
韓国語Ⅲ a	李 知 垠	220
韓国語Ⅲ b	李 知 垠	222
韓国語Ⅳ	李 知 垠	1012

キ

基礎演習Ⅰ	皆 本 智 美	223
基礎演習Ⅰ	後 藤 一 章	224
基礎演習Ⅰ	林 田 敏 子	225

科目名	担当者	ページ
基礎演習 I	橋本正俊	226
基礎演習 I	赤澤春彦	227
基礎演習 I	浅野英一	228
基礎演習 I	有馬善一	229
基礎演習 I	藤原 崇	230
基礎演習 I	杉浦秀行	231
基礎演習 I	手代木 功基	232
基礎演習 I	鈴木大介	233
基礎演習 I	田中 悟	234
基礎演習 I	門脇 薫	235
基礎演習 I	杉山博昭	236
基礎演習 I	古矢篤史	237
基礎演習 I	上田 達	238
基礎演習 II	山口真佐夫	239
基礎演習 II	中西正樹	240
基礎演習 II	小都晶子	241
基礎演習 II	安達直樹	242
基礎演習 II	北條 ゆかり	243
基礎演習 II	フーパー トッド	244
基礎演習 II	田浦 アマンダ	245
基礎演習 II	マイケル ハーキー	246
基礎演習 II	天野 貴史	247
基礎演習 II	齋藤 安以子	248
基礎演習 II	鳥居 祐介	249
基礎演習 II	吉村 征洋	250
基礎演習 II	中島直嗣	251
基礎演習 II	高橋 真理子	252
基礎ゼミナール	浅野英一	253
基礎ゼミナール	鈴木大介	254
基礎ゼミナール	天野 貴史	255
基礎ゼミナール	有馬善一	256
基礎ゼミナール	赤澤春彦	257
基礎ゼミナール	橋本正俊	258
基礎ゼミナール	田中 悟	259
基礎ゼミナール	古矢篤史	260
基礎ゼミナール	後藤 一章	264
基礎ゼミナール	門脇 薫	262
基礎ゼミナール	手代木 功基	263
基礎ゼミナール	藤原 崇	264
基礎ゼミナール	林田敏子	265
基礎ゼミナール	杉浦秀行	266
基礎ゼミナール	皆本智美	267
基礎ゼミナール	杉山博昭	268
基礎マレー語 a	上田 達	269
基礎マレー語 b	上田 達	270
北河内を知る	荻田 喜代一	1095
キャリアデザイン	石井 三恵	1213
キャリアプランニング	林田敏子	1215
キャリアプランニング	橋本正俊	1217
教育課程論	大野順子	1243
教育経営論	朝日素明	1245
教育原理	谷口雄一	1247
教育実習 I	朝日素明	1248

科目名	担当者	ページ
教育実習 II	朝日素明	1249
教育実習 III	朝日素明	1250
教育社会学	大野順子	1251
教育心理学	吉田佐治子	1253
教育相談	吉田佐治子	1254
教育方法論	林 茂樹	1255
教職実践演習(中・高)	吉田佐治子	1257
教師論	朝日素明	1259
共同体論	林田敏子	271

ク

暮らしの中の文化	杉山博昭	272
グラマー	西川 眞由美	274
クリエイティブビジネス論	針尾大嗣	275
Global Issues	吉村 征洋	277
グローバル企業研究	中島直嗣	278
グローバル経済論	野口義直	280
グローバル社会と日本	村上 司樹	281
グローバルマーケティング論	武居 奈緒子	282

ケ

経済学入門	原田裕治	1097
経済のしくみ	原田裕治	1098
芸術論	杉山博昭	1099
芸能と文化	杉山博昭	283
芸能文化論	杉山博昭	285
健康論	吉川万紀	1013
言語学	山口真佐夫	287
現代学術論	有馬善一	288
現代韓国事情	田中 悟	1101
現代社会と法	小野晃正	1103
現代社会論	有馬善一	289
現代中国論	大西 紀	291
現代ビジネス論	牧 美喜男	1105

コ

語学教育工学	後藤 一章	292
国際関係の基礎理解	田中 悟	293
国際関係論	田中 悟	295
国際機構論	浅野英一	297
国際協力論	浅野英一	298
国際貢献実習演習	浅野英一	299
国際社会論	田中 悟	300
国際文化概論 I	田中 悟	302
国際文化概論 II	赤澤春彦	304
国際平和論	田中 悟	305
国際ボランティア論	浅野英一	307
ことばと意味	西川 眞由美	308
コミュニケーション能力開発	亀田 峻宣	1219
Comprehensive English a	鳥居 祐介	309
Comprehensive English a	松田 早恵	311
Comprehensive English b	鳥居 祐介	313
Comprehensive English b	松田 早恵	315

科目名	担当者	ページ
シ		
時事インドネシア・マレー語	上田 達	317
時事インドネシア・マレー語 a	上田 達	319
時事問題 I	山本文子	1014
時事問題 I	大坪康巳	1016
時事問題 I	西垣 有	1018
時事問題 I	早川 真悠	1020
時事問題 II	山本文子	1022
時事問題 II	西垣 有	1024
時事問題 II	早川 真悠	1026
自然科学の理解	大塚 正人	1107
思想と文化	橋本 正俊	321
実践インドネシア・マレー語 a	山口 真佐夫	322
実践インドネシア・マレー語 b	大坪 紀子	323
社会開発論	手代木 功基	325
社会文化史	林田 敏子	327
就職実践基礎	山岡 亮太	1110
就職実践基礎	亀田 峻宣	1111
就職実践基礎	亀田 峻宣	1112
生涯学習概論	橋本 孝成	328
生涯学習論	橋本 孝成	329
上級検定インドネシア語	山口 玲子	330
情報処理 I	星山 幸子	1028
情報処理 I	藤木 健史	1029
情報処理 I	星山 幸子	1030
情報処理 I	藤木 健史	1031
情報処理 II	星山 幸子	1032
情報処理 II	藤木 健史	1034
情報処理 II	星山 幸子	1036
情報処理 II	藤木 健史	1038
初級検定インドネシア語	山口 真佐夫	331
食品機能学	大橋 貴生	1113
初年次ゼミナール	浅野 英一	332
初年次ゼミナール	天野 貴史	333
初年次ゼミナール	有馬 善一	334
初年次ゼミナール	安達 直樹	335
初年次ゼミナール	皆本 智美	336
初年次ゼミナール	中島 直嗣	337
初年次ゼミナール	杉山 博昭	338
初年次ゼミナール	藤井 嘉祥	339
初年次ゼミナール	西川 真由美	340
初年次ゼミナール	吉村 征洋	341
初年次ゼミナール	小都 晶子	342
初年次ゼミナール	藤原 崇	343
初年次ゼミナール	高橋 真理子	344
初年次ゼミナール	中西 正樹	345
初年次ゼミナール	古矢 篤史	346
初年次ゼミナール	山口 真佐夫	347
人体の構造と機能	宇野 恭介	1115
心理学	吉田 佐治子	1116
神話論	橋本 正俊	348

科目名	担当者	ページ
ス		
数的能力開発	津村 忠	1220
数的能力開発	山岡 亮太	1221
スキルズ トレーニング I a	皆本 智美	349
スキルズ トレーニング I b	天野 貴史	350
スキルズ トレーニング a	皆本 智美	351
スキルズ トレーニング a	杉浦 秀行	352
スキルズ トレーニング a	後藤 一章	353
スキルズ トレーニング a	鈴木 大介	354
スキルズ トレーニング a	鳥居 祐介	355
スキルズ トレーニング a	皆本 智美	356
スキルズ トレーニング b	鳥居 祐介	357
スキルズ トレーニング b	後藤 一章	358
スキルズ トレーニング b	高橋 真理子	360
スキルズ トレーニング b	松田 早恵	361
スキルズ トレーニング b	吉村 征洋	362
スキルズ トレーニング b	天野 貴史	364
スピーキング I a	ジェーン パーメンター	365
スピーキング I b	ジェーン パーメンター	366
スピーキング II a	アイビス ウイリアム	367
スピーキング II b	アイビス ウイリアム	368
スピーキング&ライティング I a	フーパー トッド	369
スピーキング&ライティング I a	グラント パーミンハム	370
スピーキング&ライティング I a	ダニエル マリンズ	371
スピーキング&ライティング I a	久田 歩	372
スピーキング&ライティング I a	スコット ライリー	373
スピーキング&ライティング I a	ニール カー	374
スピーキング&ライティング I a	リチャード ダイアース	375
スピーキング&ライティング I a	ジェフリー ベル	376
スピーキング&ライティング I a	マーティン オイクル	377
スピーキング&ライティング I a	ジェーン パーメンター	378
スピーキング&ライティング I b	フーパー トッド	379
スピーキング&ライティング I b	グラント パーミンハム	380
スピーキング&ライティング I b	ダニエル マリンズ	381
スピーキング&ライティング I b	久田 歩	382
スピーキング&ライティング I b	スコット ライリー	383
スピーキング&ライティング I b	ニール カー	384
スピーキング&ライティング I b	リチャード ダイアース	385
スピーキング&ライティング I b	ジェフリー ベル	386
スピーキング&ライティング I b	マーティン オイクル	387
スピーキング&ライティング I b	ジェーン パーメンター	388
スピーキング&ライティング II a	ダニエル マリンズ	389
スピーキング&ライティング II a	スコット ライリー	390
スピーキング&ライティング II a	マイケル ハーキー	391
スピーキング&ライティング II a	グラント パーミンハム	392
スピーキング&ライティング II a	ジョン カー	393
スピーキング&ライティング II a	ブライアン スレーター	394
スピーキング&ライティング II a	ブルース ライリー	395
スピーキング&ライティング II a	アイビス ウイリアム	396
スピーキング&ライティング II b	ダニエル マリンズ	397
スピーキング&ライティング II b	スコット ライリー	398
スピーキング&ライティング II b	マイケル ハーキー	399

科目名	担当者	ページ
スピーキング&ライティングⅡ b	グラント パーミンハム	400
スピーキング&ライティングⅡ b	ジョン カール	401
スピーキング&ライティングⅡ b	ブライアン スレーター	402
スピーキング&ライティングⅡ b	ブルース ライリー	403
スピーキング&ライティングⅡ b	アイビス ウイリアム	404
スピーキング&ライティングⅢ a	ジェーン パーメンター	405
スピーキング&ライティングⅢ a	アサー ロリングスン	406
スピーキング&ライティングⅢ a	ジョセフ シウンシ	407
スピーキング&ライティングⅢ a	中村 信之	408
スピーキング&ライティングⅢ a	松井 夏津紀	409
スピーキング&ライティングⅢ a	杉浦 秀行	410
スピーキング&ライティングⅢ a	中道 英美子	411
スピーキング&ライティングⅢ b	ジェーン パーメンター	412
スピーキング&ライティングⅢ b	アサー ロリングスン	413
スピーキング&ライティングⅢ b	ジョセフ シウンシ	414
スピーキング&ライティングⅢ b	中村 信之	415
スピーキング&ライティングⅢ b	松井 夏津紀	416
スピーキング&ライティングⅢ b	杉浦 秀行	417
スピーキング&ライティングⅢ b	中道 英美子	418
スペイン語Ⅰ	北條 ゆかり	1040
スペイン語Ⅰ	篠原 愛人	1041
スペイン語Ⅱ	篠原 愛人	1042
スペイン語Ⅱ a	北條 ゆかり	419
スペイン語Ⅱ b	篠原 愛人	420
スペイン語Ⅲ	西村 初美	1043
スペイン語Ⅲ a	西村 初美	421
スペイン語Ⅲ b	西村 初美	423
スペイン語Ⅳ	西村 初美	1045
スペイン語応用Ⅰ	安達 直樹	425
スペイン語応用Ⅰ	磯野 吉美	427
スペイン語応用Ⅱ	磯野 吉美	429
スペイン語応用Ⅱ	林 安紀子	431
スペイン語オラルⅡ A	アラセリ コラール	433
スペイン語オラルⅡ A	モンセラート ロイデ	435
スペイン語オラルⅠ	モンセラート ロイデ	437
スペイン語オラルⅠ	アラセリ コラール	439
スペイン語オラルⅡ	アラセリ コラール	441
スペイン語オラルⅡ	モンセラート ロイデ	443
スペイン語オラルⅢ	オラシオゴメス	445
スペイン語オラルⅢ	ディアス イバン	446
スペイン語オラルⅣ	ディアス イバン	447
スペイン語オラルⅣ	オラシオゴメス	449
スペイン語オラルⅠ A	モンセラート ロイデ	451
スペイン語オラルⅠ A	アラセリ コラール	453
スペイン語オラルⅢ A	オラシオゴメス	455
スペイン語オラルⅢ A	ディアス イバン	456
スペイン語オラルⅣ A	ディアス イバン	457
スペイン語オラルⅣ A	オラシオゴメス	459
スペイン語オラルⅤ	モンセラート ロイデ	461
スペイン語オラルⅤ	アラセリ コラール	462
スペイン語オラルⅥ	アラセリ コラール	463
スペイン語オラルⅥ	モンセラート ロイデ	464
スペイン語オラルⅦ	オラシオゴメス	465

科目名	担当者	ページ
スペイン語オラルⅧ	オラシオゴメス	466
スペイン語基礎A	北條 ゆかり	468
スペイン語基礎A	西村 初美	470
スペイン語基礎B	三浦 知佐子	472
スペイン語基礎B	藤井 嘉祥	474
スペイン語基礎C	篠原 愛人	476
スペイン語基礎C	安達 直樹	478
スペイン語圏概論	安達 直樹	480
スペイン語圏トピックスⅣ	安達 直樹	481
スペイン語講読Ⅰ	藤井 嘉祥	482
スペイン語講読Ⅰ	三浦 知佐子	483
スペイン語講読Ⅱ	三浦 知佐子	484
スペイン語講読Ⅱ	藤井 嘉祥	485
スペイン語総合A	北條 ゆかり	486
スペイン語総合A	西村 初美	488
スペイン語総合B	三浦 知佐子	490
スペイン語総合B	藤井 嘉祥	492
スペイン語通訳Ⅰ	北條 ゆかり	494
スペイン語通訳Ⅰ	篠原 愛人	495
スペイン語通訳Ⅱ	篠原 愛人	496
スペイン語通訳Ⅱ	北條 ゆかり	497
スペイン語通訳ガイドⅠ	北條 ゆかり	498
スペイン語通訳ガイドⅠ	篠原 愛人	499
スペイン語通訳ガイドⅡ	篠原 愛人	500
スペイン語通訳ガイドⅡ	北條 ゆかり	501
スペイン語トピックス	安達 直樹	502
スペイン語入門A	西村 初美	503
スペイン語入門A	北條 ゆかり	504
スペイン語入門B	藤井 嘉祥	505
スペイン語入門B	三浦 知佐子	506
スペイン語入門C	安達 直樹	507
スペイン語入門C	篠原 愛人	508
スペイン語プレゼンテーションⅠ	オラシオゴメス	509
スペイン語プレゼンテーションⅡ	オラシオゴメス	510
スペイン語文章構成Ⅰ	磯野 吉美	512
スペイン語文章構成Ⅰ	林 安紀子	513
スペイン語文章構成Ⅱ	林 安紀子	514
スペイン語文章構成Ⅱ	磯野 吉美	515
スペイン語文章構成Ⅲ	林 安紀子	516
スペイン語文章構成Ⅲ	磯野 吉美	517
スペイン語文章構成Ⅳ	磯野 吉美	518
スペイン語文章構成Ⅳ	林 安紀子	519
スペシャリストインドネシア・マレー語	上田 達	520
スポーツ科学実習Ⅰ	藤林 真美	1047
スポーツ科学実習Ⅰ	藤林 真美	1048
スポーツ科学実習Ⅱ	藤林 真美	1049
スポーツ科学実習Ⅱ	藤林 真美	1050
住まいとデザイン	北本 裕之	1117
住まいとデザイン	岩波 由佳	1119
セ		
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野 英一	1121
生徒指導論	朝日 素明	1260

科目名	担当者	ページ
生物と環境	手代木 功 基	1122
生命と物質	宇 野 恭 介	1124
世界遺産論	北 條 ゆかり	1125
世界の政治	田 中 悟	1127
世界の歴史	林 田 敏 子	521
摂南大学PBLプロジェクトI	居 場 嘉 教	1129
摂南大学PBLプロジェクトI	橋 本 正 治	1130
摂南大学PBLプロジェクトI	石 田 秀 士	1131
摂南大学PBLプロジェクトI	石 田 裕 子	1132
摂南大学PBLプロジェクトI	浅 野 英 一	1133
摂南大学PBLプロジェクトI	久 保 貞 也	1134
摂南大学PBLプロジェクトI	牧 野 幸 志	1135
摂南大学PBLプロジェクトI	大 塚 正 人	1136
摂南大学PBLプロジェクトI	石 井 信 輝	1137
摂南大学PBLプロジェクトI	田 井 義 人	1138
摂南大学PBLプロジェクトI	吉 田 佐治子	1140
摂南大学PBLプロジェクトI	上野山 裕 士	1141
摂南大学PBLプロジェクトI	藤 原 京 佳	1142
摂南大学PBLプロジェクトII	居 場 嘉 教	1143
摂南大学PBLプロジェクトII	橋 本 正 治	1144
摂南大学PBLプロジェクトII	石 田 秀 士	1145
摂南大学PBLプロジェクトII	石 田 裕 子	1146
摂南大学PBLプロジェクトII	浅 野 英 一	1147
摂南大学PBLプロジェクトII	久 保 貞 也	1148
摂南大学PBLプロジェクトII	牧 野 幸 志	1149
摂南大学PBLプロジェクトII	大 塚 正 人	1150
摂南大学PBLプロジェクトII	石 井 信 輝	1151
摂南大学PBLプロジェクトII	田 井 義 人	1152
摂南大学PBLプロジェクトII	吉 田 佐治子	1154
摂南大学PBLプロジェクトII	上野山 裕 士	1155
摂南大学PBLプロジェクトII	藤 原 京 佳	1156
専門日本語F I	塩 谷 尚 子	1051
専門日本語F II	塩 谷 尚 子	1052
専門日本語R	塩 谷 尚 子	1053

ソ

総合インドネシア語 a (1)	山 口 真佐夫	522
総合インドネシア語 a (2)	大 坪 紀 子	523
総合インドネシア語 b (1)	山 口 真佐夫	524
総合インドネシア語 b (2)	大 坪 紀 子	525
総合スペイン語 I	安 達 直 樹	526
総合スペイン語 I	磯 野 吉 美	528
総合スペイン語 II	磯 野 吉 美	530
総合スペイン語 II	林 安紀子	532
総合スペイン語 III A	北 條 ゆかり	534
総合スペイン語 III A	西 村 初 美	536
総合スペイン語 III B	三 浦 知佐子	538
総合スペイン語 III B	藤 井 嘉 祥	540
ソーシャル・イノベーション実務総論	石 井 三 恵	1157
組織と経営	西之坊 穂	1159
卒業研究 I	赤 澤 春 彦	542
卒業研究 I	浅 野 英 一	543
卒業研究 I	安 達 直 樹	544

科目名	担当者	ページ
卒業研究 I	天 野 貴 史	545
卒業研究 I	有 馬 善 一	546
卒業研究 I	上 田 達	547
卒業研究 I	浦 野 崇 央	548
卒業研究 I	大原関 一 浩	549
卒業研究 I	神 崎 舞	550
卒業研究 I	後 藤 一 章	551
卒業研究 I	齋 藤 安以子	552
卒業研究 I	柴 田 陽 一	553
卒業研究 I	杉 浦 秀 行	554
卒業研究 I	鈴 木 大 介	555
卒業研究 I	住 吉 誠	556
卒業研究 I	田浦 アマンダ	557
卒業研究 I	田 中 悟	558
卒業研究 I	手代木 功 基	559
卒業研究 I	鳥 居 祐 介	560
卒業研究 I	中 島 直 嗣	561
卒業研究 I	中 西 正 樹	562
卒業研究 I	西 川 真由美	563
卒業研究 I	橋 本 正 俊	564
卒業研究 I	林 田 敏 子	565
卒業研究 I	フーパー トッド	566
卒業研究 I	北 條 ゆかり	567
卒業研究 I	マイケル ハーキー	568
卒業研究 I	松 田 早 恵	569
卒業研究 I	山 口 真佐夫	570
卒業研究 I	兪 鳴 蒙	571
卒業研究 I	吉 村 征 洋	572
卒業研究 I	小 都 晶 子	573
卒業研究 II	赤 澤 春 彦	574
卒業研究 II	浅 野 英 一	575
卒業研究 II	安 達 直 樹	576
卒業研究 II	天 野 貴 史	577
卒業研究 II	有 馬 善 一	578
卒業研究 II	上 田 達	579
卒業研究 II	浦 野 崇 央	580
卒業研究 II	大原関 一 浩	581
卒業研究 II	神 崎 舞	582
卒業研究 II	後 藤 一 章	583
卒業研究 II	齋 藤 安以子	584
卒業研究 II	柴 田 陽 一	585
卒業研究 II	杉 浦 秀 行	586
卒業研究 II	鈴 木 大 介	587
卒業研究 II	住 吉 誠	588
卒業研究 II	田浦 アマンダ	589
卒業研究 II	田 中 悟	590
卒業研究 II	手代木 功 基	591
卒業研究 II	鳥 居 祐 介	592
卒業研究 II	中 島 直 嗣	593
卒業研究 II	中 西 正 樹	594
卒業研究 II	西 川 真由美	595
卒業研究 II	橋 本 正 俊	596
卒業研究 II	林 田 敏 子	597

科目名	担当者	ページ
卒業研究Ⅱ	フーパー トッド	598
卒業研究Ⅱ	北 條 ゆかり	599
卒業研究Ⅱ	マイケル ハーキー	600
卒業研究Ⅱ	松 田 早 恵	601
卒業研究Ⅱ	皆 本 智 美	602
卒業研究Ⅱ	山 口 真佐夫	603
卒業研究Ⅱ	兪 鳴 蒙	604
卒業研究Ⅱ	吉 村 征 洋	605
卒業研究Ⅱ	小 都 晶 子	606

夕

大学教養応用	大 塚 正 人	1161
大学教養実践	伊 藤 譲	1163
大学教養入門	荻 田 喜代一	1165
体験型特別実習 A	沖 中 美 喜	607
体験型特別実習 B	中 西 正 樹	608
大衆文化論	森 本 誠 一	609
ダイバーシティとコミュニケーション	石 井 三 恵	1167
旅と観光の地理	手代木 功 基	611
旅の文学	古 矢 篤 史	612
多文化共生論	橋 本 正 俊	614
多文化の共生	橋 本 正 俊	615

チ

地域環境論	手代木 功 基	616
地域貢献実践演習	鶴 坂 貴 恵	1169
地域と国際ビジネス	藤 井 嘉 祥	617
地域と私	鶴 坂 貴 恵	1170
地域連携教育活動Ⅰ	吉 田 佐治子	1172
地域連携教育活動Ⅱ	吉 田 佐治子	1173
チームビルディング	水 野 武	1174
中級検定インドネシア語	山 口 玲 子	619
中国語Ⅰ	孫 輝	1054
中国語Ⅰ	曹 櫻	1055
中国語Ⅰ	中 西 正 樹	1056
中国語Ⅱ	曹 櫻	1057
中国語Ⅱ	孫 輝	1058
中国語Ⅱ a	孫 輝	620
中国語Ⅱ a	曹 櫻	621
中国語Ⅱ b	曹 櫻	622
中国語Ⅱ b	孫 輝	623
中国語Ⅲ	欒 玉 璽	1059
中国語Ⅲ a	欒 玉 璽	624
中国語Ⅲ b	欒 玉 璽	625
中国語Ⅳ	欒 玉 璽	1060
中国語圏概論	史 耕 雲	627
中国語科教育法Ⅰ	中 西 正 樹	1261
中国語科教育法Ⅱ	中 西 正 樹	1262
中国語科教育法Ⅲ	小 都 晶 子	1264
中国語科教育法Ⅳ	兪 鳴 蒙	1265
中国語学Ⅰ	中 西 正 樹	628
中国語学Ⅱ	兪 鳴 蒙	629
中国語語彙論	兪 鳴 蒙	630

科目名	担当者	ページ
中国語コミュニケーション a	曹 櫻	631
中国語コミュニケーション b	曹 櫻	632
中国語プレゼンテーション a	馮 艶	633
中国語プレゼンテーション a	史 耕 雲	634
中国語プレゼンテーション b	史 耕 雲	635
中国語プレゼンテーション b	馮 艶	636
中国語文字論	中 西 正 樹	637
中国語を書くⅠ a	孫 輝	638
中国語を書くⅠ b	孫 輝	639
中国語を書くⅡ a	兪 鳴 蒙	640
中国語を書くⅡ b	兪 鳴 蒙	642
中国語を聞くⅠ a	史 耕 雲	644
中国語を聞くⅠ a	小 都 晶 子	645
中国語を聞くⅠ b	小 都 晶 子	646
中国語を聞くⅠ b	史 耕 雲	647
中国語を聞くⅡ a	馮 艶	648
中国語を聞くⅡ a	小 都 晶 子	649
中国語を聞くⅡ b	馮 艶	650
中国語を聞くⅡ b	小 都 晶 子	651
中国語を話すⅠ a	大 西 紀	652
中国語を話すⅠ a	曹 櫻	653
中国語を話すⅠ b	曹 櫻	654
中国語を話すⅠ b	大 西 紀	655
中国語を話すⅡ a	段 飛 虹	656
中国語を話すⅡ a	曹 櫻	658
中国語を話すⅡ b	段 飛 虹	660
中国語を話すⅡ b	曹 櫻	662
中国語を読むⅠ a	欒 玉 璽	664
中国語を読むⅠ b	欒 玉 璽	665
中国語を読むⅡ a	中 西 正 樹	666
中国語を読むⅡ b	中 西 正 樹	668
中国史学	小 都 晶 子	670
中国地誌学	小 都 晶 子	671
中国文学	馮 艶	672

ツ

通訳・翻訳インドネシア・マレー語	山 口 真佐夫	673
ツーリズム論Ⅰ	手代木 功 基	674
ツーリズム論Ⅱ	麻 生 将	675

テ

ディスプレイ論	松 浦 清	676
ディスプレイ論	松 浦 清	678
Debate & Presentation a	久 田 歩	680
Debate & Presentation b	齋 藤 安以子	682
哲学から学ぶ	有 馬 善 一	1176
哲学と倫理	有 馬 善 一	683

ト

道徳教育の研究	谷 口 雄 一	1266
東南アジア史学	上 田 達	684
東南アジア地誌学	上 田 達	685
特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	林 茂 樹	1268

科目名	担当者	ページ
特別活動の理論と方法	林 茂 樹	1270
特別支援教育論	林 茂 樹	1272
トピック スタディーズ I	ジェフリー ベル	686
トピック スタディーズ I	ブライアン スレーター	687
トピック スタディーズ I	ニール カー	689
トピック スタディーズ I	永 富 真 梨	690
トピック スタディーズ I a	ニール カー	691
トピック スタディーズ I a	ブライアン スレーター	692
トピック スタディーズ I a	永 富 真 梨	694
トピック スタディーズ I a	ジェフリー ベル	696
トピック スタディーズ I b	ジェフリー ベル	697
トピック スタディーズ I b	ブライアン スレーター	698
トピック スタディーズ I b	ニール カー	700
トピック スタディーズ I b	永 富 真 梨	701
トピック スタディーズ II	リチャード ダイアース	702
トピック スタディーズ II	金 原 真由美	703
トピック スタディーズ II	アーサー ロリングスン	704
トピック スタディーズ II	松 井 夏津紀	705
トピック スタディーズ II a	アイビス ウイリアム	706
トピック スタディーズ II a	金 原 真由美	707
トピック スタディーズ II a	アーサー ロリングスン	709
トピック スタディーズ II a	松 井 夏津紀	710
トピック スタディーズ II b	リチャード ダイアース	711
トピック スタディーズ II b	金 原 真由美	712
トピック スタディーズ II b	アーサー ロリングスン	713
トピック スタディーズ II b	松 井 夏津紀	714
トピック スタディーズ III	アイビス ウイリアム	715
トピック スタディーズ III	金 原 真由美	716
トピック スタディーズ III	アーサー ロリングスン	718
トピック スタディーズ III	松 井 夏津紀	719
ドラマ	齋 藤 安以子	720
ドラマ	ダニエル マリンズ	721
ドラマ	ニール カー	722
ドラマ	久 田 歩	723
ドラマ	スコット ライリー	724
ドラマ I	スコット ライリー	725
トランスレーション トレーニング a	齋 藤 安以子	726
トランスレーション トレーニング b	齋 藤 安以子	727
二		
日米比較文化	鳥 居 祐 介	728
日米文化交流史	永 富 真 梨	730
日本語音韻論	橋 本 正 俊	731
日本語会話 F I	古 川 由理子	1061
日本語会話 F II	古 川 由理子	1062
日本語会話 R	古 川 由理子	1063
日本語学 I	橋 本 正 俊	732
日本語学 II	橋 本 正 俊	733
日本語学 III	古 矢 篤 史	734
日本語学 IV	古 矢 篤 史	735
日本語教育実習演習	門 脇 薫	736
日本語教授法 I	門 脇 薫	738
日本語教授法 II	大 西 ま き	739

科目名	担当者	ページ
日本語教授法 III	千々岩 宏 晃	740
日本国憲法	鳥谷部 壤	1177
日本語語彙論	古 矢 篤 史	742
日本語史概説	橋 本 正 俊	743
日本語総合 F I	藤 原 京 佳	1064
日本語総合 F II	藤 原 京 佳	1065
日本語総合 R	藤 原 京 佳	1066
日本語読解 F I	佐々木 成 美	1067
日本語読解 F II	佐々木 成 美	1068
日本語読解 R	佐々木 成 美	1069
日本語能力開発 I	人形寺 英利子	1222
日本語能力開発 I	澤 野 加 奈	1223
日本語能力開発 I	細 川 知佐子	1224
日本語能力開発 I	人形寺 英利子	1225
日本語能力開発 I	細 川 知佐子	1226
日本語能力開発 II	人形寺 英利子	1227
日本語能力開発 II	澤 野 加 奈	1228
日本語能力開発 II	細 川 知佐子	1229
日本語能力開発 II	人形寺 英利子	1230
日本語能力開発 II	細 川 知佐子	1231
日本語表現作文 F I	佐々木 成 美	1070
日本語表現作文 F II	佐々木 成 美	1071
日本語表現作文 R	佐々木 成 美	1072
日本語表現論	橋 本 正 俊	744
日本語文法 F I	佐々木 成 美	1073
日本語文法 F II	佐々木 成 美	1074
日本語文法 R	佐々木 成 美	1075
日本語文法論	古 矢 篤 史	745
日本史学	赤 澤 春 彦	746
日本事情 F I	門 脇 薫	1076
日本事情 F II	門 脇 薫	1078
日本事情 R I	門 脇 薫	1080
日本事情 R II	門 脇 薫	1082
日本と世界の出会い	村 上 司 樹	747
日本の歴史	赤 澤 春 彦	748
日本文学	古 矢 篤 史	749
人間の探求	池 田 清	1178

八

博物館概論	岩 間 香	751
博物館教育論	松 永 和 浩	753
博物館実習	赤 澤 春 彦	755
博物館情報・メディア論	中 川 馨	756
博物館資料保存論	赤 澤 春 彦	757
博物館資料論	杉 山 博 昭	758
パッケージプログラム演習	中 島 直 嗣	760
パッケージプログラム演習	手代木 功 基	761
パッケージプログラム演習	中 西 正 樹	762
パッケージプログラム演習	塩 崎 裕 司	763
パッケージプログラム演習	皆 本 智 美	764
パッケージプログラム演習	赤 澤 春 彦	765
犯罪被害者の支援と法的救済	小 野 晃 正	1179

科目名	担当者	ページ
ヒ		
ビジネス イングリッシュ a	井原 駿	766
ビジネス イングリッシュ b	井原 駿	767
ビジネスインドネシア・マレー語	エニ レスタリ	768
ビジネスインドネシア語	エニ レスタリ	769
ビジネスコミュニケーション論	石井 三恵	770
ビジネス心理学	牧野 幸志	772
ビジネス中国語 a	兪 鳴蒙	774
ビジネス中国語 b	兪 鳴蒙	776
ビジネスマナー	奥田 和子	1181
ビジネスマナー	奥田 和子	1232
ビジュアルデザイン論	漆 麟	777
美術の歩み	杉山 博昭	778
フ		
風土と地理	手代木 功基	780
Practical English Conversation	田浦 アマンダ	781
Practical English Conversation	リチャード ダイアース	782
Practical English Conversation	クリスファー ジョンストン	783
フランス語 I	中井 裕之	1084
フランス語 II	中井 裕之	1085
フランス語 II a	中井 裕之	784
フランス語 II b	中井 裕之	785
フランス語 III	藤本 武司	1086
フランス語 III a	藤本 武司	786
フランス語 III b	藤本 武司	787
フランス語 IV	藤本 武司	1087
プレゼンテーション	フーパー トッド	788
プレゼンテーション	久田 歩	789
プレゼンテーション	スコット ライリー	790
プレゼンテーション	ニール カー	791
プレゼンテーション	ダニエル マリンズ	792
プレゼンテーションインドネシア・マレー語	上田 達	793
フレッシュマン イングリッシュ	中島 直嗣	794
プロポーザル・デザイン	北村 浩	1183
文化演習 I	赤澤 春彦	795
文化演習 I	浅野 英一	796
文化演習 I	安達 直樹	797
文化演習 I	天野 貴史	798
文化演習 I	有馬 善一	799
文化演習 I	上田 達	800
文化演習 I	藤井 嘉祥	801
文化演習 I	後藤 一章	802
文化演習 I	齋藤 安以子	803
文化演習 I	皆本 智美	804
文化演習 I	杉浦 秀行	805
文化演習 I	鈴木 大介	806
文化演習 I	門脇 薫	807
文化演習 I	田浦 アマンダ	808
文化演習 I	田中 悟	809
文化演習 I	手代木 功基	810
文化演習 I	鳥居 祐介	811

科目名	担当者	ページ
文化演習 I	中島 直嗣	812
文化演習 I	中西 正樹	813
文化演習 I	西川 真由美	814
文化演習 I	橋本 正俊	815
文化演習 I	林田 敏子	816
文化演習 I	フーパー トッド	817
文化演習 I	北條 ゆかり	818
文化演習 I	マイケル ハーキー	819
文化演習 I	松田 早恵	820
文化演習 I	兪 鳴蒙	821
文化演習 I	吉村 征洋	822
文化演習 I	小都 晶子	823
文化演習 I	杉山 博昭	824
文化演習 I	古矢 篤史	825
文化演習 I	高橋 真理子	826
文化演習 II	赤澤 春彦	827
文化演習 II	浅野 英一	828
文化演習 II	安達 直樹	829
文化演習 II	天野 貴史	830
文化演習 II	有馬 善一	831
文化演習 II	上田 達	832
文化演習 II	藤井 嘉祥	833
文化演習 II	後藤 一章	834
文化演習 II	齋藤 安以子	835
文化演習 II	皆本 智美	836
文化演習 II	杉浦 秀行	837
文化演習 II	鈴木 大介	838
文化演習 II	門脇 薫	839
文化演習 II	田浦 アマンダ	840
文化演習 II	田中 悟	841
文化演習 II	手代木 功基	842
文化演習 II	鳥居 祐介	843
文化演習 II	中島 直嗣	844
文化演習 II	中西 正樹	845
文化演習 II	西川 真由美	846
文化演習 II	橋本 正俊	847
文化演習 II	林田 敏子	848
文化演習 II	フーパー トッド	849
文化演習 II	北條 ゆかり	850
文化演習 II	マイケル ハーキー	851
文化演習 II	松田 早恵	852
文化演習 II	兪 鳴蒙	853
文化演習 II	吉村 征洋	854
文化演習 II	小都 晶子	855
文化演習 II	杉山 博昭	856
文化演習 II	古矢 篤史	857
文化演習 II	高橋 真理子	858
文化観光実習演習	赤澤 春彦	859
文化人類学	西垣 有	1185
文化と表現	橋本 正俊	860

科目名	担当者	ページ
ホ		
貿易中国語 a	兪 鳴 蒙	861
貿易中国語 b	兪 鳴 蒙	863
ボキャブラリー&グラマー a	吉 村 征 洋	864
ボキャブラリー&グラマー a	松 田 早 恵	865
ボキャブラリー&グラマー a	皆 本 智 美	866
ボキャブラリー&グラマー a	西 川 眞由美	867
ボキャブラリー&グラマー a	鳥 居 祐 介	868
ボキャブラリー&グラマー a	鈴 木 大 介	869
ボキャブラリー&グラマー a	後 藤 一 章	870
ボキャブラリー&グラマー a	杉 浦 秀 行	871
ボキャブラリー&グラマー a	高 橋 眞理子	872
ボキャブラリー&グラマー a	中 島 直 嗣	873
ボキャブラリー&グラマー b	鈴 木 大 介	874
ボキャブラリー&グラマー b	杉 浦 秀 行	875
ボキャブラリー&グラマー b	中 島 直 嗣	876
ボキャブラリー&グラマー b	鳥 居 祐 介	877
ボキャブラリー&グラマー b	吉 村 征 洋	878
ボキャブラリー&グラマー b	後 藤 一 章	879
ボキャブラリー&グラマー b	高 橋 眞理子	880
ボキャブラリー&グラマー b	齋 藤 安以子	881
ボキャブラリー&グラマー b	松 田 早 恵	882
ボキャブラリー&グラマー b	西 川 眞由美	883
ホスピタリティ・インターンシップ	塩 崎 裕 司	884
ホスピタリティ論	沖 中 美 喜	885
ホスピタリティ論 I	沖 中 美 喜	886
ホテルビジネス論	塩 崎 裕 司	887
ホテルビジネス論 I	塩 崎 裕 司	889
ボランティア論	浅 野 英 一	891
翻訳文化論	古 矢 篤 史	892

マ		
マーケティングと歴史	武 居 奈緒子	1187
マーケティング入門	武 居 奈緒子	1189
マスコミ論	上 島 誠 司	893

ミ		
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中 沼 丈 晃	1190
ミュージアムコレクション論	杉 山 博 昭	895
ミュージアムへの招待	岩 間 香	897
ミュージアムマネジメント論	赤 澤 春 彦	899

メ		
メディア イングリッシュ a	マイケル ハーキー	900
メディア イングリッシュ a	中 道 英美子	901
メディア イングリッシュ a	金 原 眞由美	902
メディア イングリッシュ a	松 井 夏津紀	903
メディア イングリッシュ a	里 井 眞理子	904
メディア イングリッシュ b	マイケル ハーキー	905
メディア イングリッシュ b	中 道 英美子	906
メディア イングリッシュ b	金 原 眞由美	907
メディア イングリッシュ b	松 井 夏津紀	908

科目名	担当者	ページ
メディア イングリッシュ b	里 井 眞理子	909
メディア中国語 a	大 西 紀	910
メディア中国語 b	大 西 紀	911
メディアのスペイン語 I	安 達 直 樹	912
メディアのスペイン語 I	藤 井 嘉 祥	913
メディアのスペイン語 I	三 浦 知佐子	914
メディアのスペイン語 II	三 浦 知佐子	915
メディアのスペイン語 II	藤 井 嘉 祥	916
メディアのスペイン語 III	安 達 直 樹	917
メディア文化論	森 本 誠 一	918
メディアリテラシー論	有 馬 善 一	920

モ		
ものづくりインターンシップ基礎	坂 本 淳 二	1192
ものづくりインターンシップ基礎	檜 橋 祥 一	1194
ものづくりインターンシップ実践	坂 本 淳 二	1195
ものづくり海外インターンシップ	檜 橋 祥 一	1197
ものづくり研究の世界	堀 江 昌 朗	1198

ヤ		
役立つ金融知力	陸 川 富 盛	1200

ヨ		
ヨーロッパ史学	林 田 敏 子	922

ラ		
ライティング b	ブライアン スレーター	923
ライフサイエンスの基礎	西 矢 芳 昭	1202
ラテンアメリカの社会と文化	北 條 ゆかり	925

リ		
リーディング I a	湊 由妃子	926
リーディング I a	吉 村 征 洋	928
リーディング I a	西 谷 継 治	929
リーディング I a	里 井 眞理子	930
リーディング I a	金 原 眞由美	932
リーディング I a	ジェーン パーメンター	933
リーディング I b	湊 由妃子	934
リーディング I b	藤 原 崇	936
リーディング I b	西 谷 継 治	937
リーディング I b	里 井 眞理子	938
リーディング I b	金 原 眞由美	940
リーディング I b	ジェーン パーメンター	941
リーディング II a	吉 村 征 洋	942
リーディング II a	湊 由妃子	944
リーディング II a	リチャード ダイアース	946
リーディング II a	マーティン オイクル	947
リーディング II a	グラント パーミンハム	949
リーディング II b	吉 村 征 洋	951
リーディング II b	湊 由妃子	953
リーディング II b	リチャード ダイアース	955
リーディング II b	マーティン オイクル	956
リーディング II b	グラント パーミンハム	958

科目名	担当者	ページ
リーディングⅢ a	鈴木 大 介	960
リーディングⅢ a	松 井 信 義	961
リーディングⅢ a	井 寺 利 奈	962
リーディングⅢ a	有 本 好 一 郎	963
リーディングⅢ b	鈴木 大 介	964
リーディングⅢ b	松 井 信 義	965
リーディングⅢ b	井 寺 利 奈	966
リーディングⅢ b	有 本 好 一 郎	967
旅行インドネシア・マレー語	山 口 玲 子	968
旅行インドネシア語	山 口 玲 子	969

專 門 科 目

科目名	スペイン語文章構成IV	科目名(英文)	Spanish Composition IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3106e0		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとめた文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。 スピーチコンテスト(全員参加)に向けて原稿のスペイン語訳、添削、暗唱を行う。授業内でスペイン語原稿の手直しもするが、自分の原稿だけでなく、他者の文章のチェック、修正も行う。この取り組みへの積極的な参加が求められる。
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。 スペイン語原稿の相互チェックの活動を通じて互いの成長のために他者と協働できる。
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。予習として複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級～3級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要についての説明 文の構造の復習 スピーチ原稿指導	スピーチコンテストのスペイン語原稿の作成と提出
2	プリント①: スペイン語圏の都市を紹介する(1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳(プリント①)をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
3	プリント②: スペイン語圏の都市を紹介する(2)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳(プリント②)をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
4	プリント③: スペイン語圏の著名人(1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳(プリント③)をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
5	プリント④: スペイン語圏の著名人(2)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳(プリント④)をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
6	プリント⑤: スペイン語圏の文化(1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳(プリント⑤)をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
7	プリント⑥: スペイン語圏の文化(2)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳(プリント⑥) 語彙の整理 スピーチの練習
8	前半のまとめと学習事項の確認	既習事項の復習 スピーチ原稿指導	既習内容の復習(プリント①～⑥) スピーチの練習
9	プリント⑦: スペイン語圏の社会問題(1)	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳(プリント⑦)をしておくこと 語彙の整理 スピーチの練習
10	プリント⑧: スペイン語圏の社会問題(2)	和文西訳 コンテスト直前スピーチ原稿指導	和文西訳(プリント⑧)をしておくこと 語彙の整理 スピーチの練習
11	プリント⑨: スペイン語圏の社会問題(3)	和文西訳	和文西訳(プリント⑨)をしておくこと 語彙の整理
12	プリント⑩: スペイン語圏の世界遺産(1)	和文西訳	和文西訳(プリント⑩)をしておくこと 語彙の整理
13	プリント⑪: スペイン語圏の世界遺産(2)	和文西訳	和文西訳(プリント⑪)をしておくこと 語彙の整理
14	プリント⑫: スペイン語圏の世界遺産(3)	和文西訳	和文西訳(プリント⑫)をしておくこと 語彙の整理
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習(プリント①～⑫)

関連科目: スペイン語オラルVI、スペイン語通訳II、メディアのスペイン語III

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準): 練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲 30%、臨時試験 70%

学生へのメッセージ: スピーチ原稿作成に関しては、年頭に配布する実施要領に従って計画的に準備してください。
外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。教材やスピーチ原稿作成にあたって出てきた語彙・構文を何度も復習して自分のものにしてください。

担当者の研究室等: 7号館2階 非常勤講師控室

備考: 授業スケジュールは一応の目安であり、状況により変更が生じうる。
事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。
授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。
授業で課した課題やsh九題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペシャリストインドネシア・マレー語	科目名(英文)	Indonesian-Malay for Specific Purposes
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達, エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3141e0		

授業概要・目的	これまで学習してきたインドネシア語、マレー語の運用能力をさらに高める。そのために上級レベルの講読、論文の執筆、聞きとり及び内容に対する討論、プレゼンテーションを行う。
到達目標	インドネシア語、マレー語について高度な運用能力を獲得することができる。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加することが望まれる。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語、マレー語運用能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、授業全体の構成等について説明する。(上田・エニ担当)	シラバスを読んでおくこと。
2	講読1	社会に出来事についてメディアの記事を使用して授業行う(エニ担当)	予習をしておくこと。
3	講読2	メディア・新聞の記事の内容を使用して講読を行う。(エニ担当)	予習をしておくこと。
4	講読3	メディア・新聞の記事の内容を使用して講読を行う。(エニ担当)	予習を行った上、講読した文献の内容をまとめておくこと。
5	論文の執筆1	論文の執筆を行うための基礎知識を学習する。論文の執筆を行う。(エニ担当)	学習した知識をもとに、予習をしておくこと。
6	論文の執筆2	論文の執筆を行う。(エニ担当)	予習をしておくこと。
7	講読、論文の内容をまとめる。	論文を完成させる。(エニ担当)	まとめ終わった内容をもとにプレゼンテーションの準備を完了しておく。
8	プレゼンテーション	5週目～7週目までのまとめを発表する。(エニ担当)	プレゼンテーションの練習をしておくことと発表する。
9	文献講読1	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
10	文献講読2	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
11	文献講読3	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
12	資料読解1	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
13	資料読解2	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
14	資料読解3	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。
15	プレゼンテーション	受講者が選択した論文の内容について要約を行う。(上田担当)	図書館やウェブから課題文献を選択して、配付資料等の発表準備を十分に行うこと。

関連科目	インドネシア語・マレー語の全科目
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じてプリントを用意する。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜指示する。		
2				
3				

評価方法(基準)	前半(エニ担当)と後半(上田担当)のそれぞれについて、提出物や課題等の取り組み(30%)と、最終課題(70%)から総合的に判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師控室 7号館5階(上田研究室)
備考	提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後一週間以内に評価を記して返却する。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。

科目名	世界の歴史	科目名(英文)	World History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	イギリスの歴史と文化を、現代社会とのつながりを重視しながら概観する。「サッカー発祥の地」、「紅茶とアンティークの国」など、われわれがイギリスに対して抱いているイメージには、歴史的根拠が存在する。「イギリス料理はなぜまずいのか」、「イギリス人はなぜ傘をささないのか」といった身近な問いを出発点にしながら、政治・経済・文化、あらゆる角度からイギリス社会を読み解いていく。
到達目標	ヨーロッパ、大英帝国など、複数の次元でイギリスをとらえたときの特徴を理解する。一国の歴史にとどまらない、広がりのある歴史解釈するにはどうすればよいか、その方法論を身につける。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果(資格)	歴史学に関する基本的知識を身につけるとともに、「過去」を通して「現代」を見つめる視座を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イギリスとは何か	国のなりたちと地理	「イギリス」の正式名称を調べてくる。
2	イギリス人のナショナル・アイデンティティ	連合王国、帝国としてのイギリス	ユニオン・ジャックの由来について調べてくる。
3	「イギリス」の歴史的形成過程	古代から現代までの領土の変遷	年表づくりをおこなう。
4	イギリス古代の歴史 ～ストーンヘンジの謎にせまる～	ケルト時代・ローマ時代・ゲルマン人の到来	異民族侵入の歴史を地図にまとめる。
5	バイユのタペストリの世界	七王国時代からノルマン朝時代まで	史料としての「バイユのタペストリ」から読み取れることをまとめる。
6	ウェールズの歴史(1)	イングランドとウェールズの関係史	プリンス・オブ・ウェールズという称号の意味について調べてくる。
7	ウェールズの歴史(2)	ウェールズ語復興運動	ウェールズ語話者数の推移を調べてくる。
8	ウェールズの歴史(3)	映画『ウェールズの山』に見る重層的アイデンティティ (中間テストの実施)	これまでの授業内容をまとめてくる。
9	サッカーの歴史	スポーツに見るイギリスのナショナル・アイデンティティ (中間テスト解説)	FIFA誕生の歴史的経緯を調べてくる。
10	スコットランドの歴史(1)	スコットランド王権の特徴	スコットランドの王位継承の特徴をイングランドと比較しながら整理する。
11	スコットランドの歴史(2)	スコットランドとイングランドとの関係史	フランスの存在に注目しつつ、スコットランドとイングランドの関係史をまとめてくる。
12	スコットランドの歴史(3)	「帝国」「EU」のなかのスコットランド	国家だけでなく、帝国やEUといった枠のなかでスコットランドがもつ可能性について考えてくる。
13	紅茶文化はいかにして生まれたか?	食文化からみたイギリスの歴史	「食」と大英帝国についてまとめる。
14	イギリス人はなぜ傘をささないのか?	ステイタス・シンボルとしての傘	傘以外のステイタス・シンボルについて調べる。
15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習してくる。

関連科目	ヨーロッパ史学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	第15回目に実施する小テスト(80%)、中間テストおよび提出物(20%)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階(林田研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 中間テストに関するフィードバックは第9回目、小テストに関するフィードバックは第15回目の授業のなかでおこなう。
----	---

科目名	総合インドネシア語 a (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2123e0		

授業概要・目的	1年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。			
到達目標	本授業では、特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップができる。			
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 a (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携行すること。			
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第1課	授業の進め方の説明 辞書を使いこなす	学んだことの再確認および次週の予習
	2	第3課	基礎力確認演習 (作文)	学んだことの再確認および次週の予習
	3	第5課	文の種類1 疑問文 ((1) 文法、(2) 講読、(3) 作文)	学んだことの再確認および次週の予習
	4	第6課	文の種類2 単文 ((3) 作文)	学んだことの再確認および次週の予習
	5	第7課	文の種類3 重文と複文 ((3) 作文)	学んだことの再確認および次週の予習
	6	第9課	新聞に親しんでみよう	学んだことの再確認および次週の予習
	7	第10課	インドネシアの教科書の講読②	学んだことの再確認および次週の予習
	8	第10課	インドネシアの教科書の講読④	学んだことの再確認および次週の予習
	9	第10課	インドネシアの教科書の講読⑥	学んだことの再確認および次週の予習
	10	第12課	会話文の講読①	学んだことの再確認および次週の予習
	11	第12課	会話文の講読②	学んだことの再確認および次週の予習
	12	第13課	広告に親しんでみよう	予習 学んだことの再確認
	13	第14課	エッセイの講読①	学んだことの再確認および次週の予習
	14	第14課	エッセイの講読③	学んだことの再確認および次週の予習
	15	第14課	エッセイの講読⑤	学んだことの再確認
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a (2)」)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合インドネシア語 第4版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験) 70%、「積極的な授業参加」の度合い30%			
学生へのメッセージ	インドネシア語能力向上のために一生懸命取り組みましょう。			
担当者の研究室等	7号館5階(山口室)			
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い15時間以上行うこと。			

科目名	総合インドネシア語 a (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2124e0		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。本授業では、特に「読む」「書く」「話す」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行なう。
到達目標	あらゆる文体のインドネシア語をマスターすること。
授業方法と留意点	1. 本授業は、「総合インドネシア語 a (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。 なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。 2. 「読む」「書く」「話す」の能力を高めることから、授業内では講義だけではなく演習と発表も中心となる。 3. 授業内で質疑応答の時間も設ける。 4. 授業時には辞書を必ず携行すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第1課	辞書の種類および使い方についての解説	・学んだことの再確認(1時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
2	第3課	基礎力確認演習(作文)	・学んだことの再確認(1時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
3	第5課	文の種類1 疑問文(文法・講読・作文)	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
4	第6課	文の種類2 単文(作文)	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
5	第7課	文の種類3 (作文)	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
6	第9課	新聞に親しんでみよう	・学んだことの再確認(3時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
7	第10課	インドネシアの教科書の講読②	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
8	第10課	インドネシアの教科書の講読④	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
9	第10課	インドネシアの教科書の講読⑥	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
10	第12課	会話文の講読①	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
11	第12課	会話文の講読③	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
12	第13課	広告に親しんでみよう	・学んだことの再確認(3時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
13	第14課	エッセイの講読②	・学んだことの再確認(3時間) ・次週の課題の下調べ(3時間)
14	第14課	エッセイの講読④	・学んだことの再確認(3時間) ・次週の課題の下調べ(3時間)
15	第14課	エッセイの講読⑤ 総復習 夏期課題提示	・第15回までに学んだことの再確認(夏季休暇中に30時間)

関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a(1)」)
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合インドネシア語		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験(「総合インドネシア語」統一試験)試験 60%、随時課す宿題 20%、授業での発表 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	高度なインドネシア語運用能力を身につけるために一生懸命取り組みましょう。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	1. 授業内容を確実に理解するためにも、予習・復習には十分な時間を費やすこと。 事前・事後学習内の表記時間は最低目安時間にすぎない。 2. 授業内で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。 3. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて受け付ける。
----	---

科目名	総合インドネシア語 b (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2125e0		

授業概要・目的	1年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) 運用能力の一層の向上を目指す。
到達目標	前期開講の「総合インドネシア語 a (1)」に引き続き、本授業では特に「読む」能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップができる。
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 b (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文指導)	学んだことの再確認および次週の予習
2	第 16 課	ことわざの表現①②	学んだことの再確認および次週の予習
3	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	学んだことの再確認および次週の予習
4	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文チェック)	学んだことの再確認および次週の予習
5	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文原稿チェック)	学んだことの再確認および次週の予習
6	第 18 課	文学作品の講読③	学んだことの再確認および次週の予習
7	第 18 課	文学作品の講読⑤	学んだことの再確認および次週の予習
8	第 19 課	スピーチをしてみよう① (作文チェック・読み方指導)	学んだことの再確認および次週の予習
9	単語力確認テスト 第 19 課	ボキャブラリーコンテスト スピーチをしてみよう② (読み方指導)	単語の知識の再確認および次週の予習
10	第 18 課	文学作品の講読⑧	学んだことの再確認および次週の予習
11	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari①	学んだことの再確認および次週の予習
12	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari④	学んだことの再確認および次週の予習
13	第 22 課	略語と借用語	学んだことの再確認
14	第 23 課	新聞記事の講読①	予習 学んだことの再確認
15	第 23 課	新聞記事の購読③	予習 学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b (2)」)
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合インドネシア語 第4版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験) 70%、「積極的な授業参加」の度合い30%
-----------	--

学生へのメッセージ	インドネシア語能力向上のために一生懸命取り組みましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館5階(山口室)
----------	------------

備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い15時間以上行うこと。
----	--

科目名	総合インドネシア語 b (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2126e0		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の運用能力の一層の向上を目指す。前期開講の「総合インドネシア語 a (2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行なう。
到達目標	あらゆる文体のインドネシア語をマスターすること。
授業方法と留意点	1. 本授業は、「総合インドネシア語 b (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。 なお、定期試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。 2. 「読む」「書く」「話す」の能力を高めることから、授業内では講義だけではなく演習と発表も中心となる。 3. 授業内で質疑応答の時間も設ける。 4. 授業時には辞書を必ず携帯すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文指導) 夏期課題回収	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
2	第 16 課	ことわざの表現①②	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
3	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文チェック)	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
4	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
5	第 15 課	手紙を書いてみよう (作文原稿チェック)	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(3時間)
6	第 18 課	文学作品の講読②	・学んだことの再確認(3時間) ・次週の課題の下調べ(3時間)
7	第 18 課	文学作品の講読④	・学んだことの再確認(3時間) ・次週の課題の下調べ(3時間)
8	第 18 課	文学作品の講読⑥	・学んだことの再確認(3時間) ・次週の課題の下調べ(3時間)
9	第 19 課	スピーチをしてみよう① (作文チェック・読み方指導)	・学んだことの再確認(4時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
10	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari①	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
11	第 19 課	スピーチをしてみよう③	・学んだことの再確認(4時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
12	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari④	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
13	第 22 課	略語と借用語	・学んだことの再確認(2時間) ・次週の課題の下調べ(2時間)
14	第 23 課	新聞記事の講読①	・学んだことの再確認(3時間) ・次週の課題の下調べ(3時間)
15	第 23 課	新聞記事の講読③	第 23 課までに学んだことの総確認とまとめ(10時間)

関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b(1)」)
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合インドネシア語 (前期に購入済み)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (「総合インドネシア語」統一試験) 60%、随時課す宿題 20%、授業での発表 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	高度なインドネシア語運用能力を身につけるために一生懸命に取り組みましょう。
-----------	---------------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	1. 授業内容を確実に理解するためにも、予習・復習には十分な時間をかけること。 事前・事後学習内の表記時間は最低目安時間にすぎない。 2. 授業内で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。 3. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて受け付ける。
----	---

科目名	総合スペイン語 I	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答 (することだけ) にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化 (世界遺産) についても触れる。 スペイン語検定 6 級

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	科目説明	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	文字と発音	アルファベット 発音	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
3	第 1 課	名詞の性と数 冠詞 形容詞 「これは何ですか」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
4	第 2 課	主語人称代名詞 Ser/estar 指示詞 前置詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
5	第 1, 2 課まとめ	第 1, 2 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
6	中間的試験	第 1, 2 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
7	第 3 課	規則動詞直説法現在 国・言語・国民の言い方 都市・住宅に関する語彙 文の種類	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
8	第 4 課	動詞 tener, ir, venir querer, poder 型動詞 (現在) 不規則動詞 (現在) 食事・あいさつの表現	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
9	第 3, 4 課まとめ	第 3, 4 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
10	中間的試験	第 3, 4 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
11	第 5 課	基数詞 時刻表現 比較級・最上級 家族知人に関する語彙	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
12	第 6 課	目的語の代名詞「〜に」「〜を」 Gustar 型動詞 身体部位に関する語彙 hay 「〜がある」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
13	第 7 課	再帰動詞 天候の表現 季節、月、曜日の表現 所有詞 (前置形)	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
14	第 5, 6, 7 課まとめ	第 5, 6, 7 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	
15	臨時試験と解説	第 5, 6, 7 課の内容についての理解度確認と解説	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習	

関連科目	スペイン語入門 A、B、C
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶋教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%</p>			
学生への メッセージ	<p>初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(入門より先に)出てくることもあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室			
備考	<p>事前・事後学習に要する総学習時間は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の解説は次の週および最終回に行う。 文法の「入門・基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。</p>			

科目名	総合スペイン語 I	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答 (することだけ) にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化 (世界遺産) についても触れる。 スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	科目説明	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	文字と発音	アルファベット 発音	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
3	第 1 課	名詞の性と数 冠詞 形容詞 「これは何ですか」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
4	第 2 課	主語人称代名詞 Ser/estar 指示詞 前置詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
5	第 1, 2 課まとめ	第 1, 2 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
6	中間的試験	第 1, 2 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
7	第 3 課	規則動詞直説法現在 国・言語・国民の言い方 都市・住宅に関する語彙 文の種類	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
8	第 4 課	動詞 tener, ir, venir querer, poder 型動詞 (現在) 不規則動詞 (現在) 食事・あいさつの表現	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
9	第 3, 4 課まとめ	第 3, 4 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
10	中間的試験	第 3, 4 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
11	第 5 課	基数詞 時刻表現 比較級・最上級 家族知人に関する語彙	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
12	第 6 課	目的語の代名詞「〜に」「〜を」 Gustar 型動詞 身体部位に関する語彙 hay 「〜がある」	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
13	第 7 課	再帰動詞 天候の表現 季節、月、曜日の表現 所有詞 (前置形)	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
14	第 5, 6, 7 課まとめ	第 5, 6, 7 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
15	臨時試験と総括	第 5, 6, 7 課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語入門 A、B、C
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶋教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%</p>			
学生への メッセージ	<p>初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(入門より先に)出てくることもあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	<p>事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 文法の「入門・基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業内で行う試験は返却時に答えの確認を行う。</p>			

科目名	総合スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答(することだけ)にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化(世界遺産)についても触れる。 スペイン語検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
3	第8課	点過去形(規則動詞と不規則動詞) 点過去形のはたらき 副詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
4	第9課	線過去形(規則動詞と不規則動詞) 線過去形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
5	第8、9課まとめ	第8、9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
6	中間的試験	第8、9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
7	第10課	未来形と過去未来形(規則動詞と不規則動詞) 未来形と過去未来形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
8	第11課	現在分詞と過去分詞 現在完了形 不定語と否定語 不定詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
9	第10、11課まとめ	第10、11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
10	中間的試験	第10、11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
11	第12課	能動文と受動文 2つの受動文 序数詞 疑問詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
12	第13課	関係詞 複文 縮小辞と増大辞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
13	第12、13課まとめ	第12、13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
14	試験	第12、13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
15	総復習	後期の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶋教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3			
評価方法 (基準)	中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%			
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(基礎より先に)出てくこともあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後に各1時間の学習時間を要する。 次回の授業中にコメントや質問回答などのフィードバックを行う。また、授業時間以外での質問は非常勤講師控室にて受け付ける。 文法の「基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。			

科目名	総合スペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Integrated Spanish Skills II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	初めて習う外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけてもなかなか定着しにくい。この授業では、「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し、スペイン語文読解と練習問題をこなすことで理解を深め、記憶に定着させることを目指す。
到達目標	「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題に取り組むことで、文法の基礎を着実に習得する。対話文やまとまった量のテキストの読みを通して、語彙、表現、文構造の理解を高める。
授業方法と留意点	正答(することだけ)にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。 疑問を持ち、考え、質問すること。 授業計画はあくまで目安であり、レベルと進捗状況に応じて多少の修正を加え得る。
科目学習の効果(資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。 歴史文化(世界遺産)についても触れる。 スペイン語検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
2	復習	前期の学習内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
3	第8課	点過去形(規則動詞と不規則動詞) 点過去形のはたらき 副詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
4	第9課	線過去形(規則動詞と不規則動詞) 線過去形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
5	第8、9課まとめ	第8、9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
6	中間的試験	第8、9課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
7	第10課	未来形と過去未来形(規則動詞と不規則動詞) 未来形と過去未来形のはたらき	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
8	第11課	現在分詞と過去分詞 現在完了形 不定語と否定語 不定詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
9	第10、11課まとめ	第10、11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
10	中間的試験	第10、11課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
11	第12課	能動文と受動文 2つの受動文 序数詞 疑問詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
12	第13課	関係詞 複文 縮小辞と増大辞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
13	第12、13課まとめ	第12、13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
14	試験	第12、13課の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
15	総復習	後期の内容	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語基礎A、B、C
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶋教隆、フアン・ロメロ・ディアス	朝日出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3			
評価方法 (基準)	中規模の試験を複数回(2課につき1度の計3回を予定)実施する。 試験90%+受講姿勢(発表など)10%			
学生への メッセージ	初めての外国語の勉強は大変だが、毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 文法項目が応用で初めて(基礎より先に)出てくこともあるが、両科目ともスペイン語の初級文法を扱っているため、混乱する必要はない(そうならないために、予習復習をきちんとすることと諸科目をリンクする意識をもつこと)。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後に各1時間の学習時間を要する。 次回の授業中にコメントや質問回答などのフィードバックを行う。また、授業時間以外での質問は非常勤講師控室にて受け付ける。 文法の「基礎ABC」と内容が前後して進むことがあるが、応用が先行しようとも、それぞれの科目を予習していれば問題ない。			

科目名	総合スペイン語ⅢA	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひとつお理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ボキャブラリーコンテストを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1年次での学修内容の復習(1) 第1-2課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	教科書2-8ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第13課までを参照するとよい。
2	1年次での学修内容の復習(2) 第2-3課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法	教科書9-13ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第10課から15課を参照するとよい。
3	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在規則活用、不規則活用(a)、名詞節の中の接続法(a:願望)	教科書14-17ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17課を参照するとよい。
4	接続法現在の活用と用法 第5課	接続法現在不規則活用(b)、名詞節の中の接続法(b:命令・要求)、形容詞節の中の接続法	教科書18-21ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。
5	接続法現在の活用と用法 第6課	接続法現在不規則活用(c)、副詞節の中の接続法(a)、同(b)	教科書22-25ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。
6	中間試験1 命令法 第7課	接続法現在の活用と用法に関する理解度確認 命令形:肯定命令	教科書26-28ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第19課を参照するとよい。
7	命令法 第7課、第8課	命令形:否定命令、	教科書29-33ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第19課を参照するとよい。
8	ボキャブラリー・コンテスト 接続法過去の活用と用法 第8課	中級程度の語彙力を判定 接続法過去の活用と用法	語彙力試験の出題範囲を身につけておく。 教科書14-17ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第18課を参照するとよい。
9	命令文の小テスト 直説法過去未来 第9課	肯定・否定命令の理解度確認 直説法過去未来の活用と用法(現在の事実に反する仮定文)	教科書34-37ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
10	直説法未来完了と接続法現在完了 第10課	直説法未来完了の活用と用法、接続法現在完了の活用と用法	教科書38-41ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第15・20課を参照するとよい。
11	直説法点過去・線過去と接続法過去 第11課	直説法点過去・線過去の再確認、como si + 接続法過去の用法	教科書42-45ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第11~13・18課を参照するとよい。
12	中間試験2 直説法過去完了 第12課	接続法過去、現在完了の理解度確認、直説法過去完了の再確認	教科書46-49ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第13課を参照するとよい。
13	直説法過去未来完了と接続法過去完了 第13課	直説法過去未来完了の活用と用法の再確認、接続法過去完了の活用と用法(過去の事実反する仮定文)	教科書50-53ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
14	直説法過去未来完了と接続法過去完了 第14課	直説法過去未来完了の用法(過去完了の推量)、接続法過去完了の用法(時制の一致)、願望文で用いる接続法過去	教科書54-57ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
15	臨時試験 接続法の総括	接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペインへのパスポート	木村琢也	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間試験+語句テスト+ボキャブラリコンテスト (以上 50%)、臨時試験 (50%) により総合的に評価する。
学生への メッセージ	毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、ほかの受講生に配布物をコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと (予習に必要)。
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学習に要する総時間数は15時間。 1年次の教科書を引き続き併用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。配布物は欠席するともらえない (その都度一度しか配布しない) ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。 すべての試験の答えは実施後次回の授業内で解説し返却する。

科目名	総合スペイン語ⅢA	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひとつお理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ボキャブラリーコンテストを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1年次での学修内容の復習(1) 第1-2課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	教科書2-8ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第13課までを参照するとよい。
2	1年次での学修内容の復習(2) 第2-3課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法	教科書9-13ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第10課から15課を参照するとよい。
3	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在規則活用、不規則活用(a)、名詞節の中の接続法(a:願望)	教科書14-17ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17課を参照するとよい。
4	接続法現在の活用と用法 第5課	接続法現在不規則活用(b)、名詞節の中の接続法(b:命令・要求)、形容詞節の中の接続法	教科書18-21ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。
5	接続法現在の活用と用法 第6課	接続法現在不規則活用(c)、副詞節の中の接続法(a)、同(b)	教科書22-25ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。
6	中間試験1 命令法 第7課	接続法現在の活用と用法に関する理解度確認 命令形:肯定命令	教科書26-28ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第19課を参照するとよい。
7	命令法 第7課、第8課	命令形:否定命令、	教科書29-33ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第19課を参照するとよい。
8	ボキャブラリー・コンテスト 接続法過去の活用と用法 第8課	中級程度の語彙力を判定 接続法過去の活用と用法	語彙力試験の出題範囲を身に付けておく。 教科書14-17ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第18課を参照するとよい。
9	命令文の小テスト 直説法過去未来 第9課	肯定・否定命令の理解度確認 直説法過去未来の活用と用法(現在の事実に反する仮定文)	教科書34-37ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
10	直説法未来完了と接続法現在完了 第10課	直説法未来完了の活用と用法、接続法現在完了の活用と用法	教科書38-41ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第15・20課を参照するとよい。
11	直説法点過去・線過去と接続法過去 第11課	直説法点過去・線過去の再確認、como si + 接続法過去の用法	教科書42-45ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第11~13・18課を参照するとよい。
12	中間試験2 直説法過去完了 第12課	接続法過去、現在完了の理解度確認、直説法過去完了の再確認	教科書46-49ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第13課を参照するとよい。
13	直説法過去未来完了と接続法過去完了 第13課	直説法過去未来完了の活用と用法の再確認、接続法過去完了の活用と用法(過去の事実反する仮定文)	教科書50-53ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
14	直説法過去未来完了と接続法過去完了 第14課	直説法過去未来完了の用法(過去完了の推量)、接続法過去完了の用法(時制の一致)、願望文で用いる接続法過去	教科書54-57ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
15	臨時試験 接続法の総括	接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペインへのパスポート	木村琢也	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間試験+語句テスト+ボキャブラリコンテスト (以上 50%)、臨時試験 (50%) により総合的に評価する。
学生への メッセージ	毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、ほかの受講生に配布物をコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと (予習に必要)。
担当者の 研究室等	7号館2階 講師室
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学習に1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き併用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。配布物は欠席するともらえない (その都度一度しか配布しない) ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。 小テストの答えは実施後次の授業内で返却し解説する。臨時試験の返却と見直しは研究室で行う。

科目名	総合スペイン語ⅢB	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひとつお理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ボキャブラリーコンテストを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1年次での学修内容の復習(1) 第1-2課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	教科書2-8ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第13課までを参照するとよい。
2	1年次での学修内容の復習(2) 第2-3課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法	教科書9-13ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第10課から15課を参照するとよい。
3	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在規則活用、不規則活用(a)、名詞節の中の接続法(a:願望)	教科書14-17ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17課を参照するとよい。
4	接続法現在の活用と用法 第5課	接続法現在不規則活用(b)、名詞節の中の接続法(b:命令・要求)、形容詞節の中の接続法	教科書18-21ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。
5	接続法現在の活用と用法 第6課	接続法現在不規則活用(c)、副詞節の中の接続法(a)、同(b)	教科書22-25ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。
6	中間試験1 命令法 第7課	接続法現在の活用と用法に関する理解度確認 命令形:肯定命令	教科書26-28ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第19課を参照するとよい。
7	命令法 第7課、第8課	命令形:否定命令、	教科書29-33ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第19課を参照するとよい。
8	ボキャブラリー・コンテスト 接続法過去の活用と用法 第8課	中級程度の語彙力を判定 接続法過去の活用と用法	語彙力試験の出題範囲を身につけておく。 教科書14-17ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第18課を参照するとよい。
9	命令文の小テスト 直説法過去未来 第9課	肯定・否定命令の理解度確認 直説法過去未来の活用と用法(現在の事実に反する仮定文)	教科書34-37ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
10	直説法未来完了と接続法現在完了 第10課	直説法未来完了の活用と用法、接続法現在完了の活用と用法	教科書38-41ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第15・20課を参照するとよい。
11	直説法点過去・線過去と接続法過去 第11課	直説法点過去・線過去の再確認、como si + 接続法過去の用法	教科書42-45ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第11~13・18課を参照するとよい。
12	中間試験2 直説法過去完了 第12課	接続法過去、現在完了の理解度確認、直説法過去完了の再確認	教科書46-49ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第13課を参照するとよい。
13	直説法過去未来完了と接続法過去完了 第13課	直説法過去未来完了の活用と用法の再確認、接続法過去完了の活用と用法(過去の事実反する仮定文)	教科書50-53ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
14	直説法過去未来完了と接続法過去完了 第14課	直説法過去未来完了の用法(過去完了の推量)、接続法過去完了の用法(時制の一致)、願望文で用いる接続法過去	教科書54-57ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
15	臨時試験 接続法の総括	接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペインへのパスポート	木村琢也	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間試験+語句テスト+ボキャブラリコンテスト (以上 50%)、臨時試験 (50%) により総合的に評価する。
学生への メッセージ	毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、ほかの受講生に配布物をコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと (予習に必要)。
担当者の 研究室等	7号館2階 講師控室
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学習に1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き併用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。配布物は欠席するともらえない (その都度一度しか配布しない) ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。 すべての試験の答えは実施後次回の授業内で解説し返却する (臨時試験は研究室で)。

科目名	総合スペイン語ⅢB	科目名(英文)	Advanced Spanish Grammar IIIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひとつお理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。
授業方法と留意点	文法解説の後、様々な練習問題をこなし、知識の定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ずどちらとも履修すること。ボキャブラリーコンテストを授業内で実施する予定。予習復習を前提に講義は進行する(配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。
科目学習の効果(資格)	スペイン語検定5級～4級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1年次での学修内容の復習(1) 第1-2課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	教科書2-8ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第13課までを参照するとよい。
2	1年次での学修内容の復習(2) 第2-3課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法	教科書9-13ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第10課から15課を参照するとよい。
3	接続法現在の活用と用法 第4課	接続法現在規則活用、不規則活用(a)、名詞節の中の接続法(a:願望)	教科書14-17ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17課を参照するとよい。
4	接続法現在の活用と用法 第5課	接続法現在不規則活用(b)、名詞節の中の接続法(b:命令・要求)、形容詞節の中の接続法	教科書18-21ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。
5	接続法現在の活用と用法 第6課	接続法現在不規則活用(c)、副詞節の中の接続法(a)、同(b)	教科書22-25ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第17・18課を参照するとよい。
6	中間試験1 命令法 第7課	接続法現在の活用と用法に関する理解度確認 命令形:肯定命令	教科書26-28ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第19課を参照するとよい。
7	命令法 第7課、第8課	命令形:否定命令、	教科書29-33ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第19課を参照するとよい。
8	ボキャブラリー・コンテスト 接続法過去の活用と用法 第8課	中級程度の語彙力を判定 接続法過去の活用と用法	語彙力試験の出題範囲を身に付けておく。 教科書14-17ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第18課を参照するとよい。
9	命令文の小テスト 直説法過去未来 第9課	肯定・否定命令の理解度確認 直説法過去未来の活用と用法(現在の事実に反する仮定文)	教科書34-37ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
10	直説法未来完了と接続法現在完了 第10課	直説法未来完了の活用と用法、接続法現在完了の活用と用法	教科書38-41ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第15・20課を参照するとよい。
11	直説法点過去・線過去と接続法過去 第11課	直説法点過去・線過去の再確認、como si + 接続法過去の用法	教科書42-45ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第11～13・18課を参照するとよい。
12	中間試験2 直説法過去完了 第12課	接続法過去、現在完了の理解度確認、直説法過去完了の再確認	教科書46-49ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第13課を参照するとよい。
13	直説法過去未来完了と接続法過去完了 第13課	直説法過去未来完了の活用と用法の再確認、接続法過去完了の活用と用法(過去の事実反する仮定文)	教科書50-53ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
14	直説法過去未来完了と接続法過去完了 第14課	直説法過去未来完了の用法(過去完了の推量)、接続法過去完了の用法(時制の一致)、願望文で用いる接続法過去	教科書54-57ページの予習・復習 「入門」・「基礎」の教科書で第16・20課を参照するとよい。
15	臨時試験 接続法の総括	接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペインへのパスポート	木村琢也	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間試験+語句テスト+ボキャブラリコンテスト (以上 50%)、臨時試験 (50%) により総合的に評価する。
学生への メッセージ	毎回予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、ほかの受講生に配布物をコピーさせてもらうなどして自分自身で不足を補うこと (予習に必要)。
担当者の 研究室等	7号館5階 藤井研究室
備考	ボキャコンの日程は前後することがある。事前・事後学習に1時間を要する。 1年次の教科書を引き続き併用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。配布物は欠席するともらえない (その都度一度しか配布しない) ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。 小テストの答えは実施後次回の授業内で解説し返却する。臨時試験の返却と見直しは研究室で行う。

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。			
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。			
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書を作成する (卒業研究のテーマに関する文献のレビューおよび調査方法の説明を含む)。 ・調査に着手する。 			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習への出席、発言、口頭発表、調査への取り組み姿勢に基づいて行う (100%)。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館4階 赤澤研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。																		
授業方法と留意点	(前期) 1回目：オリエンテーション 2回目以降：執筆までの各自のスケジュールを計画しそれを実行する																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】社会開発・国際開発・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢 (50%) と、卒業研究の進捗状況 (50%) に基づいて評価																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<p>文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 各自の研究のための文献（本・資料）を丁寧に読み、要約、発表、議論を行って、早くから「卒業研究」を執筆する。</p>																		
到達目標	<p>文章を解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。</p>																		
授業方法と留意点	<p>各回提出物等期日を守ること。 3年次から読んできた先行研究を早くからまとめ、時間的余裕を持ってレポートの作成にあたること。 指導された内容を、修正に必ず反映させること。 文章を自分で推敲し、書き直しの「答え」を丸投げにしないこと。自分で修正案を考え、書き直すこと。 教員は、間違いや改善点を指摘はするが、考えることや執筆（内容）、書き直し作業の「代行」は決してしない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマは、スペインを主とする言語文化の研究。</p> <p>具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗语へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革など <p>とにかく文章を読み、要約し、書き、発表（口頭と文章で）する。 同じ指摘、注意を繰り返さず、学んだことをその都度活かし、次の回に反映させること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究とその他の取り組み																		
学生へのメッセージ	<p>疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。 課題提出等には、期日や形式を厳守すること。スケジュールや体調の管理、つまり自己管理を徹底しよう。 必ず、指定された時間に参加すること（メールなど時間外での指導は基本的に行わない。駆け込みにならぬよう注意）。</p>																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	<p>資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。</p> <p>就活本位で学業をおろそかにすると本末転倒、卒業も危うくなります。前期からスケジュール管理をしっかり行い、遅くなって卒研に着手し慌てたり、丸投げにしたり、「何とかなる」、「就職が決まったから通してもらえ」などと楽観しないように。努力なしに、「何とかなる、どうにかしてもらえ」ことなど決してあり得ません。</p>																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業研究レポートでまとめる。			
到達目標	日本語あるいは英語で卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	卒業研究レポートと就活を両立させる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究レポートについて共通の理解を図る。 前期・・・個別指導 (火2)、個別指導 (火4)。 後期・・・3ゼミとの合同授業 (火3)、個別指導 (月2・月4)			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み・・・100%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次に決定したテーマに基づいて卒業研究レポートの執筆を進める。		
到達目標	テーマに基づいた資料の収集・読解。 卒業研究のアウトラインの完成。		
授業方法と留意点	昨年度中に決定した「テーマ」の確認、発表、卒論の執筆、草稿段階での指導、最終的な完成という手順を進める。 序章、第1章の原稿は、早い時期に一度発表を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究を進めるための個別指導を中心とする。 昨年度に引き続き、卒業論文の作成を進める。 全体のプランについて、中間発表を行う (7月の予定)。 卒業論文の作成に当って配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加態度・課題の達成 (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室		
備考	事前事後学習時間 計60時間。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という広い枠を設けるものの、受講者の関心からテーマを設定して、その研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。		
到達目標	卒業研究レポートの作成。		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文作成を意識する時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の関心に基づいて、調査主題を設定していく。そのうえで、関連するトピックについて書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して 30 分程度で内容について報告する。コメンテーターは 5 分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読しておくこと。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、期末レポートを作成するための指導を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	毎回の授業への取り組み (20%) と発表内容 (30%)、および期末レポート (50%) から総合的に判断する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個々人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。																		
授業テーマ・内容・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。</p>																		
関連科目	文化演習 I・II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「研究」を進めるために―研究資料ガイド2019―</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	「研究」を進めるために―研究資料ガイド2019―	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	「研究」を進めるために―研究資料ガイド2019―	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法 (基準)	毎月のレポート (50%) および積極的に研究を進めていくという受講態度 (50%) で評価します。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 (浦野研究室)																		
備考	事前事後学習時間 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。 本年度の「卒業研究 I」は、担当者の長期海外出張に伴い、基本的には遠隔授業で行います。ただし、4月17日までは研究室で行います。今年度の授業方法の詳細は4月にお話しします。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大原 関 一浩
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究を各自進める。具体的には、設定したリサーチクエストに基づき、資料の収集と分析、論文の執筆を行う。ゼミにおけるプレゼンテーション、教員との個人面談を通じて、研究の方向性や進捗状況をしっかり把握し、完成に向けて作業を着実に進める。		
到達目標	① 問題を設定し、それに答える方法を考え、実行し、分析する力を養う。 ② 証拠を提示しながら筋道の通った文章を書く力をつける。		
授業方法と留意点	担当教員との面談に際し、きちんと準備して望むこと。卒業研究を完成させるには時間がかかることを自覚し、定期的に着実に進めていくこと。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究レポート指導 / 文献の読み込み、担当者との討論、データの収集などを行う		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	論文の教室：レポートから卒論まで<新版>	戸田山和久
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への参加点 30% (発表、コメント・質問、参加態度など) 教員との面談の内容 30% (きちんと準備してきたかどうか、自分で考えて発言できたかどうか) 卒研計画書 10% レポート 30% (分析、証拠、構成、文章などを総合して評価)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・文化演習 I、II で学んだことをもとに、舞台芸術を中心としたテーマで研究を進める。 ・資料収集やその活用の仕方、さらに論文の書き方などの習得を目指す。 			
到達目標	研究テーマに関する文献を収集し、読み込んだ上で、卒業研究レポートの構成を考える。			
授業方法と留意点	それぞれのテーマに合わせて指導を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 舞台芸術を中心とした芸術・文化研究</p> <p>【内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文の書き方について学ぶ。 ・文化演習 I、II の成果をもとに、各自の研究テーマに応じた資料収集を行う。 ・論文の構成を考え、それに基づいた研究発表を行う。 <p>【事前・事後学習課題】 参考資料の収集・読み込み、研究発表準備、及び卒業研究レポートの作成など</p>			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜紹介する。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (授業に取り組む姿勢など)、及び卒業研究の進捗状況 : 100%			
学生へのメッセージ	毎回の授業では、積極的に議論に参加すること。			
担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。卒業研究レポートの作成過程でフィードバックを行う。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。		
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。		
授業方法と留意点	4月：研究テーマの決め方、資料の集め方などを学ぶ。 5月～6月：資料を収集し、整理する。研究テーマを決定し、予備調査などを行う。 7月：中間報告を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み姿勢 20% 卒業研究の完成度 80%		
学生へのメッセージ	大学生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。		
担当者の研究室等	後藤研究室 (7号館5階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏、および日本語圏と関わりを持つ言語と文化 【 授業概要・目的・到達目標 】 3年次の文化演習で学んだことを生かして、学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身につける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも適用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身につける。 																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	英語圏の歴史・文化・文学や英語教育をテーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでかまわない。 ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の討論・発表 50% ・卒業研究レポートの中間報告 50% 																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の間にしておきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。 																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次の文化演習で各自設定した研究テーマ・課題に基づいて、卒業研究を進める。これを通じて、アカデミックな調査・資料分析の方法、論理的な思考、論文執筆の技術を習得する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自身の興味関心を見つめ直したり、関連文献を読むことにより、卒業研究レポートで取り扱う研究テーマを決める。 研究テーマにかかわる知識を身に付けたり、資料を収集してじっくりと読み込む。 卒業研究レポートの章構成を固める。 		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究レポート提出までの作業スケジュールを立て、計画的に研究を進める。 ふだんのゼミでは研究の進捗状況を報告し、全員で徹底的に討論する。 7 月には中間発表会を開催し、その報告内容を中間レポートにまとめる。 		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究レポートのアウトラインの完成 ゼミでの報告・討論、個別指導 <p>・ゼミ以外の時間に、各自がどれだけ卒業研究と向き合うかが重要である。 資料収集・読解、報告の準備、文章執筆など、やることは山ほどあるはずだ。</p>		
関連科目	卒業研究 II		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	報告 (討論を含む) 50%、中間レポート 50%		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートは一つのテーマを徹底的に掘り下げる、またとない機会である。これまでに学んだ知識や方法を用いて、じっくりと取り組んでもらいたい。そして、報告や討論を重ねる中で、研究内容を深化させていく喜びを味わってほしい。		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	生活する中で接する身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、ゼミ生各自が気になる現象を含んだデータを持ち合い、とことんデータについて様々な角度から議論していく。そのような議論を通じて、データの見方、分析方法をお互いに切磋琢磨して磨いていく。ゼミ生仲間からの様々なインプットや気づきを得る中で、各個人が卒業研究レポートに向けて、より一層分析を深め、より質の高い、「厚みのある」記述ができるようになることを目指す。また、卒業研究レポート作成に向けて、特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章を書けるように適宜指導していく。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、膨大な自然な談話データのなかで、特定の現象に焦点を定め、課題設定できるようになること ・データに基づいた客観的な論証ができるようになること ・先行研究を客観的に批評できるようになること ・特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章が書けるようになること 																
授業方法と留意点	<p>授業では、順番に自分の興味のある現象を含んだ会話データを2~3つ持ってきてもらい、そのデータをゼミ生全員で議論していきます(ゼミ生が会話分析で卒業研究レポートを書く場合)。または、順番に自分の研究の進捗状況(読んだ文献のレビュー、データを含めた報告)を発表してもらい、それに基づき、ゼミ生全員で議論していきます(ゼミ生が会話分析以外で卒業研究レポートを書く場合)。</p> <p>授業テーマ・内容・方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生各自が興味のある現象を含んだ会話データについて、ゼミ生全員で議論していく(データ・セッション) ・卒業研究レポートの進捗状況について、報告・発表する ・卒業研究レポートの中間報告 <p>【会話分析】 事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味のある現象を含んだ会話データ(ターゲットとなる現象の前後15~30秒)について、会話分析の転記方法に基づいて、データを書き起こす。毎回2~3つのデータについて議論するので、2~3つのデータを書き起こしを行う。その際、当該現象について、最もクリアなケース(自分にとって説明がしやすいもの)から順番に2~3つ用意するとよい。 <p>授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミでデータを披露する前に、会話分析の基本的な組織や考え方(順番交替組織、連鎖組織、修復組織、優先性の組織、物語りの構造、成員カテゴリーetc.)を踏まえて、分析しておく <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、Wordなどに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、データを再分析してみる <p>【会話分析以外】 事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近自分が読んだ文献のレビュー(要約とレビュー)、研究の進捗状況について、報告・発表に向けてまとめておく。また、報告・発表の際に、図や表などオーディエンスの理解を最大限に高めるためのやり方について十分検討したうえで準備を進めておく <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、WORDなどに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、報告・発表内容を修正する 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会話分析入門</td> <td>串田秀也・平本毅・林誠</td> <td>勁草書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>論文・レポートの基本</td> <td>石黒圭</td> <td>日本実業出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房	2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房														
2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社														
3																	
評価方法(基準)	卒業研究レポートの進捗状況：50% 報告・発表における議論への貢献度：20% 中間発表：30%																
学生へのメッセージ	卒業研究レポートを作成する過程で、ゼミ生、教員みんなで熱く議論することで、いろいろな発見や気づきを得られるはずです。卒業研究レポートで大学生活での有終の美を飾ってほしいと思います！！																
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習 I、II でのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。			
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究 (文献) の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組みと卒研の内容 (100%)			
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。			
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室			
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次で学習した、研究資料の収集方法や、研究方法をつかって、学生それぞれのテーマや関心をもとに、ひとつのテーマを選び、文献の渉猟・読み込み、データ収集、考察などを進める。自らの意見を論理だてて述べ、それを自らの言葉に落とし込み、卒業研究を完成させる。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに関連するデータを主体的に収集できるようになる。 2. 自ら収集したデータをもとに、客観的な議論をできるようになる。 3. 先行研究を批判的に読み、自らの意見を代替案として提示できるようになる。 4. 卒業研究の全体構想をもとに、内容を書き進めていく。 																		
授業方法と留意点	前期は特に文献の渉猟、読み込み、データ収集に力点を置く。きちんと毎回の授業で指定された作業をこなしてることが望まれる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：現代英語の語法文法研究</p> <p>内容：文献の読み込み、データの収集などをもとに、指導教員との討議から、できるだけオリジナリティのある考えに到達できることを目指す。</p> <p>事前・事後学習課題：文献の渉猟・読み込み、データ収集などを含めて、卒業論文を少しずつ書き進める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業中の討論や議論 (30%) プレゼンテーション (20%) 期末レポート (50%)																		
学生へのメッセージ	文献探しは卒業研究を作成するにあたって基本中の基本です。めんどろがらずに関係のないテーマの本でも読みこみましょう。違った分野のものでも、自分のテーマとの思わぬ関連性やヒントを得ることがあります。																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室																		
備考	事前・事後学習の総時間を60時間とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English. Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English. Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing. Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed."																		
到達目標	Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year.</p> <p>Academic writing skills will continue to be studied to help in the process.</p> <p>(Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.																		
学生へのメッセージ	Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots. English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.																		
担当者の研究室等	田浦研究室 7号館 5階																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<p>《近現代地域研究》</p> <p>各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付け、卒業研究を完成させることを最終的には目指す。具体的には、まず第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。こうしたプロセスを実践的に試行錯誤し、質の高い卒業研究を完成させるためのゼミにしたいと考えている。</p>																		
到達目標	<p>1. 卒業研究の完成を最終的な目標とする。</p> <p>2. 演習においては、自らの研究計画をまとめて調査研究を進めるとともに、他の学生の様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1. 学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。</p> <p>2. 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。</p> <p>3. 卒業研究の執筆にあたっては、それらのプロセスを踏まえて着手することを前提条件とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>各人の調査研究に基づく発表を行ない、相互の意見交換を通じて研究の進展を促す。 (なお、発表にあたっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>平常点 (発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 50%</p> <p>卒業研究 (研究計画・中間報告を含む) 50%</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 田中研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。併せて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究をすすめ、論文を作成する。学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	問題の発見、読解、データの収集・分析、文章の構成、執筆、全体のマネジメント、ディスカッションといった研究に関わるさまざまな能力を身につける。		
授業方法と留意点	各自が論文作成を進めることを中心としながら、研究内容や論文作成、文献講読の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	論文執筆の他に、研究計画書の作成、文献講読/発表、調査/調査報告等の執筆のための研究活動を実施する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への出席、発言、報告、レジュメ、調査への取り組み姿勢等をもとに総合的に判断する (100%)。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	計 60 時間以上の事前事後学習を必要とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次文化演習での蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文 (研究レポート) を完成に近づけます。																		
到達目標	前期のうちに卒研の全体像が見えてくるところまで進める。例えば 4 章構成の卒研であれば、2 つの章の下書きを書き終え、残りの 2 章にどのような資料を使って何を書くかという目途が立っている状態にする。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・週 2 回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で 30 分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室の PC と資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週 30 分程度行います。 ・PC の基本操作には 3 年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノート PC を所有して下さい。 ・就職活動と並行して進めなければなりませんので、覚悟してください。「内定が出るまでは何もできなくても仕方がない」という姿勢では、就職活動も卒論もどちらも上手く行きません。両方、しっかりやりましょう。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目	卒業研究 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミ活動全体への貢献 (50%) + 卒業論文・研究レポートの進行状況 (50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階鳥居研究室																		
備考	総学習時間は 60 時間程度。課題へのフィードバックは随時アポイントにより研究室で行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・異文化 (国際) ビジネス論の分野を中心に、各自がテーマを設定し、その研究を進めていきます。 ・ (1) 文献や資料の収集とその活用法、(2) 論文の書式や引用・参考文献等の表記法、(3) 客観的なデータ分析に基づく論文の展開法、などの習得を主な授業目的とします。 																		
到達目標	研究テーマの決定と、その卒業研究レポートの骨子を作成することを目標とします。																		
授業方法と留意点	各自の研究テーマおよびその進行状況に応じて、指導を行っていきます。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化 (国際) ビジネスなどの分野に関する研究を、演習形式で進めていきます。 ・まず、4～5月に、3年次末の第1回中間研究発表を踏まえて、それぞれの研究テーマを再確認します。 ・次に、論文の基本的な書式や展開について学びながら、参考文献や資料の収集を行っていきます。 ・さらに、論文の骨子を作成し、後期の研究作業につなげます。 <p>【事前学習】 各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。</p> <p>※事前・事後学習の総時間数は60時間程度を目安とします。</p>																		
関連科目	文化演習 I・II など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に指示したり、プリントを配布したりする。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢 (50%) と、卒業研究の進捗状況 (50%) を合わせて評価します。																		
学生へのメッセージ	就職活動との両立を心がけてほしいと願っています。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	研究内容・報告に関するフィードバックはその都度、授業内で行います。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。		
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめることができる。		
授業方法と留意点	授業では発表を重視する。レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ、基本のテーマは「映像作品の中国語版にみる翻訳技術について」とし、これに沿ったテーマを選ぶ場合は下のような内容となる。 ディズニーやスタジオジブリ作品の多くには複数の中国語版が存在する。この研究では、英語や日本語による原語セリフと2種の中国語セリフを比較対照し、2人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また、こうした作業を通して、「よい翻訳とは何か」について考える。		
関連科目	日中観光文化と通訳法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組み、発表：50% 卒業研究レポートの内容：50%		
学生へのメッセージ	就職活動で忙しい時期です。あわてることなく、でも着実に研究を進めましょう。		
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ (修正・変更可) にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させようとして、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	テーマに関して、何を調べたいのかを常に確認しながら、自分の考えをまとめつつ少しずつ書き進めること。何度も読み返し、修正を加えながら、一つのまとまった論を作る努力を重ねてください。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない (「結論」の導き出せる) 問い (問題) を設定すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。 <p>【事前事後学習課題】</p> 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 30%、課題・発表 20%、卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次文化演習 I・II で各自設定したテーマ及び研究の方向性に基づいて、卒業研究を進める。		
到達目標	研究テーマについて、具体的に説明することができる。 研究テーマについて、必要な資料を集め、整理することができる。 研究テーマについて、資料をもとに問題点を見出すことができる。		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究に取り組む。 テーマに基づいて文献・資料収集を行い、毎週報告する。 材料をもとに検討し、問題点を見出す。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。		
関連科目	卒業研究 II		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究に取り組む姿勢 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 橋本研究室		
備考	事前事後学習時間 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ (修正・変更可) にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。		
到達目標	卒業研究レポートの作成に必要な知識およびデータをすべて取得し、独創性のある章立てを考える。		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない (「結論」の導き出せる) 問い (問題) を設定すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約 60 時間。		
関連科目	卒業研究 II		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	口頭発表・ディスカッション (30%)・レポート (70%) で評価する。		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。		
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室		
備考	口頭発表に関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	This course will focus on the writing of a 3000 word English graduate thesis. During this course, students will get the opportunity to apply the knowledge they acquired in Bunkaenshu I/II. Each student will be working on a self-selected topic, and will be conducting independent research with the assistance of the teacher.																		
到達目標	In this course, you will be able to: Improve your writing and reading stamina. Conduct research both in the library and online. Support your ideas with evidence collected from your research. Manage your own research process. Write at least 1500 words of your graduate thesis.																		
授業方法と留意点	We will be meeting for three hours each week. Each session will begin with some instruction from the teacher on research or writing methods. However, the majority of each session will be dedicated towards independent research and writing by the students. The teacher will be available during this time to support the students.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	This is the planned schedule. However, the schedule may be adjusted in order to respond to student needs. Week 1: Introduction and Thesis Topic Selection Week 2: Thesis Statement and Outline Week 3: Introduction to Library Research Week 4: Writing the Introduction Week 5: Writing the Introduction Week 6: Writing the Literature Review Week 7: Writing the Literature Review Week 8: Writing the Literature Review Week 9: Writing the Literature Review Week 10: Writing the Literature Review Week 11: Writing the Literature Review Week 12: Finalizing the Spring Paper Week 13: Research and Reading for Content Week 14: Research and Reading for Content Week 15: Research and Reading for Content																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<table> <tr> <td>Outline</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 1</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 2</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 3</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 4</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Spring Paper</td> <td>50%</td> </tr> </table>			Outline	10%	Draft Submission 1	10%	Draft Submission 2	10%	Draft Submission 3	10%	Draft Submission 4	10%	Spring Paper	50%				
Outline	10%																		
Draft Submission 1	10%																		
Draft Submission 2	10%																		
Draft Submission 3	10%																		
Draft Submission 4	10%																		
Spring Paper	50%																		
学生へのメッセージ	There are no assigned textbooks for this course. However, you may be asked to purchase books that are not available at the library in order to complete your research. The teacher will try to keep the purchase of additional books to a bare minimum. If you have a laptop computer or tablet, please bring it to class.																		
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習で学んだ知識をもとに、卒業研究のテーマを決定する。アンケートや聞き取り調査などを要する場合は、その準備・実施・分析を行い、それに基づき主体的に考察し、論理的な文章が書けるようになることをめざす。論文の構成と論旨についてゼミ生間で互いに建設的な批判や示唆を与えあうことが重要である。																
到達目標	研究テーマを決め、必要な文献・資料を収集し、先行研究を整理した上で、自分なりの視点と執筆目的を明らかにし、執筆に取り組む。																
授業方法と留意点	今日の多文化状況をめぐり、具体的な地域や国を対象として調べたことを発表する。その社会がグローバリゼーションのなかで直面している諸相に着目し、ひとつのテーマに絞り込んで、必要かつ確かな資料の収集と分析を進め、ゼミを報告の場とする。テーマによってはフィールドワークや聞き取り調査を積極的に実施してほしい。夏休み前に卒業研究レポートのアウトラインを作り、発表しあう。意見交換を重視する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】人の移動における「包摂と自律」 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を毎回準備する。																
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する文化科目、マイノリティ論、歴史学・社会学・政治哲学系科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	問題意識を深める取り組み (50%) と研究報告 (50%) によって評価する。																
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。必ず読むべき文献は、各自のテーマと研究対象地域に応じて指示します。																
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.		
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis, construct an argument and determine possible solutions.		
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses. Draft 1: 40%, Final Draft 60%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	<p>3年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」(文化知識)に焦点を当て、情報収集・発表を行ってきました。また多読を通して、英語の絵本の深さにも触れました。さらに、後期は、Holes という児童文学を輪読し、伏線の面白さやストーリーからのメッセージを読み取りました。</p> <p>4年次は、3年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていきます。それぞれに英語の多読を続けながら、卒業研究のテーマ絞り、アウトライン作成、文献や資料の読み込み、論文執筆に取り組みます。</p> <p>最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から2つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたります。</p>																		
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始めます。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていること、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とします。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認します。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考えます。調査が必要ならその準備をし、実行します。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねます。																		
授業テーマ・内容・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>春休み： テーマの絞り込み、骨子となる参考文献や資料の収集・読み込み、アウトライン作成</p> <p>前期： 先行研究執筆、必要ならばアンケート・インタビュー調査、現地調査の準備調査実施</p> <p>夏休み： 文献の読み込み、調査結果分析、中間発表①</p> <p>後期： 論文執筆、中間発表②、推敲、(必要であれば)追加調査、分析</p> <p>1月： 論文提出</p> <p>1月末： 口頭試問、ピアレビュー、コメント書き</p> <p>それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進めます。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	毎週の課題 30% 中間発表 20% 卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までにどれまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。																		
担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とします。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めています。課題などのフィードバックは授業中に行います。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で研究したテーマが、卒業研究のテーマとしてふさわしいか、再考する。そして、卒業研究としてのレベルを上げるためにさらに研究を行う。			
到達目標	後期の卒業研究Ⅱにおいて卒業研究レポートが完成できるようにする。			
授業方法と留意点	各自が指示された作業をしっかりと行うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自のテーマを確定した上で、計画に沿って研究を進めていく。なお、この授業では最終目的の卒業研究レポート執筆までのロードマップを指導教員とともに作成する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロードマップ通り研究が進行しているか、研究の内容の総合評価。 進行状況 30%、研究内容 70%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階 山口室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。研究内容については授業中に質問し評価する。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	自分の選定したテーマについて研究を行うことによって、見識を広め知識を増やし、言葉に対する感受性、異文化感受性を磨き、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の新語――日本観光地からの言葉を中心に―― ・中国の新語――日本アニメからの言葉を中心に―― ・中国語中級・上級へステップアップするための四字熟語について ・中国語のきまり文句 ・日中色彩用語の文化義 ・中国文化研究――若者を中心に―― <p>【事前事後学習課題】</p> <p>指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中日語言文化漫歩</td> <td>上野恵司</td> <td>吉林大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中日言語対照研究論叢</td> <td>中日言語対照研究会</td> <td>北京大学出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>現代漢語新詞語詞典 第2版</td> <td>劉海潤・亢世勇 主編</td> <td>上海辞書出版社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日語言文化漫歩	上野恵司	吉林大学	2	中日言語対照研究論叢	中日言語対照研究会	北京大学出版社	3	現代漢語新詞語詞典 第2版	劉海潤・亢世勇 主編	上海辞書出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中日語言文化漫歩	上野恵司	吉林大学																
2	中日言語対照研究論叢	中日言語対照研究会	北京大学出版社																
3	現代漢語新詞語詞典 第2版	劉海潤・亢世勇 主編	上海辞書出版社																
評価方法 (基準)	毎回の提出物 50%、レポート 50%。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)																		
備考	課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	ゼミ生全員で、卒業制作活動を実施する。また卒業制作活動に基づいた研究を行い、卒業研究レポートを作成する。		
到達目標	論理的に表現できるようになる。 質の高い卒業研究レポートを作成する。 卒業制作活動において、質の高い映像作品を作成する。		
授業方法と留意点	卒業制作活動については、active learning 形式で実施する。外部の映画祭に卒業制作作品を出品することを目標とする。卒業研究レポートについては、卒業制作活動の内容に関するものとし、教員による指導および他のゼミ受講生からのアドバイスを受けながら、卒業研究レポートの作成を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	卒業制作活動では、オリジナルの脚本を作成し、オリジナルの映像作品を制作する。 教員による指導を受けて、卒業研究レポートを作成する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業制作の成果物 50% 卒業研究レポート 50%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室		
備考	卒業制作活動、および資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するための文献収集・調査・分析の方法や文章表現の技術を発表・討論を通して学ぶ。																		
到達目標	自ら課題を設定し、必要な資料を収集して、典拠を示しつつ、分析、論述することができる。																		
授業方法と留意点	各自が設定したテーマにもとづいて、卒業研究レポートを作成するための計画を立て、資料収集や調査を実施し、分析した内容を発表して、討論する。また段階的に文章化して、相互に検討を加える。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>①対象とする地域について、各自の関心にしたがって研究テーマを設定する。</p> <p>②研究計画（卒業研究レポートのおおまかな構成）をたてる。</p> <p>③計画にしたがって、資料分析や調査を実施する。</p> <p>授業では、このサイクルの成果を定期的に発表し、相互に討論して、各自の文章化につなげる。</p> <p>【事前事後学習】</p> <p>資料収集や調査を実施し、分析する。</p> <p>発表のための資料作成・準備をする。</p> <p>討論をふまえて、文章化する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への貢献 (50%)、発表・レポート (50%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室 (7号館3階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	調査を完了し、調査結果についての分析を進め、論文を完成させる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒論への取り組み(100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	赤澤研究室(7号館4階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。																		
授業方法と留意点	(後期) 1回目：中間報告 2回目以降：執筆開始																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】社会開発・国際開発・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業に取り組む姿勢(50%)と、卒業研究の進捗状況(50%)に基づいて評価																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文章(本や論文、記事)を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 各自の研究のための文献(本・資料)を丁寧に読み、要約、発表、議論を行って、早くから「卒業研究」を執筆する。																
到達目標	文章を解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																
授業方法と留意点	各回提出物等期日を守ること。 3年次から読んできた先行研究を早くからまとめ、時間的余裕を持ってレポートの作成にあたること。 指導された内容を、修正に必ず反映させること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、スペインを主とする言語文化の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題(ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル)、印刷技術(情報革命)、宗教改革など とにかく文章を読み、要約し、書き、発表(口頭と文章で)する。 同じ指摘、注意を繰り返さず、学んだことをその都度活かし、次の回に反映させること。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	卒業研究とそのための取り組み																
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。 課題提出等に際しては、期日や形式を厳守すること。スケジュールや体調の管理、つまり自己管理を徹底しよう。																
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。 就活本位で学業をおろそかにすると本末転倒、卒業も危うくなります。前期からスケジュール管理をしっかり行い、遅くなって卒研に着手し慌てたり、丸投げにしたり、「何とかなる」、「就職が決まったから通してもらえ」などと楽観しないように。努力なしに、「何とかなる、どうにかしてもらえ」ことなど決してあり得ません。																

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業研究レポートでまとめる。			
到達目標	日本語あるいは英語で卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	卒業研究レポートと就活を両立させる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究レポートについて共通の理解を図る。 前期・・・個別指導(火2)、個別指導(火4)。 後期・・・3ゼミとの合同授業(火3)、個別指導(月2・月4)			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	卒業研究への取り組み・・・100%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの続き。 各自が決めたテーマに基づいて、卒業研究を完成させる。			
到達目標	卒業研究を完成させる。			
授業方法と留意点	卒業研究についての個別指導を中心とする。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	11月下旬までに卒業研究レポート第一稿を完成する。 12月～1月 卒業研究レポートの修正作業 原稿の完成とチェック。最終的なOKが出るまで。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への参加態度(30%)、卒業研究レポート(70%)			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室			
備考	事前事後学習 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という枠を設けるものの、受講者の関心に基づいて研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。		
到達目標	卒業研究レポートの作成。		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	設定した主題およびその近接領域について書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して30分程度で内容について報告する。コメンテーターは5分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくる。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、主題についての知見を深めていき、卒業研究レポートの執筆ができるよう指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	毎回の授業への取り組み(20%)と、発表内容(30%)、完成した卒業研究レポート(50%)から総合的に判断する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 「卒業研究レポート」提出後に、『浦野ゼミ卒業論文集』としてまとめるので、その点を留意のこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 ちなみに、2018年度生が取り組んだテーマ(卒業研究レポート題目)は次の通りである。 「都市における人びとの集い—居酒屋チェーンの発展と広がりに着目して—」「リフォームの昔と今、そして未来—住宅メーカーからリフォーム産業へ—」「部活動の現在—中・高生の活動実態からみえる課題と展望—」「仮面をかぶる人びと—就職活動のいま—」</p> <p>【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。</p>																		
関連科目	文化演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>浦野ゼミ卒業論文集各年版</td> <td>浦野ゼミ</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド2019—</td> <td>浦野崇央編</td> <td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文集各年版	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2019—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文集各年版	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3	「研究」を進めるために—研究資料ガイド2019—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
評価方法(基準)	積極的に研究を進めていくという受講態度(50%)および卒業研究レポートの内容:完成度(50%)で評価します。なお、卒研レポートの完成度の判断については、審査段階における副査の先生のご意見も参考にします。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階(浦野研究室)																		
備考	事前事後学習時間 計60時間。課題等のフィードバックは指導中に行う。 本年度の「卒業研究Ⅱ」は、担当者の長期海外出張に伴い、基本的には遠隔授業で行います。但し、12月には研究室での直接指導をします。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大原 関 一浩
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	前期を通じてとりこんできた卒業研究を完成させる。ゼミにおける研究報告とディスカッション、教員との面談を通じ、論文の分析・構成・ライティングの質を高めていく。		
到達目標	① 証拠を提示しながら筋道の通った文章を書く力をつける。 ② 研究成果を効果的にプレゼンテーションするスキルを身につける。		
授業方法と留意点	卒業研究レポートの完成にむけたスケジュールをしっかりと把握し、やるべきことを1つ1つこなしていくことが必要になる。文章を書くことは思ったよりも時間がかかることを自覚し、早め早めに進めていることが大切になる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究レポート指導 / 文献の読み込み、担当者との討論、データの収集などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	論文の教室：レポートから卒論まで<新版>	戸田山和久
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への参加点 20% (発表、コメント・質問、参加態度等) 教員との面談の内容 30% (きちんと準備してきたかどうか、自分で考えて発言できたかどうか) 卒業研究ドラフトの内容 20% (分析、証拠、構成、文章などを総合して評価) 卒業研究レポートの内容 30% (分析、証拠、構成、文章などを総合して評価)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	神崎 舞
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究Ⅰで学んだことを土台に、舞台芸術を中心としたテーマで研究を進める。 研究テーマに関連した資料を読み込むことで読解力を、そして論文作成を通して論理的思考力を身につける。 																		
到達目標	卒業研究レポートを完成させる。																		
授業方法と留意点	各自の研究テーマ、及び進行状況に合わせて指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 舞台芸術を中心とした芸術・文化研究</p> <p>【内容・方法】 ・卒業研究Ⅰの成果をもとに、論文の概要に関する研究発表を行う。 ・論旨の展開・文体・書式などを中心に推敲を重ね、卒業研究レポートの完成を目指す。</p> <p>【事前・事後学習課題】 研究発表準備、及び卒業研究レポートの作成</p>																		
関連科目	卒業研究Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究レポートの完成度：70% 平常点(授業に取り組む姿勢など)：30%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成を通して、研究テーマに対する理解を深め、論理的な思考力を養いましょう。																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。卒業研究レポートの作成過程でフィードバックを行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。			
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。			
授業方法と留意点	9月～12月：卒業研究を執筆する。 1月：卒業研究の最終発表を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	卒業研究への取り組み姿勢 20% 卒業研究の完成度 80%			
学生へのメッセージ	大学生生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張ってください。			
担当者の研究室等	後藤研究室(7号館5階)			
備考				

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏、日本語圏と関わりを持つ言語と文化</p> <p>【授業概要・目的・到達目標】 学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身につける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身につける。 																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	英語圏の歴史・文化・文学や英語教育をテーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでかまわない。 ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・同級生とのディスカッション 20% ・卒業研究レポート 80% 																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の間におきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。 																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰを継続し、各自設定した研究テーマ・課題に基づいて、卒業研究レポートを完成させる。これを通じて、アカデミックな調査・資料分析の方法、論理的な思考、論文執筆の技術を習得する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読んだり、フィールドワーク(現地調査)を行ったりして、オリジナルな「論」を立てる。 その「論」を、証拠を示しながら、論理的に説明するプレゼン力・文章力を身に付ける。 卒業研究レポートを完成させる。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究レポート提出までの作業スケジュールを立て、計画的に研究を進める。 ふだんのゼミでは研究の進捗状況を報告し、全員で徹底的に討論する。 12月に中間発表会を開催する。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究レポートの完成 ゼミでの報告・討論、個別指導 ゼミ以外の時間に、各自がどれだけ卒業研究と向き合うかが重要である。資料収集・読解、報告の準備、文章執筆など、やることは山ほどあるはずだ。 卒業研究レポートに関する指導や相談は、ゼミ以外の時間でもできる限り行う。積極的な姿勢で取り組む人を、大いにサポートしたい。 																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	報告(討論を含む) 20%、卒業研究レポート 80%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートは一つのテーマを徹底的に掘り下げる、またとない機会である。これまでに学んだ知識や方法を用いて、じっくりと取り組んでもらいたい。そして、報告や討論を重ねる中で、研究内容を深化させていく喜びを味わってほしい。卒業研究レポートに真剣に取り組んだことは、きっとその後の人生にも意味を持つはずである。																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	生活する中で接する身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、ゼミ生各自が気になる現象を含んだデータを持ち合い、とことんデータについて様々な角度から議論していく。そのような議論を通じて、データの見方、分析方法をお互いに切磋琢磨して磨いていく。ゼミ生仲間からの様々なインプットや気づきを得る中で、各個人が卒業研究レポートに向けて、より一層分析を深め、より質の高い、「厚みのある」記述ができるようになることを目指す。また、卒業研究レポート作成に向けて、特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章を書けるように適宜指導していく。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な言語表現、ジェスチャー、視線行動など、膨大な自然な談話データのなかで、特定の現象に焦点を定め、課題設定できるようになること ・データに基づいた客観的な論証ができるようになること ・先行研究を客観的に批評できるようになること ・特定のスタイルシートに基づいて、アカデミックな文章が書けるようになること 																
授業方法と留意点	<p>授業では、順番に自分の興味のある現象を含んだ会話データを2〜3つ持ってきてもらい、そのデータをゼミ生全員で議論していきます(ゼミ生が会話分析で卒業研究レポートを書く場合)。または、順番に自分の研究の進捗状況(読んだ文献のレビュー、データを含めた報告)を発表してもらい、それに基づき、ゼミ生全員で議論していきます(ゼミ生が会話分析以外で卒業研究レポートを書く場合)。</p> <p>授業テーマ・内容・方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生各自が興味のある現象を含んだ会話データについて、ゼミ生全員で議論していく(データ・セッション) ・卒業研究レポートの進捗状況について、報告・発表する ・卒業研究レポートの個人指導 <p>【会話分析】 事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味のある現象を含んだ会話データ(ターゲットとなる現象の前後15〜30秒)について、会話分析の転記方法に基づいて、データを書き起こす。毎回2〜3つのデータについて議論するので、2〜3つのデータを書き起こしを行う。その際、当該現象について、最もクリアなケース(自分にとって説明がしやすいもの)から順番に2〜3つ用意するとよい。 <p>授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミでデータを披露する前に、会話分析の基本的な組織や考え方(順番交替組織、連鎖組織、修復組織、優先性の組織、物語りの構造、成員カテゴリーetc.)を踏まえて、分析しておく <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、Wordなどに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、データを再分析してみる <p>【会話分析以外】 事前学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近自分が読んだ文献のレビュー(要約とレビュー)、研究の進捗状況について、報告・発表に向けてまとめておく。また、報告・発表の際に、図や表などオーディエンスの理解を最大限に高めるためのやり方について十分検討したうえで準備を進めておく <p>事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ生、教員から得られたインプットを、Wordなどに「自分のことば」でしっかりまとめておく ・ゼミ生、教員からのインプットに基づいて、報告・発表内容を修正する 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会話分析入門</td> <td>串田秀也・平本毅・林誠</td> <td>勁草書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>論文・レポートの基本</td> <td>石黒圭</td> <td>日本実業出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房	2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	会話分析入門	串田秀也・平本毅・林誠	勁草書房														
2	論文・レポートの基本	石黒圭	日本実業出版社														
3																	
評価方法(基準)	卒業研究レポートの完成度：80% 報告・発表における議論への貢献度：20%																
学生へのメッセージ	卒業研究レポートを作成する過程で、ゼミ生、教員みんなで熱く議論することで、いろいろな発見や気づきが得られるはずです。卒業研究レポートで大学生活での有終の美を飾ってほしいと思います！！																
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習Ⅰ、Ⅱでのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。			
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。			
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究(文献)の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	ゼミへの取り組みと卒研の内容(100%)			
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。			
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室			
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	住吉 誠
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	前期で書いた卒業研究をさらに書き進めていく。前期に引き続き、関係する文献の渉猟・読み込み、データ収集、考察などを進める。自らの意見を論理だてて述べ、それを自らの言葉に落とし込み、最終的に卒業研究を完成させる。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. テーマに関連するデータを主体的に収集できるようになる。 2. 自ら収集したデータをもとに、客観的な議論をできるようになる。 3. 先行研究を批判的に読み、自らの意見を代替案として提示できるようになる。 4. 卒業研究の全体構想をもとに、ひとつの卒業研究を完成させる。 																		
授業方法と留意点	後期は、データをもとに自分の意見を客観的に文章で表現できるようになることをめざす。きちんと毎回の授業で指定された作業をこなしていただくことが望まれる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマ：現代英語の語法文法研究 内容：文献の読み込み、データの収集などをもとに、指導教員との討議から、できるだけオリジナリティのある考えに到達できることを目指す。 事前・事後学習課題：文献の渉猟・読み込み、データ収集などを含めて、卒業論文を少しずつ書き進める。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	中間発表(50%) 卒業研究(50%)																		
学生へのメッセージ	文献探しは卒業研究を作成するにあたって基本中の基本です。めんどくがらずに関係のないテーマの本でも読みこみましょう。違った分野のものでも、自分のテーマとの思わぬ関連性やヒントを得ることがあります。																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室																		
備考	事前・事後学習の総時間を60時間とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<p>In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English.</p> <p>Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English.</p> <p>Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing.</p> <p>Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed.</p>																		
到達目標	<p>Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.</p>																		
授業方法と留意点	<p>Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year.</p> <p>Academic writing skills will continue to be studied to help in the process.</p> <p>(Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.</p>																		
学生へのメッセージ	<p>Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots.</p> <p>English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.</p>																		
担当者の研究室等	<p>田浦研究室 7号館 5階</p>																		
備考	<p>資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。</p>																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<p>《近現代地域研究》</p> <p>各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付け、卒業研究を完成させることを最終的には目指す。具体的には、まず第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。こうしたプロセスを実践的に試行錯誤し、質の高い卒業研究を完成させるためのゼミにしたいと考えている。</p>																		
到達目標	<p>1. 卒業研究の完成を最終的な目標とする。</p> <p>2. 演習においては、自らの研究計画をまとめて調査研究を進めるとともに、他の学生の様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1. 学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。</p> <p>2. 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。</p> <p>3. 卒業研究の執筆にあたっては、それらのプロセスを踏まえて着手することを前提条件とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題 関連科目	<p>各人の調査研究に基づく発表を行ない、相互の意見交換を通じて研究の進展を促す。 (なお、発表にあたっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。)</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>平常点(発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 50%</p> <p>卒業研究(研究計画・中間報告を含む) 50%</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。併せて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの成果を継続し、論文を完成させる。学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	問題の発見、読解、データの収集・分析、文章の構成、執筆、全体のマネジメント、ディスカッションといった研究に関わるさまざまな能力を身につける。		
授業方法と留意点	個別に調査、文献講読、分析等を行うとともに、構成員で議論を深めながら論文を完成させる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	論文を完成させるために、文献講読/発表、調査/調査報告などといった執筆のための研究活動を実施する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への出席、発言、報告、レジュメ、調査への取り組み姿勢等をもとに総合的に判断する(平常点:100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	事前事後学習時間 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	前期までの蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文(研究レポート)を完成させます。																		
到達目標	自分自身、指導教員、査読して下さる副査の先生の全員が満足できる卒業研究レポートを期限内に提出し、外国語学部生としてのプライドと達成感を持って本学を卒業すること。																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・前期同様、週2回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で30分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室のPCと資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週30分程度行います。 ・PCの基本操作には3年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノートPCを所有して下さい。 ・卒論、卒業研究レポートは、大学での学業の締めくくりです。とにかく期限を守ること、連絡を欠かさないことが大事です。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』— グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーグ、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。</p>																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	ゼミ活動全体への貢献(50%)+卒業論文・研究レポート(50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室																		
備考	総学習時間は60時間程度。課題へのフィードバックは随時アポイントにより研究室で行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・4年次前期の卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえて、異文化(国際)ビジネスの分野を中心に研究を進めていきます。 ・資料やデータの客観的かつ多角的な分析力や、それに基づく論理的な思考力の養成を主な授業目的とします。 																
到達目標	各自で選んだテーマについて、しっかりとした卒業研究レポートを完成させることを目標とします。																
授業方法と留意点	各自の研究テーマおよびその進行状況に応じて、指導を行っていきます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究レポートの作成を計画的に進めていきましょう。 ・まず、前期の研究成果に基づいて、論文の概要をまとめ、後期開始直後に第2回中間研究発表を行います。 ・さらに、論旨の整合性を高めながら、文体上の不備を修正していきます。 ・その後、12月下旬までに、卒業研究レポートの完成を目指します。 <p>【事前学習】 各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。</p> <p>※事前・事後学習の総時間数は60時間程度を目安とします。</p>																
関連科目	卒業研究Ⅰなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に指示したり、プリントを配布したりする。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	卒業研究レポートの完成度(80%)と、授業に取り組む姿勢(20%)を合わせて評価します。																
学生へのメッセージ	計画的な研究活動を心がけてほしいと思います。																
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																
備考	研究内容・報告に関するフィードバックはその都度、授業内で行います。																

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。																
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめることができる。																
授業方法と留意点	授業では発表を重視する。レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ、基本のテーマは「映像作品の中国語版にみる翻訳技術について」とし、これに沿ったテーマを選ぶ場合は下のような内容となる。 ディズニーやスタジオジブリ作品の多くには複数の中国語版が存在する。この研究では、英語や日本語による原語セリフと2種の中国語セリフを比較対照し、2人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また、こうした作業を通して、「よい翻訳とは何か」について考える。																
関連科目	日中観光文化と通訳法																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	ゼミへの取り組み、発表：50% 卒業研究レポートの内容 50%																
学生へのメッセージ	有終の美を飾ってください。																
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。		
到達目標	テーマに関して、何を調べたいのかを常に確認しながら、自分の考えをまとめつつ少しずつ書き進めること。何度も読み返し、修正を加えながら、一つのまとまった論を作る努力を重ねてください。		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない(「結論」の導き出せる)問い(問題)を設定すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。 <p>【事前事後学習課題】</p> 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	平常点 30%、課題・発表 20%、卒業研究レポート 50%		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室		
備考	<p>【学生へのメッセージ】</p> 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。 <p>課題等のフィードバックは授業中に行います。</p>		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰに引き続き、卒業研究を進める。		
到達目標	自分で調べ、考察したテーマについて、まとめて報告することができる。		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究に取り組む。 テーマに基づいて文献・資料収集を行い、毎週報告する。 材料をもとに検討し、問題点を見出す。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。		
関連科目	卒業研究Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究に取り組む姿勢 60% 卒業研究レポートの内容 40%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 橋本研究室		
備考	事前事後学習時間 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ(修正・変更可)にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	4年間の集大成として、卒業研究レポートを書き上げる。																		
授業方法と留意点	中間報告をまじえながら各自執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、4年間の集大成をおこなってほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約60時間。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	口頭発表・ディスカッション(30%)・卒業研究レポート(70%)で評価する。																		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室																		
備考	口頭発表に関するフィードバックは発表時に、卒業研究レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	This course will focus on the writing of a 3000 word English graduate thesis. During this course, students will get the opportunity to apply the knowledge they acquired in Bunkaenshu I/II. Each student will be working on a self-selected topic, and will be conducting independent research with the assistance of the teacher.																		
到達目標	In this course, you will be able to: Improve your writing and reading stamina. Conduct research both in the library and online. Support your ideas with evidence collected from your research. Manage your own research process. Complete your thesis.																		
授業方法と留意点	We will be meeting for three hours each week. Each session will begin with some instruction from the teacher on research or writing methods. However, the majority of each session will be dedicated towards independent research and writing by the students. The teacher will be available during this time to support the students.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	This is the planned schedule. However, the schedule may be adjusted in order to respond to student needs. Week 1: Introduction and Thesis Planning Week 2: Writing the Body Week 3: Writing the Body Week 4: Writing the Body Week 5: Writing the Body Week 6: Writing the Body Week 7: Writing the Body Week 8: Writing the Conclusion Week 9: Writing the Conclusion Week 10: Finalizing the Thesis Week 11: Finalizing the Thesis Week 12: Thesis Final Check and Submission Week 13: Thesis Feedback Week 14: Thesis Feedback Week 15: Thesis Feedback																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<table> <tr> <td>Draft Submission 1</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 2</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 3</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 4</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Draft Submission 5</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Thesis</td> <td>50%</td> </tr> </table>			Draft Submission 1	10%	Draft Submission 2	10%	Draft Submission 3	10%	Draft Submission 4	10%	Draft Submission 5	10%	Thesis	50%				
Draft Submission 1	10%																		
Draft Submission 2	10%																		
Draft Submission 3	10%																		
Draft Submission 4	10%																		
Draft Submission 5	10%																		
Thesis	50%																		
学生へのメッセージ	There are no assigned textbooks for this course. However, you may be asked to purchase books that are not available at the library in order to complete your research. The teacher will try to keep the purchase of additional books to a bare minimum. If you have a laptop computer or tablet, please bring it to class.																		
担当者の研究室等	7号館3階 フーパー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを執筆する過程で論理的思考力と文章力を養い、テーマを決めるに至った問題意識をつねに念頭におき、それへの答えを導き出す論文を書き上げる。																		
到達目標	日本語文献だけに頼らず、専攻言語で培った力を十分に生かし、自分が選んだテーマに関する先行研究を整理したうえで、その中に自分の論文の位置づけを見出し、オリジナリティのある論文を作成する。																		
授業方法と留意点	夏期休業中の成果を後期の始めに報告しあい、論文の構成を明確に組み立てる。以後、各自が章・節ごとの発表を少しずつ行い、質疑応答を交わし合うなかで推敲を加え、論文を完成させる。ゼミ生間で建設的な批判や示唆を与え合うことが重要である。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】人の移動における「包摂と自律」 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を毎回準備する。																		
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する科目全般、マイノリティ論、社会学・政治哲学系科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	研究報告の積み重ね(50%)とそれらを自己の問題意識に沿っていかに論理的にまとめあげることができたか(50%)を評価する。																		
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。各自の研究課題に応じて必要かつ重要と思われる文献を指示しますので、英語やスペイン語のものも読みこなしましょう。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	事前・事後学修に約60時間を要する。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.		
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis, construct an argument and determine possible solutions.		
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses. Draft 1: 40%, Final Draft 60%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	<p>3年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」(文化知識)に焦点を当て、情報収集・発表を行ってきました。また多読を通して、英語の絵本の深さにも触れました。さらに、後期は、Holes という児童文学を輪読し、伏線の面白さやストーリーからのメッセージを読み取りました。</p> <p>4年次は、3年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていきます。それぞれに英語の多読を続けながら、卒業研究のテーマ絞り、アウトライン作成、文献や資料の読み込み、論文執筆に取り組みます。</p> <p>最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から2つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたります。</p>																
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始めます。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていること、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とします。																
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認します。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考えます。調査が必要ならその準備をし、実行します。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねます。																
授業テーマ・内容・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>春休み： テーマの絞り込み、骨子となる参考文献や資料の収集・読み込み、アウトライン作成</p> <p>前期： 先行研究執筆、必要ならばアンケート・インタビュー調査、現地調査の準備調査実施</p> <p>夏休み： 文献の読み込み、調査結果分析、中間発表①</p> <p>後期： 論文執筆、中間発表②、推敲、(必要であれば)追加調査、分析</p> <p>1月： 論文提出</p> <p>1月末： 口頭試問、ピアレビュー、コメント書き</p> <p>それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進めます。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	毎週の課題 30% 中間発表 20% 卒業研究レポート 50%																
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までにどれまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。																
担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室																
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポート執筆を行う。 論文を書くための方法を学ぶ。		
到達目標	卒業研究レポートを仕上げるにあたり、問題理解力と調査・表現技能を身につける。		
授業方法と留意点	他者の執筆した書籍や論文を多数読み、論文の書き方を学習する。 学習した論文の書き方に沿って、実際に執筆する。 執筆した原稿の修正・校正を経て、卒業研究レポートを完成させる。 時間に余裕を持つために、早めに執筆に取りかかること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	個人指導とする。 毎回、課題を指示し、前回の課題の添削を行う。 適宜、学生間で研究内容の発表を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	適宜、指示する。	
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業研究レポートへの取り組み方(50%)、卒業研究レポートの独創性(20%)・使用言語の習熟度・論理性(30%)により総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	大学生生活の総括として、卒業研究に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートの執筆を始める。指導教員による添削を繰り返して、卒業研究レポートを完成させる。			
到達目標	卒業研究レポートの完成。			
授業方法と留意点	各自が指示された作業をしっかりと行うこと。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期の卒業研究Ⅰで作成したロードマップに従い、卒業研究レポートを完成させる。順調に卒業研究レポートを完成させるために、事前・事後の作業をしっかりと行うこと。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	卒業研究レポートの内容100%			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階 山口室			
備考	卒業研究レポート作成のために予習・復習を60時間以上すること。課題等のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	自分の選定したテーマについて研究を行うことによって、見識を広め知識を増やし、言葉に対する感受性、異文化感受性を磨き、中国語力を高めるのを目指す同時に、卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国の新語――日本観光地からの言葉を中心に―― ・中国の新語――日本アニメからの言葉を中心に―― ・中国語中級・上級へステップアップするための四字熟語について ・中国語のきまり文句 ・日中色彩用語の文化義 ・中国文化研究――若者を中心に―― <p>【事前事後学習課題】</p> <p>指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中日語言文化漫歩</td> <td>上野恵司</td> <td>吉林大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中日言語対照研究論叢</td> <td>中日言語対照研究会</td> <td>北京大学出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>現代漢語新詞語詞典 第2版</td> <td>劉海潤・亢世勇 主編</td> <td>上海辭書出版社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日語言文化漫歩	上野恵司	吉林大学	2	中日言語対照研究論叢	中日言語対照研究会	北京大学出版社	3	現代漢語新詞語詞典 第2版	劉海潤・亢世勇 主編	上海辭書出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中日語言文化漫歩	上野恵司	吉林大学																
2	中日言語対照研究論叢	中日言語対照研究会	北京大学出版社																
3	現代漢語新詞語詞典 第2版	劉海潤・亢世勇 主編	上海辭書出版社																
評価方法(基準)	毎回の提出物50%、レポート50%。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	ゼミ生全員で、卒業制作活動を実施する。また卒業制作活動に基づいた研究を行い、卒業研究レポートを作成する。		
到達目標	論理的に表現できるようになる。 質の高い卒業研究レポートを作成する。 卒業制作活動において、質の高い映像作品を作成する。		
授業方法と留意点	卒業制作活動については、active learning 形式で実施する。外部の映画祭に卒業制作作品を出品することを目標とする。卒業研究レポートについては、卒業制作活動の内容に関するものとし、教員による指導および他のゼミ受講生からのアドバイスを受けながら、卒業研究レポートの作成を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	卒業制作活動では、オリジナルの脚本を作成し、オリジナルの映像作品を制作する。 教員による指導を受けて、卒業研究レポートを作成する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	卒業制作の成果物 50% 卒業研究レポート 50%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室		
備考	卒業制作活動、および資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するための文献収集・調査・分析の方法や文章表現の技術を発表・討論を通して学ぶ。																		
到達目標	自ら課題を設定し、必要な資料を収集して、典拠を示しつつ、分析、論述することができる。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポートの研究計画にしたがって、資料収集や調査を実施し、分析した内容を発表して、討論する。また段階的に文章化して、相互に検討を加え、卒業研究レポートの完成につなげる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 ①研究計画にしたがって、資料分析や調査を実施する。 ②発表、討論をふまえて、文章化する。 ③文章を推敲し、全体の構成を組み立てる。 授業では、このサイクルの成果を定期的に発表し、相互に討論して、卒業研究レポートの完成につなげる。</p> <p>【事前事後学習】 資料収集や調査を実施し、分析する。 発表のための資料作成・準備をする。 討論をふまえて、文章化する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への貢献、卒業研究レポートへの取り組み(50%)、卒業研究レポート(50%)によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。あわせて、卒業研究レポートの作成を進める。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	体験型特別実習 A	科目名 (英文)	Experience-based Practicum A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3239a0		

授業概要・目的	<p>観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきた。</p> <p>まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。そして、航空機を運航するための機能と多様な職種との役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。</p> <p>その後の空港研修により、授業で得た知識を実際目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。</p> <p>なお、この科目は、航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> エアラインの仕事の多様性を理解する。 空港見学により、1機の飛行機を飛ばすために各部門がどのように連携し、どのような想いを持っているのを感じ取る。 自らの将来像を描く。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 本学内での事前・事後授業と中部空港研修（2泊3日）及びテストによる。 空港見学の際は、細かい身だしなみ基準に従うこと。 <p>※実習に参加可能な人数に制限がありますので、注意してください。（詳細は事前の説明会にて）</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>事前事後授業と空港研修39時間から成る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明会 事前授業 2日間 <ul style="list-style-type: none"> ①オリエンテーションとマナー ②エアラインの現状 ③空港の役割 ④GSの仕事 ⑤グラウンドハンドリングとオペレーション ⑥CAとパイロットの仕事 神戸・関空・伊丹の3空港について自主学習 中部空港研修（2泊3日でGSの仕事体験） 研修報告会 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	小レポート20%, 自主学習レポート30%, 授業への参加態度30%, プレゼン20%																
学生へのメッセージ	空港の裏側は普段見ることができません。グラウンドスタッフが、CAがどのように働いているのか見てみませんか。ホスピタリティ産業の最前線の現場を知るいい機会です。																
担当者の研究室等	7号館4階 (エアライン・ホスピタルプログラムルーム)																
備考																	

科目名	体験型特別実習 B	科目名 (英文)	Experience-based Practicum B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中西 正樹, 浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3○		
科目ナンバリング	LDL3240e0		

授業概要・目的	<p>本学部のパッケージプログラムは、学生の主体性・自主性を喚起し、将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。この「体験型特別実習 B」科目では、学生自身が主体的に計画、参加した社会的活動についてその活動内容や成果を日誌やプレゼン、レポートの形式（授業内容の項目で詳述）で事後に報告し、審査を経て単位を取得するが認定される。ここでいう社会的活動とは、上で述べたパッケージプログラムの趣旨に合致する授業外の研究活動やインターンシップ、ボランティア活動などを指す。事後申請型の科目なので事前に履修登録は行わない。</p> <p>この科目は、パッケージプログラムの実習・演習科目の一つです。</p>																
到達目標	事前授業によってこの科目の趣旨と評価基準を十分理解したうえで、自ら立てた活動計画に基づいて活動できる自主性、積極性の獲得を目指す。さらにその活動内容とそこで得られたものについて詳細かつ分かりやすく表現できる力をつける。																
授業方法と留意点	学内で行われる事前授業や事後授業（実施日は追ってポータル等で案内する）には必ず出席すること。無断で欠席した場合には単位を与えない。単位申請の対象となるのは申請時から遡って2年以内の活動（ただし、本学在学中のものに限る）とする。また、事前授業や事後授業、単位申請の受け付け、審査、認定はすべて外国語学部が行うが、活動そのものには関与しないので、活動への申し込みや先方への問い合わせも学生自身が行い、主催団体等の規定やスケジュールに従いながら行動すること。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業は以下の順に進める。単位申請は事前、事後すべての授業への参加を条件とする。</p> <p>1. 事前授業（4月～5月） 本科目の申請対象となる活動について、必要時間数や安全面での注意事項などについて理解する。科目の趣旨や到達目標、申請方法、評価の方法や基準、事後授業のスケジュール、さらに日誌ノートの書き方などについて学ぶ。</p> <p>2. 活動への参加（時期は活動によって異なる） 主催団体等の広報資料を集めるなどして、自分で活動計画を立てたうえで、活動に必要な手続きを進める。主催団体等によるガイダンスや審査を経て活動に参加することになれば、現地での滞在期間に日誌を書く。</p> <p>3. 事後授業（11月上旬予定） 審査のスケジュールや方法について学び、プレゼンテーションやレポート作成作業に備える。また、日誌など単位申請に必要な文書について確認し、不備があれば指導を受ける。</p> <p>4. 事後授業2（11月下旬予定） 申請者が現地で活動した内容やその成果を示す写真や映像を用いながら報告を行う。中西および数名の学部教員が審査に当たる。このあと、参加した活動の内容やそこで得られた成果をテーマとして2,000字程度のレポートを指定された締め切り日までに提出する。なお、ここでのプレゼンテーションやレポートが活動を主催する団体が求めるとは別のものであることに注意。</p> <p>5. 事後授業3（2月上旬予定） プレゼンテーションやレポートの審査にあたった教員が講評を行う。</p>																
関連科目	体験型特別実習 A, 海外実習, 海外インターンシップなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	事前事後授業での取り組み、日誌（60%）、プレゼンテーション、レポート（40%）をもとに総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館3階（中西研究室）																
備考																	

科目名	大衆文化論	科目名(英文)	Popular Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>私たちはさまざまなメディアに囲まれて生活しています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。この授業ではメディアについての理解を知識として深めるだけでなく、ワークショップやグループワークを通じてさまざまなメディアに触れ、情報を編集・加工・発信することでメディアの技法を修得するとともに、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを身につけます。</p> <p>なお、この科目はメディアビジネスプログラム科目です。</p>
到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) メディアリテラシーが身についている (2) さまざまなメディアの特性について理解している (3) メディアを通じて情報を得たり、編集・加工したり、発信したりするスキル(メディア技法)を身につけている</p>
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、ワークショップや受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。事前・事後学習は総時間60時間を目安とします。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	メディアリテラシー	インターネットの登場により私たちの生活は劇的に変化してきました。LineやFacebook, twitterといったSNSは私たちの生活やコミュニケーションのあり方、ひいては人間関係にも大きな影響を及ぼしています。 私たちはこうした技術をどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。今回の授業では情報社会にあつて必須の能力であるメディアリテラシーを涵養します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
3	まわしよみ新聞を作る	インターネットの普及にともなう、新聞や活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。 今回の授業では、ワークショップで「まわしよみ新聞」を作り新聞に触れるとともに、情報を編集・加工・発信することがどういうことなのかを学修します。	まわしよみ新聞について調べておきましょう。 まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持ってきましょう。
4	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の特性に触れつつ、SNSがどのようなものなのかを学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
5	SNSを使いこなす	SNSの特性を理解したうえで、SNSを使って情報を得たり発信したりする技術を身につけます。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
6	名刺を作る——自己をブランディングする	ブランディングについて学修します。ワークショップを通じて自身と他者による自己分析を行い自らの魅力を発見します。その上で、自らの魅力を効果的にアピールするための手段として名刺を作成します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
7	チラシを作る——広告デザインの作法	インターネット、SNSの普及にともなう、新聞、雑誌など紙媒体のメディアが発行部数を減らす一方で、チラシやポスターは依然として身の回りにあふれています。 今回の授業では、ワークショップを通じてチラシを作ります。そのなかで、広告、デザインの作法について学修します。	あなたの基準でよいと思われるチラシを探して持参すること。また、授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。 日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
8	中間のふり返り	前半の授業をふり返ります。不明な点が	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学

			あれば質疑応答により解決します。	修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
9	メディア文化史		メディア文化の歴史について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
10	映像を撮る——世界を切り取るということ		誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
11	映像を編集する——切り取った世界を加工すること		動画を撮影することが世界を切り取ることでありとするならば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。 今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
12	映像制作論		今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのようにして作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
13	大衆文化と政治		テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
14	メディアと権力		権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいものなのです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
15	まとめ、全体のふり回り		これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり回りながら期末試験に向けて準備をしましょう。

関連科目 メディアビジネスプログラム科目(2015年度入学生)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) この授業は、授業内課題(リフレクションシート)15%、ワークショップ30%、講義内容に関する課題調査10%、期末試験45%で評価します。

学生へのメッセージ 決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。

担当者の研究室等 この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。

7号館2階 非常勤講師室
メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp
([*]を半角の@に置き換え)

備考

科目名	旅と観光の地理	科目名(英文)	Travel and Tourism Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	地理学は、地表面で展開している諸現象を地理空間(地域)との関係においてその構造や特徴を明らかにする学問です。そのため地理学が扱う領域は幅広く、多岐にわたっています。大学で学ぶ地理学は、高校までの「暗記科目としての地理」とは異なり、将来みなさんが地域を理解するためのツールになります。「地理=暗記=苦手」と思ってきた方にも、この講義を通じて地理学の魅力に触れてみてほしいと思っています。本講義では、地理学が扱う様々な研究トピックを紹介することを通じて、地理学の基礎的な知識と考え方を身につけることを目的とします。
到達目標	①地理学に関する基本的な知識・考え方が理解できる。 ②身近な地域や日本/世界が抱えている問題について、地理学的見地から考察することができる。
授業方法と留意点	基本的には投影資料を用いた講義形式で授業を進めるが、グループワークや各種作業、成果報告等もおこなう。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション:地理学とは・風土とは	授業の概要、目的、評価方法を説明するとともに、今後の授業計画を確認する	予習: 中学・高校における地理の教科書にはどのような特徴があるかを考える (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
2	地理学の成立と方法論	地理学の発達史、地理学における地域の見方(地域スケール・地域分類)などについて概説する	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
3	身近な地理学	受講者に対する調査結果から、現象を読み解く地理学の思考方法について学ぶ	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
4	地図を知る 1	地図の発達やその種類・用途などを説明し、現在は身近となった地図の重要性について考える	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
5	地図を知る 2	メンタルマップ(認知地図)を試しながら、人間がどのように空間を認知しているのかを学ぶ	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
6	都市と農村	都市の発達や農村の現代的役割を学ぶことを通して、具体的な地域の特性を理解する	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
7	海と山	分けて考えられがちな海と山のつながりを学び、自然環境の基礎を知る	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
8	観光と地理学 1	観光行動の発達、日本人の観光行動の歴史、現在の観光の状況をデータ等を調べながら学ぶ	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
9	観光と地理学 2	観光行動と場所イメージ、観光と文化の関係について概説する	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
10	観光と地理学 3	実際に観光地について調べながら、観光地のタイプや成立の要因、発展過程などを分析する	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
11	観光と地理学 4	観光地について調べたことを発表する	予習: 発表準備をする (60分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
12	環境問題	地球規模やローカルな環境問題について概説し、地理学や関連分野の研究成果を紹介する	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
13	自然災害	地震・土砂災害を事例に、地理学が自然災害への対処や防災においてどのように役立つのかを解説する	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
14	グローバリゼーション	グローバリゼーションによって地域はどのように変化するのか、またそれに対し地理学がどのような視座を提供できるのかを概説する	予習: 配布資料を読む (30分) 復習: 授業内容を復習する (30分)
15	まとめ	これまでの総括を行い、地域や現象に対する地理学的な視点がどのように活かされるのかを考える	予習: これまでのノートを整理する (60分) 復習: 期末レポートのための復習をする (90分)

関連科目 「アーバンツーリズム論」「エコツーリズム論」「地域環境論」など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 授業への取り組み(リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等)(60%)と期末に提出するレポート(40%)で評価します。

学生へのメッセージ 高校地理を学んでいない人でも理解できる内容を扱います。

担当者の研究室等 7号館5階(手代木研究室)

備考 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	旅の文学	科目名(英文)	Travel Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>日本の近現代(明治時代から現代まで)の文学作品を講読し、日本文学の基本的な教養を身につけることを目的とする。単に作品を鑑賞するだけでなく、一つのテーマに基づいて体系的に文学の流れを辿り、読解・批評する力を養うことを大事にしたい。</p> <p>本年度は、「私小説(わたくし・しょうせつ)」をテーマとする。近代に「私」を語ることを主眼とした小説群が誕生して以降、「私小説」は現代に至るまで日本文学の主要なジャンルとしてゾンビのごとく生息し続けている。</p> <p>自分のスキャンダルや貧困を赤裸々に公表する作家もいれば、自分の日常生活を芸術的に見つめ直した作家もいた。そのような自己表現に反発する作家もいれば、偽った自分を告白する作家もいた。そのような多様な「私小説」の諸相を辿りながら、文学のなかの「日本(人)」の特徴を明らかにできればと考えている。</p> <p>授業は「文学を読んでいない」「活字を読むのが苦手」の人も楽しめるよう、映像や漫画などを用いながら分かりやすく進めていく。この授業をきっかけに、本を読む習慣をつけていただければ幸いである。</p>
---------	--

到達目標	<p>①文学作品を読解する力を身につける ②日本文学の特徴や歴史について理解する ③文学作品を通じて自身の所属する「日本」を捉えなおす観点を養う</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>講義を中心に行う。適宜、映画化作品を鑑賞することもある。教材はプリントで配布する。</p> <p>毎回、読む作品についての感想や疑問を、コメントシートに自由に記載してもらおう。次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。教員が一方向的に話すのではなく、履修者との対話的な授業を心がけたい。</p> <p>授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進める。</p>
----------	--

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	2	リアリズムの形成	日本の近代においてリアリズムがどのように成立したかを学修する 坪内逍遙「小説神髓」、二葉亭四迷「浮雲」、森鷗外「舞姫」、島崎藤村「破戒」などの作品を解説する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	3	私小説の起源(1)	田山花袋「蒲団」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	4	私小説の起源(2)	近松秋江「別れたる妻に送る手紙」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	5	私小説の起源(3)	葛西善蔵「子をつれて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	6	私小説の流行(1)	徳田秋声「徼」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	7	私小説の流行(2)	志賀直哉「城之崎にて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	8	私小説の流行(3)	広津和夫「諸崎行」、宇野浩二「蔵の中」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	9	前衛とロマン(1)	横光利一「春は馬車に乗って」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	10	前衛とロマン(2)	川端康成「伊豆の踊子」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	11	前衛とロマン(3)	梶井基次郎「檸檬」、堀辰雄「風立ちぬ」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	12	戦後の私小説(1)	三島由紀夫「仮面の告白」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	13	戦後の私小説(2)	安岡章太郎「陰気な愉しみ」など(第三の新人)を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
	14	戦後の私小説(3)	大江健三郎、藤枝静男などの現代の私小説を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
15	総括・レポート提出指示	授業内容全体を総括し、レポート作成の指示をする	レポートの準備・作成・提出	

関連科目	日本文学・文化に関する科目(「翻訳文化論」など)
------	--------------------------

教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法 (基準)	平常点 (コメントシートの内容、積極性) 30% レポート 70%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館4階 (古矢研究室)
備考	事前事後の総学習時間の目安は60時間。 次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。

科目名	多文化共生論	科目名(英文)	Multiculturalism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊, 赤澤 春彦, 田中 悟, 林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3233a0		

授業概要・目的	<p>グローバル社会に生きるわたしたちにとって、多文化共生は最重要課題の一つであろう。多文化共生は、マジョリティとは異なる背景や特性をもつマイノリティの文化を、最大限尊重することで実現される。その理念はひろく浸透しているとはいえ、差異を認めつつ共生することの困難性は容易に克服できるものではない。</p> <p>そもそもマジョリティとマイノリティの「違い」は何なのだろうか。その「違い」は絶対的なものなのだろうか。本講義では、わたしたちの身の回りに存在しているさまざまな「違い」を認識し、それに関する知識を学ぶことを通じて、多文化共生の可能性と問題点を考える。本講義では日本、韓国、イギリスを対象に、様々な地域における文化の共生について考える。</p> <p>※この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。</p>
到達目標	多文化共生に関する概念と知識を理解・習得し、それをふまえて、多文化共生の可能性と問題点について、事例に示しながら論じることができる。
授業方法と留意点	豊富な実務経験をもつ教員を含む4名が各3～4回担当し、それぞれの教員がテーマを設定して論じる。学生は各教員が設けたテーマに沿って課せられたレポートを提出する。教員によってディスカッション、プレゼンなどを行うこともある。
科目学習の効果(資格)	多文化共生に関する基礎的知識をもとに、さまざまな観点から社会問題をとらえる視座を獲得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「文化」「共生」とは(赤澤)	講義の進め方、評価方法について説明し、あわせて「文化」「共生」の概要を解説する。	「文化」「共生」について辞書もしくは書籍、論文を講読しておく。
	2	日本における神と仏の共生(赤澤)	日本中世の神仏習合を軸に神祇信仰と仏教の共生について考える。	神仏習合についてWebや書籍を用いて事前に調べておく。
	3	地域社会と民間信仰(赤澤)	日本各地の様々な民間信仰と地域社会に生きる人々との共生について考える。	自宅周辺の神社、寺院、講、民間信仰について調べておく。
	4	動物の神格化と人々(赤澤)	神格化されてゆく動物を事例に人と獣の共生について考える。	日本における狼、鹿、蛇、狐、猿、牛、馬の生息域について調べておく。
	5	韓国の「多文化家庭」1(田中)	韓国におけるいわゆる「多文化家庭」について、その概略を紹介する。	配布資料を再読し、関連サイト等にも目を通しておく。(事後学習)
	6	韓国の「多文化家庭」2(田中)	近接した事例としての日本社会の「多文化」状況について取り上げ、比較考察の手がかりとする。	配布資料を再読し、関連サイト等にも目を通しておく。(事後学習)
	7	韓国の「多文化家庭」3(田中)	関連する映像資料を鑑賞し、さらに考察を深める。	配布資料を再読し、関連サイト等にも目を通しておく。(事後学習)
	8	言語は共生できるか(橋本)	国家と言語の関係、滅びゆく言語について考える。	事後に滅びゆく言語の一つ取り上げて調べる。
	9	文化財は誰のものか(橋本)	文化財の奪取と返還について考える。	事後に返還要求されている文化財について調べる。
	10	西洋から見た日本1(橋本)	16・17世紀に日本を訪れた西洋人はどのような観察をしたのか、異文化接触を考える。	事後に授業で扱った資料を読んで考察する。
	11	西洋から見た日本2(橋本)	近代に日本を訪れた西洋人はどのような観察をしたのか、異文化接触を考える。	事後に授業で扱った資料を読んで考察する。
	12	「狩り」と自然との共生(林田)	イギリスの伝統「狐狩り」をめぐる問題を通して、自然との共生について考える。	狐狩りとは何か事前に調べてくる。
	13	伝統・文化としての「狩り」(林田)	貴族の文化としての狐狩りという観点から、歴史を概観する。	配布資料を参考に、中世から現代にいたるまでの流れを整理する。
	14	スポーツとしての「狩り」(林田)	スポーツとしての「狩り」という観点から、狐狩りの問題点について考察する。	スポーツとしての「狩り」の事例を調べてくる。
	15	動物愛護と「狩り」(林田)	動物愛護の観点から「狩り」をとらえ、自然との共生の可能性について考える。	配布資料を参考に、動物愛護と文化・伝統のせめぎあいについてまとめる。

関連科目	「暮らしの中の文化」「グローバル社会と日本」「共同体論」など
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート80%(20%×4)、授業への取り組み(5%×4)
学生へのメッセージ	様々な教員による様々な意見を聞いて知見を深めましょう。
担当者の研究室等	赤澤研究室、田中研究室、橋本研究室、林田研究室(いずれも7号館4階)
備考	学生へのフィードバックは各担当者の最終回の授業のなかでおこなう。

科目名	多文化の共生	科目名(英文)	Multiculturalism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊, 赤澤 春彦, 田中 悟, 林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>グローバル社会に生きるわたしたちにとって、多文化共生は最重要課題の一つであろう。多文化共生は、マジョリティとは異なる背景や特性をもつマイノリティの文化を、最大限尊重することで表現される。その理念はひろく浸透しているとはいえ、差異を認めつつ共生することの困難性は容易に克服できるものではない。</p> <p>そもそもマジョリティとマイノリティの「違い」は何なのだろうか。その「違い」は絶対的なものなのだろうか。本講義では、わたしたちの身の回りに存在しているさまざまな「違い」を認識し、それに関する知識を学ぶことを通じて、多文化共生の可能性と問題点を考える。本講義では日本、韓国、イギリスを対象に、様々な地域における文化の共生について考える。</p> <p>※この科目は、「国際教養」プログラム対応科目である。</p>
到達目標	多文化共生に関する概念と知識を理解・習得し、それをふまえて、多文化共生の可能性と問題点について、事例に示しながら論じることができる。
授業方法と留意点	豊富な実務経験をもつ教員を含む4名が各3～4回担当し、それぞれの教員がテーマを設定して論じる。学生は各教員が設けたテーマに沿って課せられたレポートを提出する。教員によってディスカッション、プレゼンなどを行うこともある。
科目学習の効果(資格)	多文化共生に関する基礎的知識をもとに、さまざまな観点から社会問題をとらえる視座を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	「文化」「共生」とは(赤澤)	講義の進め方、評価方法について説明し、あわせて「文化」「共生」の概要を解説する。	「文化」「共生」について辞書もしくは書籍、論文を講読しておく。
2	日本における神と仏の共生(赤澤)	日本中世の神仏習合を軸に神祇信仰と仏教の共生について考える。	神仏習合についてWebや書籍を用いて事前に調べておく。
3	地域社会と民間信仰(赤澤)	日本各地の様々な民間信仰と地域社会に生きる人々との共生について考える。	自宅周辺の神社、寺院、講、民間信仰について調べておく。
4	動物の神格化と人々(赤澤)	神格化されてゆく動物を事例に人と獣の共生について考える。	日本における狼、鹿、蛇、狐、猿、牛、馬の生息域について調べておく。
5	韓国の「多文化家庭」1(田中)	韓国におけるいわゆる「多文化家庭」について、その概略を紹介する。	配布資料を再読し、関連サイト等にも目を通しておく。(事後学習)
6	韓国の「多文化家庭」2(田中)	近接した事例としての日本社会の「多文化」状況について取り上げ、比較考察の手がかりとする。	配布資料を再読し、関連サイト等にも目を通しておく。(事後学習)
7	韓国の「多文化家庭」3(田中)	関連する映像資料を鑑賞し、さらに考察を深める。	配布資料を再読し、関連サイト等にも目を通しておく。(事後学習)
8	言語は共生できるか(橋本)	国家と言語の関係、滅びゆく言語について考える。	事後に滅びゆく言語の一つ取り上げて調べる。
9	文化財は誰のものか(橋本)	文化財の奪取と返還について考える。	事後に返還要求されている文化財について調べる。
10	西洋から見た日本1(橋本)	16・17世紀に日本を訪れた西洋人はどのような観察をしたのか、異文化接触を考える。	事後に授業で扱った資料を読んで考察する。
11	西洋から見た日本2(橋本)	近代に日本を訪れた西洋人はどのような観察をしたのか、異文化接触を考える。	事後に授業で扱った資料を読んで考察する。
12	「狩り」と自然との共生(林田)	イギリスの伝統「狐狩り」をめぐる問題を通して、自然との共生について考える。	狐狩りとは何か事前に調べてくる。
13	伝統・文化としての「狩り」(林田)	貴族の文化としての狐狩りという観点から、歴史を概観する。	配布資料を参考に、中世から現代にいたるまでの流れを整理する。
14	スポーツとしての「狩り」(林田)	スポーツとしての「狩り」という観点から、狐狩りの問題点について考察する。	スポーツとしての「狩り」の事例を調べてくる。
15	動物愛護と「狩り」(林田)	動物愛護の観点から「狩り」をとらえ、自然との共生の可能性について考える。	配布資料を参考に、動物愛護と文化・伝統のせめぎあいについてまとめる。

関連科目 「暮らしの中の文化」「グローバル社会と日本」「共同体論」など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	レポート80%(20%×4)、授業への取り組み(5%×4)
学生へのメッセージ	様々な教員による様々な意見を聞いて知見を深めましょう。
担当者の研究室等	赤澤研究室、田中研究室、橋本研究室、林田研究室(いずれも7号館4階)
備考	学生へのフィードバックは各担当者の最終回の授業のなかでおこなう。

科目名	地域環境論	科目名(英文)	Regional Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2229a0		

授業概要・目的	<p>環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題について考えるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。本講義では、国内外のさまざまな地域の環境や環境問題等について学びます。また、地域の自然環境と深く関わって発生する自然災害も扱います。これらを学ぶことで幅広い教養を身につけ、多角的な視野を獲得することを目指します。</p> <p>この科目は「国際教養」プログラム対応科目です。</p>			
到達目標	<p>1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴や身近に起こる災害について理解する 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる</p>			
授業方法と留意点	<p>プリントの配布および投影資料を利用した講義形式を基本としますが、講義中にグループワークやディスカッション、簡単な作業などを通して受講者の意見を求めることもあります。</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	2	環境を学ぶための基礎知識1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	3	環境を学ぶための基礎知識2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	4	環境を学ぶための基礎知識3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	5	環境を学ぶための基礎知識4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	6	環境と自然災害1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	7	環境と自然災害2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	8	環境と自然災害3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	9	環境と自然災害4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	10	地球環境問題1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	11	地球環境問題2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	12	地球環境問題3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	13	身近な地域の環境1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	14	身近な地域の環境2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
	15	身近な地域の環境3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
関連科目	国際教養プログラム関連科目(暮らしの中の文化、多文化共生論等)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	授業への取り組み(リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等)(60%)とレポート(40%)で評価します。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階(手代木研究室)			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。			

科目名	地域と国際ビジネス	科目名(英文)	Regional and International Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2201a0		

授業概要・目的	この授業は、6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。経済のグローバル化が進み、国境を越えた企業活動が活発になっている。この授業では、価値連鎖（バリューチェーン）と海外直接投資の視点に立って、国境を越えて活動する企業（多国籍企業、グローバル企業）と地域の関わりを、①国や地域の投資環境の分析、②多国籍企業の立地戦略、③新興国・途上国市場における多国籍企業のビジネスの3つの側面から学ぶことを目的とする。この3点についてグループワークとグループ・プレゼンテーションを行い、各自レポートを作成する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 投資環境、企業の立地戦略、新興国ビジネスに関して理論と事例を説明できる。 投資環境や企業の立地選択の指標を用いて分析できる。 グループワークに意欲的に参加し、グループとしての結論を導くことができる。 グループ討論の結果を魅力的かつ分かりやすく発表できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 理論と事例の解説についてはプリントを配布して講義形式で行い、その後課題を決めてグループワークとプレゼンテーションを行う。 講義では講義内容の要約と考えたことをリアクションペーパーとして提出し、グループワークでは討論内容と結論について各自中間レポートを提出する。 学期末には、投資環境、企業の立地戦略、新興国ビジネスのいずれかを選んで、学期末レポートを作成・提出する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 企業のグローバル戦略の着眼点を知ることができる。 経済や経営に関心のある履修者にとっては文化演習や卒業研究の手がかりとなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の目的と方法の説明および国際ビジネスの視座の解説	レジュメを読み直して、授業の目的と方法および国際ビジネスの視座をよく確認する。(1時間)
	2	多国籍企業の事例	日系多国籍企業の事例から国際ビジネスの要点を考える。	参考書②の第2章(pp.17-27)を読む。(1時間)
	3	価値連鎖と海外直接投資	価値連鎖(バリューチェーン)の仕組みおよび海外直接投資による多国籍企業の進出	参考書①の第2章(pp.16-22)を読んでおく。(1時間)
	4	Doing business 指標を用いた投資環境分析のグループワーク	Doing business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察する。	討論課題についてグループ単位で内容をまとめて発表の準備をしておく。(3時間)
	5	グループ・プレゼンテーション(1)	Doing business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察し、発表する。	討論内容と各自の分析について中間レポートを作成する。(3時間)
	6	多国籍企業の立地優位性と産業クラスター	価値連鎖における配置と調整の決定要因としての立地優位性および産業クラスターの形成	参考書②の第3章(pp.31-37)を読んでおく。(1時間)
	7	立地優位性のケーススタディ	インドのIT産業の立地優位性	配布の参考資料を読んでおく。(1時間)
	8	OLIフレームワークを用いた海外移転分析のグループワーク	中国の化粧品、バングラデシュのアパレル、メキシコの自動車等の企業の立地戦略を考察する。	討論課題についてグループ単位で内容をまとめて発表の準備をしておく。(3時間)
	9	グループ・プレゼンテーション(2)	中国の化粧品、バングラデシュのアパレル、メキシコの自動車等の企業の立地優位性を考察し、発表する。	討論課題についてグループ単位で内容をまとめて発表の準備をしておく。(3時間)
	10	新興国市場ビジネス	アジア、アフリカ市場への参入	参考書①の第10章(pp.114-123)と第12章(pp.138-148)を読んでおく。(1時間)
	11	BOP ビジネス(1)	貧困層を対象とする BOP ビジネスとは何かを学ぶ。	参考書①の第14章(pp.162-169)を読んでおく。(1時間)
	12	BOP ビジネス(2)	日系企業を中心とした BOP ビジネスの事例	配布の参考資料を読んでおく。(1時間)
	13	BOP ビジネスに関するグループワーク	日系企業の BOP ビジネスの実践を参考に、BOP ビジネスの新たな可能性を立案する。	討論課題についてグループ単位で内容をまとめて発表の準備をしておく。(3時間)
	14	グループ・プレゼンテーション(3)	日系企業の BOP ビジネスの実践を参考に、BOP ビジネスの新たな可能性を立案し、発表する。	討論内容と各自の分析について中間レポートを作成する。(3時間)
15	中間レポートとプレゼンテーションの講評	各自の中間レポートについて講評し、学期末レポートへのアドバイスをを行い、返却する。	学期末レポートを作成する。(3時間)	

関連科目: その他の国際ビジネスプログラム科目など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	①新興市場ビジネス入門	今井雅和	中央経済社
	2	②理論とケースで学ぶ国際ビジネス 第4版	江夏健一・桑名義晴 編著	同文館出版
	3			

評価方法(基準): 中間レポート30%、期末レポート30%、グループワークへの取り組みとプレゼンテーション30%、リアクションペーパー10%で評価する。
欠席は減点とし、80%以上の出席は必須とする。

学生へのメッセージ	普段の生活では世界の動きに注目することは少ないかもしれませんが、グローバル化の時代を生きる私たちの生活は世界の変動の影響を強く受けています。履修者のみなさんが世界に目を向け、その変化に関心を持ち、自分たちの生活とのかかわりのなかで世界における企業の活動を考えられるようになることを願っています。
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室
備考	参考書の読み込み、プレゼンテーションの準備、レポート作成などにかかる事前・事後学習の総時間数は30時間を目安とする。 課題に対するフィードバックとして、中間レポートは第15回の授業で講評を行い、学期末レポートの講評と返却は研究室にて行う。

科目名	中級検定インドネシア語	科目名(英文)	Practice for Intermediate Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2132e0		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験D級の過去問題に取り組み、D級レベルの語彙や文法を学習する。
到達目標	インドネシア語技能検定試験D級レベルの語彙や文法事項の知識を得ることができる。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携帯すること。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	練習問題(1)	過去問を解く	過去問で間違えた部分を直すこと。
2	練習問題(1)の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
3	練習問題(1)の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
4	練習問題(2)	過去問を解く	練習問題(1)を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
5	練習問題(2)の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
6	練習問題(2)の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
7	練習問題(3)	過去問を解く	練習問題(2)を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
8	練習問題(3)の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
9	練習問題(3)の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
10	練習問題(4)	過去問を解く	練習問題(3)を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
11	練習問題(4)の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
12	練習問題(4)の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
13	練習問題(5)	過去問を解く	練習問題(4)を復習しておくこと。 過去問で間違えた部分を直すこと。
14	練習問題(5)の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。
15	練習問題(5)の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語を確認しておくこと。 新出単語の定着をはかること。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業への積極的参加度合 30%、小テスト 50%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%
----------	---

学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60時間以上行うこと。 授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。なお、適宜行う小テスト終了後には解説を行う。
----	--

科目名	中国語Ⅱ a	科目名(英文)	Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音1	ピンイン、声調、単母音、複母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	2	発音2、発音3	子音、鼻母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	3	発音4、付録1、付録2	挨拶用語、声調の変化、r化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	4	発音編のまとめ、小テスト1	発音編までの内容を復習	次の内容を予習する。
	5	第1課 ?は何??	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	6	第1課 ?は何??	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	7	第2課 ?何?何?名?	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	8	第2課 ?何?何?名?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	9	小テスト2、第3課 ?今年多大?	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	10	第3課 ?今年多大?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	11	第4課 ?家有几口人?	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	12	第4課 ?家有几口人?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	13	小テスト3、第5課 ?家在哪?	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	14	第5課 ?家在哪?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	15	まとめ、小テスト4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。

関連科目	中国語Ⅱ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼政	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	小テスト: 85% 平常点: 15%
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
----	--

科目名	中国語Ⅱ a	科目名(英文)	Chinese IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。 学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音1	ピンイン、声調、単母音、複母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	2	発音2、発音3	子音、鼻母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	3	発音4、付録1、付録2	挨拶用語、声調の変化、r化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	4	発音編のまとめ、小テスト1	発音編までの内容を復習	次の内容を予習する。
	5	第1課 ?は何??	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	6	第1課 ?は何??	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	7	第2課 ?何?何?名?	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	8	第2課 ?何?何?名?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	9	小テスト2、第3課 ?今年多大?	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	10	第3課 ?今年多大?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	11	第4課 ?家有几口人?	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	12	第4課 ?家有几口人?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	13	小テスト3、第5課 ?家在哪?	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	14	第5課 ?家在哪?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	15	まとめ、小テスト4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。

関連科目	中国語Ⅱ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼政	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	小テスト: 85% 平常点: 15%
----------	-----------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語Ⅱb	科目名(英文)	Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。 学期中は事前及び事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、第6課 ?在干什??	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	2	第6課 ?在干什??	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	3	第7課 今天的??都听了??	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	4	第7課 今天的??都听了??	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	5	小テスト1、第8課 我今天又被老?批?了。	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	6	第8課 我今天又被老?批?了。	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	7	第9課 ?会游泳了??	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	8	第9課 ?会游泳了??	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	9	小テスト2、第10課 我?学校的北?儿有什??	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	10	第10課 我?学校的北?儿有什??	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	11	第11課 ?怎?了??儿不舒服?	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	12	第11課 ?怎?了??儿不舒服?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	13	小テスト3、第12課 ??在一个星期打几天工?	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	14	第12課 ??在一个星期打几天工?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
		15	まとめ、小テスト4	復習、小テスト

関連科目	中国語Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	単元テスト: 85% 平常点: 15%
----------	------------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
----	---

科目名	中国語Ⅱb	科目名(英文)	Chinese IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れてもらう。 学期中は事前及び事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、第6課 ?在干什??	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	2	第6課 ?在干什??	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	3	第7課 今天的??都听了??	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	4	第7課 今天的??都听了??	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	5	小テスト1、第8課 我今天又被老?批?了。	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	6	第8課 我今天又被老?批?了。	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	7	第9課 ?会游泳了??	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	8	第9課 ?会游泳了??	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	9	小テスト2、第10課 我?学校的北?儿有什??	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	10	第10課 我?学校的北?儿有什??	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	11	第11課 ?怎?了??儿不舒服?	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	12	第11課 ?怎?了??儿不舒服?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	13	小テスト3、第12課 ??在一个星期打几天工?	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	14	第12課 ??在一个星期打几天工?	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
		15	まとめ、小テスト4	復習、小テスト

関連科目	中国語 I
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法(基準)	単元テスト: 85% 平常点: 15%
----------	------------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、兪、小都)を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
----	--

科目名	中国語Ⅲ a	科目名(英文)	Chinese IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	礫 玉穂
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国での買い物や移動に困らないレベルの聞く力、話す力を身につける。
授業方法と留意点	日本語訳を見て中国語を話す練習もする。毎回予習と復習を必ず行ってください。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第一課 キャンパスで(1) 対話文1・文法・練習	1. 進行表現 2. 可能補語1	会話をノートに書き写しておく。
2	第一課 キャンパスで(2) 対話文2・文法・練習	3. 可能補語2 4. 「……, 好??」	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第二課 アルバイト仲間 対話文1・文法・練習	1. 様態補語 2. 可能補語と様態補語	会話をノートに書き写しておく。
4	第二課 3人で京劇を見終 わって 対話文2・文法・練習	3. 比較表現1 4. 比較表現2	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第1回単元テスト(筆記と口 頭)	第一課・第二課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。
6	第三課 程君がアルバイト をしているレストランへ I (1) 対話文1・文法・練習	1. 状態持続 2. 「着」を用いた存現文 3. 「(正)在V……(?)」と「V着」 の違い	会話をノートに書き写しておく。
7	第三課 程君がアルバイト をしているレストランへ I (2) 対話文2・文法・練習	4. 「有点儿」 5. V? 着(+0?) V? (+0?) 6. 「怎?」	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第四課 程君がアルバイト をしているレストランへ II (1) 対話文1・文法・練習	1. 「把」構文 ① 「把」 0 + V + 方向補語 ② 「把」 0 + V + 結果補語	会話をノートに書き写しておく。
9	第四課 程君がアルバイト をしているレストランへ II (2) 対話文2・文法・練習	③ 「把」 0 + V V 「把」 0 + 「一下」 ④ 「把」 0 + V + 「給」 + 人 「把」 0 + V + 「到」 + 場 所 「把」 0 + V + 「在」 + 場 所	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第2回単元テスト(筆記と口 頭)	第三課・第四課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。
11	第五課 キャンパスで(1) 対話文1・文法・練習	1. 名詞の重ね型 2. 「下来」の派生義 3. 受身文1 4. 可能性の「会」	会話をノートに書き写しておく。
12	第五課 キャンパスで(2) 対話文2・文法・練習	5. 受身文2	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第一課～第五課 基本文型 まとめ	1. 文法練習 2. 会話文の朗読練習	全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく。
14	第一課～第五課 総合復習 と練習	3. 総合復習と練習 4. 質問と解答	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第3回単元テスト(筆記と口 頭)	第一課～第五課 日文中訳復習と前期 習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。

関連科目	「中国語 I」, 「中国語 II」, 「中国語 IV」
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	いつでも中国語 2	成田静香・藤野真子ほか	朝日出版社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		

評価方法(基準)	小テスト: 30% 単元テスト: 70%
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	継続は力なり。事前・事後の学習に各 60 分必要とする。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	「中国語 I」と「中国語 II」を履修したうえ、「中国語 III」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせること。また、 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
----	--

科目名	中国語Ⅲb	科目名(英文)	Chinese IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	礫 玉璽
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	前期の「中国語Ⅲ」に続き、読む・聴く・話す・書く一四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験4級レベルに達することを旨とする。
到達目標	中国語Ⅲで学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読めるレベルを目指す。
授業方法と留意点	日本語を見て中国語を話す練習もする。事前・事後の学習に各60分必要とする。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第六課 北京国際空港で(1) 対話文・文法・練習	1. 「不用」+ 述語フレーズ 2. 「……的? (就) ~」 3. 「有/没(有)」+ 名詞 + 動詞	対話文・短文をノートに書き写しておく。
2	第六課 北京国際空港で(2) 短文・文法・練習	4. 跟……相比 5. 听?、听……? 6. 「?得」+ 「一」+ V 7. 打算	授業までに練習問題を解答しておく。
3	第七課 キャンパスで(1) 対話文・文法・練習	1. 「? 那 ?」と量詞 2. 動詞フレーズ + 「的」 3. 「起来」の派生義	対話文・短文をノートに書き写しておく。
4	第七課 キャンパスで(2) 短文・文法・練習	4. ~?了 5. ?于 6. 一?…… 一?…… 7. ?然…… 但是……	授業までに練習問題を解答しておく。
5	第1回単元テスト(筆記と口頭)	第六課・第七課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。
6	第八課 中華料理店で(1) 対話文・文法・練習	1. 「怪不得」 2. 「要」 3. 「?」+ 動詞フレーズ	対話文・短文をノートに書き写しておく。
7	第八課 中華料理店で(2) 短文・文法・練習	4. 又…… 又…… 5. 不?…… ?…… 6. 只好 7. 向	授業までに練習問題を解答しておく。
8	第九課 チャイナドレス店で(1) 対話文・文法・練習	1. 主述述語文 2. 疑問詞 + 「也/都」…… 3. 「是」を用いた譲歩構文	対話文・短文をノートに書き写しておく。
9	第九課 チャイナドレス店で(2) 短文・文法・練習	4. V成 5. 对……来? 6. 越来越……	授業までに練習問題を解答しておく。
10	第2回単元テスト(筆記と口頭)	第八課・第九課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。
11	第十課 帰国のあいさつ(1) 対話文・文法・練習	1. 「就」 2. 「才」 3. 「就」と「才」	対話文・短文をノートに書き写しておく。
12	第十課 帰国のあいさつ(2) 短文・文法・練習	4. 戴上/穿上 5. 准? 6. 需要 7. 像……??/那?	授業までに練習問題を解答しておく。
13	第六課～第十課 基本文型まとめ	1. 文法練習 2. 会話文の朗読練習	全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく。
14	第六課～第十課 総合復習と練習	3. 総合復習と練習 4. 質問と解答	授業までに練習問題を解答しておく。
15	第3回単元テスト(筆記と口頭)	第六課～第十課 日文中訳復習と後期習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく。

関連科目	「中国語Ⅲ」
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	いつでも中国語 2	成田静香・藤野真子ほか	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト: 30% 単元テスト: 70%
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	継続は力なり。教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。
担当者の	7号館2階 非常勤講師控室

研究室等	
備考	<p>「中国語Ⅲ」を履修したうえ、「中国語Ⅳ」を履修するのが望ましい。</p> <p>授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西， 兪， 小都）を通じて問い合わせることもできる。</p> <p>課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。</p>

科目名	中国語圏概論	科目名(英文)	Introduction to Cultures of the Chinese-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1144a0		

授業概要・目的	さまざまな映像を通じ、中国の衣食住を紹介し、異文化の多様性と共通性を学ぶことを目的とする。
到達目標	中国文化に関する基礎知識を身につけ、グローバル社会の一員としてコミュニケーション力を高めること。
授業方法と留意点	グループに分け、毎回のテーマについて感想や意見を討論する形式で行う授業。事前と事後にそれぞれ60分の学習を要する。
科目学習の効果(資格)	柔軟性を持って語学を学べ、価値観を広げる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	豆知識	授業内容と評価基準についての説明	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	2	衣①	服装の歴史	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	3	衣②	服装にまつわる話	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	4	食①	食文化	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	5	食②	酒と茶の文化	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	6	住①	中国の建物	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	7	住②	中国人にとって家とは	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	8	行①	古代の交通	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	9	行②	現代社会の交通	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	10	呼び名と姓名	呼び名と日常交際	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	11	娯楽と健康	琴棋書画と養生	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	12	家庭と婚姻	家庭の構造と婚姻の歴史	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	13	宗教と迷信	崇拝とタブー	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	14	言語と文化	言葉から見る中華文化	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
	15	中国語と日本	コミュニケーションから生まれた日中友好	レポートにまとめる

関連科目	1年次必修の中国語各課目・中国関連の講義科目。
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	毎回の提出物70%、レポート30%
----------	-------------------

学生へのメッセージ	グループワークで積極的に発言し、協力し合いながらお題をまとめること。 事前と事後にそれぞれ60分の学習すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	連絡事項や質問のある場合は、授業当日(金曜日)、授業前後の休み時間か昼休みに非常勤講師室にお越しください。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語学 I	科目名 (英文)	Chinese Linguistics I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語は地域的な広がり、及び歴史的な広がりにおいてきわめて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ること、文字全体の意味を解釈できる。 本講義では藤堂明保著『漢字語源辞典』の単語家族に関する記述を参考にしながら、上古 (周代) 漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のものの見方や発想法について考える。
到達目標	日常使用する漢字について、それを構成する部品が何の象形なのか、どのような意味を担っているのか、それらを組み合わせることでも何を表現しているのかを説明できるようになることを目指す。また、未知の漢字に接した時もその意味や読音を推測できるようにする。
授業方法と留意点	一回の授業で4～5の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考えていく。受講生にも意見を求める。
科目学習の効果 (資格)	中国語教職科目 (中国語の分野)。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス。 人体・姿勢	この授業の目的及び目標を概説する。 人・女・子・鬼・兄…	この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
2	身体部位 1	頭・毛・目・耳・口…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
3	身体部位 2	手・足…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
4	動物 1	牛・馬・羊…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
5	動物 2	犬・鹿・豚…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
6	単元テスト 1 動物 3	第1回～第5回の理解度を確認する。 鳥・虫・蛇…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
7	天体・気象	日・月・水…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
8	鉱物	土・火・金…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
9	人工物	高・示…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
10	単元テスト 2 器具 1	第6回～第10回の理解度を確認する。 方・網・工…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
11	器具 2	玉・父・車…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
12	器具 3	刀・辛・戈…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
13	動作	又・口・之…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
14	状態	束・阜・変…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
15	単元テスト 3 形状	第10回～第14回の理解度を確認する。 字・王・弗…	この授業で学習した内容は2時間をかけて復習する。

関連科目	中国語の科目 (専門または基礎) を履修しておくことが望ましい。
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社

評価方法 (基準)	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から1つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 (中西研究室)
----------	---------------

備考	教材として、プリントを授業中に配布する。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	---

科目名	中国語学Ⅱ	科目名(英文)	Chinese Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語学習において、混同しやすい日中同形語を使い分けることが非常に大切なことである。本講義は、日中常用同形語、つまり中級レベルでよく使われ、誤用が生じやすく、質問が多いものを取り上げて、中国語の語彙力(分析力、理解力、運用力)を高める。
到達目標	日中常用同形語の相違をはっきりさせ、日中混同と誤用を避ける。そして中国語検定試験2級合格を目指す。
授業方法と留意点	授業では、日中同形語について3つずつ口述解説とドリルを中心に行う。 中国語専攻以外の学生が、中国語検定試験3級の資格を持っている者なら、支障なく受講できる。 事前・事後に各60分の学習を要する。
科目学習の効果(資格)	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「意思、援助、円満」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 22-37
3	「温和、顔色、活動」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 44-63
4	「感覚、確実、議論」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 67-79
5	1-4回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト1	・指定した範囲を復習すること。 ・補足プリント①。
6	「気味、工夫、結束」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 82-103
7	「検討、経験、結構」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 106-117
8	「告訴、構造、差別」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 126-157
9	「事情、柔軟、趣味」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 158-175
10	6-9回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト2	・指定した範囲を復習すること。 ・補足プリント②。
11	「新鮮、損害、単純」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 180-209
12	情緒、注目、注意	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 230-247
13	「通過、適当、到底」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 256-281
14	「得意、把握、発現」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 284-337
15	11-14回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト3	・指定した範囲を復習すること。 ・補足プリント③。

関連科目 3年次の専門科目の中の各中国語科目(必修と選択)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中常用同形語用法作文辞典	曹 櫻	日本橋報社
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中同形異義語辞典	王永全・小玉新次郎・許晶福	東方書店
	2			

評価方法(基準)	提出物30%、単元テスト70%。
学生へのメッセージ	授業中は私語などを慎み、集中して授業内容の理解に努めましょう。
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語語彙論	科目名(英文)	Chinese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL3165a0		

授業概要・目的	中国語学習において、混同しやすい日中同形語を使い分けることが非常に大切なことである。本講義は、日中常用同形語、つまり中級レベルでよく使われ、誤用が生じやすく、質問が多いものを取り上げて、中国語の語彙力(分析力、理解力、運用力)を高める。
到達目標	日中常用同形語の相違をはっきりさせ、日中混同と誤用を避ける。そして中国語検定試験2級合格を目指す。
授業方法と留意点	授業では、日中同形語について3つずつ口述解説とドリルを中心に行う。 中国語専攻以外の学生が、中国語検定試験3級の資格を持っている者なら、支障なく受講できる。 事前・事後に各60分の学習を要する。
科目学習の効果(資格)	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「意思、援助、円満」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 22-37
3	「温和、顔色、活動」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 44-63
4	「感覚、確実、議論」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 67-79
5	1-4回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト1	・指定した範囲を復習すること。 ・補足プリント①。
6	「気味、工夫、結束」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 82-103
7	「検討、経験、結構」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 106-117
8	「告訴、構造、差別」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 126-157
9	「事情、柔軟、趣味」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 158-175
10	6-9回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト2	・指定した範囲を復習すること。 ・補足プリント②。
11	「新鮮、損害、単純」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 180-209
12	情緒、注目、注意	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 230-247
13	「通過、適当、到底」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 256-281
14	「得意、把握、発現」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 284-337
15	11-14回目の復習・まとめ	重要な部分をおさらいする。 ☆単元テスト3	・指定した範囲を復習すること。 ・補足プリント③。

関連科目 3年次の専門科目の中の各中国語科目(必修と選択)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中常用同形語用法作文辞典	曹 櫻	日本橋報社
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中同形異義語辞典	王永全・小玉新次郎・許晶福	東方書店
	2			

評価方法(基準) 提出物30%、単元テスト70%。

学生へのメッセージ 授業中は私語などを慎み、集中して授業内容の理解に努めましょう。

担当者の研究室等 7号館3階(兪研究室)

備考 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。
試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語コミュニケーション a	科目名 (英文)	Chinese Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3081d0		

授業概要・目的	この授業は生の中国語を体感することにより、中国語表現能力を身に付けることが目的である。過去習った中国語の基礎をかためながら、音読、聴き取り、繰り返しの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力、ことに発信型の中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国語で日常のコミュニケーションができるようになります。
授業方法と留意点	会話とリスニングを重視する。 授業には積極的な態度で臨むこと。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	基礎会話力を更に一歩向上させることで、コミュニケーション能力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第一課 网?生活 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	2	第一課 网?生活 (2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	3	第二課 自然?境 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	4	第二課 自然?境 (2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	5	文法復習 会話発表	第 1 課から第 2 課までの内容を復習する。 *単元テスト① 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	6	第三課 世界??大 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	7	第三課 世界??大 (2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	8	第四課 日本文化在中国 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	9	第四課 日本文化在中国 (2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	10	文法復習 会話発表	第 3 課から第 4 課までの内容を復習する。 *単元テスト② 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	11	第五課 房地?泡沫 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	12	第五課 房地?泡沫 (2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	13	第六課 大学生的梦想 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	14	第六課 大学生的梦想 (2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
15	おさらい	第 5 課から第 6 課までの内容を復習する。 *単元テスト③ 会話発表	発表内容を暗唱すること。	

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	巨大中国の今	張 恒悦	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テストと会話 40% 単元テスト : 60%
学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都, 中西, 兪)を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語コミュニケーションb	科目名(英文)	Chinese Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3082d0		

授業概要・目的	前期同様、この授業は生の中国語に体感することにより、中国語の口頭表現能力のさらなる向上を目標とする。音読、聞き取り、繰り返し、暗唱などの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国語で日常のコミュニケーションができるようになります。
授業方法と留意点	会話とリスニングを重視する。 授業には積極的な態度で臨むこと。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果(資格)	基礎会話力を更に一步向上させることで、コミュニケーション能力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第七課 人口??(1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	2	第七課 人口??(2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	3	第八課 交通大??(1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	4	第八課 交通大??(2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	5	文法復習 会話発表	第 7 課から第 8 課までの内容を復習する。 *単元テスト① 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	6	第九課 ??中的外来?(1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	7	第九課 ??中的外来?(2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	8	第十課 高考(1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	9	第十課 高考(2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	10	文法復習 会話発表	第 9 課から第 10 課までの内容を復習する。 *単元テスト② 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	11	第十一課 海外の中国人(1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	12	第十一課 海外の中国人(2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	13	第十二課 ?假日(1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	14	第十二課 ?假日(2)	リスニング、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
15	おさらい	第 11 課から第 12 課までの内容を復習する。 *単元テスト③ 会話発表	発表内容を暗唱すること。	

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	巨大中国の今	張 恒悦	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テストと会話：40% 単元テスト：60%
学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(小都、中西、兪)を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語プレゼンテーション a	科目名 (英文)	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3079d0		

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話を付けること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 1 初めまして	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第一課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第二課 1 早起き	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第二課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	6	第三課 1 北京の朝	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第三課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第四課 1 模範亭主	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第四課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	11	第五課 1 勘定	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第五課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第六課 1 お返し	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第六課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	総復習	全体の総括。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	口頭および筆記による小テストを数回に分けて実施し、口頭 70%、筆記 30%の割合で成績を評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都、中西、兪）を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語プレゼンテーション a	科目名 (英文)	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3079d0		

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話を付けること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第一課 1 初めまして	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第一課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第二課 1 早起き	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第二課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	6	第三課 1 北京の朝	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第三課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第四課 1 模範亭主	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第四課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	会話	会話文を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	11	第五課 1 勘定	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第五課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第六課 1 お返し	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第六課 2	文法練習・リスニング練習	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	総復習	全体の総括。	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	口頭および筆記による小テストを数回に分けて実施し、口頭 70%、筆記 30%の割合で成績を評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都、中西、兪）を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語プレゼンテーション b	科目名 (英文)	Chinese Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3080d0		

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とコミュニケーションするのに必要な会話力をつけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 住居	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第一課	発表及びレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第二課 結婚観	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第二課	発表及びレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	会話	会話を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	6	第三課 海外旅行	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第三課	発表及びレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第四課 微信	文法練習、リスニング練習 本文翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第四課	発表及びレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第五課 服装	文法、本文翻訳	発表を準備する。
	11	第五課	発表及びレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第六課 移民	文法練習・リスニング練習 本文翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第六課	発表およびレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第七課 飲食	文法練習・リスニング練習 本文翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第七課	発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今の中国 衣食住游	山下輝彦	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	口頭および筆記による小テストを数回に分けて実施し、口頭 70%、筆記 30%の割合で成績を評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。原則として事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師控室
----------	----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
----	--

科目名	中国語プレゼンテーション b	科目名 (英文)	Chinese Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3080d0		

授業概要・目的	この授業は習得した基礎文法を応用できるようにする中国語会話授業です。中国の「社会事情」「文化風習」といった身近な話題で、楽しく文法事項や表現を学習し、文法練習、会話練習とリスニング練習によって、中国語のコミュニケーション能力の向上を目指します。
到達目標	文法練習、会話練習とリスニング練習によって、会話を高める。
授業方法と留意点	授業に積極的に参加する態度が望まれる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とコミュニケーションするのに必要な会話力をつけること。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 住居	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	2	第一課	発表及びレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	3	第二課 結婚観	文法説明・本文読み練習・翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	4	第二課	発表及びレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	5	会話	会話を作成する。 会話を練習する。	会話発表を準備する。
	6	第三課 海外旅行	文法説明・本文読み練習・翻訳 会話発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	7	第三課	発表及びレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	8	第四課 微信	文法練習、リスニング練習 本文翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	9	第四課	発表及びレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	10	第五課 服装	文法、本文翻訳	発表を準備する。
	11	第五課	発表及びレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	12	第六課 移民	文法練習・リスニング練習 本文翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	13	第六課	発表およびレポート	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	14	第七課 飲食	文法練習・リスニング練習 本文翻訳	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。
	15	第七課	発表	練習問題を解答してくる。解答後の練習問題を復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	今の中国 衣食住游	山下輝彦	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	口頭および筆記による小テストを数回に分けて実施し、口頭 70%、筆記 30%の割合で成績を評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大な目的とするので、授業では自ら進んで発表したり意見を述べたりするなど積極的な参加を望みたい。原則として事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語文字論	科目名(英文)	Chinese Writing System
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL3163a0		

授業概要・目的	中国語は地域的な広がり、及び歴史的な広がりにおいてきわめて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ること、文字全体の意味を解釈できる。 本講義では藤堂明保著『漢字語源辞典』の単語家族に関する記述を参考にしながら、上古(周代)漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のものの見方や発想法について考える。
到達目標	日常使用する漢字について、それを構成する部品が何の象形なのか、どのような意味を担っているのか、それらを組み合わせることでも何を表現しているのかを説明できるようにすることを目指す。また、未知の漢字に接した時もその意味や読音を推測できるようにする。
授業方法と留意点	一回の授業で4～5の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考えていく。受講生にも意見を求める。
科目学習の効果(資格)	中国語教職科目(中国語の分野)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス。 人体・姿勢	この授業の目的及び目標を概説する。 人・女・子・鬼・兄…	この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
2	身体部位1	頭・毛・目・耳・口…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
3	身体部位2	手・足…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
4	動物1	牛・馬・羊…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
5	動物2	犬・鹿・豚…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
6	単元テスト1 動物3	第1回～第5回の理解度を確認する。 鳥・虫・蛇…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
7	天体・気象	日・月・水…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
8	鉱物	土・火・金…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
9	人工物	高・示…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
10	単元テスト2 器具1	第6回～第10回の理解度を確認する。 方・網・工…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
11	器具2	玉・父・車…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
12	器具3	刀・辛・戈…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
13	動作	又・口・之…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
14	状態	束・阜・変…	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
15	単元テスト3 形状	第10回～第14回の理解度を確認する。 字・王・弗…	この授業で学習した内容は2時間をかけて復習する。

関連科目 中国語の科目(専門または基礎)を履修しておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社

評価方法(基準) 小テスト及び単元テスト 80%
授業参加度や提出物 20%

学生へのメッセージ 講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から1つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。

担当者の研究室等 7号館3階(中西研究室)

備考 教材として、プリントを授業中に配布する。
試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を書く I a	科目名 (英文)	Chinese Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1057e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	形容詞述語文、副詞 1、変調	第 1 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
3	1 課小テスト、是構文、副詞 2、構造助詞 1	第 2 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
4	2 課小テスト、動目構造、動詞重畳	第 3 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
5	数詞、量詞 1	第 4 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
6	4 課小テスト、数詞 3、曜日	第 5 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
7	5 課小テスト、方位詞、不定代名詞、量詞 2	第 6 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
8	第 4 課～第 6 課会話文から出題	復習 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
9	選択疑問文、副詞 7	第 7 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
10	了 1 了 2、副詞 8	第 8 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
11	副詞 9、把字句	第 9 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
12	動態助詞「過」副詞 10	第 10 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
13	10 課小テスト、能願動詞 2、動量詞 3	第 11 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
14	11 課小テスト、方向補語	第 12 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
15	第 10 課～第 12 課会話文から出題	復習 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都、中西、兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を書く I b	科目名 (英文)	Chinese Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1058e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	会話	第 13 課 4	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	会話	第 14 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	検定 4 級準備 (1) 長文読解	第 15 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (2) 文法	第 16 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (3) 文法	第 17 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	検定 4 級準備 (4) リスニング	第 18 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (5) リスニング	第 19 課 1 + 第 18 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (6) リスニング	第 20 課 1 + 第 19 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	第 18 課～20 課到達度確認	復習 + 第 18 課～20 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 中文日訳	第 21 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 教材音読	第 22 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (3) 日文中訳	第 23 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (4) 語彙と発音	第 24 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (5) 語彙と発音	第 25 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 中文日訳	第 25 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を書くⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2069e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した基礎を復習しながら、中国語構文の仕組み全体を習得する。学んだ文法事項を日常会話に使える練習も行う。中国語を書くⅡの勉強によって、中国語の学習効率を向上させ、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語で表現する時に、どの構文・句型・語彙を使えばよいのかを判断できるスキルを習得する。
授業方法と留意点	中国語をマスターするのに、発音、構文と語彙の力を同時にレベルアップすることが重要である。音読する練習も欠かせない。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1課 手続きをするのに何日が必要か①	<ul style="list-style-type: none"> 基本例文 主語となる成分 二重目的語を取る動詞 動詞の重ね型 作文練習 	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p7) を覚えてくること。練習問題 (p6 - p7) 解答すること。
2	手続きをするのに何日が必要か②	<ul style="list-style-type: none"> ミニ会話 さまざまな目的語 形容詞の重ね型 作文練習 	録音を聞いて基本例文 (p2) とミニ会話 (p3) を覚えてくること。 録音 (CD5) を聞いて書き取りをすること。
3	第2課 今日、こちらがごちそうをする①	<ul style="list-style-type: none"> 基本例文 連体修飾語 助詞「的」の使い方 作文練習 	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p13) を覚えてくること。練習問題 (p12 - p13) 解答すること。
4	今日、こちらがごちそうをする②	<ul style="list-style-type: none"> ミニ会話 連体修飾語と中心語の省略 連用修飾語 作文練習 	録音を聞いて基本例文 (p8) とミニ会話 (p9) を覚えてくること。 第1～2課の単語と例文を復習すること。
5	第3課 この映画は2回見た①	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト1 基本例文 補語の種類 動量補語の基本とポイント 作文練習 	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p19) を覚えてくること。練習問題 (p18 - p19) 解答すること。
6	この映画は2回見た②	<ul style="list-style-type: none"> ミニ会話 時量補語の基本とポイント 作文練習 	録音を聞いて基本例文 (p14) とミニ会話 (p15) を覚えてくること。 録音 (CD17) を聞いて書き取りをすること。
7	第4課 なかなかのおしゃれ①	<ul style="list-style-type: none"> 基本例文 様態補語の基本とポイント 作文練習 	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p25) を覚えてくること。練習問題 (p24 - p25) 解答すること。
8	なかなかのおしゃれ②	<ul style="list-style-type: none"> ミニ会話 程度補語の基本とポイント 作文練習 	録音を聞いて基本例文 (p20) とミニ会話 (p21) を覚えてくること。 第3～4課の単語と例文を復習すること。
9	第5課 帰って来たよ①	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト2 単純方向補語の基本とポイント 作文練習 	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p31) を覚えてくること。練習問題 (p30 - p31) 解答すること。
10	帰って来たよ②	<ul style="list-style-type: none"> ミニ会話 複合方向補語の基本とポイント 方向補語の否定と疑問 作文練習 	録音を聞いて基本例文 (p26) とミニ会話 (p27) を覚えてくること。 録音 (CD29) を聞いて書き取りをすること。
11	第6課 かなり歩いたので、疲れた①	<ul style="list-style-type: none"> 基本例文 結果補語の基本とポイント 作文練習 	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p37) を覚えてくること。練習問題 (p36 - p37) 解答すること。
12	かなり歩いたので、疲れた②	<ul style="list-style-type: none"> ミニ会話 可能補語の基本とポイント 作文練習 	録音を聞いて基本例文 (p32) とミニ会話 (p33) を覚えてくること。 第5～6課の単語と例文を復習すること。
13	第7課 彼女は私より優しい①	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト3 基本例文 比較文の基本とポイント 作文練習 	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p43) を覚えてくること。練習問題 (p42 - p43) 解答すること。
14	彼女は私より優しい②	<ul style="list-style-type: none"> ミニ会話 同等比較の基本とポイント 最上級の表現 作文練習 	録音を聞いて基本例文 (p38) とミニ会話 (p39) を覚えてくること。 第7課の単語と例文を復習すること。
15	復習課	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト4 第1～7課の復習 	録音 (CD41) を聞いて書き取りをすること。 第1～7課の基本例文と会話文を復習すること。

関連科目 「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を話すⅡa」「メディア中国語 a」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ぐんぐんのびる 中国語②——構文で学ぶ初級中国語——	何珍時	朝日出版社
2				
3				

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 口を鍛える中国語作文 初級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 50%、単元テスト 50%			
学生への メッセージ	学んだ文法事項と語彙を復習しつつ、さらなる確実な一歩を踏み出せるように努力しよう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(兪研究室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語を書くⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2070e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した基礎を復習しながら、中国語構文の仕組み全体を習得する。学んだ文法事項を日常会話に使える練習も行う。中国語を書くⅡの勉強によって、中国語の学習効率を向上させ、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語で表現する時に、どの構文・句型・語彙を使えばよいのかを判断できるスキルを習得する。
授業方法と留意点	中国語をマスターするのに、発音、構文と語彙の力を同時にレベルアップすることが重要である。音読する練習も欠かせない。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第8課 お待たせしました①	・基本例文 ・連動文の基本とポイント ・兼語文/使役文の基本とポイント ・作文練習	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p49) を覚えてくること。練習問題 (p48 - p49) 解答すること。
2	お待たせしました②	・ミニ会話 ・受け身分の基本とポイント ・作文練習	録音を聞いて基本例文 (p44) とミニ会話 (p45) を覚えてくること。 録音 (CD47) を聞いて書き取りをすること。
3	第9課 空に虹がかかっている①	・基本例文 ・存現文の基本とポイント ・さまざまな無主語文 ・作文練習	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p55) を覚えてくること。練習問題 (p54 - p55) 解答すること。
4	空に虹がかかっている②	・ミニ会話 ・一語文 ・「有」を用いる構文 ・作文練習	録音を聞いて基本例文 (p50) とミニ会話 (p51) を覚えてくること。 第8～9課の単語と例文を復習すること。
5	第10課 鍵を家に忘れてしまった①	・単元テスト1 ・基本例文 ・補語の種類 ・動量補語の基本とポイント ・作文練習	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p61) を覚えてくること。練習問題 (p60 - p61) 解答すること。
6	鍵を家に忘れてしまった②	・ミニ会話 ・時量補語の基本とポイント ・作文練習	録音を聞いて基本例文 (p56) とミニ会話 (p56) を覚えてくること。 録音 (CD59) を聞いて書き取りをすること。
7	第11課 桜が散ったら桃の花が咲いた①	・基本例文 ・複文とは ・並立複文 ・作文練習	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p67) を覚えてくること。練習問題 (p66 - p67) 解答すること。
8	桜が散ったら桃の花が咲いた②	・ミニ会話 ・連続関係の複文 ・累加関係の複文 ・作文練習	録音を聞いて基本例文 (p62) とミニ会話 (p63) を覚えてくること。 第10～11課の単語と例文を復習すること。
9	第12課 彼に会ったらよろしくと伝えて①	・単元テスト2 ・選択関係の複文 ・取捨関係の複文 ・仮定関係の複文 ・作文練習	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p73) を覚えてくること。練習問題 (p72 - p73) 解答すること。
10	彼に会ったらよろしくと伝えて②	・ミニ会話 ・条件関係の複文 ・副詞「還」と「就」 ・作文練習	録音を聞いて基本例文 (p68) とミニ会話 (p69) を覚えてくること。 録音 (CD71) を聞いて書き取りをすること。
11	第13課 晴れているが、風が強い①	・基本例文 ・逆説関係の複文 ・譲歩関係の複文 ・作文練習	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p79) を覚えてくること。練習問題 (p78 - p79) 解答すること。
12	晴れているが、風が強い②	・ミニ会話 ・因果関係の複文 ・目的関係の複文 ・作文練習	録音を聞いて基本例文 (p74) とミニ会話 (p75) を覚えてくること。 第12～13課の単語と例文を復習すること。
13	第14課 来た時は、雨はまだ降って いなかった①	・単元テスト3 ・時間・様態を表す複文 ・疑問詞呼応 ・作文練習	録音を聞いて文法ポイントの単語 (p85) を覚えてくること。練習問題 (p84 - p85) 解答すること。
14	来た時は、雨はまだ降って いなかった②	・ミニ会話 ・さまざまな緊縮文 ・副詞「都」と「才」 ・作文練習	録音を聞いて基本例文 (p79) とミニ会話 (p81) を覚えてくること。 第14課の単語と例文を復習すること。
15	復習課	・単元テスト4 ・第8～14課の復習	録音 (CD83) を聞いて書き取りをすること。 第8～14課の基本例文と会話文を復習すること。

関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を話すⅡa」「メディア中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ぐんぐんのびる 中国語②——構文で学ぶ初級中国語——	何珍時	朝日出版社

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 口を鍛える中国語作文 中級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 50%、単元テスト 50%			
学生への メッセージ	学んだ文法事項と語彙を復習しつつ、さらなる確実な一歩を踏み出せるように努力しよう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(愈研究室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1053e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	子音 (4), 子音 (5)	発音編 4	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	会話 1	第 1 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	会話 2	第 2 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	会話 3	第 3 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	会話 4	第 4 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	会話 5	第 5 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	会話 6	第 6 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	連動文	第 7 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	了 1, 了 2	第 8 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	会話 10	第 10 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	会話 11	第 11 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	会話 12	第 12 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1053e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスキング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	子音 (4), 子音 (5)	発音編 4	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	会話 1	第 1 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	会話 2	第 2 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	会話 3	第 3 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	会話 4	第 4 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	会話 5	第 5 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	会話 6	第 6 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	連動文	第 7 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	了 1, 了 2	第 8 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	会話 10	第 10 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	会話 11	第 11 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	会話 12	第 12 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を聞く I b	科目名 (英文)	Chinese Listening I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1054e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	疑問代名詞「為什麼」、接続詞「因為」、「所以」、可能補語	第 13 課 3	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	使役文、被动文、複合方向補語	第 14 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	検定 4 級準備 (1) リスニング	第 15 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (2) 長文読解	第 16 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (3) 長文読解	第 17 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	第 15 課～17 課到達度確認	復習+第 15 課～17 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 日文中訳	第 18 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 日文中訳	第 19 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 日文中訳	第 20 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	第 21 課～23 課到達度確認	復習+第 21 課～第 23 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	--

担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
----------	------------------

備考	質問したい事項がある場合、担当教員の研究室で問い合わせること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を聞く I b	科目名 (英文)	Chinese Listening I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1054e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	疑問代名詞「為什麼」、接続詞「因為」、「所以」、可能補語	第 13 課 3	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	使役文、被动文、複合方向補語	第 14 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	検定 4 級準備 (1) リスニング	第 15 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (2) 長文読解	第 16 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (3) 長文読解	第 17 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	第 15 課～17 課到達度確認	復習+第 15 課～17 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 日文中訳	第 18 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 日文中訳	第 19 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 日文中訳	第 20 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	第 21 課～23 課到達度確認	復習+第 21 課～第 23 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を聞く II a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2065e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練し、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめぐりに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで6割以上を正解することできるリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	問題形式によってリスニングの訓練を行うとともに、語彙・文法に解説を加える。スキットを繰り返し練習することによって、語彙や表現を習得する。また授業外学習として、短文のディクテーションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			事後に問題を復習する (2時間)。
1	オリエンテーション	授業方法のガイダンス 問題のブレ実施	事後に問題を復習する (2時間)。
2	第1回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
3	第2回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
4	第3回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
5	第4回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
6	第5回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
7	第6回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
8	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える (5時間)。
9	第7回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
10	第8回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
11	第9回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
12	第10回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
13	第11回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
14	第12回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
15	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える (5時間)。

関連科目	「中国語を読む IIa」「中国語を書く IIa」「中国語を話す IIa」 「メディア中国語 Ia」「観光中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	
----------	--

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を聞く II a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2065e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練し、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる6月末をめぐりに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで6割以上を正解することできるリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	問題形式によってリスニングの訓練を行うとともに、語彙・文法に解説を加える。スキットを繰り返し練習することによって、語彙や表現を習得する。また授業外学習として、短文のディクテーションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	第1回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
3	第2回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
4	第3回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
5	第4回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
6	第5回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
7	第6回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
8	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える (5時間)。
9	第7回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
10	第8回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
11	第9回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
12	第10回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
13	第11回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
14	第12回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
15	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える (5時間)。

関連科目	「中国語を読む IIa」「中国語を書く IIa」「中国語を話す IIa」 「メディア中国語 Ia」「観光中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	小都研究室 (7号館3階)
----------	---------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。試験や課題に対して用紙または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	---

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2066e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解し、これに受け答えできるように訓練するとともに、中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで7割以上を正解することができるリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	問題形式によってリスニングの訓練を行うとともに、語彙・文法に解説を加える。スキットを繰り返し練習することによって、語彙や表現を習得する。また授業外学習として、短文のディクテーションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			事後に問題を復習する (2時間)。
1	オリエンテーション	授業方法のガイダンス 問題のプレ実施	
2	第1回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
3	第2回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
4	第3回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
5	第4回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
6	第5回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
7	第6回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
8	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える (5時間)。
9	第7回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
10	第8回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
11	第9回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
12	第10回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
13	第11回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
14	第12回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする (2時間)。事後に問題を復習する (2時間)。
15	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える (5時間)。

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」 「メディア中国語 I b」「観光中国語 b」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	
----------	--

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2066e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解し、これに受け答えできるように訓練するとともに、中国語検定試験3級および2級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる11月末をめどに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで7割以上を正解することができるリスニング能力を身につける。
授業方法と留意点	問題形式によってリスニングの訓練を行うとともに、語彙・文法に解説を加える。スキットを繰り返し練習することによって、語彙や表現を習得する。また授業外学習として、短文のディクテーションを実施する。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第1回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
3	第2回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
4	第3回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
5	第4回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
6	第5回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
7	第6回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
8	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える(5時間)。
9	第7回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
10	第8回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
11	第9回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
12	第10回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
13	第11回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
14	第12回	問題の実施、解説、発音練習	事前に課題文の書き取りをする(2時間)。事後に問題を復習する(2時間)。
15	表現のまとめと単元テスト	これまで学習した文法・表現を確認し、単元テストを実施する。	これまで学習した内容を復習し、単元テストに備える(5時間)。

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」 「メディア中国語 I b」「観光中国語 b」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

評価方法(基準)	授業への参加度と小テスト: 30% 単元テスト: 70%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)
----------	--------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1059e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスキング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	複母音 (2), 鼻母音 (1)	発音編 2	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	会話 7	第 7 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	会話 8	第 8 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	会話 9	第 9 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1059e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスキング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	複母音 (2), 鼻母音 (1)	発音編 2	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	会話 7	第 7 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	会話 8	第 8 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	会話 9	第 9 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を話す I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1060e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	是～の構文	第 13 課 1	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1 + 第 13 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	第 21 課到達度確認	復習 + 第 21 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 24 課～25 課到達度確認	復習 + 第 24 課～第 25 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を話す I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1060e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
1	是～の構文	第 13 課 1	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1 + 第 13 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
11	第 21 課到達度確認	復習 + 第 21 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
15	第 24 課～25 課到達度確認	復習 + 第 24 課～第 25 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
			摂南大学外国語学部
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を話すⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2071e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベル、中国語検定試験3級の合格を目指す。
授業方法と留意点	書く、暗唱するなどの練習で、フレーズを習得していく。 「読む中国語を話すⅡ a」Lクラスの担当者：曹櫻
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	はじめての授業②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p11 - p13) を解答してくる。第1課の会話(後半)を覚えること。
3	第二課 銀行での換金①	・「把」を用いる構文 ・表現「先」 ・前置詞「給」 ・「一下」の意味と用法 ・会話文を読む練習	練習問題 (p17?p18) を解答してくる。第2課の会話(前半)を覚えること。
4	銀行での換金②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p19 - p21) を解答してくる。第2課の会話(後半)を覚えること。
5	復習課	・第1～2課の復習 ・単元テスト1	第1～2課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
6	第三課 道を尋ねる①	・文型「如果…的话」 ・文型「一…就…」 ・助動詞「应该」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p25?p26) を解答してくる。第3課の会話(前半)を覚えること。
7	道を尋ねる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p27 - p29) を解答してくる。第3課の会話(後半)を覚えること。
8	第四課 美容院でカットする①	・文型「越来越…」 ・助動詞「可以」 ・動詞「覺得」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p33?p34) を解答してくる。第4課の会話(前半)を覚えること。
9	美容院でカットする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p35 - p37) を解答してくる。第4課の会話(後半)を覚えること。
10	復習課	・第3～4課の復習 ・単元テスト2	第3～4課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
11	第五課 万里長城で記念写真を撮る①	・表現「聽說」 ・表現「为了」 ・表現「而」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p41?p42) を解答してくる。第5課の会話(前半)を覚えること。
12	万里長城で記念写真を撮る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p43 - p45) を解答してくる。第5課の会話(後半)を覚えること。
13	第六課 病院へ行く①	・表現「好像」 ・助動詞「会」 ・動詞「告诉」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p49?p50) を解答してくる。第6課の会話(前半)を覚えること。
14	病院へ行く②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p51 - p53) を解答してくる。第6課の会話(後半)を覚えること。
15	復習課	・第5～6課の復習 ・単元テスト3	第5～6課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。

関連科目 「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」「メディア中国語a」

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			

	3			
評価方法 (基準)	小テスト：50%、単元テスト：50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	7号館 2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語を話すⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2071e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベル、中国語検定試験3級の合格を目指す。
授業方法と留意点	書く、暗唱するなどの練習で、フレーズを習得していく。 「読む中国語を話すⅡ a」Kクラスの担当者：段飛虹
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	はじめての授業②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p11 - p13) を解答してくる。第1課の会話 (後半) を覚えること。
3	第二課 銀行での換金①	・「把」を用いる構文 ・表現「先」 ・前置詞「給」 ・「一下」の意味と用法 ・会話文を読む練習	練習問題 (p17?p18) を解答してくる。第2課の会話 (前半) を覚えること。
4	銀行での換金②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p19 - p21) を解答してくる。第2課の会話 (後半) を覚えること。
5	復習課	・第1～2課の復習 ・単元テスト1	第1～2課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
6	第三課 道を尋ねる①	・文型「如果…的话」 ・文型「一…就…」 ・助動詞「应该」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p25?p26) を解答してくる。第3課の会話 (前半) を覚えること。
7	道を尋ねる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p27 - p29) を解答してくる。第3課の会話 (後半) を覚えること。
8	第四課 美容院でカットする①	・文型「越来越…」 ・助動詞「可以」 ・動詞「覺得」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p33?p34) を解答してくる。第4課の会話 (前半) を覚えること。
9	美容院でカットする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p35 - p37) を解答してくる。第4課の会話 (後半) を覚えること。
10	復習課	・第3～4課の復習 ・単元テスト2	第3～4課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
11	第五課 万里長城で記念写真を撮る①	・表現「聽說」 ・表現「为了」 ・表現「而」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p41?p42) を解答してくる。第5課の会話 (前半) を覚えること。
12	万里長城で記念写真を撮る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p43 - p45) を解答してくる。第5課の会話 (後半) を覚えること。
13	第六課 病院へ行く①	・表現「好像」 ・助動詞「会」 ・動詞「告诉」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p49?p50) を解答してくる。第6課の会話 (前半) を覚えること。
14	病院へ行く②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p51 - p53) を解答してくる。第6課の会話 (後半) を覚えること。
15	復習課	・第5～6課の復習 ・単元テスト3	第5～6課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。

関連科目 「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」「メディア中国語a」

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			

	3			
評価方法 (基準)	小テスト：50%、単元テスト：50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。			

科目名	中国語を話すⅡ b	科目名(英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2072e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベル、中国語検定試験3級の合格を目指す。
授業方法と留意点	読む、書く、暗唱するなどの練習で、フレーズを習得していく。 「中国語を話すⅡ b」Lクラスの担当者：曹櫻
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	自由市場で果物を買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p59 - p61) を解答してくる。第7課の会話(後半)を覚えること。
3	第八課 先生のお宅を訪問する①	・禁止表現「別」 ・文型「没什?好・・・的」 ・文型「・・・多少・・・多少」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p65?p66) を解答してくる。第8課の会話(前半)を覚えること。
4	先生のお宅を訪問する②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p67 - p69) を解答してくる。第8課の会話(後半)を覚えること。
5	復習課	・第7～8課の復習 ・単元テスト1	第7～8課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
6	第九課 中国人と友達になる①	・文型「一点也・・・」 ・文型「一辺・・・一辺・・・」 ・文型「A跟(和)B一樣・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p73?p74) を解答してくる。第9課の会話(前半)を覚えること。
7	中国人と友達になる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p75 - p77) を解答してくる。第9課の会話(後半)を覚えること。
8	第十課 専門店でチャイナドレスを買う①	・終助詞「?」 ・結果補語「・・・好」 ・方向補語「・・・出来」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p81?p82) を解答してくる。第10課の会話(前半)を覚えること。
9	専門店でチャイナドレスを買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p83 - p85) を解答してくる。第10課の会話(後半)を覚えること。
10	復習課	・第9～10課の復習 ・単元テスト2	第9～10課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
11	第十一課 送別会で挨拶をする①	・表現「・・・地」 ・表現「作為・・・」 ・使役表現「使」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p89?p90) を解答してくる。第11課の会話(前半)を覚えること。
12	送別会で挨拶をする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p91 - p93) を解答してくる。第11課の会話(後半)を覚えること。
13	第十二課 空港で見送る①	・文末助詞「?」 ・副詞「還」 ・文型「不光・・・還・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p97?p98) を解答してくる。第12課の会話(前半)を覚えること。
14	空港で見送る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p99 - p101) を解答してくる。第12課の会話(後半)を覚えること。
15	復習課	・第11～12課の復習 ・単元テスト3	第11～12課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。

関連科目 「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」「メディア中国語b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷 葵	駿河台出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		
2				

	3			
評価方法 (基準)	小テスト：50%、単元テスト：50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学修を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語を話すⅡb	科目名(英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2072e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるレベル、中国語検定試験3級の合格を目指す。
授業方法と留意点	読む、書く、暗唱するなどの練習で、フレーズを習得していく。 「中国語を話すⅡb」Kクラスの担当者：段飛虹
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	自由市場で果物を買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p59 - p61) を解答してくる。第7課の会話(後半)を覚えること。
3	第八課 先生のお宅を訪問する①	・禁止表現「別」 ・文型「没什?好・・・的」 ・文型「・・・多少・・・多少」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p65?p66) を解答してくる。第8課の会話(前半)を覚えること。
4	先生のお宅を訪問する②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p67 - p69) を解答してくる。第8課の会話(後半)を覚えること。
5	復習課	・第7～8課の復習 ・単元テスト1	第7～8課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
6	第九課 中国人と友達になる①	・文型「一点也・・・」 ・文型「一辺・・・一辺・・・」 ・文型「A跟(和)B一樣・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p73?p74) を解答してくる。第9課の会話(前半)を覚えること。
7	中国人と友達になる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p75 - p77) を解答してくる。第9課の会話(後半)を覚えること。
8	第十課 専門店でチャイナドレスを買う①	・終助詞「？」 ・結果補語「・・・好」 ・方向補語「・・・出来」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p81?p82) を解答してくる。第10課の会話(前半)を覚えること。
9	専門店でチャイナドレスを買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p83 - p85) を解答してくる。第10課の会話(後半)を覚えること。
10	復習課	・第9～10課の復習 ・単元テスト2	第9～10課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。
11	第十一課 送別会で挨拶をする①	・表現「・・・地」 ・表現「作為・・・」 ・使役表現「使」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p89?p90) を解答してくる。第11課の会話(前半)を覚えること。
12	送別会で挨拶をする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p91 - p93) を解答してくる。第11課の会話(後半)を覚えること。
13	第十二課 空港で見送る①	・文末助詞「？」 ・副詞「還」 ・文型「不光・・・還・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p97?p98) を解答してくる。第12課の会話(前半)を覚えること。
14	空港で見送る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p99 - p101) を解答してくる。第12課の会話(後半)を覚えること。
15	復習課	・第11～12課の復習 ・単元テスト3	第11～12課の復習をすること。 CDを聞いて書き取りをすること。

関連科目 「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」「メディア中国語b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷 葵	駿河台出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		
2				

	3			
評価方法 (基準)	小テスト：50%、単元テスト：50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学修を要する。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。			

科目名	中国語を読む I a	科目名 (英文)	Chinese Reading I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	礫 玉穂
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1055e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	複母音 (3), 鼻母音 (4), 子音 (3)	発音編 3	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
2	自己紹介, 疑問詞疑問文	第 1 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
3	副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第 2 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
4	二重目的語, 副詞 4	第 3 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
5	第 1 課～第 3 課会話文から出題	復習 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
6	所有, 存在, 疑問代名詞 2	第 4 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
7	疑問代名詞 3, 介詞 1	第 5 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
8	指示代名詞 2	第 6 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
9	介詞 3, 量詞 3	第 7 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
10	7 課小テスト, 介詞 4, 動量詞	第 8 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
11	8 課小テスト, 状態補語, 介詞 5	第 9 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
12	第 7 課～第 9 課会話文から出題	復習 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
13	能願動詞 1	第 10 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
14	比較文, 能願動詞 4	第 11 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
15	疑問代名詞 5, 副詞 12	第 12 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を読む I b	科目名 (英文)	Chinese Reading I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	礫 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1056e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につける。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルを目指す。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業では「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	助動詞「打算」「準備」、前置詞「为了」「除了」	第 13 課 2	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	存現文, 兼語文	第 14 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	第 13, 14 課文法と語彙の到達度確認	第 13 課～14 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (1) 日文中訳	第 15 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (2) リスニング	第 16 課 1+第 15 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	検定 4 級準備 (3) リスニング	第 17 課 1+第 16 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 文法	第 18 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 文法	第 19 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 文法	第 20 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 日文中訳	第 21 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 語彙と発音	第 22 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 22 課到達度確認	復習+第 22 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (3) 中文日訳	第 23 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 教材音読	第 24 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 日文中訳	第 25 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目 「中国語を話す Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 授業への参加度と小テスト : 30%
単元テスト : 70%

学生へのメッセージ 上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。

担当者の研究室等 非常勤講師室 (7 号館 2 階)

備考 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。
試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を読むⅡ a	科目名(英文)	Chinese Reading II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2067e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら「読む」技能に重点を置きながら、聴く・話す・書く技能についてもレベルアップさせる。教科書を使った学習以外に、中国語の刊行物やWebサイトの記事を読みその内容を把握する訓練も行う。
到達目標	検定試験が行われる6月末までに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて習得することができる。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力、中国語を使って日常会話ができるレベルを身につけることができる。
授業方法と留意点	文法や語彙については講義形式で授業を行うが、教材文をもとに空欄補充や語順整理、正誤選択、日文中訳などの問題を学生自身で作成し、回答するというアクティブラーニングの手法も取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第1話 耳?上の杯子	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
2	第2話 毛追老鼠的故事	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
3	第3話 金太郎	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
4	第4話 一寸法?	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
5	単元テスト1 第5話 瘟神	Moodleによるテスト。 (1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
6	第6話 仍老人的山?	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
7	第6話 仍老人的山?	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
8	第7話 仙??恩的故事	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
9	第7話 仙??恩的故事	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
10	単元テスト2 第8話 桃太郎	Moodleによるテスト。 (1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
11	第8話 桃太郎	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
12	第9話 女??天	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
13	第9話 女??天	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
14	第10話 后?射日	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
15	第10話 后?射日 単元テスト3	Moodleによるテスト。 (1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。

関連科目 「中国語を書くⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を話すⅡa」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本と中国のむかし話	陳淑梅	アルク
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	アクティブラーニングの方法を取り入れますので、みなさんの積極的な姿勢に期待します。
担当者の 研究室等	中西研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を読むⅡ b	科目名(英文)	Chinese Reading II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2068e0		

授業概要・目的	1年生および2年生前期の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用しながら「読む」技能に重点を置きながら、聴く・話す・書く技能についてもレベルアップさせる。教科書を使った学習以外に、中国語の刊行物やWebサイトの記事を読みその内容を把握する訓練も行う。
到達目標	検定試験が行われる11月末までに、中国語検定試験3級に出題される文法・語彙をすべて習得することができる。また同試験リスニング部分でも6割以上を確実に正解することが可能なリスニング能力、中国語を使って日常会話ができるレベルを身につけることができる。
授業方法と留意点	文法や語彙については講義形式で授業を行うが、教材文をもとに空欄補充や語順整理、正誤選択、日文中訳などの問題を学生自身で作成し、回答するというアクティブラーニングの手法も取り入れる。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験2級。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第11話 嫦娥奔月	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
2	第12話 牛郎?女	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
3	第13話 孟姜女	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
4	第14話 ?郭先生	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
5	単元テスト1 第15話 ??充数	Moodleによるテスト。 (1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
6	第15話 ??充数	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
7	第16話 狐假虎威	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
8	第17話 ?施效?	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
9	第17話 ?施效?	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
10	単元テスト2 第18話 一只木碗	Moodleによるテスト。 (1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
11	第18話 一只木碗	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
12	第19話 愚公移山	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
13	第19話 愚公移山	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
14	第20話 梁山伯与祝英台	(1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。
15	第20話 梁山伯与祝英台 単元テスト3	Moodleによるテスト。 (1) 教材文を音読 (2) 重要な語彙および文法の整理 (3) 検定模擬問題の出題と回答	教科書の語彙一覧と日本語訳を参照しながら1時間の予習。授業で学んだ語彙と文法およびその関連項目について1時間の復習。

関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を書くⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を話すⅡb」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本と中国のむかし話	陳淑梅	アルク
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	アクティブラーニングの方法を取り入れますので、みなさんの積極的な姿勢に期待します。
担当者の 研究室等	中西研究室（7号館3階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国史学	科目名(英文)	Chinese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2167a0		

授業概要・目的	近年、日中の相互往来はますます増しているが、一方で領土や歴史認識などがたびたび問題になっている。20世紀、中国は清朝の崩壊、両大戦、社会主義化などによって大きく変化した。本講義の目的は、この時期を中心とする中国の歴史を学ぶことによって、現在の中国に対する理解をも深めることである。国際的視野をもって、日本と中国の関係を考えるきっかけとなることを目指す。
到達目標	中国史の流れを理解し、歴史的視野によって日本と中国、日本と東アジアの関係を説明することができる。
授業方法と留意点	配布プリントによる講義形式で実施する。適宜、関連するスライド、映像資料も用いる。
科目学習の効果(資格)	中国史に関する知識を通して、現在の中国や日中関係についての理解も深める。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	中国についての基礎知識	中国の地形、人口、民族などを学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
3	中華帝国の成立	中国文明の形成から五代の時期までについて学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
4	宋元	宋元時期の政治と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
5	明清	明清時期の政治と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
6	中華民国の成立	北京政府時期の政治と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
7	国民党と共産党	南京政府時期の政治と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
8	日中戦争と中国	日中戦争時期の政治と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
9	国共内戦と新中国の成立	戦後内戦期の政治と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
10	社会主義建設	社会主義建設時期の政治と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
11	文化大革命の10年	文化大革命時期の政治と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
12	改革開放から社会主義市場経済へ	改革開放以後の政治と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
13	香港・マカオ、台湾	近現代の香港・マカオ、台湾について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
14	近現代の日中関係	近現代の日中関係について学ぶ。	配布資料の予習・復習(各1時間)
15	授業のまとめと確認テスト	講義内容の総括と確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える(3~5時間)

関連科目	そのほかの中国関連科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業で指示する課題(50%)と確認テスト(50%)によって評価する。
学生へのメッセージ	中国史に関する理解を深め、アジアにおける日本の位置を考えるきっかけをつかんでください。
担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)
備考	課題や確認テストは返却時(あるいは実施後)に復習する。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国地誌学	科目名(英文)	Chinese Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子・田中 悟
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国と韓国の社会と文化の概要を学び、東アジア地域への理解を深める。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要を理解する。
授業方法と留意点	第1～9回は中国、第11～15回は韓国を対象とします。講義形式を中心とし、レジュメ・資料を適宜配布します。また、映像資料も用います。
科目学習の効果(資格)	日本を含む東アジア地域に対する理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入：中国とは？(小都)	中国の民族・人口、地理・食、言語について、地図を使って学ぶ。	配布資料の復習(事後)(1時間)
2	華北(小都)	北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。	配布資料の予習・復習(事前および事後)(各1時間)
3	華東(小都)	上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習(事前および事後)(各1時間)
4	華中(小都)	中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習(事前および事後)(各1時間)
5	西南・西北(小都)	中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。	配布資料の予習・復習(事前および事後)(各1時間)
6	華南(小都)	広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。	配布資料の予習・復習(事前および事後)(各1時間)
7	台湾(小都)	台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。	配布資料の予習・復習(事前および事後)(各1時間)
8	華僑・華人(小都)	世界と日本の華僑・華人について学ぶ。	配布資料の予習・復習(事前および事後)(各1時間)
9	授業の中間まとめと確認テスト(小都)	これまでの内容のまとめと確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える(事前)(5時間)
10	韓国新聞についての基礎知識(田中)	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事後)(1時間)
11	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会(1)(田中)	記事の輪読と解説：現代社会の諸相	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)(各1時間)
12	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会(2)(田中)	記事の輪読と解説：政治経済・国際関係	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)(各1時間)
13	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会(3)(田中)	記事の輪読と解説：社会問題	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)(各1時間)
14	韓国社会を読み解くための補助線(1)(田中)	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)(各1時間)
15	韓国社会を読み解くための補助線(2)(田中)	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後)(各1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	第1～9回(60%)、第10～15回(40%)を合算して評価します。 第1～9回については、授業内に実施する課題および確認テストによって評価します。 第10～15回については、授業内で指示する課題への取り組み(提出状況および内容)に基づいて評価します。
学生へのメッセージ	東アジアに関する基礎的な知識を身につけ、自分が暮らす世界への理解を広げてください。
担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)・田中研究室(7号館4階)
備考	授業の進行スケジュールについては、出席者の状況に応じて調整する可能性があります。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。

科目名	中国文学	科目名(英文)	Chinese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2176a0		

授業概要・目的	中国文学の中で、広く知られている民話や物語を中心とする講義になる。太古をはじめ、秦始皇の時代や唐の楊貴妃の時代の文学作品にある女性の物語をいくつか取り上げ、学生諸君と討論しながら、現代中国人の精神世界を覗いてみる
到達目標	中国文学・演劇にある有名な話を知る。また、物語が中国人の世界観に与えた影響を理解する。
授業方法と留意点	教室での講義や討論を中心とする。事前準備などがある。
科目学習の効果(資格)	中国の文化や言語が日本に与えた影響を知る。 漢籍に関する知識や中国人の発想を知って、中国文化を理解する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	中国文学文化の内容および特徴について概説する。	討議内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える
	2	女?、天を支える	資料を読む 課題を出す	発表の準備
	3	女?、天を支える	討論、発表	討議内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える
	4	月に住む嫦娥	資料を読む 課題を出す	発表の準備
	5	月に住む嫦娥	討論、発表	討議内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える(2時間)
	6	長城を泣き崩す孟姜女	資料を読む 課題を出す	発表の準備
	7	長城泣き崩す孟姜女	討論、発表	討議内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える
	8	長女花木蘭の男装	資料を読む 課題を出す	発表の準備
	9	長女花木蘭の男装	討論、発表	討議内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える
	10	絶世美女楊貴妃の悲劇	資料を読む 課題を出す	発表の準備
	11	絶世美女楊貴妃の悲劇	討論、発表	討議内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える
	12	もう一人の薄命美人	資料を読む 課題を出す	発表の準備
	13	もう一人の薄命美人	討論、発表	討議内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える
	14	現代中国人の理想的な女性像	資料を読む 課題を出す	発表の準備
	15	現代中国人の理想的な女性像	討論、発表	討議内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期テスト七割、平常点三割。
----------	----------------

学生へのメッセージ	激動する現代中国の背景にある中国現代文化の状況を知りたい学生の参加を歓迎します。中国語を受講していない学生の受講も歓迎します。授業時間外の質問は非常勤講師室への質問メモ提出かメールで受け付け、他の学生も関心がある内容の場合もあるので、最も早い授業の冒頭などで返答する。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
----	---------------------------------------

科目名	通訳・翻訳インドネシア・マレー語	科目名(英文)	Indonesian-Malay Interpretation and Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山口 真佐夫
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	インドネシア語、マレー語についての専門的な知識習得を目的とする。
到達目標	インドネシア語、マレー語の歴史、音韻論、形態論、統語論、研究史、重要な文献に関する知識を得ることができる。
授業方法と留意点	本授業は、教員側から講義するだけでなく、受講生もテーマに合わせて作業を行う。テーマに応じてディスカッション、グループワーク等を行う。プリントを配布するが、テーマに応じて、図書館等での文献調査が必要。
科目学習の効果(資格)	他のインドネシア語、マレー語に対して言語的な理解が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法の説明	これまで学んできたインドネシア語、マレー語の再確認 次回の予習
	2	インドネシア語、マレー語の音韻論と綴り1	インドネシア語の音素を確認する	インドネシア語、マレー語の発音についての再確認
	3	インドネシア語、マレー語の音韻論と綴り2	インドネシア語の音素と綴りの関係を調べる	インドネシア語、マレー語の綴りについての再確認 次回の予習
	4	インドネシア語、マレー語の形態論、統語論	インドネシア語の語形変化と文の関係を確認する	インドネシア語、マレー語の語形変化についての再確認
	5	インドネシア語、マレー語の研究史1	おもにヨーロッパ人によるマレー語の研究(20世紀中葉まで)	今回の復習 次回の予習
	6	インドネシア語、マレー語の研究史2	インドネシア人、マレーシア人等によるインドネシア語、マレー語の研究	今回の復習 次回の予習
	7	インドネシア語、マレー語の方言	インドネシア語、マレー語の地理的変種と社会的変種	今回の復習 次回の予習
	8	インドネシア語、マレー語の歴史1	古代マレー語 碑文マレー語の研究	今回の復習 次回のテキストの予習
	9	インドネシア語、マレー語の歴史2	古典マレー語 マレー古典文学の講読	今回の復習 次回のテキストの予習
	10	インドネシア語、マレー語の歴史3	島嶼部近代マレー語 東インドネシアでのマレー語の講読	今回の復習 次回のテキストの予習
	11	インドネシア語、マレー語の歴史4	半島部近代マレー語 半島部マレー語の講読	今回の復習 次回のテキストの予習
	12	インドネシア語、マレー語の歴史5	現代インドネシア語、現代マレー語の総合的研究	今回の復習 次回の予習
	13	インドネシア語、マレー語の研究1	各自の研究テーマを考える	各自の研究テーマを考えてくる 発表の準備
	14	インドネシア語、マレー語の研究2	各自の研究テーマについての説明	各自の研究テーマについてまとめる 発表の準備
	15	成果発表	各自の研究テーマについての発表と質疑応答 講評	発表の準備

関連科目	主言語インドネシア語の科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	積極的な授業の参加の度合い40%、15回目の発表と質疑応答60%
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(山口室)
----------	------------

備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い15時間以上行うこと。
----	--

科目名	ツーリズム論 I	科目名 (英文)	Tourism I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念です。本講義では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外の様々な事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考えます。</p> <p>本授業では、自らエコツーリズムを企画するなど、能動的に授業に取り組むことを求めます。そして、受講者が持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来るようになることを期待します。</p> <p>なお、この科目は「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目です。</p>
到達目標	<p>1. エコツーリズムについて理解し、説明できる</p> <p>2. 持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来る</p>
授業方法と留意点	<p>投影資料の利用による講義形式を基本とするが、エコツーリズムを企画するためのグループワーク、資料収集等の個人作業、プレゼンテーションなどを多く取り入れる。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>旅行業務取扱管理者等</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
2	マストツーリズムとエコツーリズム 1	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
3	マストツーリズムとエコツーリズム 2	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
4	マストツーリズムとエコツーリズム 3	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
5	地域の自然とエコツーリズム 1	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
6	地域の自然とエコツーリズム 2	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
7	地域の自然とエコツーリズム 3	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
8	エコツーリズムのさまざまな展開 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
9	エコツーリズムのさまざまな展開 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める (1時間以上)
10	エコツーリズムのさまざまな展開 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める (1時間以上)
11	エコツーリズムのさまざまな展開 4	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。興味があるエコツーリズムの事例地域を決め、情報を集める (1時間以上)
12	エコツーリズムを企画する 1	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1時間以上)
13	エコツーリズムを企画する 2	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1時間以上)
14	エコツーリズムを企画する 3	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1時間以上)
15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する (1時間以上)

関連科目	観光ホスピタリティプログラム関連科目 (ホスピタリティ論、アーバンツーリズム論等)
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	<p>授業への取り組み (リアクションペーパーの内容、受講態度、プレゼンテーションの内容、議論やグループワークへの参加状況等) (60%) とレポート (40%) で評価します。</p>
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 (手代木研究室)
----------	----------------

備考	<p>事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。</p> <p>リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。</p>
----	---

科目名	ツーリズム論Ⅱ	科目名(英文)	Tourism II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	麻生 将
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>アーバンツーリズム(都市観光)とは、都市が有する歴史的・文化的遺産を活かしながら、都市経済および都市環境の再生を目指す、比較的新しい観光の形である。芸術、娯楽、ショッピングを楽しんだり、その都市の町並みや市民の暮らしに触れたりすることも含まれている。</p> <p>本講義では、アーバンツーリズムに関する基礎知識を学び、具体例からその現状と課題、今後の展望について考える。受講者がアーバンツーリズムをはじめとした様々な観光現象について表面的な理解にとどまらず、その背景をしっかりと理解し、批判的に見ることによって、新たなツーリズムを生み出すスキルを身につけ、「観光まちづくり」への理解を深め、ゲストとホストの立場から観光プランを考案する力を養うことを目的とする。</p> <p>※この科目は、「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目である。</p>
到達目標	アーバンツーリズム(都市観光)に関する基礎知識を習得し、それをふまえ、ゲストとホストの立場から「都市観光プラン」と「観光まちづくりプラン」を考案することができる。
授業方法と留意点	配付資料とパワーポイントを用いて授業を進める。何度かグループディスカッションの時間を設ける。期末にはグループ発表を行ってもらう。日ごろから観光に関する報道(TVニュース、新聞、ネットなど)に関心を払うこと。
科目学習の効果(資格)	アーバンツーリズム(都市観光)について学習・理解することにより、将来の進路決定をする際の一つの判断材料として役立てることができる(とはいえ、特に公的資格には直接つながらない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、参考書の紹介など	特になし
2	都市の成立と形態①	日本と世界の都市を事例に、都市の成立と形態について考える	大学周辺(寝屋川市)の都市形成について調べ、幾つかの住宅地や旧集落を訪ねてみる(2時間)
3	都市の成立と形態②	日本と世界の都市を事例に、都市の成立と形態について考える	大学周辺(寝屋川市)の都市形成について調べ、幾つかの住宅地や旧集落を訪ねてみる(2時間)
4	都市の様々な現象と課題①	都市で生じる様々な現象や問題とその背景を理解する。	授業で紹介した事例が自分の住んでいる都市でどのように生じているかについて観察する(2時間)
5	都市の様々な現象と課題②	都市で生じる様々な現象や問題とその背景を理解する。	授業で紹介した事例が自分の住んでいる都市でどのように生じているかについて観察する(2時間)
6	都市観光の歴史①	日本もしくは海外のいくつかの都市の事例から都市観光の起源と変化について考える	紹介した参考文献を読む(2.5時間)
7	都市観光の歴史②	日本もしくは海外のいくつかの都市の事例から都市観光の起源と変化について考える	紹介した参考文献を読む(2.5時間)
8	都市観光の歴史③	日本もしくは海外のいくつかの都市の事例から都市観光の起源と変化について考える	紹介した参考文献を読む(2.5時間)
9	都市における様々な観光①	日本もしくは海外のいくつかの都市での事例を通して、都市観光の実態や特徴を把握する	授業で紹介した事例についてのニュースを確認するとともに、紹介した参考文献を読む(2.5時間)
10	都市における様々な観光②	日本もしくは海外のいくつかの都市での事例を通して、都市観光の実態や特徴を把握する	授業で紹介した事例についてのニュースを確認するとともに、紹介した参考文献を読む(2.5時間)
11	都市における観光資源活用のプランニング	京阪神、外国都市の事例からアーバンツーリズムについて考える	授業で紹介した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする(2.5~3時間)
12	巡検①	講義2回分を利用し、アーバンツーリズム(都市観光)の現場を巡検する(ただし、受講生が多い場合は実施しない)。目的地は講義中に決める	巡検で観察した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする(3時間)
13	巡検②	講義2回分を利用し、アーバンツーリズム(都市観光)の現場を巡検する(ただし、受講生が多い場合は実施しない)。目的地は講義中に決める	巡検で観察した事例と比較しながら、各グループで発表の準備をする(3時間)
14	グループ発表①	ゲストの立場から、都市観光プランに関するグループ発表を行う	各グループで発表の準備をする(3時間)
15	グループ発表②	ホストの立場から、観光まちづくりプランに関するグループ発表を行う	期末レポートを作成する(3時間)

関連科目 「エコツーリズム論」「風土と地理」など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光の空間	神田考治	ナカニシヤ出版
	2	アーバンツーリズム	淡野明彦	古今書院

評価方法(基準) 期末レポート50%、グループ発表30%、授業中課題20%

学生へのメッセージ 訪日外国人の増加や2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、観光産業はますます重要性を増している。加えてアーバンツーリズム(都市観光)は、わたしたちが日常的に接している場所で行われていることでもある。したがって、アーバンツーリズムをはじめとした様々な観光現象について、表面的な理解にとどまらず、その背景をしっかりと理解し、批判的に見ることによって、新たなツーリズムを生み出すスキルを身につけてほしい。観光関連産業を将来の進路として考えている学生はもちろん、そうでない学生も興味をもって学習できる内容であろう。身近な場所を捉え直す視点を獲得しよう。

担当者の研究室等備考

科目名	ディスプレイ論	科目名(英文)	Museum Display Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 清
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2188a0		

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示の手法を理論の裏付けと実践に基づいて身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の演習。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することが出来る。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要を講義形式で学び、具体的な展示の形態や手法については、実践的な演習を通して理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示パネルの製作を通して、展示に必要な技術の基本を習得する。授業の中で各種博物館施設や展覧会について紹介するので、日頃から博物館施設を訪れ、さまざまな展示に接する機会を設けること。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格認定のため必修の科目。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	全体ガイダンス	授業のねらいと受講上の諸注意について理解する。	事前:博物館施設の活動について調べておくこと(1時間)。 事後:授業を振り返り、授業のねらいと受講上の諸注意についてまとめておくこと(1時間)。
2	博物館施設の役割	博物館施設の役割について理解する。	事前:博物館施設の役割について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、博物館施設の役割についてまとめておくこと(2時間)。
3	学芸員の役割	学芸員の役割について理解する。	事前:学芸員の役割について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、学芸員の役割についてまとめておくこと(2時間)。
4	展示の意義	展示の意義について理解する。	事前:展示の意義について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の意義についてまとめておくこと(2時間)。
5	展示の形態と手法	展示における形態と手法について理解する。	事前:博物館施設における展示の形態と手法について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の形態と手法についてまとめておくこと(2時間)。
6	展示資料の取り扱い	展示資料の取り扱いについて理解する。	事前:博物館施設における展示資料の取り扱いについて調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示資料の取り扱いについてまとめておくこと(2時間)。
7	展示のための設備と補助具	展示作業に必要な設備と補助具について理解する。	事前:博物館施設における展示のための設備と補助具について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示のための設備と補助具についてまとめておくこと(2時間)。
8	前半のまとめ	前半の授業内容について理解度を確認する。	事前:博物館施設における展示の全体について確認しておくこと(5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと(3時間)。
9	企画展の計画	ミニ企画展を計画する。	事前:博物館施設における企画展について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、企画展の計画についてまとめておくこと(2時間)。
10	梱包と開梱	展示資料の梱包と開梱について理解する。	事前:企画展における展示物の梱包と開梱について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示物の梱包と開梱についてまとめておくこと(2時間)。
11	調書等の作成	資料借用の際に使用する調書等の作成について理解する。	事前:企画展における展示物の借用の際に使用する調書等について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、資料借用の際に使用する調書等の作成についてまとめておくこと(2時間)。
12	借用と返却	展示資料の借用と返却の実務について理解する。	事前:企画展における展示物の借用と返却の実務について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示物の借用と返却の実務についてまとめておくこと(2時間)。
13	展示作業	展示資料の陳列とパネルの設置をおこない、作業完了後に展示状況を記録し、撤収作業をおこなう。	事前:企画展における展示作業について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示作業についてまとめておくこと(2時間)。
14	展示の評価	展示全体を評価する。	事前:企画展の展示を評価する基準について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の基準についてまとめておくこと(2時間)。
15	後半のまとめ	後半の授業内容について理解度を確認する。	事前:企画展の全体について確認しておくこと(5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと(3時間)。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	博物館展示論（放送大学教材）	佐々木利和、松原茂、原田一敏	放送大学教育振興会
	2	博物館展示論	黒沢浩	講談社
	3	博物館展示・教育論（博物館シリーズ3）	小原巖	樹村房
評価方法 （基準）	<p>質疑応答等に関する積極的な受講態度（20%）、展示演習における展示制作物（30%）、課題に対するレポートの提出2回（50%=25%×2回）によって評価する。</p> <p>博物館実務を学ぶための演習が中心となる授業であるため、4回以上欠席した場合、不合格または評価不能とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>第1回の授業で受講心得と成績評価について説明するので必ず出席すること。</p> <p>各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>質問・相談等は当該授業の前後に対応する。</p> <p>8回目の授業で作成する課題レポートについては9回目の授業において、10回目の授業で作成する梱包資材等と11回目の授業で作成する調書等についてはそれぞれの授業において、また、13回目の授業で実施する展示作業の成果物については14回目の授業において、内容の講評をおこなひ、これらをもってフィードバックとする。</p>			

科目名	ディスプレイ論	科目名(英文)	Concepts in Display
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 清
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示の手法を理論の裏付けと実践に基づいて身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の演習。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することが出来る。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要を講義形式で学び、具体的な展示の形態や手法については、実践的な演習を通して理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示パネルの製作を通して、展示に必要な技術の基本を習得する。授業の中で各種博物館施設や展覧会について紹介するので、日頃から博物館施設を訪れ、さまざまな展示に接する機会を設けること。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格認定のため必修の科目。

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	全体ガイダンス	授業のねらいと受講上の諸注意について理解する。	事前:博物館施設の活動について調べておくこと(1時間)。 事後:授業を振り返り、授業のねらいと受講上の諸注意についてまとめておくこと(1時間)。
	2	博物館施設の役割	博物館施設の役割について理解する。	事前:博物館施設の役割について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、博物館施設の役割についてまとめておくこと(2時間)。
	3	学芸員の役割	学芸員の役割について理解する。	事前:学芸員の役割について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、学芸員の役割についてまとめておくこと(2時間)。
	4	展示の意義	展示の意義について理解する。	事前:展示の意義について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の意義についてまとめておくこと(2時間)。
	5	展示の形態と手法	展示における形態と手法について理解する。	事前:博物館施設における展示の形態と手法について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の形態と手法についてまとめておくこと(2時間)。
	6	展示資料の取り扱い	展示資料の取り扱いについて理解する。	事前:博物館施設における展示資料の取り扱いについて調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示資料の取り扱いについてまとめておくこと(2時間)。
	7	展示のための設備と補助具	展示作業に必要な設備と補助具について理解する。	事前:博物館施設における展示のための設備と補助具について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示のための設備と補助具についてまとめておくこと(2時間)。
	8	前半のまとめ	前半の授業内容について理解度を確認する。	事前:博物館施設における展示の全体について確認しておくこと(5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと(3時間)。
	9	企画展の計画	ミニ企画展を計画する。	事前:博物館施設における企画展について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、企画展の計画についてまとめておくこと(2時間)。
	10	梱包と開梱	展示資料の梱包と開梱について理解する。	事前:企画展における展示物の梱包と開梱について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示物の梱包と開梱についてまとめておくこと(2時間)。
	11	調書等の作成	資料借用の際に使用する調書等の作成について理解する。	事前:企画展における展示物の借用の際に使用する調書等について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、資料借用の際に使用する調書等の作成についてまとめておくこと(2時間)。
	12	借用と返却	展示資料の借用と返却の実務について理解する。	事前:企画展における展示物の借用と返却の実務について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示物の借用と返却の実務についてまとめておくこと(2時間)。
	13	展示作業	展示資料の陳列とパネルの設置をおこない、作業完了後に展示状況を記録し、撤収作業をおこなう。	事前:企画展における展示作業について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示作業についてまとめておくこと(2時間)。
	14	展示の評価	展示全体を評価する。	事前:企画展の展示を評価する基準について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の基準についてまとめておくこと(2時間)。
	15	後半のまとめ	後半の授業内容について理解度を確認する。	事前:企画展の全体について確認しておくこと(5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと(3時間)。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	博物館展示論（放送大学教材）	佐々木利和、松原茂、原田一敏	放送大学教育振興会
	2	博物館展示論	黒沢浩	講談社
	3	博物館展示・教育論（博物館シリーズ3）	小原巖	樹村房
評価方法 （基準）	<p>質疑応答等に関する積極的な受講態度（20%）、展示演習における展示制作物（30%）、課題に対するレポートの提出2回（50%=25%×2回）によって評価する。</p> <p>博物館実務を学ぶための演習が中心となる授業であるため、4回以上欠席した場合、不合格または評価不能とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>第1回の授業で受講心得と成績評価について説明するので必ず出席すること。</p> <p>各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>質問・相談等は当該授業の前後に対応する。</p> <p>8回目の授業で作成する課題レポートについては9回目の授業において、10回目の授業で作成する梱包資材等と11回目の授業で作成する調書等についてはそれぞれの授業において、また、13回目の授業で実施する展示作業の成果物については14回目の授業において、内容の講評をおこなひ、これらをもってフィードバックとする。</p>			

科目名	Debate & Presentation a	科目名(英文)	Debate and Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3029b0		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。ITC を用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業初めに単語テストを行います。 ・教科書は2冊使います。必ず両方購入すること。 ・遅刻は3回で1回欠席扱いとなります。4回欠席で単位取得資格を失います。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	単語テスト1 プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 仕上げ UNIT12 No place like home 2	プレゼンテーション 発展 リスニング リピーティング 語彙 ・インタビュー	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
3	単語テスト2 プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 発表 UNIT 10 Adult Children 1	プレゼンテーション 発表 題材を元にして意見を述べる ・その場にはいない人物を描写する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (2時間)
4	単語テスト3 プレゼンテーション 問題 解決 導入 UNIT 10 Adult Children 2	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング ・問題点を述べる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
5	テスト1回目 UNIT14 High Tech Toys 1	内容チェックテスト1 リスニング リピーティング 語彙	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
6	単語テスト4 プレゼンテーション 問題 解決 仕上げ UNIT14 High Tech Toys 2	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・解決案を提案する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
7	コミュニティの中のルール 単語テスト5 プレゼンテーション 問題 解決 発表 UNIT4 Rules1	プレゼンテーション 発表 リスニング リピーティング 語彙 ・規則を説明する ・日本の習慣を説明する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (2時間)
8	コミュニティの中のルール 単語テスト6 プレゼンテーション 日本 紹介 導入 グループ分け UNIT4 Rules2	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・グループ対抗でプレゼン	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
9	要約をする 単語テスト7 プレゼンテーション日本紹介 調査 UNIT3 I don't care 1	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・会話文を要約する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
10	要約をする テスト2回目 UNIT3 I don't care 2	内容チェックテスト2 プレゼンテーション 発展 リスニング リピーティング 語彙 ・書かれた文章を要約する	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
11	意見を掘り下げる 単語テスト8 プレゼンテーション日本紹介 発表1 UNIT1 Cosmetic Surgery	プレゼンテーション 発表 リスニング リピーティング 語彙 ・根拠を述べる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
12	意見を掘り下げる 単語テスト9 プレゼンテーション日本紹介 発表2 UNIT19 One-sided love	プレゼンテーション 発表 題材を元にして意見を述べる ・具体例を挙げる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
13	質問をする 単語テスト10 プレゼンテーション 夏休 み 導入 UNIT17 The compromise 1	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・予定を尋ねる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
14	質問をする	プレゼンテーション 発展	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成

	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>単語テスト11 プレゼンテーション夏休み 仕上げ UNIT17 The compromise 2</td> <td>題材を元にして意見を述べる ・尋ねた内容を元に、さらに質問をして 展開する</td> <td>(2時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>テスト3回目 プレゼンテーション 夏休 み 発表</td> <td>内容チェックテスト3 プレゼンテーション 発表 ・チーム対抗でディベート等</td> <td>テスト勉強 語彙の復習 プレゼン原稿暗記 (2時間)</td> </tr> </table>		単語テスト11 プレゼンテーション夏休み 仕上げ UNIT17 The compromise 2	題材を元にして意見を述べる ・尋ねた内容を元に、さらに質問をして 展開する	(2時間)	15	テスト3回目 プレゼンテーション 夏休 み 発表	内容チェックテスト3 プレゼンテーション 発表 ・チーム対抗でディベート等	テスト勉強 語彙の復習 プレゼン原稿暗記 (2時間)										
	単語テスト11 プレゼンテーション夏休み 仕上げ UNIT17 The compromise 2	題材を元にして意見を述べる ・尋ねた内容を元に、さらに質問をして 展開する	(2時間)																
15	テスト3回目 プレゼンテーション 夏休 み 発表	内容チェックテスト3 プレゼンテーション 発表 ・チーム対抗でディベート等	テスト勉強 語彙の復習 プレゼン原稿暗記 (2時間)																
関連科目	プレゼンテーション																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Impact Issues 3</td> <td>Richard R Day</td> <td>Longman</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>One-minute Presentation in English</td> <td>松岡 昇/傍島一夫</td> <td>松柏社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman	2	One-minute Presentation in English	松岡 昇/傍島一夫	松柏社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman																
2	One-minute Presentation in English	松岡 昇/傍島一夫	松柏社																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	単語テスト 3点X11回 (33%) プレゼン 5点X2回 +4点x2回 (18%) テスト 15点X3回 (45%) 参加点 4 (4%)																		
学生への メッセージ	身近な話題で英語プレゼンテーションをします。人前で分かりやすくプレゼンテーションができるようにしましょう。例に倣って情報を埋めていくことによってある一定のフォーマットでの発表ができます。ある程度パターン化することによって徐々に自分で文が作れるようになっていきます。会話独特の和訳しづらい表現に接して、よりネイティブライクな表現に慣れましょう。																		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室 木曜午前中																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																		

科目名	Debate & Presentation b	科目名(英文)	Debate and Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3030b0		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。CEFR-J[B1-2]レベルの表現力を目標とする。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。ITCを用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
2	描写(1)	時系列にそって出来事を伝える	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
3	描写(2)	位置関係がわかるように伝える	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿暗記
4	比較(1)	絵画などの真作と贋作の違いを述べる	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
5	比較(2)	文書などの引用と盗用の違いを述べる	テスト勉強 語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
6	プロセスを伝える(1)	使い方を説明する	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
7	プロセスを伝える(2)	作り方を説明する	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿暗記
8	チーム対抗でプレゼン大会	(互いのプレゼンテーションを見て、質問する)	語彙の復習 (1時間)	音読 プレゼン原稿作成
9	メリットとデメリットを述べる(1)	長期留学は得か損か	語彙の復習 (1時間)	音読 ディベート原稿作成
10	メリットとデメリットを述べる(2)	外見の美しさは得か損か	語彙の復習 (1時間)	音読 ディベート原稿作成
11	相手の意見を引き出す質問(1)	Yes/Noの質問で話を方向づける	語彙の復習 (1時間)	音読 ディベート原稿作成
12	相手の意見を引き出す質問(2)	5W1Hの質問で話を展開する	語彙の復習 (1時間)	音読 ディベート原稿作成
13	異なる立場で考える(1)	片思いする人 vs 追われて困惑する人	語彙の復習 (1時間)	音読 ディベート原稿作成
14	異なる立場で考える(2)	消費者と製造者にとっての商品価格	語彙の復習 (1時間)	音読 ディベート原稿作成
15	チーム対抗でディベート大会	(課題は前の週に発表)	語彙の復習 (1時間)	音読 ディベート原稿作成

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション 20% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	<p>外国語での会話が楽しい、という時期を過ぎ、しっかりした内容を伝えるためにはオリジナリティと同時にやっぱり語彙と文法が必要、ということに、気づいている頃ではありませんか? この授業は、「ああ、もっと自由に言葉を使いこなして言いたい!」というフラストレーションがときどききたまるけれど、話の展開のバリエーションをたくさん模索できる時間になるでしょう。前年度は協定校からの留学生も参加してくれて、マルチリンガルな環境、そして視点の多い授業になりました。</p> <p>・担当者は、学生として英語を学んで留学した後、仕事で大人を相手に本当の意味で英語を使うようになって、英語のディベートやプレゼンがどんどん変わっていきました。テストで正解を出すのとはちがう言葉の使い方をみなさんにもたくさん味わってもらいたいと思っています。</p>
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	哲学と倫理	科目名(英文)	Philosophy and Ethics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3182a0		

授業概要・目的	哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的・倫理学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。「人間の心と動物の心」、「悪」、「人生と時間」といったテーマを中心に論じる。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々の哲学・倫理学的テーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。
科目学習の効果(資格)	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	知識について(1)	どうやって私たちは何かを知るのだろうか。 経験論と合理論	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
3	知識について(2)	科学と哲学との対立と対話	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
4	知識について(3)	言葉が意味を持つとはどういうことか。 どうしてコミュニケーションが可能になるのか。 言葉の意味と音としての言葉	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
5	心の問題(1)	心の中というものはあるのだろうか。 現象学と行動主義	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
6	心の問題(2)	他人の心を知ることはできるのだろうか。 独我論と共同主観性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
7	心の問題(3)	心と身体の関係はどうなっているのだろうか。 身心問題の難しさ。 観念論と実在論を越えた身体のある方	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
8	自由と因果性(1)	私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されているのか。 カントの倫理思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
9	自由と因果性(2)	実存哲学の自由に対する捉え方 因果性と関係性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
10	悪について	正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。 悪とは何か。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
11	生と死(1)	生きることの意味。死ぬこととはどういうことか	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
12	生と死(2)	ハイデガーの死に関する思想 仏教の死に関する思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
13	神について	神は存在するのか。 魂の不死の問題	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
14	世界について	我々の生きる世界とはいかなるものか。 人間の世界における位置。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
15	まとめ	講義を通じて明らかになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめる。	授業全体をまとめておくこと。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	<子ども>のための哲学	永井均	講談社現代新書
	2	ダンゴムシに心はあるのか	森山徹	PHPサイエンス・ワールド新書
	3	哲学ってどんなこと?	ネーゲル	昭和堂

評価方法(基準) 授業内でのレポート・平常点(40%)と授業後のレポート課題(60%)

学生へのメッセージ 大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。

担当者の研究室等 7号館4階 有馬研究室

備考 適宜参考資料を紹介する。
事前事後学習に60時間必要。
レポートはMoodleを通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。

科目名	東南アジア史学	科目名(英文)	Southeast Asian History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3170a0		

授業概要・目的	本講義では、大陸部から島嶼部に及ぶ広大な東南アジア地域の歴史を、先史時代から現代に至るまで通時的に概観する。			
到達目標	複雑に展開してきた東南アジアの歴史を知ることにより、現在の東南アジア社会、東南アジアと日本との関係、東南アジアを中心とした世界情勢について理解するための基本的な視座を獲得する。			
授業方法と留意点	プリントを配布する。映像資料を適宜用いる。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。
	2	東南アジアの基礎知識	東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。
	3	先史時代と初期の国家形成	交易国家の形成	関連する文献を紹介するので読むこと。
	4	諸王朝の盛衰1	大陸部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。
	5	諸王朝の盛衰2	島嶼部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。
	6	ヨーロッパ勢力の到来1	新しい交易の時代1	関連する文献を紹介するので読むこと。
	7	ヨーロッパ勢力の到来2	新しい交易の時代2	関連する文献を紹介するので読むこと。
	8	植民地支配の進行1	オランダ植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
	9	植民地支配の進行2	イギリス植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
	10	植民地支配の進行3	反植民地主義運動の展開	関連する文献を紹介するので読むこと。
	11	ナショナリズムの台頭と脱植民地化1	独立と国家統合	関連する文献を紹介するので読むこと。
	12	ナショナリズムの台頭と脱植民地化2	国民国家の誕生	関連する文献を紹介するので読むこと。
	13	東南アジアの現在1	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。
	14	東南アジアの現在2	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。
	15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。
関連科目	エリアスタディーズ(東南アジア)など、東南アジアの社会・文化・歴史に関係するすべての科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジア史Ⅰ 大陸部		山川出版社
	2	東南アジア史Ⅱ 島嶼部		山川出版社
	3			
評価方法(基準)	授業の最終回に実施する到達度の確認を問う課題(80%)と授業中に行う小レポート(20%)から評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階 上田研究室			
備考	受講者多数の場合は、評価方法などを一部変更することがある。 事前・事後学習の総時間数は、60時間以上とする。			

科目名	東南アジア地誌学	科目名(英文)	Southeast Asian Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達・山本 文子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	東南アジアを大陸部と島嶼部に大別して、それぞれの地域における各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。大陸部を山本、島嶼部を上田が担当する。
到達目標	*東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 *東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。
授業方法と留意点	*講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 *受講者にはペーパーで毎回コメントや質問を求める。重要なものについては、次回授業冒頭で取り上げて解説する。 *話をただ聞きながらではなく、自分で考えながらノートをとること。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。(上田・山本)	紹介する資料を参照すること。
2	東南アジア(大陸部)の国々	自然環境、民族、宗教	紹介する資料を参照すること。
3	東南アジア(大陸部)の宗教	仏教の広がりとその受容・発展	紹介する資料を参照すること。
4	東南アジア(大陸部)の歴史	植民地支配と独立	紹介する資料を参照すること。
5	東南アジア(大陸部)の国々 ——ベトナム	ベトナムの政治と社会	紹介する資料を参照すること。
6	東南アジア(大陸部)の国々 ——タイ	タイの政治と社会	紹介する資料を参照すること。
7	東南アジア(大陸部)の国々 ——ミャンマー	ミャンマーの政治と社会	紹介する資料を参照すること。
8	東南アジア(大陸部)のまとめ	前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。	紹介する資料を参照すること。
9	東南アジア(島嶼部)の国々	自然環境、民族、宗教	紹介する資料を参照すること。
10	東南アジア(島嶼部)の宗教	イスラームとキリスト教の広がり	紹介する資料を参照すること。
11	東南アジア(島嶼部)の歴史	植民地支配と独立	紹介する資料を参照すること。
12	東南アジア(島嶼部)の国々 ——マレーシア	マレーシア 宗教、多民族、	紹介する資料を参照すること。
13	東南アジア(島嶼部)の国々 ——インドネシア	インドネシア 宗教、多民族	紹介する資料を参照すること。
14	東南アジア(島嶼部)の国々 ——東ティモール	東ティモール	紹介する資料を参照すること。
15	東南アジア(島嶼部)のまとめ	後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。	紹介する資料を参照すること。

関連科目	東南アジアに関連するすべての講義科目
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアを知る事典		平凡社
	2	入門 東南アジア近現代史	岩崎育夫	講談社
	3			

評価方法(基準)	前半と後半のそれぞれについて、次の観点から評価する。 *平常点 40% (授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する) *到達度の確認を問う課題 60% (授業期間中に行う)
----------	---

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室 7号館2階(非常勤講師室)

備考	*受講者数によって、評価方法等を変更することがある。初回授業時に指示するので必ず出席すること。 *質問は原則として授業中に受け付けるほか、適宜、上記の担当者の研究室等でも応対する。 *事前事後学習時間は、60時間以上とする。
----	--

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー パル
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics both national and international for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on subjects such as the importance of English, The Internet, Travel, Aliens, Music, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, class overview. Self introduction	Introduction exercises	Students should preview the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	2	Ch 12: Plastic Surgery	Changing features	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	3	Ch 13: What Colors Tell About You	Color & Personality	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	4	Ch 14: Free Music	Music Downloading	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	5	Ch 15: Ghosts	Haunted Places	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	6	Ch 16: Fast Food & Health	Fast Food & Obesity	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	7	Ch 17: Artificial Insemination	Pregnancy & Science	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	8	Ch 18: Dangers of Credit Cards	Plastic Money	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	9	Ch 19: Young Men: No Girls, No Money	Herbivore Men	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	10	Ch 20: Old Media New Media	Differences	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	11	Ch 21: Women in College	Getting Higher Grades than Men?	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	12	Ch 22: Gene Therapy	Creating Better Humans	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	13	Ch 22: Gene Therapy	Debate	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	14	Text Review	Text Review	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
15	End of Semester Test.	End of Semester Test.	Study for test. (1 hour)	

関連科目	トピックスタディーズII など
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Topics	Takashi Shimaoka & Jonathan Berman	Nan'un-do ISBN978-4-523-17689-3
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(Dictionary)		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	100% Grading will be based on student class participation, attendance, textbook homework and an end of semester test.
-----------	---

学生へのメッセージ	To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)

		according to the textbook parameters.		
	15	In-class review test and feedback session	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	Students should review vocabulary for the unit. (1 hour)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	In-class Review Test 30% Participation 70%			
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	2	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	3	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	4	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	5	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	6	Unit exercises - Japan's LGBTs	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	7	Unit exercises - Sexism and gender roles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	8	Unit exercises - Sleeping	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	9	Unit exercises - Japan's population crisis	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	10	Unit exercises - Parasite singles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	11	Unit exercises - J-pop	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	12	Unit exercises - Cosmetic surgery and physical appearance	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)	

関連科目	トピックスタディーズIIなど
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I	科目名 (英文)	Topic Studies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	4 技能 (リーディング, リスニング, スピーキング, ライティング) を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。
授業方法と留意点	各授業では、アメリカのポピュラー楽曲を通じて、英文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの能力を伸ばすことを目的としています。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション アメリカポピュラー音楽概説 (50 年代以前)	授業運営の説明 アメリカポピュラー音楽概説	テキスト購入をすませる。 次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。(2 時間)
2	Unit 1: Stand by Me/Ben E. King	4 技能を伸ばすセクション 文法: 関係代名詞の that	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。(2 時間)
3	Unit 2: Jailhouse Rock/Elvis Presley	4 技能を伸ばすセクション 文法: 命令文	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。(2 時間)
4	Unit 3: Blowin' in the Wind/Bob Dylan	4 技能を伸ばすセクション 文法: 現在進行形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。(2 時間)
5	Unit 4: Puff, the Magic Dragon/Peter, Paul and Mary	4 技能を伸ばすセクション 文法: 習慣の would	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。(2 時間)
6	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You/Bee Gees	4 技能を伸ばすセクション 文法: 強調構文	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。 これまでのユニットの練習問題、単語、リスニングの復習 (次回のテスト) (2 時間)
7	中間テスト	Unit 1-5 の復習テスト 歌詞の音読など	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。(2 時間)
8	Unit 6: Bridge Over Troubled Water/Simon & Garfunkel	4 技能を伸ばすセクション 文法: 現在完了形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。(2 時間)
9	Unit 7: Take Me Home, Country Roads/John Denver	4 技能を伸ばすセクション 文法: 仮定法過去完了形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。(2 時間)
10	Unit 8: Imagine/John Lennon	4 技能を伸ばすセクション 文法: wonder if	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。(2 時間)
11	Unit 9: I Need to Be in Love/The Carpenters	4 技能を伸ばすセクション 文法: 仮定法過去	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。 最終のプレゼンテーションで扱いたい楽曲を決める。(2 時間)
12	Unit 10: Honesty/Billy Joel	4 技能を伸ばすセクション 文法: To 不定詞の形容詞的用法	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。(2 時間)
13	Unit 11: Hotel California/Eagles	4 技能を伸ばすセクション 文法: 受動態	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyrics の部分の設問に答えてくる。 これまでのユニットの練習問題、単語、リスニングの復習 (次回のテスト) (2 時間)
14	まとめのテスト	Unit 6-11 の総括テスト	短いプレゼンテーションに向けて楽曲を選び、フォーマットをガイドにした文章を書き、プレゼン原稿を完成させ、練習する。(2 時間)
15	アメリカポピュラー音楽概説 (80 年代以降) まとめのプレゼンテーション	授業で取り扱ったアメリカにおける社会問題について歌った楽曲を選び、英語で発表内容を書き、プレゼンテーションする	まとめのプレゼンテーションの準備と振り返り (2 時間)

関連科目	リーディング II a, b 等
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ソングス&カルチャー ポップソングで学ぶ初級英語	関戸冬彦、小林愛明、山中章子、吉田要	朝日出版社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	本授業は、アメリカのポピュラー音楽を扱ったテキストに沿って英語を学びます。英語のみではなく、その楽曲の時代の概説や、プレゼンテーションなどでは、学生さんが好きな楽曲も取り扱いながら、英語で説明する能力も伸ばす予定です。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	2	Unit exercises - Crime	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	3	Unit exercises - Mobile phones	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	4	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	5	Unit exercises - Junk food	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	6	Unit exercises - Celebrity marriage	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	7	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	8	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	9	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	10	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	11	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	12	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)	

関連科目	トピックスタディーズIIなど
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グライソン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)

	according to the textbook parameters.		
15	In-class review test and feedback session	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	Students should review vocabulary for the unit. (1 hour)
関連科目	トピックスタディーズⅡなど		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	プリント教材	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	In-class Review Test 30% Participation 70%		
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	四技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。本講義では、アメリカ合衆国の歴史や社会問題を扱ったテキストを取り上げながら、英語の基礎的な表現力や英作力を伸ばすことを目的としている。アメリカ合衆国の成り立ちや、領土拡大の経緯、教育や移民問題をテキストを通して学び、適宜それらの問題への理解を深めるため、アメリカ合衆国の社会、文化、政治についての講義を補足教材とともに適宜行います。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。本講義では、英語の読み書きについて特に向上することを目的としている。学生は、英語の基本文法を使用した表現力や英作力を伸ばすことができます。また、アメリカ合衆国の社会、政治、文化に関する簡単な文章についても理解でき、またその意味やメカニズムについても十分に理解し、学生自身の日常のコンテキストとも考えることができる批判的視点を養うことができるようになります。
授業方法と留意点	各授業では、アメリカの政治、文化、歴史に関する読み物を通し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの能力を伸ばすことを目的としています。授業の進度は、上記の表を目安とするが、開講後クラスの様子を見て、必要があれば調整します。
科目学習の効果（資格）	4技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばします。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業運営と評価などの説明	テキスト購入をすすめる。 次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
2	Unit 1 A Young Nation	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
3	Unit 2 The US Land Mass	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
4	Unit 3 The White House	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
5	Unit 4 State's Rights	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
6	Unit 5 Harvard University	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
7	Unit 6 American English	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
8	Unit 7 The Statue of Liberty	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	試験範囲に指定された箇所を復習する。(1時間)
9	中間のまとめテスト	これまでのユニットで出てきたテーマについての読解や、文法を使用した英作文	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
10	Unit 8 A Nation of Immigrants	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
11	Unit 9 Undocumented Immigrants	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
12	Unit 10 Gun Control vs Right to Bear Arms	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
13	Unit 12 The Grammy Awards	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	次回のユニットでわからない語句を調べておく。 (1時間)
14	Unit 15 FBI & CIA	音読と段落ごとの内容の把握 設問に答える 文法項目の把握	試験範囲に指定された箇所を復習する。(1時間)
15	まとめのテスト	これまでのユニットで出てきたテーマについての読解や、文法を使用した英作文	これまでのユニットで学習した内容を総復習する。 (1時間)

関連科目	リーディング II a, b 等
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ABCs About America: やさしい英語で学ぶアメリカの顔	Jack Bajcich, 谷岡敏博	英宝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	本授業は、アメリカの政治、歴史、文化を扱った、読み物を扱い、英語で読む、理解する、聞く、書く、話すの技能を伸ばすことを目的としています。また、これらの読み物と共に、学生さんが、アメリカ合衆国と人種問題のつながりに対してより問題意識を持てるようになることも希望しています。いっしょに頑張りましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピック スタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー パル
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics both national and international for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on subjects such as the importance of English, The Internet, Travel, Aliens, Music, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, class overview. Self introduction	Introduction exercises	Students should prepare the next lesson (1 hour)
	2	Ch 1: The Beauty of the Seasons	Seasonal changes	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	3	Ch 2: History of the Hamburger	U.S. Fast Food	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	4	Ch 3: Importance of English	Why English is Important	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	5	Ch 4: How the Internet Evolved	Evolution of the Internet	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	6	Ch 5: Liquid Candy	Sodas	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	7	Ch 6: Travel in Japan	Japanese Travel	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	8	Ch 7: The Secret of Happiness	Becoming Happy	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	9	Ch 8: Shopping on the Internet	Net Shopping	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	10	Ch 9: Do Aliens & UFOs Exist?	UFO Stories	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	11	Ch 9: Aliens & UFOs	Scenes from the movie Paul	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	12	Ch 10: Happiest Country in the World	Denmark	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	13	Ch 11: Secondhand Smoke	Dangers of Smoking	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	14	Ch 11: Secondhand Smoke	Tabacco Vending Machines	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
		15	End of Semester Test.	End of Semester Test.

関連科目	トピックスタディーズIIなど
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Topics	Takashi Shimaoka & Jonathan Berman	Nan'un-do ISBN978-4-523-17689-3
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(Dictionary)		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	100% Grading will be based on student class participation, attendance, textbook homework and an end of semester test.
-----------	---

学生へのメッセージ	To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー パル
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics both national and international for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on subjects such as the importance of English, The Internet, Travel, Aliens, Music, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, class overview. Self introduction	Introduction exercises	Students should preview the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	2	Ch 12: Plastic Surgery	Changing features	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	3	Ch 13: What Colors Tell About You	Color & Personality	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	4	Ch 14: Free Music	Music Downloading	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	5	Ch 15: Ghosts	Haunted Places	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	6	Ch 16: Fast Food & Health	Fast Food & Obesity	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	7	Ch 17: Artificial Insemination	Pregnancy & Science	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	8	Ch 18: Dangers of Credit Cards	Plastic Money	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	9	Ch 19: Young Men: No Girls, No Money	Herbivore Men	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	10	Ch 20: Old Media New Media	Differences	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	11	Ch 21: Women in College	Getting Higher Grades than Men?	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	12	Ch 22: Gene Therapy	Creating Better Humans	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	13	Ch 22: Gene Therapy	Debate	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	14	Text Review	Text Review	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
15	End of Semester Test.	End of Semester Test.	Study for test. (1 hour)	

関連科目	トピックスタディーズIIなど
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Topics	Takashi Shimaoka & Jonathan Berman	Nan'un-do ISBN978-4-523-17689-3
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(Dictionary)		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	100% Grading will be based on student class participation, attendance, textbook homework and an end of semester test.
-----------	---

学生へのメッセージ	To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)

		according to the textbook parameters.		
	15	In-class review test and feedback session	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	Students should review vocabulary for the unit. (1 hour)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	In-class Review Test 30% Participation 70%			
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	2	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	3	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	4	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	5	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	6	Unit exercises - Japan's LGBTs	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	7	Unit exercises - Sexism and gender roles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	8	Unit exercises - Sleeping	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	9	Unit exercises - Japan's population crisis	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	10	Unit exercises - Parasite singles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	11	Unit exercises - J-pop	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	12	Unit exercises - Cosmetic surgery and physical appearance	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)	

関連科目	トピックスタディーズIIなど
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	4技能（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング）を総合的に伸ばすことで英語運用能力の基礎を身につけます。
到達目標	日常、アカデミックなコミュニケーション活動に対応できる四技能の習得をめざします。
授業方法と留意点	各授業では、アメリカのポピュラー楽曲を通じて、英文法、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの能力を伸ばすことを目的としています。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション アメリカポピュラー音楽概説（50年代以前）	授業運営の説明 アメリカポピュラー音楽概説	テキスト購入をすませる。 次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。（2時間）
2	Unit 1: Stand by Me/Ben E. King	4技能を伸ばすセクション 文法：関係代名詞の that	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。（2時間）
3	Unit 2: Jailhouse Rock/Elvis Presley	4技能を伸ばすセクション 文法：命令文	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。（2時間）
4	Unit 3: Blowin' in the Wind/Bob Dylan	4技能を伸ばすセクション 文法：現在進行形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。（2時間）
5	Unit 4: Puff, the Magic Dragon/Peter, Paul and Mary	4技能を伸ばすセクション 文法：習慣の would	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。（2時間）
6	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You/Bee Gees	4技能を伸ばすセクション 文法：強調構文	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。 これまでのユニットの練習問題、単語、リスニングの復習（次回のテスト）（2時間）
7	中間テスト	Unit 1-5の復習テスト 歌詞の音読など	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。（2時間）
8	Unit 6: Bridge Over Troubled Water/Simon & Garfunkel	4技能を伸ばすセクション 文法：現在完了形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。（2時間）
9	Unit 7: Take Me Home, Country Roads/John Denver	4技能を伸ばすセクション 文法：仮定法過去完了形	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。（2時間）
10	Unit 8: Imagine/John Lennon	4技能を伸ばすセクション 文法：wonder if	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。（2時間）
11	Unit 9: I Need to Be in Love/The Carpenters	4技能を伸ばすセクション 文法：仮定法過去	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。 最終のプレゼンテーションで扱いたい楽曲を決める。（2時間）
12	Unit 10: Honesty/Billy Joel	4技能を伸ばすセクション 文法：To 不定詞の形容詞的用法	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。（2時間）
13	Unit 11: Hotel California/Eagles	4技能を伸ばすセクション 文法：受動態	次のユニットの音声部分を聞き、Read the Lyricsの部分の設問に答えてくる。 これまでのユニットの練習問題、単語、リスニングの復習（次回のテスト）（2時間）
14	まとめのテスト	Unit 6-11の総括テスト	短いプレゼンテーションに向けて楽曲を選び、フォーマットをガイドにした文章を書き、プレゼン原稿を完成させ、練習する。（2時間）
15	アメリカポピュラー音楽概説（80年代以降） まとめのプレゼンテーション	授業で取り扱ったアメリカにおける社会問題について歌った楽曲を選び、英語で発表内容を書き、プレゼンテーションする	まとめのプレゼンテーションの準備と振り返り（2時間）

関連科目 リーディング II a, b 等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ソングス&カルチャー ポップソングで学ぶ初級英語	関戸冬彦、小林愛明、山中章子、吉田要	朝日出版社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法（基準） 作文課題 20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%

学生へのメッセージ 本授業は、アメリカのポピュラー音楽を扱ったテキストに沿って英語を学びます。英語のみではなく、その楽曲の時代の概説や、プレゼンテーションなどでは、学生さんが好きな楽曲も取り扱いながら、英語で説明する能力も伸ばす予定です。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズII	科目名 (英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	To listen to and learn about Western classical music from the baroque, classical and romantic periods. To practice reading comprehension and creative writing in English.
到達目標	Students will have listened to and learned about pieces of music from the baroque, classical and romantic periods of Western classical music. Students will have practiced reading and writing English skills.
授業方法と留意点	Reading comprehension and creative writing as a response to classical music.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Western classical music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	2	Romantic Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	3	Romantic Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	4	Romantic Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	5	Romantic Music 4	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	6	Romantic Music 5	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	7	Romantic Music 6	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	8	Romantic Music 7	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	9	Romantic Music 8	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	10	Classical Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	11	Classical Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	12	Classical Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	13	Baroque Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	14	Baroque Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	15	Baroque Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズIIb など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints provided by teacher		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, Classwork 60%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	Please bring a dictionary.
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズII	科目名 (英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	あるトピックについての賛否両論のエッセイを読み、自分の考えを深めていく。最終的には、「論理的展開」を意識して自分の意見を英語でエッセイにする。読み手を納得させる内容、展開であることが重要である。
到達目標	英文を構造で捉え、その論理的展開をつかむ練習を通して自己の「論理的思考」を養いエッセイに反映させることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業では主にエッセイの論理的把握ができていないかを重視します。エッセイ課題の提出については授業内で指示します。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、 Chapter 1 Animals in Zoos	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法など説明 Chapter1 を読み始める	Chapter 1 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
2	1 Animals in Zoos	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 1 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
3	2 Security Cameras	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 2 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
4	3 Can Customer Service Go Too Far?	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 3 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
5	4 Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 4 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
6	5 Womenomics	課題チェック エッセイ購読と exercise エッセイ課題提出 (1回目)	Chapter 5 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
7	6 Extreme Sports	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 6 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
8	中間テスト	前半の既習内容の確認テスト 課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapters 1-6 の学習内容の復習 (テスト勉強) (2時間)
9	7 Casinos and Gambling	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 7 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
10	8 Spouse Hunting	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 8 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
11	9 Space Exploration	課題チェック エッセイ購読と exercise エッセイ課題提出 (2回目)	Chapter 9 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
12	10 Becoming a World Heritage Site	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 10 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
13	11 Driverless Cars	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 11 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
14	12 The Lay-Judge System in Japan	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 12 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
15	期末テスト	Chapters 7-12 の学習内容の確認テスト	Chapters 7-12 の学習内容の復習 (テスト勉強) (2時間)

関連科目	トピックスタディーズII b など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Taking Sides: For and Against	Mark Jewel	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	中間・期末テスト 40% 発表 (板書も含む)、積極的姿勢 20% エッセイ提出 40%
-----------	--

学生へのメッセージ	辞書または電子辞書必携。 賛否両論のエッセイの量が多いので予習に時間をかけて正確に読んでおくこと。慣れてくれば、予習にかかる時間は減ってくるでしょう。自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズII	科目名(英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサー ロングス
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果(資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29. (2 hours)
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Special Topic.	To be announced.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz. (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズIIa など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法(基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズII	科目名(英文)	Topic Studies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 夏津紀
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	トピック スタディーズ IIb では、異文化事情について学びます。英語の新聞記事や映像素材を通して、日本と他国の様々な事情の違いについての情報を得て、リサーチを行うことにより内容をより深めていきます。また、調べた内容を英語で表現するために、ディスカッションやプレゼンテーションを行います。
到達目標	異文化事情に関する英語の新聞記事、映像素材を通して、英語のリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能を伸ばす。異文化事情についての理解を深める。
授業方法と留意点	授業では、ペア・グループワークで、ディスカッションやプレゼンテーションを中心に行います。教材は担当者が用意します。(読み物、映像素材、ハンドアウトなど)
科目学習の効果(資格)	4技能(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)を総合的に伸ばします。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	コースの説明 授業参加の仕方 評価の方法の説明	授業の内容・方法の確認 宗教に関する授業の予習(2時間)
	2	異文化事情(宗教) 1	宗教に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	宗教に関する授業の予習・復習(2時間)
	3	異文化事情(宗教)	宗教に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	宗教に関する授業の予習・復習(2時間)
	4	異文化事情(食) 1	食文化に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	食文化に関する授業の予習・復習(2時間)
	5	異文化事情(食) 2	食文化に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	食文化に関する授業の予習・復習(2時間)
	6	異文化事情(食) 3	食文化に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	食文化に関する授業の予習・復習(2時間)
	7	グループプレゼンテーション1	講義、プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの準備(2時間)
	8	グループプレゼンテーション2	プレゼンテーション実施	まとめのプリント プレゼンテーションの振り返り(2時間)
	9	コミュニケーションツール1	コミュニケーションツールに関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	コミュニケーションツールに関する授業の予習・復習(2時間)
	10	コミュニケーションツール2	コミュニケーションツールに関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	コミュニケーションツールに関する授業の予習・復習(2時間)
	11	異文化事情(若者文化) 1	若者文化に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	若者文化に関する授業の予習・復習(2時間)
	12	異文化事情(若者文化) 2	若者文化に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	若者文化に関する授業の予習・復習(2時間)
	13	世界の中の日本	世界の中の日本に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	世界の中の日本に関する授業の予習・復習(2時間)
	14	グループプレゼンテーション3	講義、プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの準備(2時間)
	15	グループプレゼンテーション4	プレゼンテーションの実施	まとめのプリント プレゼンテーションの振り返り(2時間)

関連科目	トピック スタディーズIIa など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(教材は担当者が用意します)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発表・プレゼンテーション 50% 提出物・小テスト 30% 授業参加態度 20%
----------	--

学生へのメッセージ	辞書または電子辞書を必ず持ってきてください。 日本と他国ではどのような点が共通していてどのような点が異なるのか、異文化の日常と自国の日常との違いを把握し、異文化コミュニケーションに支障が生じたときにはその背景にはどのような事情があるのかを考えられるような、柔軟な姿勢を身につけていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウィリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the world can not only inspire you to improve your home region, but they also make you more appreciative of it.
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through guided pair and group discussion activities. Activity types include interviews, surveys, class presentations and projects, and encourage students to take their learning beyond the classroom.
科目学習の効果 (資格)	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Organise a festival!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Finding city solutions.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Interview someone about their job.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Write a song!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan an expedition!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Family debate!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Make a public Service Announcement.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. How to be happy!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Give a persuasive presentation.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Top Notch TV (1E) 2: VIDEO COURSE BOOK	Joan Saslow	Pearson

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	Class participation - 10% 3-5 Short presentations - 90%
-----------	--

学生へのメッセージ	I am looking forward to having you in class. Be prepared to speak a lot in class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	ディベートやディスカッションの技術を高めるためのエッセイを読み、その論理的な展開に慣れ後の exercise をこなす中で自分の考えを整えていく。最終的には与えられたテーマについてのエッセイが書けることを目的とする。
到達目標	1つのトピックがどのような論理的展開をしているかを捉えることで、自己の論理的な思考や発信力を養うことへ繋げる。
授業方法と留意点	授業では主に段落の内容、論理的展開の把握ができていくかを重視します。 毎回授業の始めに課題 (リスニングの自宅学習) の提出を求める。 各単元の終わりには、与えられた、トピックについての短いエッセイの提出を求める。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)

授業計画	1	ガイダンス、 Unit 1 We should keep early hours.	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 Unit 1 を始める	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	2	2 College students should live alone.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	3	3 Club activities should be banned at schools.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	4	4 Study abroad experience should be a requirement for university graduation.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	5	5 College students should study foreign languages more seriously in addition to English.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	6	6 College students should choose an occupation that suits them.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	7	7 We should consider important rules and manners for online communication.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	8	中間テスト	前半の既習内容の確認	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	9	8 More Japanese companies should use English as their main language of business.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	10	9 School and company uniforms should be abolished.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	11	10 We should promote private lodging more.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	12	11 We should limit the number of tourists from abroad.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	13	12 Tobacco should become an illegal drug.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	14	13 We should not let elementary school kids use smartphones.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	15	期末テスト	後半の既習内容の確認 エッセイ提出	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)

関連科目 トピックスタディーズⅡ b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	How Much Do You Agree? Evolving Opinions	小林敏彦/ Jeremie Bouchard	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間・期末テスト 50% 発表 (板書も含む)、積極的姿勢 20% 課題提出 30%
-----------	--

学生への メッセージ	辞書または電子辞書必携。 与えられたトピックについて、論理的に考えがまとめられるかを重視します。 テキスト中の、分からない単語や表現は予め調べておくこと。 自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサー ロックマン
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29. (2 hours)
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Special Topic.	To be announced.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz. (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズII a	科目名(英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井 夏津紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	トピック スタディーズIIaでは、異文化コミュニケーションについて学びます。英語のエッセイや映像素材を通して、異文化コミュニケーションの際に注意すべき点についての情報を得て、様々な状況について考えていきます。なぜ、違いが起こるのかを観察し、その背景にある理由は何なのかを考え、異文化に対する理解を深めていきます。
到達目標	異文化コミュニケーションに関する英語のエッセイ、映像素材を通して、英語のリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能を伸ばすことと、異文化コミュニケーションについての理解を深めることを目標とします。
授業方法と留意点	授業では、ペア・グループワークで、ディスカッションやプレゼンテーションを中心にを行います。教材は担当者が用意します。(読み物、映像素材、ハンドアウトなど)
科目学習の効果(資格)	4技能(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)を総合的に伸ばします。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	コースの説明 授業参加の仕方 評価の方法の説明	コミュニケーションに関する予習(2時間)
2	コミュニケーションとは	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	(言語)コミュニケーションに関する予習・復習(2時間)
3	言語コミュニケーション1	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	言語コミュニケーションに関する予習・復習(2時間)
4	言語コミュニケーション2	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	言語コミュニケーションに関する予習・復習(2時間)
5	非言語コミュニケーション1	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	非言語コミュニケーションに関する予習・復習(2時間)
6	非言語コミュニケーション2	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	非言語コミュニケーションに関する予習・復習(2時間)
7	グループプレゼンテーション1	講義、プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの準備(2時間)
8	グループプレゼンテーション2	プレゼンテーション	まとめのプリント プレゼンテーションの予習(2時間)
9	習慣と価値観1	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	ディスカッション・発表に関する予習・復習(2時間)
10	習慣と価値観2	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	ディスカッション・発表に関する予習・復習(2時間)
11	ステレオタイプ1	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	ディスカッション・発表に関する予習・復習(2時間)
12	ステレオタイプ2	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	ディスカッション・発表に関する予習・復習(2時間)
13	ステレオタイプ3	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	授業の予習・復習(2時間)
14	グループプレゼンテーション3	講義、プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの準備(2時間)
15	グループプレゼンテーション4	プレゼンテーション まとめ講義	まとめのプリントを利用して総復習する(2時間)

関連科目	トピック スタディーズIIb など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(教材は担当者が用意します)		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	発表・プレゼンテーション 50% 提出物・小テスト 30% 授業参加態度 20%
----------	--

学生へのメッセージ	辞書または電子辞書を必ず持ってきてください。 英語を話すということは、今は世界の様々な国の人とのコミュニケーションが前提となっています。授業を通して自国の文化や言語と他国の文化や言語との違いを学び、異文化コミュニケーションには、どのような態度で臨めばよいのかを考えていきましょう
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	To listen to and learn about Western classical music from the baroque, classical and romantic periods. To practice reading comprehension and creative writing in English.
到達目標	Students will have listened to and learned about pieces of music from the baroque, classical and romantic periods of Western classical music. Students will have practiced reading and writing English skills.
授業方法と留意点	Reading comprehension and creative writing as a response to classical music.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Western classical music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	2	Romantic Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	3	Romantic Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	4	Romantic Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	5	Romantic Music 4	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	6	Romantic Music 5	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	7	Romantic Music 6	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	8	Romantic Music 7	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	9	Romantic Music 8	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	10	Classical Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	11	Classical Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	12	Classical Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	13	Baroque Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	14	Baroque Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	15	Baroque Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints provided by teacher		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	Attendance 40%, Classwork 60%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	Please bring a dictionary.
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズII b	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	あるトピックについての賛否両論のエッセイを読み、自分の考えを深めていく。最終的には、「論理的展開」を意識して自分の意見を英語でエッセイにする。読み手を納得させる内容、展開であることが重要である。
到達目標	英文を構造で捉え、その論理的展開をつかむ練習を通して自己の「論理的思考」を養いエッセイに反映させることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業では主にエッセイの論理的把握ができていないかを重視します。エッセイ課題の提出については授業内で指示します。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、Chapter 1 Animals in Zoos	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法など説明 Chapter1 を読み始める	Chapter 1 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
2	1 Animals in Zoos	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 1 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
3	2 Security Cameras	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 2 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
4	3 Can Customer Service Go Too Far?	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 3 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
5	4 Digital Manuals, Catalogs, and Textbooks	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 4 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
6	5 Womenomics	課題チェック エッセイ購読と exercise エッセイ課題提出 (1回目)	Chapter 5 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
7	6 Extreme Sports	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 6 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
8	中間テスト	前半の既習内容の確認テスト 課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapters 1-6 の学習内容の復習 (テスト勉強) (2時間)
9	7 Casinos and Gambling	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 7 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
10	8 Spouse Hunting	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 8 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
11	9 Space Exploration	課題チェック エッセイ購読と exercise エッセイ課題提出 (2回目)	Chapter 9 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
12	10 Becoming a World Heritage Site	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 10 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
13	11 Driverless Cars	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 11 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
14	12 The Lay-Judge System in Japan	課題チェック エッセイ購読と exercise	Chapter 12 の論理的な展開に注意して賛否両論のエッセイを読んでおく (2時間)
15	期末テスト	Chapters 7-12 の学習内容の確認テスト	Chapters 7-12 の学習内容の復習 (テスト勉強) (2時間)

関連科目	トピックスタディーズII b など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Taking Sides: For and Against	Mark Jewel	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	中間・期末テスト 40% 発表 (板書も含む)、積極的姿勢 20% エッセイ提出 40%
-----------	--

学生へのメッセージ	辞書または電子辞書必携。 賛否両論のエッセイの量が多いので予習に時間をかけて正確に読んでおくこと。慣れてくれば、予習にかかる時間は減ってくるでしょう。自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅡ b	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサー ロッキング
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29. (2 hours)
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Special Topic.	To be announced.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz. (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡa など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピック スタディーズII b	科目名(英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松井 夏津紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	トピック スタディーズ IIb では、異文化事情について学びます。英語の新聞記事や映像素材を通して、日本と他国の様々な事情の違いについての情報を得て、リサーチを行うことにより内容をより深めていきます。また、調べた内容を英語で表現するために、ディスカッションやプレゼンテーションを行います。
到達目標	異文化事情に関する英語の新聞記事、映像素材を通して、英語のリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能を伸ばす。異文化事情についての理解を深める。
授業方法と留意点	授業では、ペア・グループワークで、ディスカッションやプレゼンテーションを中心に行います。教材は担当者が用意します。(読み物、映像素材、ハンドアウトなど)
科目学習の効果(資格)	4技能(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)を総合的に伸ばします。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	コースの説明 授業参加の仕方 評価の方法の説明	授業の内容・方法の確認 宗教に関する授業の予習(2時間)
	2	異文化事情(宗教) 1	宗教に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	宗教に関する授業の予習・復習(2時間)
	3	異文化事情(宗教)	宗教に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	宗教に関する授業の予習・復習(2時間)
	4	異文化事情(食) 1	食文化に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	食文化に関する授業の予習・復習(2時間)
	5	異文化事情(食) 2	食文化に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	食文化に関する授業の予習・復習(2時間)
	6	異文化事情(食) 3	食文化に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	食文化に関する授業の予習・復習(2時間)
	7	グループプレゼンテーション1	講義、プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの準備(2時間)
	8	グループプレゼンテーション2	プレゼンテーション実施	まとめのプリント プレゼンテーションの振り返り(2時間)
	9	コミュニケーションツール1	コミュニケーションツールに関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	コミュニケーションツールに関する授業の予習・復習(2時間)
	10	コミュニケーションツール2	コミュニケーションツールに関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	コミュニケーションツールに関する授業の予習・復習(2時間)
	11	異文化事情(若者文化) 1	若者文化に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	若者文化に関する授業の予習・復習(2時間)
	12	異文化事情(若者文化) 2	若者文化に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	若者文化に関する授業の予習・復習(2時間)
	13	世界の中の日本	世界の中の日本に関する講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	世界の中の日本に関する授業の予習・復習(2時間)
	14	グループプレゼンテーション3	講義、プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの準備(2時間)
	15	グループプレゼンテーション4	プレゼンテーションの実施	まとめのプリント プレゼンテーションの振り返り(2時間)

関連科目	トピック スタディーズIIa など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(教材は担当者が用意します)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発表・プレゼンテーション 50% 提出物・小テスト 30% 授業参加態度 20%
----------	--

学生へのメッセージ	辞書または電子辞書を必ず持ってきてください。 日本と他国ではどのような点が共通していてどのような点が異なるのか、異文化の日常と自国の日常との違いを把握し、異文化コミュニケーションに支障が生じたときにはその背景にはどのような事情があるのかを考えられるような、柔軟な姿勢を身につけていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅢ	科目名(英文)	Topic Studies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the world can not only inspire you to improve your home region, but they also make you more appreciative of it.
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through guided pair and group discussion activities. Activity types include interviews, surveys, class presentations and projects, and encourage students to take their learning beyond the classroom.
科目学習の効果(資格)	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Talking about food	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan a restaurant!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Organise a festival!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Finding city solutions.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Interview someone about their job.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Write a song!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan an expedition!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Family debate!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Make a public Service Announcement.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. How to be happy!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Give a persuasive presentation.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Top Notch TV (1E) 2: VIDEO COURSE BOOK	Joan Saslow	Pearson

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	Class participation - 10% 3-5 Short presentations - 90%
----------	--

学生へのメッセージ	I am looking forward to having you in class. Be prepared to speak a lot in class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅢ	科目名 (英文)	Topic Studies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	ディベートやディスカッションの技術を高めるためのエッセイを読み、その論理的な展開に慣れ後の exercise をこなす中で自分の考えを整えていく。最終的には与えられたテーマについてのエッセイが書けることを目的とする。
到達目標	1つのトピックがどのような論理的展開をしているかを捉えることで、自己の論理的な思考や発信力を養うことへ繋げる。
授業方法と留意点	授業では主に段落の内容、論理的展開の把握ができていくかを重視します。 毎回授業の始めに課題 (リスニングの自宅学習) の提出を求める。 各単元の終わりには、与えられた、トピックについての短いエッセイの提出を求める。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、 Unit 1 We should keep early hours.	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 Unit 1 を始める	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	2	2 College students should live alone.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	3	3 Club activities should be banned at schools.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	4	4 Study abroad experience should be a requirement for university graduation.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	5	5 College students should study foreign languages more seriously in addition to English.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	6	6 College students should choose an occupation that suits them.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	7	7 We should consider important rules and manners for online communication.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	8	中間テスト	前半の既習内容の確認	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	9	8 More Japanese companies should use English as their main language of business.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	10	9 School and company uniforms should be abolished.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	11	10 We should promote private lodging more.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	12	11 We should limit the number of tourists from abroad.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	13	12 Tobacco should become an illegal drug.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	14	13 We should not let elementary school kids use smartphones.	課題の答え合わせ エッセイを読む, exercise をする、 writing (自分の意見を英語にまとめる)	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)
	15	期末テスト	後半の既習内容の確認 エッセイ提出	提出用課題 (dictation, listening) エッセイを精読しておく (2時間)

関連科目	トピックスタディーズⅡ b
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	How Much Do You Agree? Evolving Opinions	小林敏彦/ Jeremie Bouchard	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間・期末テスト 50% 発表 (板書も含む)、積極的姿勢 20% 課題提出 30%
-----------	--

<p>学生への メッセージ</p>	<p>辞書または電子辞書必携。 与えられたトピックについて、論理的に考えがまとめられるかを重視します。 テキスト中の、分からない単語や表現は予め調べておくこと。 自分にあった文法解説書を持ち常に利用するようにしましょう。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館2階 非常勤講師室</p>
<p>備考</p>	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>

科目名	トピック スタディーズⅢ	科目名(英文)	Topic Studies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサー ロングス
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果(資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29. (2 hours)
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Special Topic.	To be announced.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz. (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法(基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please make a copy before the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピック スタディーズⅢ	科目名(英文)	Topic Studies III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松井 夏津紀
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	トピック スタディーズ IIa では、異文化コミュニケーションについて学びます。英語のエッセイや映像素材を通して、異文化コミュニケーションの際に注意すべき点についての情報を得て、様々な状況について考えていきます。なぜ、違いが起こるのかを観察し、その背景にある理由は何なのかを考え、異文化に対する理解を深めていきます。
到達目標	異文化コミュニケーションに関する英語のエッセイ、映像素材を通して、英語のリーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの4技能を伸ばすことと、異文化コミュニケーションについての理解を深めることを目標とします。
授業方法と留意点	授業では、ペア・グループワークで、ディスカッションやプレゼンテーションを中心にを行います。教材は担当者が用意します。(読み物、映像素材、ハンドアウトなど)
科目学習の効果(資格)	4技能(リーディング、リスニング、スピーキング、ライティング)を総合的に伸ばします。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	コミュニケーションとは	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	(言語)コミュニケーションに関する予習・復習(2時間)
3	言語コミュニケーション1	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	言語コミュニケーションに関する予習・復習(2時間)
4	言語コミュニケーション2	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	言語コミュニケーションに関する予習・復習(2時間)
5	非言語コミュニケーション1	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	非言語コミュニケーションに関する予習・復習(2時間)
6	非言語コミュニケーション2	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	非言語コミュニケーションに関する予習・復習(2時間)
7	グループプレゼンテーション1	講義、プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの準備(2時間)
8	グループプレゼンテーション2	プレゼンテーション	まとめのプリント プレゼンテーションの予習(2時間)
9	習慣と価値観1	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	ディスカッション・発表に関する予習・復習(2時間)
10	習慣と価値観2	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	ディスカッション・発表に関する予習・復習(2時間)
11	ステレオタイプ1	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	ディスカッション・発表に関する予習・復習(2時間)
12	ステレオタイプ2	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	ディスカッション・発表に関する予習・復習(2時間)
13	ステレオタイプ3	講義、ペア・グループワークでのディスカッション、発表	授業の予習・復習(2時間)
14	グループプレゼンテーション3	講義、プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの準備(2時間)
15	グループプレゼンテーション4	プレゼンテーション まとめ講義	まとめのプリントを利用して総復習する(2時間)

関連科目	トピック スタディーズ IIb など
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(教材は担当者が用意します)		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	発表・プレゼンテーション 50% 提出物・小テスト 30% 授業参加態度 20%
----------	--

学生へのメッセージ	辞書または電子辞書を必ず持ってきてください。 英語を話すということは、今は世界の様々な国の人とのコミュニケーションが前提となっています。授業を通して自国の文化や言語と他国の文化や言語との違いを学び、異文化コミュニケーションには、どのような態度で臨めばよいのかを考えていきましょう
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	<p>ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇は役を演じるだけでなく、照明・音響・衣装といった裏方や時代考証、広報、経済、政治などたくさんのおもしろい要素につながっています。多層的に読めるようになると、デジタルゲームやテレビドラマの観方も変わります。 ・今学期の教材は、400年前に書かれたお芝居が世界中の言語に翻訳され、今でもいろんなメディアで商業的にヒットしているモンスター作品です。その秘密を、ちょっと覗いてみよう!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリNZ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の進め方を確認するとともに、シェイクスピアの生涯に関する英語表現を予習する。(1時間)
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	これまでの授業で学んだ内容や英語表現について総復習する。(1時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。 In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you come to class more than 30 minutes late, it will count as one absence.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ
Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。(1時間)
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。辞書を毎回用意すること。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	7号館2F 非常勤講師室 木曜午前
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ドラマ	科目名(英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現(アイコンタクトやジェスチャーなど)を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ドラマ I	科目名 (英文)	Drama I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現 (アイコンタクトやジェスチャーなど) を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	ドラマ上演: 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トランスレーション トレーニング a	科目名 (英文)	Translational Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から国際教養に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 日本と世界をアートと時事の二つの視点から見つめ、情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語を学習します。また、日本から英語、英語から日本語の、音声通訳および文字による翻訳のための演習も行います。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際教養」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。 国内だけでなく、世界の出来事に関心を向け、それらについて自分の見解を述べるために必要な基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることも目標とします。
授業方法と留意点	・発表やディスカッションも織り交ぜながら授業を進めていきます。 ・国際キャリアコースの英語専攻の学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 世界のニュースを英語で時事問題を描く戯曲とは	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
2	社会と子ども	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
3	難民状態になる、ということ	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
4	戦争と報道	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
5	世界と日本の難民事情比較	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
6	入国管理と受け入れ制度	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
7	難民問題を描く映画・劇・ドラマ (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
8	難民問題を描く映画・劇・ドラマ (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
9	受け入れ側の視点 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
10	受け入れ側の視点 (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
11	歴史上の有名な人の難民体験 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
12	歴史上の有名な人の難民体験 (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
13	多文化が共に生きる (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
14	多文化が共に生きる (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
15	まとめ	これまで学んできた授業内容について総復習する。	授業内容のふりかえり (1 時間)

関連科目	リーディング II a, b など
------	-------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『戯曲で学ぶ対話力 : based on Promised Land by Peter Griffith』 詳細は授業初回にお知らせします。 予定価格 1500 円。	塩沢泰子ほか	立教大学出版事業部
2	プリント教材		
3	そのほか教材フォルダにて配布		

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことも、その背景を知らない人にとっては理解できないことかもしれません。自分とちがった文化圏で暮らしてきた人たちにわかるように、英語で伝えるには、どうしたらいいでしょうか？少しでもわかり合うことができましたら、相手は将来、あなたの大切な友人となるかもしれません。試行錯誤していきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	トランスレーション トレーニング b	科目名 (英文)	Translational Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から国際教養に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 日本と世界をアートと時事の二つの視点から見つめ、情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語を学習します。また、日本から英語、英語から日本語の、音声通訳および文字による翻訳のための演習も行います。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際教養」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。 国内だけでなく、世界の出来事に関心を向け、それらについて自分の見解を述べるために必要な基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、離したり、書いたりできるようになることも目標とします。
授業方法と留意点	・発表やディスカッションも織り交ぜながら授業を進めていきます。 ・国際キャリアコースの英語専攻の学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	食糧生産 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
3	食糧生産 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
4	食糧生産 (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
5	国境を超える犯罪捜査 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
6	国境を超える犯罪捜査 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
7	国境を超える犯罪捜査 (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
8	科学と倫理 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
9	科学と倫理 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
10	科学と倫理 (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
11	日本発の製品・文化を世界に (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
12	日本発の製品・文化を世界に (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
13	日本発の製品・文化を世界に (3)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
14	ポスター発表 (1)	発表と相互に質問	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
15	ポスター発表 (2)	発表と相互に質問	ふりかえり (1 時間)

関連科目	リーディング II a, b など
------	-------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『戯曲で学ぶ対話力：based on Promised Land by Peter Griffith』 詳細は授業初回にお知らせします。 予定価格 1500 円。		
2	プリント教材		
3	そのほか教材フォルダで配布		

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことも、その背景を知らない人にとっては理解できないことかもしれません。自分とちがった文化圏で暮らしてきた人たちにわかるように、英語で伝えるには、どうしたらいいでしょう？少しでもわかり合うことができれば、相手は将来、あなたの大切な友人となるかもしれません。試行錯誤していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館 4階 齋藤研究室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	日米比較文化	科目名(英文)	Comparative Cultures: America and Japan
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2175a0		

授業概要・目的	<p>19世紀から現代までのアメリカ人の日本人観、日本人のアメリカ人観の変遷と、その背景にある国際政治、国際政治との関わりを、主に映画と音楽から実例をとって年代順にみていく授業です。両国の人々が互いに抱えてきたイメージと、その歴史的な変遷に注目し、背景にある国際政治、国内政治との関わりを考えます。日米間に限らず、現代世界の人種問題、民族問題について、またメディアを通じた異文化理解について、当事者意識を持って考えてもらいます。</p> <p>外国語学部のディプロマ・ポリシーのうち、主として「国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている」という部分を担う位置づけにある授業です。教職課程における「異文化理解」区分の必修科目でもあります。</p> <p>受講生の皆さんには、ただ教室に来て講義を聞くのではなく、スケジュール通りに資料を読んでから講義を聴き、講義の後には教材フォルダにアップされた講義ノートを読み返すことが要求されます。また、毎回の授業時間の終盤には、その日に理解できた内容を作文として提出してもらいます。ある程度高度な日本語を読む、書く、という文系の学生に必須の学習方法を習慣として身につけ、就職活動や卒論作成に対応可能な水準の日本語力も同時に身につけましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とアメリカ合衆国における人種問題、民族問題の歴史と現状についての基礎知識、基礎的理解を身につける。 ・日米間に限らず現代世界一般の人種問題、民族問題について、またメディアと異文化理解の関係についての基礎知識を持ち、多様な文化背景を持った人々との共生のありかたについて当事者意識を備えた意見を述べられるようになる。 ・就職活動や卒論作成に向けて活用できる日本語能力、作文能力を身につける。 ・テーマに基づいて読解、作文、質疑を繰り返す学習技法を習得する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の配布方法をはじめ、授業方法についての重要な説明を初回の授業で詳細に行います。履修を検討している人は、初回の授業に必ず出席して下さい。やむを得ない事情で欠席する(した)場合は、一両日中に教員に連絡して欠席の事由を説明し、必要な指示を受けてから二回目の授業に臨んで下さい。連絡のあった受講生についてはできるだけの配慮をしますが、二回目以降の授業に何の準備もなく突然出席されても、他の受講生の迷惑になりますのでサポートはできません。単位をとれる可能性は著しく低くなります。 ・高度で難解なものも含む大量のプリント教材を自分でWebboxまたはMoodleから入手・印刷し、スケジュールを確認しながら読んでおき、授業時間内にコメントを作文してもらいます。コメントが書けなければその日の成績は0点です。最終課題も論述(レポート形式の試験)です。毎回出席する意思のない人や、PC端末の操作や印刷をやりたくない人、文章を読みたくない人、書きたくない人は、この授業を選択してはいけません。 ・座席は指定席制です。視力等の事情がある場合は配慮します。 ・毎回の授業は60分程度の講義およびディスカッションと、30分程度の小論文演習で構成されます。学生は予め配布する資料に目を通して出席し、講義内容を踏まえ、指定された小論文課題に取り組みます。ディスカッションには適宜、留学生等の海外にルーツを持つゲストを招き、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解できるようにします。 ・このシラバスに載っている15回のスケジュールは例年の標準的なスケジュールです。年度によって少しずつ変更があります。初回の授業でより詳しいスケジュールを配布し、さらに変更があれば随時授業で告知します。
科目学習の効果(資格)	海外での研修や留学に際して、また国内での異文化交流に際して必要となる国際感覚。高度な英語力を身につける基盤となる教養。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	受講に関する諸注意	受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います。	配付した資料の予習を開始。(2時間程度)
	2	相撲と minstrel show — 近代国民国家と「国民文化」	ペリー提督の日本来航時(1853-54)に描かれた絵図などを読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	3	「黄禍」としての日本人/日系人 その1 1910年代の日米関係	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat(1915)を読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	4	「黄禍」としての日本人/日系人 その2 Cheat(1915)の主要場面を分析する	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat(1915)を読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	5	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その1 1920年代～30年代の日米関係	1928年～1930年代の日本製「ジャズ」音楽を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	6	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その2 1930年代の反米知識人	池崎忠孝『世界を脅威するアメリカニズム』(1937)など検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	7	「人種戦争」としての第二次世界大戦その1 アメリカのプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	8	「人種戦争」としての第二次世界大戦その2 日本のプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	9	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その1 1950年代の日米関係	映画『サヨナラ』(1957)を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	10	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その2 『サ	映画『サヨナラ』(1957)を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所

		ヨナラ』(1957)と人種・ジェンダー		を、重要と思われる箇所マークをしながら読む。(合計3時間程度)
	11	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版その1 アメリカのカウンターカルチャー	ウッドストック(1969)と1970年代の日本のロック/フォークフェス等を例に考える。	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	12	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版その2 日本のカウンターカルチャー	ウッドストック(1969)と1970年代の日本のロック/フォークフェス等を例に考える。	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	13	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その1 ジャズとブルース	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	14	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その2 ファンクとヒップホップ	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	15	まとめ	期末レポートに向けて、学習内容を総括する。	自分がレポートに使う可能性のある全ての配布資料および教科書に目を通し、持参。(2時間程度)授業後、期末レポートを作成する。(5時間程度)
関連科目	エリアスタディーズ(北アメリカ)、日米文化交流史ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「ヘイト」の時代のアメリカ史 人種・民族・国籍を考える	兼子歩/貴堂嘉之 編	彩流社
	2			
	3			
評価方法(基準)	毎回の小論文60% 質疑応答・ディスカッションへの貢献10% 学期末レポート30%			
学生へのメッセージ	最初から全部分からなくてもかまいません。まずは「よく分からないが何だか面白い!」と感じるところを探しましょう。今の自分にとって難しく感じるものを、敢えて背伸びをして読み、また書くことを楽しめるようになって下さい。			
担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。レポート、その他課題に関する質問等はスチューデントアワーまたは電子メールによるアポイントメントにて対応する。メールは torii@ilc.setsunan.ac.jp まで。			

科目名	日米文化交流史	科目名(英文)	History of Japan-US Intercultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3169a0		

授業概要・目的
 アメリカと日本は太平洋を隔てた隣国であり、100年以上の交流の歴史があります。前半は、アメリカという国の歴史や文化を形成する思想について学びます。後半は、日本とアメリカのさまざまな文化的交流のあり方について学び、異文化コミュニケーションの課題について考えます。学生による主体的な学びを促進するため、学生は日米文化交流の歴史と現状に関するリサーチ・ペーパーを作成する。課題を設定し、それについて調べ、発表し、学生同士で議論する活動を通じ、日文化交流について自分なりの意見を持つことを目標とする。また、多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解するため、留学生など異なる背景を持つ人々との交流や議論を行う。

到達目標
 1. 日米文化交流の歴史を学び、異文化コミュニケーションの諸問題を学ぶ
 2. アメリカという国の歴史・社会・文化を理解する
 3. 文化の多様性や異なる文化背景を持つ人々と交流する意義を学ぶ

授業方法と留意点
 映像・写真資料、PowerPoint スライド、配布資料を使用します。
 リサーチ・ペーパーは早めに着手し、進めること。
 授業には、積極的に参加すること。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	日米文化交流を学ぶ意義について考える	授業内容の復習と、国の成り立ちと起源の予習(2時間)
2	国の成り立ちと起源	アメリカの国の成り立ちと国民性の起源について学ぶ	国の成り立ちと起源の復習と、アメリカ文化における宗教と思想の役割についての予習(2時間)
3	宗教と思想	アメリカ文化における宗教と思想の役割について学ぶ	アメリカ文化における宗教と思想の役割についての復習と、アメリカ文化におけるフロンティアの意義についての予習(2時間)
4	フロンティアの意義	アメリカ文化におけるフロンティアの意義について学ぶ	アメリカ文化におけるフロンティアの意義についての復習と、明治・大正期の日米文化の予習(2時間)
5	明治・大正期の日米文化	明治・大正期の日本とアメリカ文化について学ぶ	明治・大正期の日米文化の復習と、アメリカに渡った日本人移民の歴史についての予習(2時間)
6	日本人移民とアメリカ	アメリカに渡った日本人移民の歴史について学ぶ	アメリカに渡った日本人移民の歴史についての復習と、途中報告の準備(2時間)
7	学生の個人プロジェクト(途中報告)	学生による個人プロジェクトの途中報告と討論	授業で得られた知見をどうリサーチに生かすか考える(2時間)
8	日米大戦	日米大戦を文化・人種の視点から考える	文化・人種の視点から考える日米大戦の復習と、アメリカによる日本占領の遺産についての予習(2時間)
9	日本占領の遺産	アメリカによる日本占領の遺産について考える	アメリカによる日本占領の遺産についての復習と、冷戦期カウンターカルチャーと日本についての予習(2時間)
10	冷戦期と文化	冷戦期カウンターカルチャーと日本	冷戦期カウンターカルチャーと日本についての復習と、アメリカにおける日本食の予習(2時間)
11	日本食とアメリカ	アメリカにおける日本食	アメリカにおける日本食の復習と、日本における洋服の歴史の予習(2時間)
12	日本におけるアメリカ服飾文化(その1)	日本における洋服の歴史	日本における洋服の歴史の復習と、アメリカ服に関する予習(2時間)
13	日本におけるアメリカ服飾文化(その2)	アメリカ服の輸入から輸出へ	アメリカ服に関する復習と、調査結果の発表の準備(2時間)
14	学生の個人プロジェクト(その1)	学生による調査結果の発表	調査結果の発表の準備と振り返り(2時間)
15	学生の個人プロジェクト(その2)	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッションの準備と振り返り(2時間)

関連科目 日米比較文化

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 平常点(授業態度、小テスト、宿題、提出物、確認テスト等)40%
 リサーチ・ペーパー60%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 授業の進度は上記の表を目安としますが、開港後の様子を見て必要であれば調整します。
 提出物やリサーチ・ペーパー等に関するフィードバックは、受理した後行います。

科目名	日本語音韻論	科目名(英文)	Japanese Phonology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL2160a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語音韻論(日本語学Ⅱ)」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、コメントや課題を求める。 授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。
科目学習の効果(資格)	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	外国語の音と日本語の音の違いを考える(2時間)
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	調音器官について調べる(2時間)
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語、外国語の母音について調べる(2時間)
4	子音1	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する(2時間)
5	子音2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する(2時間)
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	濁音の調音について、徹底的に復習する(2時間)
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	ここまでの学習を振り返る(2時間)
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	撥音・促音・調音について調べる(2時間)
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	拍の一覧表をまとめる(2時間)
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	日本語と外国語のリズムの違いを考える(2時間)
11	アクセント1	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	アクセントの東西の違いをまとめる(2時間)
12	アクセント2	アクセントの高低配分	アクセントの法則を整理し、調べる(2時間)
13	アクセント3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセント以外の発音方法について調べる(2時間)
14	音の交替	母音交替・連濁	母音交替、連濁の例を調べる(2時間)
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの総括をし、復習テストを行う	これまでの復習をする(2時間)

関連科目	音声学 2015年～入学生 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論 ～2014年入学生 日本語学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	最終確認テスト(60%)、確認小テスト(10%)、講義時の課題等(30%)。 単位認定には最終確認テストの受験を必須とする。
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。 実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)
備考	毎回のコメント・課題については次回にフィードバックする 事前・事後学習に要する総時間数は、上記時間に試験勉強などを加えて約60時間。

科目名	日本語学 I	科目名 (英文)	Japanese Linguistics I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることは、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。</p>																																																																		
到達目標	日本語の文字、読み、言葉遣い、発音の特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	板書および配布するプリントに沿って講義する。授業終了時に、コメントを求めたり、課題を出したりする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>授業の進め方、概説 日本の時代区分</td> <td>日本史の流れを復習する (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3 つの文字体系の背景 1</td> <td>漢字の受容について学ぶ</td> <td>万葉仮名について調べる (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3 つの文字体系の背景 2</td> <td>ひらがなの成立について学ぶ</td> <td>ひらがなの用法について整理する (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3 つの文字体系の背景 3</td> <td>カタカナの成立について学ぶ</td> <td>カタカナの用法について整理する (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>3 つの文字体系の背景 4 縦書きと横書き</td> <td>様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景</td> <td>3 つの文字体系の用法についてまとめる (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>《確認小テスト》 読みの背景 1</td> <td>様々な音読みについて学ぶ</td> <td>音読みについて整理する (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>読みの背景 2</td> <td>様々な訓読みについて学ぶ</td> <td>訓読みについて整理する (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>方言の背景 1</td> <td>標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立</td> <td>標準語という概念について調べる (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>方言の背景 2</td> <td>方言の分布・文法について学ぶ</td> <td>様々な方言の分布について調べる (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>方言の背景 3</td> <td>方言の拡大と現代語について学ぶ</td> <td>様々な方言や流行語の広がりについて調べる (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>方言の背景 4</td> <td>様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ</td> <td>様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>《確認小テスト》 発音の変化の背景 1</td> <td>古代の発音について学ぶ</td> <td>古代の発音を整理する (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>発音の変化の背景 2</td> <td>発音と表記の乖離について学ぶ</td> <td>発音と表記について調べる (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>発音の変化の背景 3</td> <td>外来語の日本語化について学ぶ</td> <td>日本語の発音について復習する (2 時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>《最終確認テスト》 まとめ</td> <td>これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う</td> <td>事前：これまでの復習 (2 時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する (2 時間)	2	3 つの文字体系の背景 1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる (2 時間)	3	3 つの文字体系の背景 2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する (2 時間)	4	3 つの文字体系の背景 3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する (2 時間)	5	3 つの文字体系の背景 4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3 つの文字体系の用法についてまとめる (2 時間)	6	《確認小テスト》 読みの背景 1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する (2 時間)	7	読みの背景 2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する (2 時間)	8	方言の背景 1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる (2 時間)	9	方言の背景 2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる (2 時間)	10	方言の背景 3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる (2 時間)	11	方言の背景 4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する (2 時間)	12	《確認小テスト》 発音の変化の背景 1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する (2 時間)	13	発音の変化の背景 2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる (2 時間)	14	発音の変化の背景 3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する (2 時間)	15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習 (2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する (2 時間)																																																																
2	3 つの文字体系の背景 1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる (2 時間)																																																																
3	3 つの文字体系の背景 2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する (2 時間)																																																																
4	3 つの文字体系の背景 3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する (2 時間)																																																																
5	3 つの文字体系の背景 4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3 つの文字体系の用法についてまとめる (2 時間)																																																																
6	《確認小テスト》 読みの背景 1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する (2 時間)																																																																
7	読みの背景 2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する (2 時間)																																																																
8	方言の背景 1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる (2 時間)																																																																
9	方言の背景 2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる (2 時間)																																																																
10	方言の背景 3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる (2 時間)																																																																
11	方言の背景 4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する (2 時間)																																																																
12	《確認小テスト》 発音の変化の背景 1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する (2 時間)																																																																
13	発音の変化の背景 2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる (2 時間)																																																																
14	発音の変化の背景 3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する (2 時間)																																																																
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習 (2 時間)																																																																
関連科目	日本語音韻論 (日本語学Ⅱ)、日本語彙論 (日本語学Ⅲ)、日本語文法論 (日本語学Ⅳ)、ことばに関する授業すべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	最終確認テスト (60%)、確認小テスト (10%)、毎回の講義時の課題 (30%)。最終週の《最終確認テスト》の受験を必須とする。																																																																		
学生へのメッセージ	日本語の歴史を知ることで、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (橋本研究室)																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は、上記の時間に試験勉強時間も加えて約 60 時間。コメントペーパー、小テストについては次の回にフィードバックします。																																																																		

科目名	日本語学Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Linguistics II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語音韻論(日本語学Ⅱ)」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、コメントや課題を求める。 授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。
科目学習の効果(資格)	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	外国語の音と日本語の音の違いを考える(2時間)
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	調音器官について調べる(2時間)
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語、外国語の母音について調べる(2時間)
4	子音1	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する(2時間)
5	子音2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する(2時間)
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	濁音の調音について、徹底的に復習する(2時間)
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	ここまでの学習を振り返る(2時間)
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	撥音・促音・調音について調べる(2時間)
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	拍の一覧表をまとめる(2時間)
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	日本語と外国語のリズムの違いを考える(2時間)
11	アクセント1	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	アクセントの東西の違いをまとめる(2時間)
12	アクセント2	アクセントの高低配分	アクセントの法則を整理し、調べる(2時間)
13	アクセント3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセント以外の発音方法について調べる(2時間)
14	音の交替	母音交替・連濁	母音交替、連濁の例を調べる(2時間)
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの総括をし、復習テストを行う	これまでの復習をする(2時間)

関連科目	音声学 2015年～入学生 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論 ～2014年入学生 日本語学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	最終確認テスト(60%)、確認小テスト(10%)、講義時の課題等(30%)。 単位認定には最終確認テストの受験を必須とする。
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。 実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)
備考	毎回のコメント・課題については次回にフィードバックする 事前・事後学習に要する総時間数は、上記時間に試験勉強などを加えて約60時間。

科目名	日本語学Ⅲ	科目名(英文)	Japanese Linguistics III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の語彙」に関する学修を進める。中間・期末テストを通じて文法を意識した文章を書くトレーニングを行い、日本語文章表現についての知識や技術を養う。 単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「語彙」を学ぶことの意義や歴史について考察する授業を心がける。ことばを無自覚に使うのではなく、ことばとは(そもそも)どういうものかを問いかける意識を大事にしたい。																																																																		
到達目標	①日本語の語彙に関する知識を身につける ②日本語の語彙を意識した文章を書くことができる ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ことばと社会(1)</td> <td>新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ことばと社会(2)</td> <td>職業語(職業用語、専門用語など)の問題から「語彙」を考える</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ことばと社会(3)</td> <td>ジェンダー(男のことばと女のことば)、差別の問題から「語彙」を考える</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ことばの成立(1)</td> <td>ことばの「音」と「意味」について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ことばの成立(2)</td> <td>ことばの「構成」について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ことばの成立(3)</td> <td>ことばの「語源」について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>理解度の確認(中間テスト)</td> <td>前半までの授業内容を総括し、確認のテストを行う</td> <td>確認テストの準備・復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ことばの変遷(1)</td> <td>日本語の大まかな歴史について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ことばの変遷(2)</td> <td>和語・漢語・外来語の「由来」について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ことばの変遷(3)</td> <td>意味や語形の「変化」について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>さまざまな語彙(1)</td> <td>年齢や地域によって異なることばの「位相」を学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>さまざまな語彙(2)</td> <td>慣用句、オノマトペ、類義語などのことばの「位相」を学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ことばとは何か?</td> <td>ことばとは何なのか考察し、語彙について「論」じてみる</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度の確認(期末テスト)</td> <td>授業内容全体を総括し、確認のテストを行う</td> <td>確認テストの準備・復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認	2	ことばと社会(1)	新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	3	ことばと社会(2)	職業語(職業用語、専門用語など)の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	4	ことばと社会(3)	ジェンダー(男のことばと女のことば)、差別の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	5	ことばの成立(1)	ことばの「音」と「意味」について学修する	配布プリントの確認	6	ことばの成立(2)	ことばの「構成」について学修する	配布プリントの確認	7	ことばの成立(3)	ことばの「語源」について学修する	配布プリントの確認	8	理解度の確認(中間テスト)	前半までの授業内容を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習	9	ことばの変遷(1)	日本語の大まかな歴史について学修する	配布プリントの確認	10	ことばの変遷(2)	和語・漢語・外来語の「由来」について学修する	配布プリントの確認	11	ことばの変遷(3)	意味や語形の「変化」について学修する	配布プリントの確認	12	さまざまな語彙(1)	年齢や地域によって異なることばの「位相」を学修する	配布プリントの確認	13	さまざまな語彙(2)	慣用句、オノマトペ、類義語などのことばの「位相」を学修する	配布プリントの確認	14	ことばとは何か?	ことばとは何なのか考察し、語彙について「論」じてみる	配布プリントの確認	15	理解度の確認(期末テスト)	授業内容全体を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認																																																																
2	ことばと社会(1)	新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
3	ことばと社会(2)	職業語(職業用語、専門用語など)の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
4	ことばと社会(3)	ジェンダー(男のことばと女のことば)、差別の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
5	ことばの成立(1)	ことばの「音」と「意味」について学修する	配布プリントの確認																																																																
6	ことばの成立(2)	ことばの「構成」について学修する	配布プリントの確認																																																																
7	ことばの成立(3)	ことばの「語源」について学修する	配布プリントの確認																																																																
8	理解度の確認(中間テスト)	前半までの授業内容を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習																																																																
9	ことばの変遷(1)	日本語の大まかな歴史について学修する	配布プリントの確認																																																																
10	ことばの変遷(2)	和語・漢語・外来語の「由来」について学修する	配布プリントの確認																																																																
11	ことばの変遷(3)	意味や語形の「変化」について学修する	配布プリントの確認																																																																
12	さまざまな語彙(1)	年齢や地域によって異なることばの「位相」を学修する	配布プリントの確認																																																																
13	さまざまな語彙(2)	慣用句、オノマトペ、類義語などのことばの「位相」を学修する	配布プリントの確認																																																																
14	ことばとは何か?	ことばとは何なのか考察し、語彙について「論」じてみる	配布プリントの確認																																																																
15	理解度の確認(期末テスト)	授業内容全体を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習																																																																
関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目(「日本語文法論」など)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(練習問題への取り組み、積極性) 30% テスト(中間・期末) 70%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館4階(古矢研究室)																																																																		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は60時間。 課題等については授業内でフィードバックを行う。																																																																		

科目名	日本語学Ⅳ	科目名(英文)	Japanese Linguistics IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の文法」に関する学修を進める。中間・期末テストを通じて文法を意識した文章を書くトレーニングを行い、日本語文章表現についての知識や技術を養う。 単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「文法」を学ぶことの意義や歴史について考察しながら、日本語を「楽しむ」ような授業を心がけたい。																																																																		
到達目標	①日本語の文法に関する知識を身につける ②日本語の文法を意識した文章を書く ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本語の特徴と構造</td> <td>日本語の特徴と構造について概説する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体言と用言</td> <td>日本語の体言と用言に特徴について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>主語</td> <td>「は」と「が」の違いなど、日本語の主語の特徴について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>述語</td> <td>動詞や形容動詞、補足語、自動詞と他動詞の違いなど、日本語の述語の特徴について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>品詞</td> <td>日本語の品詞について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>理解度の確認(中間テスト)</td> <td>前半までの授業内容を総括し、確認のテストを行う</td> <td>確認テストの準備・復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ヴォイス</td> <td>立場を表す表現について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>テンス・アスペクト</td> <td>時間を表す表現について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>モダリティ(ムード)</td> <td>気持ち・気持ちを表す表現について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>敬語</td> <td>敬語表現について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>複文(1)</td> <td>条件、理由、時間などを表す文の接続について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>複文(2)</td> <td>順接、逆説、比較などを表す文の接続について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>文法とは何なのか</td> <td>文法とは何なのかを考察し、文法について「論」じてみる</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度の確認(期末テスト)</td> <td>授業内容全体を総括し、確認のテストを行う</td> <td>確認テストの準備・復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認	2	日本語の特徴と構造	日本語の特徴と構造について概説する	配布プリントの確認	3	体言と用言	日本語の体言と用言に特徴について学修する	配布プリントの確認	4	主語	「は」と「が」の違いなど、日本語の主語の特徴について学修する	配布プリントの確認	5	述語	動詞や形容動詞、補足語、自動詞と他動詞の違いなど、日本語の述語の特徴について学修する	配布プリントの確認	6	品詞	日本語の品詞について学修する	配布プリントの確認	7	理解度の確認(中間テスト)	前半までの授業内容を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習	8	ヴォイス	立場を表す表現について学修する	配布プリントの確認	9	テンス・アスペクト	時間を表す表現について学修する	配布プリントの確認	10	モダリティ(ムード)	気持ち・気持ちを表す表現について学修する	配布プリントの確認	11	敬語	敬語表現について学修する	配布プリントの確認	12	複文(1)	条件、理由、時間などを表す文の接続について学修する	配布プリントの確認	13	複文(2)	順接、逆説、比較などを表す文の接続について学修する	配布プリントの確認	14	文法とは何なのか	文法とは何なのかを考察し、文法について「論」じてみる	配布プリントの確認	15	理解度の確認(期末テスト)	授業内容全体を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認																																																																
2	日本語の特徴と構造	日本語の特徴と構造について概説する	配布プリントの確認																																																																
3	体言と用言	日本語の体言と用言に特徴について学修する	配布プリントの確認																																																																
4	主語	「は」と「が」の違いなど、日本語の主語の特徴について学修する	配布プリントの確認																																																																
5	述語	動詞や形容動詞、補足語、自動詞と他動詞の違いなど、日本語の述語の特徴について学修する	配布プリントの確認																																																																
6	品詞	日本語の品詞について学修する	配布プリントの確認																																																																
7	理解度の確認(中間テスト)	前半までの授業内容を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習																																																																
8	ヴォイス	立場を表す表現について学修する	配布プリントの確認																																																																
9	テンス・アスペクト	時間を表す表現について学修する	配布プリントの確認																																																																
10	モダリティ(ムード)	気持ち・気持ちを表す表現について学修する	配布プリントの確認																																																																
11	敬語	敬語表現について学修する	配布プリントの確認																																																																
12	複文(1)	条件、理由、時間などを表す文の接続について学修する	配布プリントの確認																																																																
13	複文(2)	順接、逆説、比較などを表す文の接続について学修する	配布プリントの確認																																																																
14	文法とは何なのか	文法とは何なのかを考察し、文法について「論」じてみる	配布プリントの確認																																																																
15	理解度の確認(期末テスト)	授業内容全体を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習																																																																
関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目(「日本語語彙論」など)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(練習問題への取り組み、積極性) 30% テスト(中間・期末) 70%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館4階(古矢研究室)																																																																		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は60時間。																																																																		

科目名	日本語教育実習演習	科目名 (英文)	Japanese Teaching Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP1○DP2△DP5△		
科目ナンバリング	LDL3197a0		

授業概要・目的	外国人日本語学習者に実際に日本語を教えるために、具体的な日本語教授法について講義と実習を行います。 初級・中級・上級の各コースにおいて、目的や対象などによって指導案及び教材を作成する方法を学び、教育実習期間には本学の外国人留学生を対象に受講者全員が日本語の授業を試みます。 外部の日本語教育機関での授業見学も実施します。
到達目標	*日本語授業を行うための教案および教材作成ができる。 *外国人留学生を対象にした教育実習で日本語の指導ができる。
授業方法と留意点	授業では、講義に加えディスカッション、テキスト・教材分析、教案・教材作成等の作業、授業観察、模擬授業など、日本語を教えるために、より実践的に授業を行います。 この科目を受講するには、必要単位数を取得しておかなければならないので、受講前に各自確認しておいてください。
科目学習の効果 (資格)	本学の日本語教師養成課程の修了証

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	外国人学習者の学習段階 (初級・中級・上級レベル) について、実習運営について	配布資料 熟読
2	日本語教師の役割	日本語教師に求められるもの	日本語教育関連資料収集 配布資料 熟読
3	コースデザイン	コースデザインの方法、学習者別のコースデザイン	日本語教育関連資料収集 配布資料 熟読
4	テキスト・教材分析①	初級のテキスト・教材分析	日本語初級のテキスト・教材分析
5	テキスト・教材分析②	中上級のテキスト・教材分析	レジュメ作成、発表準備
6	発表	各自レジュメに沿って発表	教科書 第1部 熟読
7	初級レベルの指導①	指導の実際、教案の書き方	教科書 第1部 熟読
8	初級レベルの指導②	指導の実際	教科書 第2部 熟読
9	初級レベルの指導③	指導の実際	教科書 第2部 熟読
10	初級レベルの指導④	日本語の授業観察	教科書 第2部 熟読
11	初級レベルの指導⑤	日本語の授業観察	課題レポート作成
12	初級レベルの指導⑥	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成
13	初級レベルの指導⑦	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成、発表準備
14	模擬授業	グループ発表、ディスカッション	グループで発表準備 (教案、教材作成、授業のリハーサル)
15	模擬授業	グループ発表、ディスカッション	グループで発表準備 (教案、教材作成、授業のリハーサル) 課題レポート作成
16	中級レベルの指導①	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	配布資料 熟読
17	中級レベルの指導②	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	中級レベルの教材作成、発表準備
18	上級レベルの指導①	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	配布資料 熟読
19	上級レベルの指導②	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	上級レベルの教材作成、発表準備、
20	指導方法について発表	発表、ディスカッション	配布資料 熟読
21	日本語授業の実際 (1)	授業観察	授業観察レポート作成
22	日本語授業の実際 (2)	授業観察	授業観察レポート作成
23	日本語授業の実際 (3)	授業観察	授業観察レポート作成
24	日本語授業の実際 (4)	授業観察	授業観察レポート作成
25	実習準備 (1)	日本語教育実習実施概要と留意点、	グループごとに課題
26	実習準備 (2)	実習生及び外国人留学生とのグループディスカッション	グループごとに課題
27	教育実習 (実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
28	教育実習 (実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
29	実習の振り返り 自己評価	ディスカッション、発表	実習ノート作成、発表準備
30	作成教材発表、総括	発表	実習ノート完成

関連科目 日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、英語科教育法、その他の「日本語教員養成課程」配当の科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 教え方の手引き		スリーエーネットワーク
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	はじめての日本語教育2		アスク
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業におけるタスク達成度・討論・発表(30%)、作成した教案・教材や実習ノート(60%)、実習中の取り組み(10%)から総合的に評価します。			
学生への メッセージ	外国人留学生に実際に日本語を教えることは貴重な経験になります。 特に本学では、学内で教育実習ができる恵まれた環境で日本語教育について学べます。このチャンスを最大限生かして、多くのことを学んでください。(事前・事後学習1.5時間ずつ) 海外の日本大使館及び国内の日本語教育機関で、多様な外国人学習者を対象にした日本語教育及び日本語教員養成の経験を活かして、具体的な事例を挙げながら授業を進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)			
備考	授業で出された課題は、次の授業でフィードバックします。提出された実習ノートはコメントをつけて返却します。			

科目名	日本語教授法 I	科目名 (英文)	Japanese Teaching Methodology I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL1194a0		

授業概要・目的	「日本語教授法 I・II・III」の中で、本授業では、外国語教授法、教科書・教材論、コースデザイン、日本語の文字・語彙・文法とその指導方法など、外国語としての日本語教育について広く概観する。
到達目標	教科書の前半内容に関する知識を習得する。
授業方法と留意点	授業は、講義の他にグループディスカッション、DVD 視聴、課題、発表も含まれる。
科目学習の効果 (資格)	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。「日本語教授法 II・III」の先行科目。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	教科書第 1 章第 1 節 熟読
	2	日本語教育と外国語教育	日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育	教科書第 1 章第 2 節 熟読
	3	日本語教育の歴史	時代区分別の日本語教育史	教科書第 2 章第 1 節 熟読
	4	外国語教授法 (1)	外国語教授法の理論と実践	DVD を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成
	5	外国語教授法 (2)	外国語教授法の理論と実践	DVD を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成
	6	外国語教授法 (3)	外国語教授法の理論と実践	教授法理論のレポート作成、教科書第 2 章第 2 節
	7	コースデザイン	コースデザイン、シラバスデザイン、ニューズアナリシス、評価	教科書及びその他資料による課題
	8	日本語教育の目標	レベル別目標、日本語能力試験の目標	教科書及びその他資料の課題
	9	教材・教具 (1)	日本語教育の教科書	課題 (初級日本語教材の分析)
	10	教材・教具 (2)	日本語教育の教材・教具	課題 (教材分析)、教科書第 3 章第 1 節 熟読
	11	日本語学の基礎知識：文法	日本語教育のための日本語文法とその指導方法	教科書第 3 章第 2 節 熟読
	12	日本語学の基礎知識：語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法	教科書第 3 章第 3 節 熟読
	13	日本語学の基礎知識：文字	文字の種類と指導方法	教科書第 3 章第 4 節 熟読
	14	外国人学習者の日本語	外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察	教科書及びその他資料の課題
	15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習、テストのフィードバック

関連科目	日本語教授法 II・III、日本語学全般、日本語教育実習、その他の「日本語教員養成課程 (副専攻相当)」配当の選択科目
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	テスト (60%)、課題及びレポート (30%)、授業への参加度 (10%) により総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	外国人を対象に外国語として日本語を教える面白さを皆で共有したいと思います。海外の日本大使館及び国内の日本語教育機関において、多様な外国人学習者を対象にした日本語教育及び日本語教員養成の経験を活かし、理論と実践について具体的に解説します。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館 4階 (門脇研究室)
----------	----------------

備考	事前・事後学習は毎回 1.5 時間。 授業の最後にテストについてフィードバックする。
----	---

科目名	日本語教授法Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Teaching Methodology II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 まき
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL2195a0		

授業概要・目的	初級レベルの文法項目を通覧し、多くの例文を文法的に分析することを目的とする。基礎知識を増やしつつ、主体的に思考・分析できるような講義・活動を行う。																																																																		
到達目標	文法的知識と分析方法を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、講義のほかにグループによる話し合い、発表も含まれる。 事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。																																																																		
科目学習の効果(資格)	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方を説明する。 日本語教育への関心について話す。</td> <td>予習として、シラバスを読んでおく。自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文法を教えるとは?</td> <td>文法を扱う際の注意点を学ぶ。</td> <td>予習として、非母語話者に日本語の文法を教えるとき、どのようなことに注意したらよいか考えておく。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文型</td> <td>日本語の文型について知る。</td> <td>普段書いたり、話したりしている文がどの文型に当てはまるか考えてみる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>動詞①</td> <td>日本語教育における動詞の分類について知る。</td> <td>学校文法との違いを復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>動詞②</td> <td>動詞のさまざまな活用について知る。</td> <td>「て形」「た形」といった動詞の活用について復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>形容詞・名詞</td> <td>日本語教育における形容詞や名詞について知る。</td> <td>学校文法との違いや「い形容」「な形容詞」の活用などについて復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>指示文</td> <td>「こ・そ・あ」の使い分けについて知る。</td> <td>「これ・それ・あれ」「ここ・そこ・あそこ」などの使い分けについて復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>格助詞</td> <td>主に場所を表す格助詞の使い分けについて知る。</td> <td>「で」や「に」の使い分けについて復習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>存在文</td> <td>「います」「あります」の使い分けについて知る。</td> <td>「いる」「ある」はどのような主語と使われるかなど、違いを復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>授受表現</td> <td>日本語の授受表現の特徴について知る。</td> <td>「あげる」「もらう」「くれる」の使い分けについて復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>自動詞・他動詞</td> <td>日本語の自動詞と他動詞の違いについて知る。</td> <td>紹介した自動詞、他動詞以外にどのようなものがあるか調べてみる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>受身文①</td> <td>日本語の受身文の分類について知る。</td> <td>「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>受身文②</td> <td>日本語の受身文の分類について知る。</td> <td>「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>敬語</td> <td>日本語の敬語の体系について知る。</td> <td>尊敬語・謙譲語・丁寧語について復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>学期末試験</td> <td>これまでの内容の理解を確認する筆記試験。</td> <td>これまでに学習した内容を復習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。 日本語教育への関心について話す。	予習として、シラバスを読んでおく。自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。	2	文法を教えるとは?	文法を扱う際の注意点を学ぶ。	予習として、非母語話者に日本語の文法を教えるとき、どのようなことに注意したらよいか考えておく。	3	文型	日本語の文型について知る。	普段書いたり、話したりしている文がどの文型に当てはまるか考えてみる。	4	動詞①	日本語教育における動詞の分類について知る。	学校文法との違いを復習する。	5	動詞②	動詞のさまざまな活用について知る。	「て形」「た形」といった動詞の活用について復習する。	6	形容詞・名詞	日本語教育における形容詞や名詞について知る。	学校文法との違いや「い形容」「な形容詞」の活用などについて復習する。	7	指示文	「こ・そ・あ」の使い分けについて知る。	「これ・それ・あれ」「ここ・そこ・あそこ」などの使い分けについて復習する。	8	格助詞	主に場所を表す格助詞の使い分けについて知る。	「で」や「に」の使い分けについて復習する。	9	存在文	「います」「あります」の使い分けについて知る。	「いる」「ある」はどのような主語と使われるかなど、違いを復習する。	10	授受表現	日本語の授受表現の特徴について知る。	「あげる」「もらう」「くれる」の使い分けについて復習する。	11	自動詞・他動詞	日本語の自動詞と他動詞の違いについて知る。	紹介した自動詞、他動詞以外にどのようなものがあるか調べてみる。	12	受身文①	日本語の受身文の分類について知る。	「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか復習する。	13	受身文②	日本語の受身文の分類について知る。	「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか復習する。	14	敬語	日本語の敬語の体系について知る。	尊敬語・謙譲語・丁寧語について復習する。	15	学期末試験	これまでの内容の理解を確認する筆記試験。	これまでに学習した内容を復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。 日本語教育への関心について話す。	予習として、シラバスを読んでおく。自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。																																																																
2	文法を教えるとは?	文法を扱う際の注意点を学ぶ。	予習として、非母語話者に日本語の文法を教えるとき、どのようなことに注意したらよいか考えておく。																																																																
3	文型	日本語の文型について知る。	普段書いたり、話したりしている文がどの文型に当てはまるか考えてみる。																																																																
4	動詞①	日本語教育における動詞の分類について知る。	学校文法との違いを復習する。																																																																
5	動詞②	動詞のさまざまな活用について知る。	「て形」「た形」といった動詞の活用について復習する。																																																																
6	形容詞・名詞	日本語教育における形容詞や名詞について知る。	学校文法との違いや「い形容」「な形容詞」の活用などについて復習する。																																																																
7	指示文	「こ・そ・あ」の使い分けについて知る。	「これ・それ・あれ」「ここ・そこ・あそこ」などの使い分けについて復習する。																																																																
8	格助詞	主に場所を表す格助詞の使い分けについて知る。	「で」や「に」の使い分けについて復習する。																																																																
9	存在文	「います」「あります」の使い分けについて知る。	「いる」「ある」はどのような主語と使われるかなど、違いを復習する。																																																																
10	授受表現	日本語の授受表現の特徴について知る。	「あげる」「もらう」「くれる」の使い分けについて復習する。																																																																
11	自動詞・他動詞	日本語の自動詞と他動詞の違いについて知る。	紹介した自動詞、他動詞以外にどのようなものがあるか調べてみる。																																																																
12	受身文①	日本語の受身文の分類について知る。	「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか復習する。																																																																
13	受身文②	日本語の受身文の分類について知る。	「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか復習する。																																																																
14	敬語	日本語の敬語の体系について知る。	尊敬語・謙譲語・丁寧語について復習する。																																																																
15	学期末試験	これまでの内容の理解を確認する筆記試験。	これまでに学習した内容を復習する。																																																																
関連科目	日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅲ、日本語学、日本語教育実習等																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	参加態度10%、発表30%、期末試験60%により総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	普段、何気なく使っている日本語について分析的に考えてみましょう。新たな視点で捉えることで、多くの発見があるはずです。また、この授業では、日本語を学習している人の日本語も紹介しますので、彼らにとって何が難しいのかということも考えてみてください。																																																																		
担当者の研究室等	3号館4階(国際交流センター講師室)																																																																		
備考	(1) 教科書は授業中にプリントを配布する。参考文献も適宜紹介する。 (2) 質問・相談は授業前または授業後に対応する。メールでも可。 (3) 発表ごとに、学生同士または教師からのフィードバックを行う。																																																																		

科目名	日本語教授法Ⅲ	科目名(英文)	Japanese Teaching Methodology III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	千々岩 宏晃
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL2196a0		

本授業は、以下の2点の受講生の日本語教育上の課題について、自ら具体的な対策を考案できるようになることを目的としています。

1つ目は、日本語学習の4つの技能（読む、聞く、話す、書く）それぞれについて、どのような学習が効果的かということについて適切に説明できないという課題です。

2点目は、日本語学習者が実際に体験するであろう様々な状況についての対応が不適格だったり、不正確だったりするという課題です。

このような課題を解決するためには、日本語教育に関する知識が必要不可欠です。この授業では、基礎的な知識を確保しながら、それを活用できるようになる方法について考えることを目的としています。

本授業の目標は以下のようにまとめることができます。

1：日本語学習における各技能に関する学習がどのように起こるかを学術用語を用いながら説明できる。

2：日本語学習における各技能に関する学習について、与えられた学習者の状況に対する具体的な対処を提案できる。

3：日本語の学習者が遭遇するであろう異文化的、情意的問題について適切に分析し、対処を提案できる。

授業は、講義の他にペア、またはグループによるディスカッション、ポスター発表、ロールプレイ、DVD視聴などを含みます。事前に必ず指定された箇所の教科書の内容を読み、課題をこなしたうえで7割程度理解し、参加してください。

科目学習の効果(資格)

「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション・日本語の音声(1)	自らの学習言語と比較しながら、日本語との音声上の違いを用語を使用し、具体例を挙げながら説明できる	(受講後予習)直下の受講前予習を行ってくること。
2	日本語の音声(2)	学習者の日本語発音における困難点を3つ、具体例を挙げながらポスターを利用し説明できる	(受講前予習)教科書 p.144-152 ページを読み、学習者が困難を感じると記載のある点3点以上に下線やマーカーを引いてくる
3	話すことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	自分たちの会話を録画し客観的に観察し、教科書の内容と整合性があるかどうかを議論することができる	(受講前予習)教科書 p.200-205を読み、「なるほど」「意外だ」と思った点3点以上に下線部やマーカーで印をしてくる。
4	話すことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	各レベルにあった会話タスクを考案し、どのような点で評価するかを発表することができる。	(受講前予習)教科書 p.206-213を読み、自分の学習言語の教科書と比べて気付いた点を2点挙げてくる。
5	読むことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	教科書を見てどのような読解の能力を育てようとしているかを推測し、共有することができる。	(受講前予習)教科書 p.155-164を読み、自分の学習言語の教科書がどのような能力を育てたい構成になっているかを確認してくる。
6	読むことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	各レベルにあった読解タスクを考案し、どのような点で評価するかを発表することができる。	(受講前予習)教科書 p.161-173を読み、「なるほど」「意外だ」と感じた点3点以上に下線部やマーカーで印をしてくる。
7	聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	教科書を見て、教科書から聴解行動にかかわる要素の中から育てられるものと育てられないものを区別し、共有することができる。	(受講前予習)教科書 p.175-184を読み、「聴解行動にかかわる要素」から、「この要素が私には足りない」と感じるものには×、「これは得意」というものには○をつけなさい。
8	聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	各レベルにあった聴解タスクを考案し、どのような点で評価するかを発表することができる。	(受講前予習)教科書 p.186-196を読み、「授業で利用すると面白そう」と感じた点3点以上に下線部やマーカーで印をしてくる。
9	書くことに焦点を当てた指導の理論と実践(1)	教科書を見て、書くタスクに関する批判的検討を行い、共有することができる。	(受講前予習)教科書 p.216-224を読み、納得した点、意外だと思って点、反対意見を持っている点をそれぞれ1点以上ずつ下線部やマーカーを引いてくる。
10	書くことに焦点を当てた指導の理論と実践(2)	各レベルにあった書くタスクを考案し、どのような点で訂正・評価するかを発表することができる。	(受講前予習)教科書 p.224-237を読んで、自分が受けてみたい指導方法にマークをつけてくる。
11	日本事情に焦点を当てた指導の理論と実践	特定の指導要素について、各レベルにあった日本事情に関する活動を考案し、発表することができる。	(受講前予習)教科書 p.238-250を読み、自分の授業に取り入れてみたい手法を1つ以上マークしてくる。
12	学習者の異文化体験	異文化体験ゲームを通して、カルチャーショックが学習者に与える影響について2点以上説明できる。	(受講前予習)教科書 p.253-259を読み、自らの異文化体験/カルチャーショックがどの要素に当たるかについて考えてくる。
13	留学生が経験する現実の接触場面	自らの言語学習に際して生じた接触場面での困難点等について、それぞれの項目に分けて発表することができる。	(受講前予習)教科書 p.260-275を読み、自分の言語学習に際して生じた/生じそうな問題を要素の横に記してくる。
14	日本語学習者の情意要因	言語学習における動機を高めたり、不安を取り除いたりするようなタスクを考案し、共有することができる。	(受講前予習)p.279-295を読み、言語学習の動機と不安について納得した箇所、納得しなかった箇所についてそれぞれマークしてくる。
15	総復習・確認テスト	以上の項目が可能になっているかどうか、課題で確認する。(記述式試験を予定している)	(受講前予習)これまでにした活動について、どのようなものが行動目標として設定されていたかを確認し、出来なかったものについてできるようにしてくる。

関連科目 日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅱ、日本語学、日本語教育実習、その他の選択科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各単元での教室内課題(30%)と、授業内での内容を再確認する期末テスト(70%)を合算して評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・前期に学んだ日本語教育や日本語に関する知識をもとに、自分自身の外国語学習経験も振り返りながら、日本語学習者への具体的指導にまで踏み込んだ形で活動を行います。 ・授業中は素朴でもかまわないので質問、疑問等を大歓迎します。教授経験を踏まえてお答えできる箇所はお答えしますし、そうでない箇所は一緒に考えていきましょう。 			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・フィードバックは、授業中での口頭、自己評価表またはコメントカードへの記載で行う。 ・前期「日本語教授法Ⅰ」との関係、授業進度、もしくは受講生の学習状況により、予定を早めたり遅らせたり省略したりする可能性があります。変更の際は別途授業内でお知らせします。 ・活動のためには基礎的な知識が必要です。予習箇所を具体的に指示していますので、時間(毎週1時間程度)を取って、やってきてください。 			

科目名	日本語語彙論	科目名(英文)	Japanese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL3162a0		

授業概要・目的	<p>日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の語彙」に関する学修を進める。中間・期末テストを通じて文法を意識した文章を書くトレーニングを行い、日本語文章表現についての知識や技術を養う。</p> <p>単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「語彙」を学ぶことの意義や歴史について考察する授業を心がける。ことばを無自覚に使うのではなく、ことばとは(そもそも)どういうものかを問いかける意識を大事にしたい。</p>		
到達目標	<p>①日本語の語彙に関する知識を身につける ②日本語の語彙を意識した文章を書くことができる ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける</p>		
授業方法と留意点	<p>講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。</p>		
科目学習の効果(資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する
	2	ことばと社会(1)	新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える
	3	ことばと社会(2)	職業語(職業用語、専門用語など)の問題から「語彙」を考える
	4	ことばと社会(3)	ジェンダー(男のことばと女のことば)、差別の問題から「語彙」を考える
	5	ことばの成立(1)	ことばの「音」と「意味」について学修する
	6	ことばの成立(2)	ことばの「構成」について学修する
	7	ことばの成立(3)	ことばの「語源」について学修する
	8	理解度の確認(中間テスト)	前半までの授業内容を総括し、確認のテストを行う
	9	ことばの変遷(1)	日本語の大まかな歴史について学修する
	10	ことばの変遷(2)	和語・漢語・外来語の「由来」について学修する
	11	ことばの変遷(3)	意味や語形の「変化」について学修する
	12	さまざまな語彙(1)	年齢や地域によって異なることばの「位相」を学修する
	13	さまざまな語彙(2)	慣用句、オノマトペ、類義語などのことばの「位相」を学修する
	14	ことばとは何か?	ことばとは何なのか考察し、語彙について「論」じてみる
	15	理解度の確認(期末テスト)	授業内容全体を総括し、確認のテストを行う
関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目(「日本語文法論」など)		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	平常点(練習問題への取り組み、積極性) 30% テスト(中間・期末) 70%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階(古矢研究室)		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は60時間。 課題等については授業内でフィードバックを行う。		

科目名	日本語史概説	科目名(英文)	History of Japanese Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL1158a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることは、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。
到達目標	日本語の文字、読み、言葉遣い、発音の特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。
授業方法と留意点	板書および配布するプリントに沿って講義する。授業終了時に、コメントを求めたり、課題を出したりする。
科目学習の効果(資格)	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する(2時間)
2	3つの文字体系の背景1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる(2時間)
3	3つの文字体系の背景2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する(2時間)
4	3つの文字体系の背景3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する(2時間)
5	3つの文字体系の背景4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3つの文字体系の用法についてまとめる(2時間)
6	《確認小テスト》 読みの背景1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する(2時間)
7	読みの背景2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する(2時間)
8	方言の背景1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる(2時間)
9	方言の背景2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる(2時間)
10	方言の背景3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる(2時間)
11	方言の背景4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する(2時間)
12	《確認小テスト》 発音の変化の背景1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する(2時間)
13	発音の変化の背景2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる(2時間)
14	発音の変化の背景3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する(2時間)
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習(2時間)

関連科目 日本語音韻論(日本語学Ⅱ)、日本語彙論(日本語学Ⅲ)、日本語文法論(日本語学Ⅳ)、ことばに関する授業すべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	最終確認テスト(60%)、確認小テスト(10%)、毎回の講義時の課題(30%)。 最終週の《最終確認テスト》の受験を必須とする。
学生へのメッセージ	日本語の歴史を知ることで、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。
担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)
備考	事前・事後学習に要する総時間数は、上記の時間に試験勉強時間も加えて約60時間。 コメントペーパー、小テストについては次の回にフィードバックします。

科目名	日本語表現論	科目名(英文)	Japanese Phraseology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL2214a0		

授業概要・目的	<p>※2015年以降入学生には、この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。 我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。 この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。 それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわる人間になることを目指す。</p> <p>この授業は、レポートなどに必要な「正しい」日本語を書く技能を身につける授業ではありません。日本語と格闘する授業です。</p>			
到達目標	日本語表現の特徴について、他言語とも比較しつつ、具体的に説明できる。 日本語表現を客観的にとらえ、多様な視点から考えることができる。			
授業方法と留意点	皆さんの意見も聞きながら講義を進行します。 毎回、コメントペーパーを提出します。 全部で3節からなります。各節の最後にまとめのテストをします。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する(1時間)
	2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	日本語の特徴について調べる(2時間)
	3	日本語の構造	日本語の構造を考える	日本語の構造について本をもとに考える(2時間)
	4	1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)
	5	1-2.日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	授業で指示する課題に取り組む(2時間)
	6	1-3.日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)
	7	1-4.まとめ	レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト	事前:第1節の内容を整理する(2時間)
	8	2.詩文の日本語 2-1.和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む(2時間)
	9	2-2.俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む(2時間)
	10	2-3.歌詞の語感	現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む(2時間)
	11	2-4.まとめ	レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト	事前:第2節の内容を整理する(2時間)
	12	3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)
	13	3-2.現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)
	14	3-3.多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)
	15	3-4.まとめ	レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト	事前:第3節の内容を整理する
関連科目	外国語専門職プログラム対応科目 日本語史概論、日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	レポート(3回)(70%) まとめテスト(15%) 授業参加度(コメントペーパー)(15%)			
学生へのメッセージ	言葉に敏感になろう			
担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)			
備考	コメントペーパー、レポートについては、次の回でフィードバックします。 上記時間にレポート作成に要する時間を加え、事前事後学習時間の目安は60時間。			

科目名	日本語文法論	科目名(英文)	Japanese Grammar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL3164a0		

授業概要・目的	日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の文法」に関する学修を進める。中間・期末テストを通じて文法を意識した文章を書くトレーニングを行い、日本語文章表現についての知識や技術を養う。 単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「文法」を学ぶことの意義や歴史について考察しながら、日本語を「楽しむ」ような授業を心がけたい。																																																																		
到達目標	①日本語の文法に関する知識を身につける ②日本語の文法を意識した文章を書く ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本語の特徴と構造</td> <td>日本語の特徴と構造について概説する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体言と用言</td> <td>日本語の体言と用言に特徴について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>主語</td> <td>「は」と「が」の違いなど、日本語の主語の特徴について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>述語</td> <td>動詞や形容動詞、補足語、自動詞と他動詞の違いなど、日本語の述語の特徴について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>品詞</td> <td>日本語の品詞について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>理解度の確認(中間テスト)</td> <td>前半までの授業内容を総括し、確認のテストを行う</td> <td>確認テストの準備・復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ヴォイス</td> <td>立場を表す表現について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>テンス・アスペクト</td> <td>時間を表す表現について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>モダリティ(ムード)</td> <td>気持ち・気持ちを表す表現について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>敬語</td> <td>敬語表現について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>複文(1)</td> <td>条件、理由、時間などを表す文の接続について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>複文(2)</td> <td>順接、逆説、比較などを表す文の接続について学修する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>文法とは何なのか</td> <td>文法とは何なのかを考察し、文法について「論」じてみる</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>理解度の確認(期末テスト)</td> <td>授業内容全体を総括し、確認のテストを行う</td> <td>確認テストの準備・復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認	2	日本語の特徴と構造	日本語の特徴と構造について概説する	配布プリントの確認	3	体言と用言	日本語の体言と用言に特徴について学修する	配布プリントの確認	4	主語	「は」と「が」の違いなど、日本語の主語の特徴について学修する	配布プリントの確認	5	述語	動詞や形容動詞、補足語、自動詞と他動詞の違いなど、日本語の述語の特徴について学修する	配布プリントの確認	6	品詞	日本語の品詞について学修する	配布プリントの確認	7	理解度の確認(中間テスト)	前半までの授業内容を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習	8	ヴォイス	立場を表す表現について学修する	配布プリントの確認	9	テンス・アスペクト	時間を表す表現について学修する	配布プリントの確認	10	モダリティ(ムード)	気持ち・気持ちを表す表現について学修する	配布プリントの確認	11	敬語	敬語表現について学修する	配布プリントの確認	12	複文(1)	条件、理由、時間などを表す文の接続について学修する	配布プリントの確認	13	複文(2)	順接、逆説、比較などを表す文の接続について学修する	配布プリントの確認	14	文法とは何なのか	文法とは何なのかを考察し、文法について「論」じてみる	配布プリントの確認	15	理解度の確認(期末テスト)	授業内容全体を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認																																																																
2	日本語の特徴と構造	日本語の特徴と構造について概説する	配布プリントの確認																																																																
3	体言と用言	日本語の体言と用言に特徴について学修する	配布プリントの確認																																																																
4	主語	「は」と「が」の違いなど、日本語の主語の特徴について学修する	配布プリントの確認																																																																
5	述語	動詞や形容動詞、補足語、自動詞と他動詞の違いなど、日本語の述語の特徴について学修する	配布プリントの確認																																																																
6	品詞	日本語の品詞について学修する	配布プリントの確認																																																																
7	理解度の確認(中間テスト)	前半までの授業内容を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習																																																																
8	ヴォイス	立場を表す表現について学修する	配布プリントの確認																																																																
9	テンス・アスペクト	時間を表す表現について学修する	配布プリントの確認																																																																
10	モダリティ(ムード)	気持ち・気持ちを表す表現について学修する	配布プリントの確認																																																																
11	敬語	敬語表現について学修する	配布プリントの確認																																																																
12	複文(1)	条件、理由、時間などを表す文の接続について学修する	配布プリントの確認																																																																
13	複文(2)	順接、逆説、比較などを表す文の接続について学修する	配布プリントの確認																																																																
14	文法とは何なのか	文法とは何なのかを考察し、文法について「論」じてみる	配布プリントの確認																																																																
15	理解度の確認(期末テスト)	授業内容全体を総括し、確認のテストを行う	確認テストの準備・復習																																																																
関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目(「日本語語彙論」など)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	平常点(練習問題への取り組み、積極性) 30% テスト(中間・期末) 70%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館4階(古矢研究室)																																																																		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は60時間。																																																																		

科目名	日本史学	科目名(英文)	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2166a0		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果(資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	時代区分について復習する
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	律令国家の特質について整理する
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	摂関政治と院政を比較して整理する
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	武士に関する様々な学説について復習する
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	鎌倉幕府の成立にかかる議論を整理・復習する
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	室町時代の特質について整理する
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	織豊政権について従来の学説と最新の学説を比較しながら整理する
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	顕密仏教、鎌倉仏教について復習しておく
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	幕藩体制について整理する
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	江戸の都市構造と町人の生活についてまとめておく
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	明治政府の成立について整理しておく
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	明治から昭和初期にかけての政治と思想の関係について整理する
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	講義で説明した戦争について復習する
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	戦後から現代の我々の暮らしについて自分の考えをまとめておく
15	まとめ	論述試験を行います。講義の総括を行う。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。論述試験を80%、課題などを20%とする。詳しくは講義第1回目に説明します。
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。授業で課した課題は、次回以降の授業で紹介、講評する。

科目名	日本と世界の出会い	科目名 (英文)	Encounters between Japan and Foreign Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この科目は国際教養プログラム対応科目であり、グローバル社会と日本のつながりを歴史的に考えることを目的とする。具体的には16世紀の、鉄砲伝来とキリスト教伝来に象徴されるヨーロッパとの出会いを検討する。日本と欧米、両文化のファーストコンタクトを学ぶことは、中国やイスラーム圏も含めたさらに広い世界の認識にもつながる。先行きの見えない現在だからこそ、グローバル化の原点にさかのぼって日本と世界の出会いを理解することが意味をもつ。
到達目標	学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果 (資格)	世界との出会いを知ると同時に、日本についての理解も深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって (1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。
2	歴史を学ぶにあたって (2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	歴史を学ぶにあたって (3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	それは16世紀に (1)	グローバル化が本格的に始まった時代	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	それは16世紀に (2)	日本とヨーロッパは似ていた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	それは16世紀に (3)	接点は戦争と宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	戦争と出会い (1)	「西洋は進んでいて東洋は遅れている」という思い込み	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	戦争と出会い (2)	鉄砲に日本史を変えるほどの力はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	戦争と出会い (3)	飛び道具を憎んだ西洋騎士、飛び道具を愛した日本武士	同上の課題に加えて小レポート。
10	戦争と出会い (4)	鉄砲の起源は東洋	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	宗教と出会い (1)	キリスト教伝来の交流史	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	宗教と出会い (2)	ザビエルをアシストした日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	宗教と出会い (3)	西洋的教育機関に留学した最初の日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	宗教と出会い (4)	ザビエルを日本に運んだのは中国の船	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	宗教と出会い (5)	布教は慈善事業やファッションとも結びついていた	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目	世界の宗教
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

評価方法 (基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト (40点)、②レポート (30点)、③レスポンスペーパー (30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。
-----------	--

学生へのメッセージ	日本と世界の出会いを歴史的に読み解いていくと、「すべては表裏一体」ということに気づきます。実は、このことは授業そのものにも当てはまります。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	コミュニケーションは基本的に毎回授業のレスポンス・ペーパーで行います。緊急の場合は非常勤講師控室 (7号館2階) を訪ねてください。
----	--

科目名	日本の歴史	科目名(英文)	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果(資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	時代区分について復習する
2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	律令国家の特質について整理する
3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	摂関政治と院政を比較して整理する
4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	武士に関する様々な学説について復習する
5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	鎌倉幕府の成立にかかる議論を整理・復習する
6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	室町時代の特質について整理する
7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	織豊政権について従来の学説と最新の学説を比較しながら整理する
8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	顕密仏教、鎌倉仏教について復習しておく
9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	幕藩体制について整理する
10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	江戸の都市構造と町人の生活についてまとめておく
11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	明治政府の成立について整理しておく
12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	明治から昭和初期にかけての政治と思想の関係について整理する
13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	講義で説明した戦争について復習する
14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	戦後から現代の我々の暮らしについて自分の考えをまとめておく
15	まとめ	論述試験を行います。講義の総括を行う。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。論述試験を80%、課題などを20%とする。詳しくは講義第1回目に説明します。
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。授業で課した課題は、次回以降の授業で紹介、講評する。

科目名	日本文学	科目名(英文)	Japanese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1173a0		

授業概要・目的

日本の近現代(明治時代から現代まで)の文学作品を講読し、日本文学の基本的な教養を身につけることを目的とする。単に作品を鑑賞するだけでなく、一つのテーマに基づいて体系的に文学の流れを辿り、読解・批評する力を養うことを大事にしたい。

本年度は、「私小説(わたくし・しょうせつ)」をテーマとする。近代に「私」を語ることを主眼とした小説群が誕生して以降、「私小説」は現代に至るまで日本文学の主要なジャンルとしてゾンビのごとく生息し続けている。

自分のスキャンダルや貧困を赤裸々に公表する作家もいれば、自分の日常生活を芸術的に見つめ直した作家もいた。そのような自己表現に反発する作家もいれば、偽った自分を告白する作家もいた。そのような多様な「私小説」の諸相を辿りながら、文学のなかの「日本(人)」の特徴を明らかにできればと考えている。

授業は「文学を読んでいない」「活字を読むのが苦手」の人も楽しめるよう、映像や漫画などを用いながら分かりやすく進めていく。この授業をきっかけに、本を読む習慣をつけていただければ幸いである。

- 到達目標**
- ①文学作品を読解する力を身につける
 - ②日本文学の特徴や歴史について理解する
 - ③文学作品を通じて自身の所属する「日本」を捉えなおす観点を養う

授業方法と留意点

講義を中心に行う。適宜、映画化作品を鑑賞することもある。教材はプリントで配布する。

毎回、読む作品についての感想や疑問を、コメントシートに自由に記載してもらおう。次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。教員が一方向的に話すのではなく、履修者との対話的な授業を心がけたい。

授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進める。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	
		事前・事後学習課題	
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
2	リアリズムの形成	日本の近代においてリアリズムがどのように成立したかを学修する 坪内逍遙「小説神髓」、二葉亭四迷「浮雲」、森鷗外「舞姫」、島崎藤村「破戒」などの作品を解説する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
3	私小説の起源(1)	田山花袋「蒲団」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
4	私小説の起源(2)	近松秋江「別れたる妻に送る手紙」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
5	私小説の起源(3)	葛西善蔵「子をつれて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
6	私小説の流行(1)	徳田秋声「徼」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
7	私小説の流行(2)	志賀直哉「城之崎にて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
8	私小説の流行(3)	広津和夫「諸崎行」、宇野浩二「蔵の中」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
9	前衛とロマン(1)	横光利一「春は馬車に乗って」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
10	前衛とロマン(2)	川端康成「伊豆の踊子」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
11	前衛とロマン(3)	梶井基次郎「檸檬」、堀辰雄「風立ちぬ」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
12	戦後の私小説(1)	三島由紀夫「仮面の告白」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
13	戦後の私小説(2)	安岡章太郎「陰気な愉しみ」など(第三の新人)を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
14	戦後の私小説(3)	大江健三郎、藤枝静男などの現代の私小説を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む
15	総括・レポート提出指示	授業内容全体を総括し、レポート作成の指示をする	レポートの準備・作成・提出

関連科目 日本文学・文化に関する科目(「翻訳文化論」など)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (コメントシートの内容、積極性) 30% レポート 70%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館4階 (古矢研究室)
備考	事前事後の総学習時間の目安は60時間。 次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。

科目名	博物館概論	科目名(英文)	Introduction to Museology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	博物館には、美術館・歴史博物館・文学館・記念館・民俗資料館・動物園・水族館などの施設が含まれます。全国では5700館もの博物館があります。この授業ではさまざまな博物館について、その機能や役割を学びます。 かつて「博物館行き」という言葉は古くさいものの代名詞でしたが、今日の博物館はその姿を大きく変えています。カラフルなシンボル展示、IT技術を駆使した映像展示、実物大の家を再現した体感型展示、様々な参加型プログラムなど、おしゃれで楽しめる施設へと変化しつつあります。またミュージアムグッズも図録だけでなく、Tシャツ・ぬいぐるみ・お菓子などオリジナル商品を豊富に揃えている館が少なくありません。博物館とは何か、これからどう変化していくのかを、その歴史や現状を学びながら考えていきましょう。
到達目標	美術館・博物館の種類・機能・社会的な役割を理解し、学芸員に必要な基礎的な知識を修得します。
授業方法と留意点	毎回、パワーポイント・ビデオなどを使用し、プリントを配布します。また実際の博物館に出かけて見学します。見学の日程は講義内で学生諸君と相談して決めます。現地見学の交通費や入館料は受講者負担です。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	博物館とは何か	資格取得の条件・諸注意 話題のミュージアム紹介 印象に残る博物館や展覧会について学生が紹介する	事前:好きな博物館や記憶に残る展覧会についてコメントをまとめる。(1時間) 事後:ノートの整理(1時間)
2	日本の博物館(1)	歴史博物館 大阪歴史博物館 新潟県立博物館ほか	事前:さまざまな歴史博物館のサイトを見る(30分) 事後:授業でとりあげた博物館に関する本・サイトを参照し、ノートを整理する。(1時間)
3	日本の博物館(2)	美術館・工芸館・民芸館 京都国立近代美術館 佐川美術館ほか	事前:さまざまな美術館のサイトを見る(30分) 事後:授業でとりあげた美術館に関する本・サイトを参照し、ノートを整理する。(1時間)
4	日本の博物館(3)	体感型博物館・野外博物館 大阪くらしの今昔館 日本民家集落博物館ほか	事前:さまざまな博物館のサイトを見る(30分) 事後:授業でとりあげた博物館に関する本・サイトを参照し、ノートを整理する。(1時間)
5	日本の博物館(4)	企業博物館・大学博物館 動物園・水族館 カップヌードルミュージアム 大阪市立天王寺動物園ほか	事前:さまざまな博物館のサイトを見る(30分) 事後:授業でとりあげた博物館に関する本・サイトを参照し、ノートを整理する。(1時間)
6	「博物館法」を読む(1)	博物館法 博物館の定義 資料の定義 博物館の機能・分類	事前・事後:「博物館法」をよく読む。(1時間)
7	「博物館法」を読む(2)	博物館法施行規則 公立博物館に関する法律	事前・事後:講義で取り上げる各法律を良く読む。(1時間)
8	博物館の構造	博物館の空間 エントランス、展示室、収蔵庫、学習室、ミュージアムショップ、レストラン、学芸員室、事務室、駐車場	事前・事後:実際に博物館に足を運び、どのような施設があるか確認してください。(2時間)
9	博物館の活動(1)	保存 展示 常設展・企画展	事前・事後:実際に博物館に足を運び、活動を確認してください。(2時間)
10	博物館の活動(2)	研究 教育・普及 ワークショップ・講演会	事前:博物館のワークショップについて調べる。(30分) 事後:地域社会におけるミュージアムの役割を考える。(1時間)
11	博物館の歴史(1)	西洋のミュージアムの歴史	事後:講義で紹介した施設について、本・サイトを参照しノートを整理する。(1時間)
12	博物館の歴史(2)	日本の博物館の歴史	事後:講義で紹介した施設について、本・サイトを参照しノートを整理する。(1時間)
13	現地見学	関西の特徴的な博物館を見学する。日程・行先・その他は講義の中で指示する。	事前:見学する施設のサイトを見ておく。(30分) 事後:見学した施設についてレポートを作成する。詳細は講義で述べる。(1時間)
14	現地見学	関西の特徴的な博物館を見学する。日程・行先・その他は講義の中で指示する。	事前:見学する施設のサイトを見ておく。(30分) 事後:見学した施設についてレポートを作成する。詳細は講義で述べる。(1時間)
15	現地見学	関西の特徴的な博物館を見学する。日程・行先・その他は講義の中で指示する。	事前:見学する施設のサイトを見ておく。(30分) 事後:見学した施設についてレポートを作成する。詳細は講義で述べる。(1時間)

関連科目	学芸員資格の必修科目とその他の関連科目
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート 30%			
学生への メッセージ	担当者は国立・公立・私立の博物館で学芸員として勤務した経験があります。授業ではこれらの経験を活かし、博物館運営の実情や苦労、学芸員の仕事の実際と楽しさを伝えたいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館 2階(非常勤講師室)			
備考	事前・事後に約1時間の学修時間を要する。			

科目名	博物館教育論	科目名(英文)	Museum as Learning Resources
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松永 和浩
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2192a0		

授業概要・目的	この授業では博物館において実施される教育活動について、様々な具体例を通じて体系的に学びます。それにより社会における博物館の意義・役割についての理解を深め、学芸員として、あるいは博物館と社会をつなぐサイエンス・インタープリターとして活動するために必要な知識を身につけることを目的としています。
到達目標	①学芸員として必要な博物館教育に関する基礎的知識を身に付ける。 ②博物館教育のプログラムの実践例について具体的に学ぶ。 ③実在の展示施設を素材として教育プログラムを企画する。
授業方法と留意点	まず、現代社会において博物館に期待される教育について概説します。次に、博物館で実際に行われている教育プログラムの具体例を紹介します(受講生による体験レポートによる紹介もあり)。最後に、実在の展示施設を見学し、サイエンス・インタープリターの立場でその施設を素材にした教育プログラムを企画して発表し、相互に議論を深めます。様々な博物館が取り組んでいる教育プログラムについて、受講者は見学・参加・情報収集に努めてください。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格認定のための必修科目となります。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	博物館の使命	設置主体や社会から期待される博物館の使命について説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
3	常設展の意義と活用	博物館の基本となる常設展の意義とその活用方法について事例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
4	特別展・企画展	博物館が開催する特別展・企画展の目的・運営・役割について事例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
5	博物館と社会教育	博物館が開催するイベントにどのようなものがあるか事例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
6	社会教育の実例報告	受講生が参加した社会教育プログラムの内容について紹介します。	博物館で開催される社会教育プログラムに参加して、その内容をレポートにまとめておいてください。
7	大学博物館の教育	学生を抱える大学博物館ならではの教育活動について事例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
8	学芸員養成	大学・博物館が担う学芸員養成の概要と事例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
9	サイエンス・インタープリターの役割	博物館と社会のつなぎ役として近年注目されているサイエンス・インタープリターの活動について、ゲストスピーカーを招いて紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
10	社会教育の実践例	担当者が所属する大阪大学適塾記念センターが取り組む社会教育の実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
11	外部施設見学①	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
12	外部施設見学②	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
13	教育プログラムの企画①	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
14	教育プログラムの企画②	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
15	プレゼンと質疑応答	各自が企画した教育プログラムについて発表し、意見を交換します。	発表用の資料を作成してください。発表に対して出された意見を参考に、自身の企画を練り直してください。

関連科目 学芸員資格に必要な各科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 プレゼン・質疑 80%、提出物 20%

(基準)	
学生への メッセージ	各博物館は近年、様々な教育プログラムに熱心に取り組んでいます。しかもそのプログラムには、マニュアルも正解もない場合がほとんどで、学芸員をはじめとする博物館スタッフ、サイエンス・インタープリターやボランティアの方々の創意工夫と努力によって支えられています。受講者は教育プログラムについて積極的に参加・見学・情報収集し、現状を知るようにしてください。そして将来的には、何らかの形で博物館を支える一員となってもらえたら幸いです。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	外部施設見学は大阪市内で、12月中の土日いずれか1日、180分間(2コマ分)の予定で行います。 事前事後学習の総時間の目安は約60時間。 授業中に課す課題については、受講生も含めた質疑応答を行う。

科目名	博物館実習	科目名(英文)	Museum Management Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	赤澤 春彦、杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3193a0		

授業概要・目的	博物館は展示物(歴史・美術・文学ほか)、設置母体(公立・民間)、目的(教育が主・研究が主・保存が主など)により、さまざまな種類のものがある。学芸員の仕事も館の性格により、多様で一概には規定できない。この授業では博物館・美術館の実際を知り、学芸員の仕事を理解するために、博物館を实地見学に出かける。また学内においては、博物館についての知識を深め、学芸員の作業の一部を体験する。本授業では学芸員の職務の経験を活かし、講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。
到達目標	博物館における作業の内容と意味を理解する。博物館において学芸員の仕事の一部を体験し理解する。
授業方法と留意点	本授業は(1)大学が課する実習、(2)実習館が課する館内実習の2種に分かれ、(1)はさらに①学内での前期の講義と作業、②学外での見学の2種に分かれる。(下記15回)また(2)の館内実習は、おおむね夏休みあるいは後期に行われる。いずれが欠けても単位取得は不可である。なお見学・実習には交通費や実費が必要である。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション	年間スケジュールの確認 博物館実習の取り組み方実習館の配属	事前:出身地にある博物館を見ておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
2	拓本1	拓本の道具を作り、小さなもので練習する	事前:拓本について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
3	拓本2	近隣の神社や野外の石碑で拓本をとる練習をする。	事前:拓本の道具を作っておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
4	博物館の見学	見学及びレクチャー	事前:見学する館について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
5	美術品の扱い方1	掛け軸、陶磁器の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前:掛け軸陶磁器の扱い方を調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
6	美術品の扱い方2	絵巻物、額縁の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前:絵巻物などの扱い方を調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
7	美術館の見学	見学及びレクチャー	事前:見学館について調べておく(90分)	事後:レポートをまとめる(90分)
8	美術品の調査・整理	美術品の計測、撮影、資料カードの作成を実物を用いて行なう。	事前:美術品の計測について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
9	歴史資料の調査・整理	調査の方法、資料カードの様々な様式、資料の整理法を学ぶ。	事前:歴史資料について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
10	写真撮影の方法	美術写真・建築写真・記録写真の方法を、実例を見ながら学ぶ。	事前:建築写真について調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
11	博物館の見学	見学及びレクチャー	事前:見学館について調べておく(90分)	事後:レポートをまとめる(90分)
12	博物館の教育・普及活動	各自でワークショップ、イベントの実例を収集し発表。パンフレット、ホームページの効果についても考える。	事前:博物館かんお活動についてWEBで調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
13	展覧会の企画1	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前:展覧会のテーマについて調べておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
14	展覧会の企画2	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前:指摘された点を改善して企画書を作っておく(90分)	事後:ノートを整理し、不明な点を調べる(90分)
15	プレゼンテーションと講評 博物館・館内実習の指導	各自が企画した展覧会について発表し、講評を行なう。博物館ノートの配布と書き方の指導・諸注意	事前:レジュメを作り発表の練習をしておく(90分)	事後:指摘された点を改善してレポートを作る(90分)

関連科目	学芸員資格の必修科目およびその他の関連科目
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	レポート(見学2回、展覧会企画)30% 実習博物館による評価50% 受講への参加態度20%
----------	---

学生へのメッセージ	各地の博物館に赴いて行なう実習は5~14日間程度です。期間中は実習に集中し、摂南大学の学生として恥ずかしくない行動をとってください。
-----------	--

担当者の研究室等	赤澤・・・7号館4階(赤澤研究室) 杉山・・・7号館5階(杉山研究室)
----------	--

備考	実習で課した課題は、その場もしくは次回の実習で講評する。 博物館実習ノートをもとに成果発表会を行う。
----	---

科目名	博物館情報・メディア論	科目名(英文)	Museum Media Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 馨
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2191a0		

授業概要・目的	現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現を学ぶことにより、映像メディア登場以後の社会環境の変化について考察する。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。
到達目標	映像メディアと社会の関係を理解する。 映像メディアによる情報との向き合い方を身につける。
授業方法と留意点	講義中はスライドを使用する。提示する図は必要に応じてノートに描きとどめてもらいたい。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ものを見る行為について	映像情報との関わりについて 博物館と映像メディアについて	視覚について本やWEBで調べる
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
3	カメラオプスキュラの活用	カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やWEBで調べる
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる
6	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19世紀の写真表現について本やWEBで調べる
7	都市の記録	写真による都市表象について	19世紀の写真について本やWEBで調べる
8	写真と絵画の交わり1	写真と西洋絵画における写実表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やWEBで調べる
9	写真と絵画の交わり2	日本の近代絵画への写真の影響について 主に花鳥画における表現の考察	日本の近代絵画について本やWEBで調べる
10	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響を考える	報道写真について本やWEBで調べる
12	カラー写真の登場	カラー写真による表現の変化について	カラー写真について本やWEBで調べる
13	現代写真表現1	アメリカの現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
14	現代写真表現2	日本の現代写真を中心に表現を考察	現代写真表現について本やWEBで調べる
15	まとめ	写真の歴史や表現から、21世紀の写真メディアの在り方を考える 博物館における映像の役割を考える	写真について復習する

関連科目	博物館科目
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	授業参加度40%、期末レポート60%で評価する
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	板書を写すだけでなく、講義の内容をノートすること。 事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。 質問や提出物に対して口頭または文書でフィードバックを行う。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階(非常勤講師室) 水曜12時~15時
------------	-------------------------

科目名	博物館資料保存論	科目名(英文)	Preservation of Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2187a0		

授業概要・目的	博物館にとって資料はなくてはならないものです。資料がなければ博物館は成り立たないと言っても過言ではありません。したがって資料の収集、管理、保存は学芸員にとって最も重要な仕事の1つとなります。また、一口に「資料」といっても例えば考古、歴史、民俗など様々な種類があります。本授業では学芸員の職務の経験を活かし、講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。
到達目標	資料の種類、取り扱い方、整理・管理・保存・修復の方法などの基礎的な知識と技能を習得できる。
授業方法と留意点	基本的に座学ですが、教室での講義だけでなく、基礎的な技術を身につけたり、博物館を見学することも予定しています。学芸員資格を取得するための大事な講義です。したがって原則欠席は認めません。なお、初回の講義には必ず出席してください。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	考古資料の保存(1)	埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。	文化財保護法について復習する
3	考古資料の保存(2)	遺物の接合実習をします。	考古の接合の事例を書籍やwebで調べる
4	考古資料の保存(3)	遺物の接合の続きと実測をします。	実測図を完成させ、次週までに提出する。
5	民俗資料の保存	民俗資料の保存の方法について講義します。	さまざまな民俗資料について博物館のHPから調査する
6	石造物の保存(1)	石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。	実測図、スケッチの続きを行う。
7	石造物の保存(2)	石造物の実測、スケッチの続きをします。	実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。
8	歴史資料の保存(1)	歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。	授業で課した語句、地名について辞書で調べる
9	歴史資料の保存(2)	古文書修復の実習をします。	裏打ちの方法について復習する
10	歴史資料の保存(3)	和本の装丁の実習をします。	和本の装丁をもう一度やってみる。
11	燻蒸とIPM	虫損から資料を守る燻蒸とIPM(総合的有害生物管理)という2つの方法を比較検討します。	燻蒸と虫干しについて復習する
12	資料保存の現実	博物館見学	3コマ分です。日程は講義中に決めます。
13	資料保存の現実	博物館見学	3コマ分です。日程は講義中に決めます。
14	資料保存の現実	博物館見学	3コマ分です。日程は講義中に決めます。
15	まとめ	授業のまとめと筆記試験を行います(持ち込み不可)	今までのノートをまとめておく。

関連科目 他の学芸員課程の講義。日本史学、日本美術史、日本文化史。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準) 講義最終日に行う筆記試験(持ち込み不可)、受講中に課すレポート、実技試験をもとに評価します。筆記試験(70%)、レポートと実技試験(30%)とします。

学生へのメッセージ 学芸員を目指す方にとって必須の科目です。単に知識を得るだけでなく、私の経験をもとに資料保存の現実について一緒に考えたり、また保存に関わる基礎的な技能を身につけましょう。積極的な姿勢を望みます。

担当者の研究室等 7号館4階(赤澤研究室)

備考 事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。課外学習の日程は天候などの用件によって変更する場合がある。授業中に課した課題は成績をつけた上で講評して受講者に返す。

科目名	博物館資料論	科目名(英文)	Museum Collection Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>【博物館資料をめぐる理論と方法】</p> <p>博物館資料の種類・特質・収集・整理・保管について「理論」と「方法」を習得する。博物館になくてはならない博物館資料は、美術・歴史・民俗・考古などさまざまな領域に属し、絵画・彫刻・工芸・映像など豊富なジャンルにわたる。その分類法をふまえつつ、まずは具体的な作品の魅力や鑑賞法に触れ、資料が持つ歴史的価値や美的価値の所在を見定めていく。個々人が練り上げた作品に対する興味や関心によって、博物館資料を仕事として取り扱う際の基本的知識を裏打ちしていくことを目指す。</p>
到達目標	<p>以下の3点について、自分の言葉で説明できるようになること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館が資料を収集する意義とその困難 2. 博物館が資料を分類する意義とその困難 3. 博物館が資料の情報発信する際のあたらしいトレンド
授業方法と留意点	<p>授業は全編スライドをもちいた講義形式で、スライド内の文字情報はハンドアウトとしてあらかじめ共有する。</p> <p>各回の最初に10分ほど前回の質問に対するフィードバックの時間を取り、各回の最後に10分ほど質問を入力する時間を取る。</p> <p>実際の博物館もしくは美術館の見学も実施する。</p>
科目学習の効果(資格)	[学芸員資格の取得(必修科目)]

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	博物館資料	博物館資料とはなにか、その定義を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、不明な用語を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
2	絵画資料#1	絵画資料のうち、フレスコ画、テンペラ画などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、具体的な作品名を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
3	絵画資料#2	絵画資料のうち、油彩画、水彩画などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、具体的な作品名を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
4	彫刻資料#1	彫刻資料のうち、木像、銅像などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、具体的な作品名を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
5	彫刻資料#2	彫刻資料のうち、現代美術、インスタレーションなどの特性を解説する【ゲストレクチャー】	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、具体的な作品名を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
6	工芸資料	工芸資料である陶磁、染織、ガラスなどの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
7	民俗資料	民俗資料である道具、家具、民家などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、不明な用語を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
8	歴史資料	歴史資料である古文書、武具などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、不明な用語を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
9	考古資料	考古資料である土器、遺跡などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、不明な用語を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
10	資料収集	博物館資料の収集と収蔵をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:インターネットで博物館の資料収集について調べ、具体的な例を確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
11	資料整理	博物館資料の分類と整理をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:インターネットで博物館の資料整理について調べ、具体的な例を確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
12	資料調査	博物館資料の調査と研究をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:インターネットで博物館の資料調査について調べ、具体的な例を確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
13	資料公開	博物館資料から得られた情報の発信をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:インターネットで博物館の情報発信について調べ、具体的な例を確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
14	博物館見学	博物館資料の展示と解説について実地に見学する。	事前:インターネットで見学先の博物館について調べ、実際に見て確かめたいことをリストアップする(30分)。事後:レポートをまとめる。
15	博物館見学	博物館資料の展示と解説について実地に見学する。	事前:インターネットで見学先の博物館について調べ、実際に見て確かめたいことをリストアップする(30分)。事後:レポートをまとめる。

関連科目	【博物館科目】 ミュージアムへの招待/博物館資料保存論/ミュージアムマネジメント論												
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2			
	番号	書籍名	著者名	出版社名									
	1												
2													

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の質問 70%、レポート 30%			
学生への メッセージ	<p>毎回授業の終わりに質問をひとつ入力してもらおう。その質問の内容で評価をつけていく。評価の基準は「知識の豊富さ」ではなく「自分できちんと考えられるかどうか」である。この基準については、毎回のフィードバックをとおして具体的に認識していくことができるだろう。</p> <p>「彫刻資料#2」は、現代美術作品のエキスパートである保存修復士にゲストレクチャーをお願いする。実際の実施日はスケジュールのなかで動く可能性があり、確定次第告知する。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室			
備考	質問に対する応答は「Q&A シート」を作成し、次回の授業にてフィードバックする。			

科目名	パッケージプログラム演習	科目名(英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムにおけるこれまでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とします。また、本演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指します。 ※なお、この科目(クラス)は、「国際ビジネス」プログラム対応科目です。		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、研究発表・プレゼンテーションを通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につけることを目標とします。		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・調査・分析、発表・議論などを重視し、学生が自発的かつ協調的に演習を行っていきます。 ・第1回：2人の教員(天野、中島)が共同で担当します。 ・第2～8回：天野が担当し、経済小説などの本を読んで、ビブリオバトル形式のプレゼンテーションを行います。 ・第9～15回：中島が担当し、起業家の目線でビジネスプランを提案するプレゼンテーションを行います。 		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 各自が設定したテーマに基づいて、調査や分析を行い、その研究成果をプレゼンテーション形式で発表します。また、教室内での議論や質疑応答を通じて、そのテーマに関する理解を深めていきます。</p> <p>【事前・事後学習課題】 <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関する調査、文献・資料の収集などを行います。 ・プレゼンテーションの準備を行います。また、フィードバックを踏まえて修正・改善策について考えます。 </p> <p>※なお、事前・事後学習の総時間数は60時間程度を目安とします。</p>		
関連科目	海外インターンシップ、体験型特別実習B、卒業研究Ⅰ・Ⅱなど。		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	(必要に応じて指示します)	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	(必要に応じて指示します)	
	2		
	3		
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・天野担当分50%(プレゼンテーション40%+授業への取り組み10%) ・中島担当分50%(プレゼンテーション40%+授業への取り組み10%) <p>※ただし、原則として、出席率80%(12回)以上を単位取得のための要件とします。</p>		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げですので、主体的かつ積極的に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室 7号館4階 中島研究室		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは、実施後に行います。		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基, 田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際貢献」プログラム対応科目である。		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。</p> <p>【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h）</p>		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくはレポート (60%) をもとに総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室、7号館5階 手代木研究室		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹・古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	<p>本演習は、これまでのメディアビジネスプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。このプログラムを通じてこれまでに身につけてきた知識を体系化するとともに、メディアの現場を見学したり自らメディアを企画、制作する活動を通してメディアについてより深く理解することを目指す。</p> <p>※この科目 (クラス) は、メディアビジネスプログラム対応科目である。</p>																		
到達目標	<p>キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、メディア制作の作業やプレゼンテーションを通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1. 適当なパッケージプログラム科目を取り上げ、授業内容や担当教員を紹介するムービーを制作する。グループ単位で企画、準備、取材、編集を行う。</p> <p>2. 新聞社、放送局などメディアの現場や、メディア関係のミュージアムを個人またはグループ単位で見学し、その内容を報告する。なお、その際の費用は自己負担とする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 この授業のテーマはメディアの現場を「見ること」と自らメディアを「作ること」である。教室内での調査・討議・制作・発表に加えて、学内での取材 (授業や研究室) および学外に出かけての見学も予定している。学年末には、他のプログラム演習のクラスと合同で成果発表会を行う。</p> <p>【事前、事後学習課題】 事前学習として発表のための調査および資料の準備を行う。(1時間) 事後には授業で学んだことを整理してノートにまとめる。(1時間)</p>																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくは制作物 (60%) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館3階 (中西研究室) 7号館4階 (古矢研究室)																		
備考	報告や制作物に関するフィードバックは発表時に、学期を通した成果に関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名(英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業者	塩崎 裕司, 沖中 美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	<p>本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、航空会社の現業部門、人事・総務部門を担当した実務経験者の教員が、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とした授業である。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。</p> <p>※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」プログラムの対応科目である。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報発信能力を身につける。 ・課題のポイントをつかみ、分担する担当業務を果たす責任感、担当者間のチームワークや課題発表能力の向上を図ることで、企業説明会で主流となっているグループ面談で主導的役割を果たす力を身につけることを目標とする。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ホスピタリティ演習では、参加者を少人数のチームに分け、選ばれたテーマについて議論、報告資料作成を経て発表する。ひとつのテーマに3時間程度をかけて実施、1セメスターで4つ程度のテーマを選定する。 ・1つのテーマについて、1回目は持ち寄った資料について議論、発表の方向性を決める。2回目は発表資料の作成。3回目はチーム毎の発表と質疑応答。テーマごとに役割分担を代え、履修者各々が能力を伸ばせるようにする。 																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 観光ホスピタリティ演習ではこれまで学んできた観光、航空、旅行、宿泊産業等にかかわるテーマを選定し、演習参加者で議論して報告資料を作成し発表する。</p> <p>前年度のテーマ選定例（下記から3つ選定、本年度は別途提示）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①航空は新幹線にどう対抗すべきか。北陸新幹線を例に考える。 ②関空・伊丹は運営権売却(コンセッション)で将来どう変貌するか。 ③東京リビック・パワリビック終了後のホテル集客策を考える。 ④中・長距離のLCC? LCCの特性を活かしつつ、あなたならどこを目的地にする? ⑤海外と日本のホスピタリティの違いを考える。 ⑥魅力ある旅行計画の作成。 <p>4回目は下記から選択したテーマについて賛成・反対の立場から発表、議論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑦民泊の是非、日本に民泊は根付くのだろうか。 ⑧IR法案、日本にカジノは必要か。 <p>【事前・事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。</p> <p>【事前・事後学習時間】 総時間数は30h</p>																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習A、体験型特別実習B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への取り組み(40%)、プレゼンテーション(60%)をもとに評価する。 特にグループ討論や作業が中心のため、授業参加意欲を重視する。 議論の積極性、チームのまとまりや発表能力等も考慮して評価する。																		
学生へのメッセージ	興味ある課題について、知りたいことや疑問点などを自分で調べて研究し、答えを見つけ出すのも大きな喜びです。常に問題意識を持って新聞やテレビニュースなどに接してください。本演習でのグループディスカッションやプレゼンテーションなどは就職活動にも役立ちます。 パッケージプログラムの総仕上げとして、主体的、積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタリティールーム)																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に実施します。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美, 松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、これまでのパッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※この科目 (クラス) は、「外国語専門職」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表 (討論・プレゼン・レポート作成等) が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。</p> <p>【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。(総時間数 30h)</p>																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくはレポート (60%) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館 4階 (皆本研究室) 7号館 5階 (松田研究室)																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦, 林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際教養」プログラム対応科目である。		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。</p> <p>【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h）</p>		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくはレポート (60%) をもとに総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	担当教員の豊富な実務経験を生かしながら演習をすすめます。パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7号館4階 (林田研究室)		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。		

科目名	ビジネス イングリッシュ a	科目名 (英文)	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー (DP)	DP7○DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3051c0		

授業概要・目的	国際キャリアコース4年次の学生を対象とする。グローバルにビジネスを展開している企業の内外において必要とされる英語の総合的なスキルを習得するために、以下のような内容について演習形式を通じて学習する。①対面および電話でのビジネス英会話場面・状況別に具体例とともに実践的に学ぶ。②Eメールやビジネスレターについて、目的・状況別にその典型的なフォームと英語表現について実践形式で学ぶ。
到達目標	ビジネスに関する話題について、目的や場面、状況等に応じて CEFR-J [B1.1] レベルの英語を話し、書けるようになる。
授業方法と留意点	ロールプレイ、ペアワーク、グループワーク等の演習が主となる。十分な予習をして授業に臨み、演習に積極的に取り組むこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	挨拶と名刺交換	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
2	電話のやりとり	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
3	伝言を受ける、依頼する	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
4	丁寧な依頼をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
5	不明点を問い合わせる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
6	アポイントをとる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
7	要求をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
8	お詫びをする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
9	不在を知らせる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
10	連絡事項の内容や理解を確認する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
11	電子メールの添付書類について説明する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
12	求人について問い合わせる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
13	提案をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
14	お別れをする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
15	総括	全体ディスカッション	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)

関連科目	リーディング IIIa, IIIb など
------	----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A Shorter Course in English for Business Communication	新田亜紀子	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト 40% 課題やレポートなどの提出物 30% 授業中の発表と取り組み姿勢 30%
-----------	--

学生へのメッセージ	慣れるまでは少し大変な内容かもしれませんが、日々少しずつ学習していきましょう。英語そのものだけでなく、ビジネスコミュニケーションの能力も学びます。英語が苦手であっても楽しめる授業にしますので、一緒に頑張りましょう。 連絡先: iharashun0@gmail.com
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤控室
----------	------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ビジネス イングリッシュ b	科目名 (英文)	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー (DP)	DP7○DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3052c0		

授業概要・目的	<p>際キャリアコース4年次の学生を対象とする。グローバルにビジネスを展開している企業の内外において必要とされる英語の総合的なスキルを習得するために、以下のような内容について演習形式を通じて学習する。①対面および電話でのビジネス英会話場面・状況別に具体例とともに実践的に学ぶ。②Eメールやビジネスレターについて、目的・状況別にその典型的なフォームと英語表現について実践形式で学ぶ。</p>
到達目標	<p>ビジネスに関する話題について、目的や場面、状況等に応じて CEFR-J [B1.1] レベルの英語を話し、書けるようになる。</p>
授業方法と留意点	<p>ロールプレイ、ペアワーク、グループワーク等の演習が主となる。十分な予習をして授業に臨み、演習に積極的に取り組むこと。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>TOEIC, 英検等</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	アポイントとセールス	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
3	自己紹介、自社紹介	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
4	製品説明と交渉	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
5	希望、要望、提案を述べる	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
6	製品について質問、確認をする	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
7	聞きにくいことを聞く、即答を避けたいことについて答える	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
8	賛成する、反対する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
9	妥協案や代替案を示す	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
10	譲歩を求める、問題点を指摘する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
11	価格と支払い条件を交渉する。	英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
12	製品の数量、品質、保証について交渉する	対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
13	英文契約書を書く	サンプルの読解	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
14	英文契約書を書く	作文演習	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)
15	総括	全体ディスカッション	重要語彙、表現を含む例文の暗記、暗唱 (1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『ネゴシエーションの英語表現』(日経文庫 1163)</td> <td>デイビッド・セイン/マーク・スプーン</td> <td>日本経済新聞出版社 (830円+税)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『ネゴシエーションの英語表現』(日経文庫 1163)	デイビッド・セイン/マーク・スプーン	日本経済新聞出版社 (830円+税)	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	『ネゴシエーションの英語表現』(日経文庫 1163)	デイビッド・セイン/マーク・スプーン	日本経済新聞出版社 (830円+税)														
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>辞書</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	辞書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	辞書																
2																	
3																	

評価方法 (基準)	<p>小テスト 40% 課題やレポートなどの提出物 30% 授業中の発表と取り組み姿勢 30%</p>
-----------	---

学生へのメッセージ	<p>慣れるまでは少し大変な内容かもしれませんが、日々少しずつ学習していきましょう。英語そのものだけでなく、ビジネスコミュニケーションの能力も学びます。英語が苦手であっても楽しめる授業にしますので、一緒に頑張ります。連絡先:iharashun0@gmail.com</p>
-----------	--

担当者の研究室等	<p>7号館2階非常勤控室</p>
----------	-------------------

備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>
----	--

科目名	ビジネスインドネシア・マレー語	科目名(英文)	Business Indonesian-Malay
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	日常生活の中で初級的な会話が出来たことを前提にして、仕事や特にビジネス場面で使えるフォーマル単語や表現の使用を学修する。
到達目標	インドネシアのビジネスの語彙を始め、様々なビジネスの場面を学習、知識をつける。
授業方法と留意点	職場で自己紹介する始め、事務所や工場での会話を学習する。各場面や内容のフォーマル単語や表現を使って知識を高める。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語で基本的なビジネスの会話をやり取りできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	自己紹介。	勤務先で自己紹介。	フォーマルの自己紹介を練習。 フォーマル単語や表現を学習。
3	会社で打ち合わせ。	部下のインドネシア人スタッフと打ち合わせする。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
4	秘書に仕事を頼む。	早急必要なデータを秘書に頼む。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
5	上司に報告する。	上司の質問に答える。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
6	客に自社を案内する。	クライアントに自社工場を案内する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
7	電話でレストランを予約する。	電話でレストランを予約する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
8	1回～7回まとめ(小テスト)。	復習・中間テスト。	1回から7回までに学んだことを再確認。
9	航空会社の職員に確認する。	予約したフライトの確認する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
10	工場を案内してもらう。	現地の有力工場を案内してもらう。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
11	意見交換。	宛先の政務と意見交換。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
12	研修会の司会。	現地法人の研修司会をする。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
13	メイトさんに指示する。	メイトさんに仕事の内容を指示する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
14	運転手と予定の確認する。	運転手に翌日の予定を伝える・確認する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
15	9回～14回の復習・テスト。	復習・テスト	9回から14回までに学んだことを再確認。

関連科目 専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス・生活で使えるインドネシア語ダイアログ	康夫・ディーアーフサリ	三修社
2				
3				

評価方法(基準)	授業の準備・授業中の活動 50% 復習テスト 50%
学生へのメッセージ	日本～インドネシアのビジネスの専門用語やルールについてしっかり学んで知識を持つことは大切です。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。

科目名	ビジネスインドネシア語	科目名(英文)	Indonesian for Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3138e0		

授業概要・目的	日常生活の中で初級的な会話が出来たことを前提にして、仕事や特にビジネス場面で使えるフォーマル単語や表現の使用を学修する。
到達目標	インドネシアのビジネスの語彙を始め、様々なビジネスの場面を学習、知識をつける。
授業方法と留意点	職場で自己紹介する始め、事務所や工場での会話を学習する。各場面や内容のフォーマル単語や表現を使って知識を高める。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語で基本的なビジネスの会話をやり取りできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション。	授業の内容や授業の仕方について。	授業の内容確認。
2	自己紹介。	勤務先で自己紹介。	フォーマルの自己紹介を練習。 フォーマル単語や表現を学習。
3	会社で打ち合わせ。	部下のインドネシア人スタッフと打ち合わせする。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
4	秘書に仕事を頼む。	早急必要なデータを秘書に頼む。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
5	上司に報告する。	上司の質問に答える。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
6	客に自社を案内する。	クライアントに自社工場を案内する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
7	電話でレストランを予約する。	電話でレストランを予約する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
8	1回～7回まとめ(小テスト)。	復習・中間テスト。	1回から7回までに学んだことを再確認。
9	航空会社の職員に確認する。	予約したフライトの確認する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
10	工場を案内してもらう。	現地の有力工場を案内してもらう。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
11	意見交換。	宛先の政務と意見交換。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
12	研修会の司会。	現地法人の研修司会をする。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
13	メイトさんに指示する。	メイトさんに仕事の内容を指示する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
14	運転手と予定の確認する。	運転手に翌日の予定を伝える・確認する。	フォーマル単語や表現を学習。 やり取り会話を練習する。
15	9回～14回の復習・テスト。	復習・テスト	9回から14回までに学んだことを再確認。

関連科目 専攻言語インドネシア語科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス・生活で使えるインドネシア語ダイアログ	康夫・ディアーハフサリ	三修社
2				
3				

評価方法(基準) 授業の準備・授業中の活動 50%
復習テスト 50%

学生へのメッセージ 日本～インドネシアのビジネスの専門用語やルールについてしっかり学んで知識を持つことは大切です。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 授業時間外での質問や要望は、7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。
事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。

科目名	ビジネスコミュニケーション論	科目名(英文)	Business Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○		
科目ナンバリング	LDL3204a0		

授業概要・目的	この科目は国際ビジネスプログラム対応科目である。2年次に習得した「異文化ビジネス論」や「ビジネス心理学」などの知識を活かしながら、国際ビジネスの現場におけるコミュニケーションの特徴や注意点について考察する。また、必要に応じて、日本語と外国語の場合を比較・対象しながら、接客から交渉に至るまで様々なビジネスの現場・場面を想定して、客観的な観点から学んでいく。
到達目標	国際化に対応したビジネス実務の基礎知識の習得と、それぞれの場面に必要な日本文化・日本語に基づいた外国語能力の向上を目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、積極的に学ぶ姿勢が必要であり、第二に即戦力として学習内容を実践する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	グローバル化した日本企業などのビジネス組織で行われている基本的なビジネス実務全般を理解し、国内外との対応に必要なコミュニケーション能力の必要性を理解し、その向上を図る。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・変化するビジネス組織 ・国際ビジネスの基本-あいさつ ・イニシャルテスト	・事前学修：シラバスを熟読すること(1時間) ・事後学修：講義からグローバル社会に関してレポートを作成すること(3時間)
2	パーティ文化	・名刺交換・席順 ・座席と服装、国の特徴 ・招待を受けた事例	・事前学修：公式なパーティとは何か、調べること(1時間) ・事後学修：「パーティ文化」をノートにまとめること(3時間)
3	設営と慶弔含む贈答	・QUIZ①(第1回から第2回まで) ・日本文化における慶弔と贈答 ・主催者側としての設営	・事前学修：「慶弔」について調べること(1時間) ・事後学修：「設営」手順を作成すること(3時間)
4	会議等の設営	・会議の種類 ・会議に必要なとされる書類 ・社内会議と社外会議	・事前学修：Minutes(議事録)例を翻訳すること(2時間) ・事後学修：社内会議の案内文を作成すること(2時間)
5	ビジネス対応-敬語	・常識としての敬語と礼儀正しい英語表現 ・QUIZ②(敬語表現)	・事前学修：「敬語」プリントをすること(2時間) ・事後学修：敬語表現を復習すること(2時間)
6	ビジネス対応-応対	・Expressions at Reception ・ロールプレイ	・事前学修：Expressions at Reception 1, 2 & 3のロールプレイを練習すること(2時間) ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習すること(2時間)
7	ビジネス対応-電話	・Expression at Business Call ・ロールプレイ	・事前学修：Expression at Business Call 1, 2 & 3のロールプレイを練習すること(2時間) ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習すること(2時間)
8	中間テスト	・中間テスト(正答率60%で合格)	・事前学修：第3回から7回までの復習をすること(2時間) ・事後学修：中間テストの解答を確認し、復習すること(2時間)
9	海外出張	・Y T T方式の理解 ・外国語による日程表の作成	・事前学修：San Franciscoに1週間の出張と考え、往復運賃、宿泊費等を調べてくること(2時間) ・事後学修：外国語による日程表を作成すること(2時間)
10	ビジネス文書 基礎編	・文書の基本理解と作成 ・数字の扱い方、英語の略語 ・ファイリング	・事前学修：「時候のあいさつとビジネス用語プリント」をすること(2時間) ・事後学修：社内文書と社会文書、英文レターを清書すること(2時間)
11	ビジネス文書 応用編①	・社内文書と社会文書作成 ・英文ビジネスレターとメモ	・事前学修：提示された条件で、文書を作成すること(2時間) ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書すること(2時間)
12	ビジネス文書 応用編②	・日本語と外国語による社交文書作成	・事前学修：ビジネス文書のルールを再確認すること(2時間) ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書すること(2時間)
13	総合演習①	・QUIZ③(第10回から第12回まで) ・ロールプレイを含む課題演習①	・事前学修：ビジネス文書を書けるよう、練習すること(2時間) ・事後学修：課題演習①を再度確認すること(2時間)
14	総合演習②	・ロールプレイを含む課題演習②	・事前学修：課題演習①を再度確認すること(2時間) ・事後学修：課題演習②を再度確認すること(2時間)
15	まとめ	・コミュニケーションのあり方	・事前学修：課題演習②を再度確認すること(2時間) ・事後学修：第1回から第15回までの授業内容の理解を図ること(2時間)

関連科目									
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICATION</td> <td>新田亜紀子</td> <td>南雲堂</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICATION	新田亜紀子	南雲堂
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICATION	新田亜紀子	南雲堂						

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵他	泉文堂
	2	働く女性の英語術	光藤京子	The Japan Times
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイならびにプレゼンテーション (20%)、小テスト/QUIZ (20%)、レポート (20%)、中間ならびに期末テスト (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	グローバル化と言われ久しい日本の企業等のビジネス組織において、外国人労働者が積極的に採用・雇用される現実も出てきました。社内で英語で統一する日本企業も出現しており、対応可能な人材として外国語が使えるだけでなく、ビジネスの担い手としての常識がますます求められています。働く意識を高め、ビジネスの現場で必要とされる態度とコミュニケーションをしっかり学び、自信を深め、一歩先を歩いてほしいと願っています。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)			
備考	必要に応じて授業内でレジユメを配布する。 ロールプレイならびにプレゼンテーションにおいては、授業中に良かった点と改善点を明確に指示し、最終を迎える。 また、小テスト/QUIZ は授業中に解答例を通して学び、回収後返却する。 中間テストは採点后、授業で解答例を学ぶ。			

科目名	ビジネス心理学	科目名(英文)	Business Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2199a0		

授業概要・目的	ビジネスやマーケティングに関連する心理について解説していきます。 この科目は「国際ビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会におけるビジネスにおける心理と行動を解説していく。 ビジネスにおける消費者の心理と行動について科学的に理解することを目的とする。
到達目標	マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して、多面的に消費心理を捉える能力を養うことを目標とする。ビジネスに役立つ心理理論を学ぶことを目標とする。 マーケティングの中の購買行動や消費者心理についての知識を得ることができる。 ビジネスに役立つ実践能力を身に付けることができる。
授業方法と留意点	担当者が毎回パワーポイントによるプレゼンテーション形式で講義を行う。各自、ノートやメモを取ること。授業中にディスカッションやグループワークを行う。第1回授業で授業ルールなどについて説明をするので必ず参加すること。 毎回授業内で小課題が出るので、回答すること。 ディスカッションやグループワークなどのアクティブ・ラーニングの要素を取り入れているので、積極的かつ主体的に課題に取り組むこと。
科目学習の効果(資格)	ビジネスにおける消費者の心理と行動を理解することができる。ビジネスに役立つ心理的手法を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・ビジネス心理の位置づけ	授業内容、授業方法について説明します。 消費者心理とは？	事前学習課題：心理学とはどんな学問か？調べておくこと(1時間) 事後学習課題：消費者心理とはどんな心理学だったかまとめておくこと(2時間)
2	ビジネス心理と心理学	消費行動とは何か？購買行動と消費行動	事前学習課題：ビジネスと心理について考えてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：消費行動と生産行動の具体例についてまとめておくこと(2時間)
3	ビジネス心理におけるブランド選択	商品選択と消費者心理	事前学習課題：自分が好きなブランドとその理由についてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：ブランド戦略について具体例を挙げてまとめておくこと(2時間)
4	消費者の価値意識	ライフスタイルと商品選択	事前学習課題：自分が生活の中で何にお金をかけているかをまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：ライフスタイルと消費行動との関係についてまとめておくこと(2時間)
5	消費行動における個人内過程	消費者の非計画購買過程	事前学習課題：自分の消費行動において、何が重要視されているかをまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：非計画購買の種類とその内容についてまとめておくこと(2時間)
6	消費者の価格判断	心的ものさしと商品の価格づけ	事前学習課題：最近、自分が買った高いものについて具体例をあげ、その購買理由についても書いておくこと(1時間) 事後学習課題：心的モノサシとは何か？自分の例も含めてまとめておくこと(2時間)
7	消費者間相互作用と購買意思決定	クチコミによるマーケティング戦略	事前学習課題：自分の周りで起こっているクチコミについてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：クチコミの効果とその影響過程についてまとめておくこと(2時間)
8	インターネットを利用した消費者間コミュニケーション	インターネットの利用により消費行動は変わるのか？	事前学習課題：インターネットの発展について、1990年代から調べておくこと(1時間) 事後学習課題：ネットによるビジネスの変化についてまとめておくこと(2時間)
9	比較広告と消費行動	比較広告の効果と課題	事前学習課題：自分が好きな広告とその理由についてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：比較広告の具体例を見つけ、分析すること(2時間)
10	広告媒体の種類と広告の効果	広告の内容分析とその効果	事前学習課題：日本のテレビCMの歴史について調べること(1時間) 事後学習課題：広告の中のタレントの特徴についてまとめておくこと(2時間)
11	テレビ広告における内容分析とその効果	テレビ広告における内容分析と購買効果	事前学習課題：テレビ広告における企業CMについて調べておくこと(1時間) 事後学習課題：人気のあるテレビ広告について調べ、その特徴をまとめておくこと(2時間)
12	悪質商法と消費者	悪質商法の手口と対策	事前学習課題：近年、流行っている悪質商法について調べておくこと(1時間) 事後学習課題：悪質商法への対策をまとめておくこと(2時間)
13	企業のリスク・コミュニケーションと消費者	リスクを伝える工夫とリスク・マネジメント	事前学習課題：企業に起こりうるリスクについて、具体例を考えておく(1時間) 事後学習課題：リスクマネジメントの方法について具体例を含めてまとめておくこと(2時間)
14	サービスと消費者心理	接客サービスの効果と接客での問題点	事前学習課題：接客サービスにおいて重要なことを箇条書きにしておくこと(1時間) 事後学習課題：接客サービスの効果と問題点についてまとめておくこと(2時間)

	15	ビジネス心理と消費行動の今後	消費者はこれからどのような商品、サービスを選んでいくのか？	事前学習課題：今後求められるサービスについて、プランを練ってこること(1時間) 事後学習課題：ビジネスにおける消費者心理の役割について総復習を行うこと(2時間)
関連科目	「グローバルマーケティング論」と関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動の社会心理学	竹村和久	北大路書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業内課題(上限10%)、定期テスト(90%)の割合で、総合的に判断する。			
学生への メッセージ	皆さんの身の回りのビジネスの中にもたくさんの心理的要素が隠されています。なぜあの商品を買ったのでしょうか？なぜ、そのサービスを選んだのでしょうか？値段だけでしょうか？消費者の心の動きについて、ビジネスの具体例を交えながら、解説していきます。			
担当者の 研究室等	11号館7階(牧野(幸)准教授室)			
備考	他人の迷惑となる行為(遅刻、私語、居眠り、内職、不必要な教室への出入り、スマホ、携帯電話などの使用など)はすべて禁止とします。遅刻は減点の対象となります。 このことを承知したうえで受講すること。 事前学習には毎回1時間以上、事後学習には毎回2時間以上かけること。 授業内に課した課題については、授業中あるいは次週の授業で解説してフィードバックを行う。			

科目名	ビジネス中国語 a	科目名 (英文)	Business Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1061e0		

授業概要・目的	本授業は初級レベルのビジネス中国語の習得をを目指す。中国語の学習を始めると同時に、将来ビジネスに役立つ中国語の運用能力を少しずつ習得する。前期の授業は簡単な単語でのコミュニケーション、挨拶から質問のし方・答え方などビジネス場面で必要な会話を学ぶ。
到達目標	ビジネスシーンで使われる表現を通して、関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また、授業の内容は1年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし、他学部、他大学、社会人による単科目の受講は可能である。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス中国語検定試験受験など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ピンインと発音を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・子音 (一般子音と巻舌子音) ・母音 (単母音と複母音と鼻母音) ・簡単な発音 	練習問題を解答してくる。発音の練習をしてくる。
2	氏名・地名を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・代表的な氏名のピンイン ・数の数え方① ・アクセント ・簡単な挨拶 ・ビジネスで使う呼称 	練習問題を解答してくる。単語の発音の練習をしてくる。
3	判断文、疑問文の表現と文法を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・「是」の使い方 ・人称代名詞 ・指示代名詞 ・疑問詞 ・疑問詞疑問文 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。第1～3回までの学習内容を復習すること。
4	数詞と量詞および語順を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト1 ・数を尋ねる疑問詞 ・量詞の使い方 ・数の数え方② ・「兩」と「二」の違い 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。
5	動作を表す言葉と基本文型を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞述語文 ・完了の「了」 ・2種類の否定と語順 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。
6	動作の表現と3種類の疑問文などを覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・反復表現 ・副詞「還是」 ・終助詞「？」 ・所有の「有」 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。第4～6回までの学習内容を復習すること。
7	時間の表現と会話を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト2 ・年月日 ・曜日 ・時刻 ・時間を表す表現 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。
8	方位詞と存在の表現を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・位置を表す方位詞 ・方向を表す方位詞 ・存在文 ・「有」と「在」の違い 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。
9	形容詞の使い方、描写文、状態の表現を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・形容詞述語文 ・連用修飾語 ・形容詞の重ね型 ・副詞の「太、多」など 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。第7～9回までの学習内容を復習すること。
10	因果の表現を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト3 ・手段・方法を表す言い方 ・原因・理由を表す言い方 ・文型「因為・・・所以・・・」 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。
11	ビジネスのフレーズ1を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・出会いと別れ ・自己紹介 ・買い物 ・身のまわりの表現 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。
12	ビジネスのフレーズ2を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・アポイント ・商品の紹介 ・引き合い ・発注 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。第10～12回までの学習内容を復習すること。
13	実用ビジネス会話1を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト4 ・ビジネスフレーズ (オフィスフレーズ) ・助動詞の「想、要、打算」 ・依頼・命令表現 ・会話「ビザ申請」 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。
14	実用ビジネス会話2を覚える	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスフレーズ (納品と受領) ・会話「航空券の予約」 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。第13～14回までの学習内容を復習すること。
15	総復習	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト5 ・第11-14回の総復習 	練習問題を解答してくる。単語や文の発音の練習をしてくる。

関連科目 1年次の専門科目の中の各中国語科目

教科書

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	配布																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	小テスト50%、単元テスト50%。 出席は10回以上していないと単位は認定されません。																
学生への メッセージ	必修科目ですから、しっかり自覚をもって講義に臨んでください。 一時限開講科目ですが、遅刻はしないこと。 遅刻、欠席の場合は受験できないので、ご注意ください。																
担当者の 研究室等	兪研究室 (7号館3階)																
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																

科目名	ビジネス中国語 b	科目名 (英文)	Business Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1062e0		

授業概要・目的	本授業は初級レベルのビジネス中国語の習得をを目指す。中国語の学習を始めると同時に、将来ビジネスに役立つ中国語の運用能力を少しずつ習得する。後期の授業では、ビジネス現場ですぐに活用できる簡単な表現や、基礎となる文法知識と語彙を学ぶ。
到達目標	前期に引き続き、ビジネスシーンで使われる表現を通して、関連する語彙や初歩的な構文を習得する。
授業方法と留意点	この科目が必修科目であることに注意。また、授業の内容は1年生中国語専攻クラスの他の必修科目を履修していることを前提としている。ただし、他学部、他大学、社会人による単科目の受講は可能である。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	スコア式ビジネス中国語検定試験受験など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	搭乗手続き	・チケット提示、託送、両替などの表現を覚える。 ・会話を練習する。	各フレーズと会話を予習・復習すること。
2	入国手続き	・入国審査、税関での申告、乗り継ぎなどの表現を覚える。 ・会話を練習する。	各フレーズと会話を予習・復習すること。
3	出迎え	・初対面のあいさつ、ホテルの紹介などの表現を覚える。 ・会話を練習する。	各フレーズと会話を予習・復習すること。 前3回で習ったフレーズを復習すること。
4	宿泊と両替	・単元テスト1 (前3回の内容) ・宿泊、チェックイン、支払い、両替などの表現を覚える。 ・会話を練習する。	各フレーズと会話を予習・復習すること。
5	サービスの利用	・朝食バイキング、ドライクリーニングなどの表現を覚える。 ・会話を練習する。	各フレーズと会話を予習・復習すること。
6	温泉と食事	・温泉の入り方、旅館での食事などの表現を覚える。 ・会話を練習する。	各フレーズと会話を予習・復習すること。 前3回で習ったフレーズを復習すること。
7	トラブル	・単元テスト2 (前3回の内容) ・トラブル、クレーム処理などの表現を覚える。 ・会話を練習する	各フレーズと会話を予習・復習すること。
8	レストラン①	・席への案内、注文、要望などの表現を覚える。 ・会話を練習する	各フレーズと会話を予習・復習すること。
9	レストラン②	・ラストオーダー、お会計などの表現を覚える。 ・会話を練習する	各フレーズと会話を予習・復習すること。 前3回で習ったフレーズを復習すること。
10	病気になったら	・単元テスト3 (前3回の内容) ・症状、病状などの表現を覚える。 ・会話を練習する	各フレーズと会話を予習・復習すること。
11	会社訪問	・自己紹介、訪問の目的、自社の紹介などの表現を覚える。 ・会話を練習する	各フレーズと会話を予習・復習すること。
12	商談	・製品の PR、受注、発注などの表現を覚える。 ・会話を練習する	各フレーズと会話を予習・復習すること。 前3回で習ったフレーズを復習すること。
13	契約	・単元テスト4 (前3回の内容) ・交渉、懸案事項の確認などの表現を覚える。 ・会話を練習する	各フレーズと会話を予習・復習すること。
14	饂飩	・親睦会、もてなしなどの表現を覚える。 ・会話を練習する	各フレーズと会話を予習・復習すること。 前2回で習ったフレーズを復習すること。
15	総復習	・単元テスト5 (前2回の内容) ・各課の内容を復習する。	各フレーズと会話を予習・復習すること。

関連科目	1年次の専門科目の中の各中国語科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	小テスト 50%、単元テスト 50%。 出席は 10 回以上していないと単位は認定されません。
-----------	--

学生へのメッセージ	必修科目ですから、しっかり自覚をもって講義に臨んでください。 一時限開講科目ですが、遅刻はしないこと。 遅刻、欠席の場合は受験できないので、ご注意ください。
-----------	--

担当者の研究室等	兪研究室 (7 号館 3 階)
----------	-----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	ビジュアルデザイン論	科目名(英文)	Visual Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	漆 麟
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3228a0		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目です。人間が外部から得る情報量の約8割が視覚によるものといわれています。ビジュアルは人や物、企業やサービスのイメージを大きく左右するものであり、適切に且つ魅力的にデザインされるべきものです。この授業では、ビジュアルデザインの一般的な方法論について学び、制作を通して一連のデザインプロセスを体験・実践します。																																																																		
到達目標	ビジュアルデザインに関する基礎的な知識を得て、視覚的な表現に対する関心や表現力を高めると共に、身近な課題が解決できるスキルを身に付けることを目標とします。																																																																		
授業方法と留意点	この授業では講義に合わせて演習的な課題も行います。レポートや課題の発表等も予定しています。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要と進め方について</td> <td>デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ビジュアルデザイン方法論</td> <td>ビジュアルデザインのプロセスについて</td> <td>デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>デザインリサーチ1</td> <td>課題の見極め方について</td> <td>身近なビジュアルデザイン事例を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>デザインリサーチ2</td> <td>デザインリサーチとしての「考現学」について</td> <td>身近なビジュアルデザイン事例を調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ビジュアルデザイン発想論1</td> <td>アイデアの出し方について</td> <td>デザインリサーチ課題を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ビジュアルデザイン発想論2</td> <td>アイデアの出し方について</td> <td>デザインリサーチ課題を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>課題中間発表1</td> <td>デザインリサーチ課題の発表</td> <td>発表内容を振り返っておくこと</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>課題中間発表2</td> <td>デザインリサーチ課題の発表</td> <td>発表内容を振り返っておくこと</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ビジュアルデザインの形式制作</td> <td>形の作り方について</td> <td>最終制作を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ビジュアルデザインの形式制作</td> <td>形の作り方について</td> <td>最終制作を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>エコデザイン</td> <td>エコデザインについて</td> <td>最終制作を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ユニバーサルデザイン</td> <td>ユニバーサルデザインについて</td> <td>最終制作を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>最終制作指導</td> <td>制作のチェック</td> <td>最終制作を進めておくこと</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>最終制作発表1</td> <td>制作の発表</td> <td>発表内容を振り返っておくこと</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終制作発表2</td> <td>制作の発表</td> <td>発表内容を振り返っておくこと</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要と進め方について	デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと	2	ビジュアルデザイン方法論	ビジュアルデザインのプロセスについて	デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと	3	デザインリサーチ1	課題の見極め方について	身近なビジュアルデザイン事例を調べておくこと	4	デザインリサーチ2	デザインリサーチとしての「考現学」について	身近なビジュアルデザイン事例を調べておくこと	5	ビジュアルデザイン発想論1	アイデアの出し方について	デザインリサーチ課題を進めておくこと	6	ビジュアルデザイン発想論2	アイデアの出し方について	デザインリサーチ課題を進めておくこと	7	課題中間発表1	デザインリサーチ課題の発表	発表内容を振り返っておくこと	8	課題中間発表2	デザインリサーチ課題の発表	発表内容を振り返っておくこと	9	ビジュアルデザインの形式制作	形の作り方について	最終制作を進めておくこと	10	ビジュアルデザインの形式制作	形の作り方について	最終制作を進めておくこと	11	エコデザイン	エコデザインについて	最終制作を進めておくこと	12	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインについて	最終制作を進めておくこと	13	最終制作指導	制作のチェック	最終制作を進めておくこと	14	最終制作発表1	制作の発表	発表内容を振り返っておくこと	15	最終制作発表2	制作の発表	発表内容を振り返っておくこと
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要と進め方について	デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと																																																																
2	ビジュアルデザイン方法論	ビジュアルデザインのプロセスについて	デザイン関連書籍・雑誌を調べておくこと																																																																
3	デザインリサーチ1	課題の見極め方について	身近なビジュアルデザイン事例を調べておくこと																																																																
4	デザインリサーチ2	デザインリサーチとしての「考現学」について	身近なビジュアルデザイン事例を調べておくこと																																																																
5	ビジュアルデザイン発想論1	アイデアの出し方について	デザインリサーチ課題を進めておくこと																																																																
6	ビジュアルデザイン発想論2	アイデアの出し方について	デザインリサーチ課題を進めておくこと																																																																
7	課題中間発表1	デザインリサーチ課題の発表	発表内容を振り返っておくこと																																																																
8	課題中間発表2	デザインリサーチ課題の発表	発表内容を振り返っておくこと																																																																
9	ビジュアルデザインの形式制作	形の作り方について	最終制作を進めておくこと																																																																
10	ビジュアルデザインの形式制作	形の作り方について	最終制作を進めておくこと																																																																
11	エコデザイン	エコデザインについて	最終制作を進めておくこと																																																																
12	ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインについて	最終制作を進めておくこと																																																																
13	最終制作指導	制作のチェック	最終制作を進めておくこと																																																																
14	最終制作発表1	制作の発表	発表内容を振り返っておくこと																																																																
15	最終制作発表2	制作の発表	発表内容を振り返っておくこと																																																																
関連科目	他の「メディアビジネス」プログラム対応科目など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>問題解決ができる、デザインの発想法</td> <td>エレン・ラブトン編集、郷司陽子訳</td> <td>ピー・エヌ・エヌ新社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	問題解決ができる、デザインの発想法	エレン・ラブトン編集、郷司陽子訳	ピー・エヌ・エヌ新社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	問題解決ができる、デザインの発想法	エレン・ラブトン編集、郷司陽子訳	ピー・エヌ・エヌ新社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業中に課すレポート・課題の評価及び授業での参加態度により総合的に評価します。(課題・レポート点70%、授業参加点30%) なお、出席数が2/3に達するものを成績評価の対象とします。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	授業時間外での質問等についてはメール(leonakid@hotmail.co.jp)にてご連絡ください。 事前・事後学習にかかる総時間は60時間です。																																																																		

科目名	美術の歩み	科目名(英文)	Art History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>【作品の見方と語り方】</p> <p>美術史と美術批評の方法を概観し、芸術作品の「見方」と「語り方」を確認する。そのために、重要な美術史家と美術批評家をピックアップし、それぞれの代表的なテキストと具体的な作品分析をたどることで、芸術作品の「記述」と「評価」がいかに移り変わってきたのかを検討する。これを言い換えるなら、美術史と美術批評がいかに練り上げられてきたかを理解するということである。それとおとして、著名な画家の名前や代表的な作品名をただ暗記して満足するというレベルを越え、自分の目で作品を「見」て自分の言葉で作品を「語」ることのむずかしさとおもしろさを体感する。</p>
到達目標	<p>以下の2点について、自分の言葉で説明できるようになること。</p> <p>1. 芸術作品を「見て語る」方法が多岐にわたることの理由 2. 芸術作品を前にして、自分だけの眼と言葉を持つことがむずかしい理由</p>
授業方法と留意点	<p>授業は全編スライドをもちいた講義形式で、スライド内の文字情報はハンドアウトとしてあらかじめ共有する。</p> <p>各回の最初に10分ほど前回の質問に対するフィードバックの時間を取り、各回の最後に10分ほど質問を入力する時間を取る。</p>
科目学習の効果(資格)	芸術作品を鑑賞する方法の理解【学芸員資格】

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業概要の説明と歴史叙述についての解説	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
2	伝記	作家の人生を基準にする方法の確認/ジョルジョ・ヴァザーリに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
3	考古学	古代の精神を基準にする方法の確認/ヨハン・ヴィンケルマンに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
4	解剖学	骨格のカタチを基準にする方法の確認/ジョヴァンニ・モレリに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
5	様式論	カタチの進化を基準にする方法/アロイス・リーグルに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
6	美術史	カタチの比較を基準にする方法/インリヒ・ヴェルフリンに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
7	図像学	カタチの意味を基準にする方法/エミール・マールに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
8	イコノロジー	カタチの記憶を基準にする方法/エルヴィン・パノフスキーに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
9	知覚心理学	眼差しの記憶を基準にする方法/エルンスト・ゴンブリッチに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
10	系譜学	眼差しの経験を基準にする方法/マイケル・バクサンドールに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
11	フォーマリズム#1	カタチの新しさを基準にする方法/クレメント・グリーンバーグに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
12	フォーマリズム#2	カタチの価値を基準にする方法/マイケル・フリードに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
13	脱構築	価値の相対化を基準にする方法/ロザリンド・クラウスに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
14	フェミニズム	ジェンダーの非対称を基準にする方法/グリゼルダ・ポロックに対する評価	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
15	まとめ	理解度確認テストの実施と総括としての解説	事前:これまでのハンドアウトとノートを整理する(60分)。事後:間違えたところを確認する(30分)。

関連科目 芸術文化論/暮らしの中の文化

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	西洋美術史ハンドブック	(編) 高階秀爾・三浦篤	新書館
	2	モダニズムのハード・コア 現代美術批評の地平	(編) 浅田彰・岡崎乾二郎・松浦寿夫	太田出版
	3	美術史の歴史	ヴァードン・ハイド・マイナー	ブリュッケ
評価方法 (基準)	毎回の質問 80%、小テスト 20%			
学生への メッセージ	<p>毎回授業の終わりに質問をひとつ入力してもらおう。その質問の内容で評価をつけていく。評価の基準は「知識の豊富さ」ではなく「自分できちんと考えられるかどうか」である。この基準については、毎回のフィードバックをとおして具体的に認識していくことができるだろう。</p> <p>体調不良だと考えることも難しくなるので、ぜひ、体調は整えて出席してもらいたい。</p>			
担当者の 研究室等	7号館 5階 杉山研究室			
備考	質問に対する応答は「Q&A シート」を作成し、次回の授業にてフィードバックする。			

科目名	風土と地理	科目名(英文)	Climate and Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1172a0		

授業概要・目的
 地理学は、地表面で展開している諸現象を地理空間(地域)との関係においてその構造や特徴を明らかにする学問です。そのため地理学が扱う領域は幅広く、多岐にわたっています。大学で学ぶ地理学は、高校までの「暗記科目としての地理」とは異なり、将来みなさんが地域を理解するためのツールになります。「地理=暗記=苦手」と思ってきた方にも、この講義を通じて地理学の魅力に触れてみてほしいと思っています。本講義では、地理学が扱う様々な研究トピックを紹介することを通じて、地理学の基礎的な知識と考え方を身につけることを目的とします。

到達目標
 ①地理学に関する基本的な知識・考え方が理解できる。
 ②身近な地域や日本/世界が抱えている問題について、地理学的見地から考察することができる。

授業方法と留意点
 基本的には投影資料を用いた講義形式で授業を進めるが、グループワークや各種作業、成果報告等もおこなう。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション:地理学とは・風土とは	授業の概要、目的、評価方法を説明するとともに、今後の授業計画を確認する	予習:中学・高校における地理の教科書にはどのような特徴があるかを考える(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
2	地理学の成立と方法論	地理学の発達史、地理学における地域の見方(地域スケール・地域分類)などについて概説する	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
3	身近な地理学	受講者に対する調査結果から、現象を読み解く地理学の思考方法について学ぶ	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
4	地図を知る1	地図の発達やその種類・用途などを説明し、現在は身近となった地図の重要性について考える	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
5	地図を知る2	メンタルマップ(認知地図)を試しながら、人間がどのように空間を認知しているのかを学ぶ	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
6	都市と農村	都市の発達や農村の現代的役割を学ぶことを通して、具体的な地域の特性を理解する	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
7	海と山	分けて考えられがちな海と山のつながりを学び、自然環境の基礎を知る	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
8	観光と地理学1	観光行動の発達、日本人の観光行動の歴史、現在の観光の状況をデータ等を調べながら学ぶ	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
9	観光と地理学2	観光行動と場所イメージ、観光と文化の関係について概説する	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
10	観光と地理学3	実際に観光地について調べながら、観光地のタイプや成立の要因、発展過程などを分析する	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
11	観光と地理学4	観光地について調べたことを発表する	予習:発表準備をする(60分) 復習:授業内容を復習する(30分)
12	環境問題	地球規模やローカルな環境問題について概説し、地理学や関連分野の研究成果を紹介する	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
13	自然災害	地震・土砂災害を事例に、地理学が自然災害への対処や防災においてどのように役立つのかを解説する	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
14	グローバリゼーション	グローバリゼーションによって地域はどのように変化するのか、またそれに対し地理学がどのような視座を提供できるのかを概説する	予習:配布資料を読む(30分) 復習:授業内容を復習する(30分)
15	まとめ	これまでの総括を行い、地域や現象に対する地理学的な視点がどのように活かされるのかを考える	予習:これまでのノートを整理する(60分) 復習:期末レポートのための復習をする(90分)

関連科目 「アーバンツーリズム論」「エコツーリズム論」「地域環境論」など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 授業への取り組み(リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等)(60%)と期末に提出するレポート(40%)で評価します。

学生へのメッセージ 高校地理を学んでいない人でも理解できる内容を扱います。

担当者の研究室等 7号館5階(手代木研究室)

備考 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2014b0		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
4	ロールプレイ: 空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
8	ロールプレイ: ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
10	モチベーション作り: 目標を達成するには/英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
12	ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad</td> <td>Lesley Riley & Nick Shackelford</td> <td>Perceptia Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館5階(田浦研究室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Practical English Conversation	科目名(英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2014b0		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
4	ロールプレイ:空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
8	ロールプレイ:ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
10	モチベーション作り:目標を達成するには/英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
12	ロールプレイ:教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad</td> <td>Lesley Riley & Nick Shackelford</td> <td>Perceptia Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	共通課題(成果物・成果発表)15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Practical English Conversation	科目名(英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	クリスティー ジョストン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2014b0		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
4	ロールプレイ: 空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
8	ロールプレイ: ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
10	モチベーション作り: 目標を達成するには/英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
12	ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)
15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad</td> <td>Lesley Riley & Nick Shackelford</td> <td>Perceptia Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	共通課題(成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	フランス語Ⅱ a	科目名(英文)	French IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中井 裕之
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。—例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくはないでしょうか？あるいはフランスに旅行に行つたとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくはないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書を使用するので購入して教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語技能検定試験)5級へ向けた学力の準備をする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	『話したくなるフランス語』導入(pp.2-3)	アルファベットとその読み方	『話したくなるフランス語』導入部の予習復習
3	『話したくなるフランス語』第1課(pp.4-9)	物の名前を正確に言う 数字の読み方(1)	『話したくなるフランス語』第1課の予習復習、練習問題1
4	『話したくなるフランス語』第1課つづき	文法事項：男性名詞と女性名詞 名詞の複数形 つづり字と発音(1)	『話したくなるフランス語』第1課の予習復習、練習問題2
5	『話したくなるフランス語』第2課(pp.10-15)	基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や仕事や住んでいる場所などについて話す 国、都市の名前	『話したくなるフランス語』第2課の予習復習、練習問題3
6	『話したくなるフランス語』第2課つづき	文法事項：否定文 つづり字と発音(2)	『話したくなるフランス語』第2課の予習復習、練習問題4、練習問題5
7	『話したくなるフランス語』第3課(pp.16-21)	好き嫌いの言い方 食べ物、飲み物の名前	『話したくなるフランス語』第3課の予習復習、練習問題6、練習問題7
8	『話したくなるフランス語』第3課つづき	文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文 リエゾン・エリズイオン・アンシェスマン 主語人称代名詞、-er 動詞の変化	『話したくなるフランス語』第3課の予習復習、練習問題8
9	『話したくなるフランス語』第4課(pp.22-27)	人の身分や特徴の表現 国籍、職業の呼び方	『話したくなるフランス語』第4課の予習復習、練習問題9、練習問題10
10	『話したくなるフランス語』第4課つづき	文法事項：形容詞の男性形と女性形 ETRE の変化	『話したくなるフランス語』第4課の予習復習、練習問題11、練習問題12
11	『話したくなるフランス語』第5課(pp.28-33)	動詞 avoir を使った表現 親族の名称	『話したくなるフランス語』第5課の予習復習、練習問題13、練習問題14
12	『話したくなるフランス語』第5課つづき	文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞 avoir の変化 つづり字と発音(3)	『話したくなるフランス語』第5課の予習復習、練習問題15、練習問題16、練習問題17
13	『話したくなるフランス語』第6課(pp.34-39)	動詞 aller を使った表現 乗り物の言い方	『話したくなるフランス語』第6課の予習復習、練習問題18
14	『話したくなるフランス語』第6課つづき	文法事項：前置詞と定冠詞の縮約 指示形容詞 aller の変化	『話したくなるフランス語』第6課の予習復習、練習問題19、練習問題20
15	まとめ	前期学習内容の確認とまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

関連科目 後期のフランス語 II を合わせて履修することが望ましい

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
2				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著]、柳沢文昭[訳注]	第三書房
2				

評価方法(基準) 小テスト(50%)と平常点(授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など)(50%)

学生へのメッセージ 楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をする楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	フランス語Ⅱ b	科目名(英文)	French IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中井 裕之
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口をついて出るようになります。
授業方法と留意点	基本的な表現を繰り返し口に出して練習する。リスニング、練習問題の解答、学生同士の練習を行なう。教科書(『かたつむりの歌(Chanson des Escargots)』、『話したくなるフランス語』)を使用するので教室に持ってくる。授業への積極的な参加を望みます。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語技能検定試験)5級に相当する学力を目指す。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく
2	動詞活用表	さまざま動詞の活用 以降、適宜、『かたつむりの歌』を味読する	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表
3	『話したくなるフランス語』第7課(pp.40-45)	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題21
4	『話したくなるフランス語』第7課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音(4) CONNAITREの変化	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題22、練習問題23
5	『話したくなるフランス語』第8課(pp.46-51)	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題22、練習問題24
6	『話したくなるフランス語』第8課つづき	文法事項：pouvoirの変化 つづり字と発音(5) 条件法	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題25、練習問題26
7	『話したくなるフランス語』第9課(pp.52-57)	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題27
8	『話したくなるフランス語』第9課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題28、練習問題29
9	『話したくなるフランス語』第10課(pp.58-63)	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題30
10	『話したくなるフランス語』第10課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題31
11	『話したくなるフランス語』第11課(pp.64-69)	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』ト第11課の予習復習、練習問題32、練習問題33、練習問題34
12	『話したくなるフランス語』第11課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題35、練習問題36
13	発展的学習(1)	役に立つ表現と文法事項の補足(1) 会話練習(1)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
14	発展的学習(2)	役に立つ表現と文法事項の補足(2) 会話練習(2)	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習
15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック

関連科目 前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	かたつむりの歌(Chanson des Escargots)	田島宏[編], プレヴェール[著]	第三書房
2	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	対訳フランス語で読もう「異邦人」	アルベール・カミュ[著], 柳沢文昭[訳注]	第三書房
2				
3				

評価方法(基準)	小テスト(50%)と平常点(授業への参加の度合い・取り組む姿勢・発表・宿題の提出など)(50%)
学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をする楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	連絡等は授業教室または非常勤講師室で金曜日の授業時間の前後に口頭または文書で。授業時間外の質問等については相談の上、個別に時間を決めて応じる。事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	フランス語Ⅲ a	科目名(英文)	French IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	フランス語会話の初級1
到達目標	フランス語のごく基本的な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	毎回一定のテーマに沿って、基本的なフランス語の会話表現を紹介し、それを用いて実際に対話の練習を行う。原則として一つのテーマが終了するたびに、簡単な確認テストを行う(5~10分程度：形式は聞き取りや短い発話)。併せて、フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。
科目学習の効果(資格)	仏検(実用フランス語検定)5級の聞き取り問題に対応できるオーラルの力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	自己紹介・あいさつ等の復習(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
3	自己紹介・あいさつ等の復習(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
4	友人や家族を紹介する(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
5	友人や家族を紹介する(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
6	身の回りの物について尋ねたり答えたりする(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
7	身の回りの物について尋ねたり答えたりする(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
8	好き嫌いを言う(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
9	好き嫌いを言う(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
10	カフェでの注文と支払い(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
11	カフェでの注文と支払い(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
12	もののある場所、位置関係を言う(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
13	もののある場所、位置関係を言う(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
14	復習と総括・発音のまとめ(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
15	復習と総括・発音のまとめ(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

評価方法(基準)	①期末試験は実施しない。 ②授業時の会話練習への積極な参加を第一とし(50%)、加えて確認テスト、映画鑑賞後のコメント等(50%)を加えて評点を算出する。
----------	--

学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけでなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあって、上記の計画は大幅に変更することもできます。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。 事前・事後学修に各1時間を要する。
----	--

科目名	フランス語Ⅲ b	科目名(英文)	French IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	フランス語会話の初級2
到達目標	フランス語の基本的な日常会話ができるようになる。
授業方法と留意点	毎回一定のテーマに沿って、基本的なフランス語の会話表現を紹介し、それを用いて実際に対話の練習を行う。原則として一つのテーマが終了するたびに、簡単な確認テストを行う(5~10分程度：形式は聞き取りや短い発話)。併せて、フランス文化の諸相を映画・音楽を用いて紹介する。特定の教科書は使用せず、自作のプリント教材をその都度配布する。
科目学習の効果(資格)	フランス語 III と合わせて、仏検(実用フランス語検定)4級の聞き取り問題に対応できるオーラルの力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 フランスの映画・音楽鑑賞	オリエンテーションとこれまでの学習 内容の確認 簡単な口頭練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
2	食事と食材に関する表現 (1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
3	食事と食材に関する表現 (2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
4	服飾に関する表現(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
5	服飾に関する表現(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
6	日常のスケジュール(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
7	日常のスケジュール(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
8	旅行に関する表現(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
9	旅行に関する表現(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
10	レストランでの注文と支払い(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
11	レストランでの注文と支払い(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
12	天候に関する表現(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
13	天候に関する表現(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。これがそのまま次回の確認テストの準備となる。
14	総括と総復習(1) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習 確認テスト	授業で扱った表現の発音練習と暗記。
15	総括と総復習(2) フランスの映画・音楽鑑賞	口頭練習と聞き取り練習	授業で扱った表現の発音練習と暗記。

関連科目	会話を初歩から学ぶので、フランス語 I, II を履修していなくても選択可。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	①期末試験は実施しない。 ②授業時の会話練習への積極的な参加を第一とし(50%)、加えて確認テスト、映画鑑賞後のコメント等(50%)を加えて評点を算出する。
学生へのメッセージ	単に語学の勉強というだけではなく、フランスの様々な姿や、日本との違いを一緒に考えてみたいと思います。なお、皆さんのこれまでのフランス語学習内容等にあわせて、上記の計画は大幅に変更することもできます。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	質問等は授業時および授業終了後に直接対応する。 事前・事後学修に各1時間を要する。

科目名	プレゼンテーション	科目名(英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関する事)を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	Giving a presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids can contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 フーバー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	プレゼンテーション	科目名(英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関する事)を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework will benefit most from this course. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名(英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センテージ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Be prepared to share your ideas and opinions with everyone.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名(英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること)を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名(英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリノズ
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル(身振り、姿勢、話し方など)や発表構成(導入・展開・結論)を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報(自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関する事)を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の進め方を確認するとともに、アイコンタクトについて予習する。(1時間)
2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1時間)
3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1時間)
4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1時間)
5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1時間)
6	プレゼンテーション(1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する(1時間)
7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1時間)
8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1時間)
9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1時間)
11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1時間)
12	プレゼンテーション(2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1時間)
13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1時間)
14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1時間)
15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容や表現方法について総復習する。(1時間)

関連科目	ドラマなど
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	Cengage
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	Giving a good presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids can contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for more than four classes (per semester) will fail the course. If you come to class more than 30 minutes late, it will count as one absence.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーションインドネシア・マレー語	科目名(英文)	Indonesian Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3140d0		

授業概要・目的	フォーマル/インフォーマルなさまざまな局面でのマレー語を使った適切な表現を理解するとともに、マレー語で意志を伝達する訓練を行う。少なくとも三回の発表の機会を設けて、フォーマルなマレー語原稿の作成と発表のための口頭表現を実践的に学ぶ。学習の成果を計るため、マレー語プレゼンテーションコンテストへの参加を必須とする。
到達目標	マレー語能力の向上。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> *「マレー語プレゼンテーションコンテスト」への参加を必須とする。 *資料の収集やマレー語を使った課題を出すので、これらに自主的に取り組むこと。 *授業では資料の読解や文章作成の指導をおこなうとともに、提示した資料がどのような社会的背景を有するかも併せて解説する。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。
2	紹介1	組織や事項について書かれたマレー語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
3	紹介2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた紹介文を探し、講読する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
4	紹介3	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらマレー語による紹介文を作成する。	紹介文の完成
5	演習1	紹介文を発表する。	既習事項を確認する
6	文書1	マレー語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
7	文書2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた書類の内容を理解する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
8	文書3	既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。	文章の完成と推敲
9	演習2	作成した文書を発表する。	既習事項を確認する
10	広告1	マレー語の広告表現について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
11	広告2	マレー語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲
12	論説1	新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
13	論説2	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	既習事項の復習
14	演習3	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	文章の完成、プレゼンテーションの準備
15	総合演習	これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成

関連科目	インドネシア・マレー語関係の授業
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのこぼと辞書の会
	2			
	3			

評価方法(基準)	「マレー語プレゼンテーションコンテスト」を含めて三回実施する演習課題(70%)、その他課題の提出状況等授業への取り組み(30%)から総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	マレー語を使った表現を楽しみましょう。
-----------	---------------------

担当者の研究室等	7号館5階上田研究室
----------	------------

備考	<p>受講者の人数と関心を見て、課題の作成方法や提出方法を決定します。初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。</p> <p>参考書は本学図書館にも所蔵しているので、課題に取り組む際には大いに参考にすること。</p> <p>事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。</p>
----	---

科目名	フレッシュマン イングリッシュ	科目名(英文)	Freshman English
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文100』に基づいた「100SS筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
6	存在文(there構文)と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
7	非人称のit文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
8	haveとgetの用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
13	英作文(筆記)テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)。
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習(1時間)。

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英会話が上手になる英文法	松本 茂	NHK出版
2				
3				

評価方法(基準)	TOEIC基本語彙テスト 30%、100SS筆記テスト 30%、授業中の小テスト・発表、提出物等 40%
学生へのメッセージ	英語を好きになることから始めてみましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後または学生アドバイザーにて対応する。

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	前半は各自がテーマを複数考え、みなでディスカッションしながらテーマを絞り込む。また、文献の検索方法や研究の方法論について学ぶ。後半は絞り込んだテーマについて調べ、レポートにまとめ、報告、議論する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>【授業テーマ】 歴史、文化とは何か 文献の検索と活用方法 テーマ設定</p> <p>【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミ活動への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	赤澤研究室 (7号館4階)		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	前期では、担当教員の指導のもと社会貢献活動などの学外活動による課題発見対処能力を高める。その活動の中で、社会問題を提起する。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確コミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	このゼミは、「夢」を持ちそれに向かって全力投球したい学生のゼミであることから様々な課題を自分自身で課すことになる。課題発見解決能力の開発や、現場ですぐに役立つ実践力を高めるプログラムを実践する。また、幼稚園、小学校、中学校の教員を目指す学生には教員採用試験の過去問題や面接対策の勉強会を行う。OB・先輩・外国人との交流が多く、年間3～4回のゼミ合宿に必ず参加することを強く希望する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べる。</p> <p>計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミ活動参加 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表力 20%で判断する。																		
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。文献はスペイン語、英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献（本・資料）を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。																		
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	とにかく、毎日、論理的な書き物に触れること。日頃から、物事について思考を巡らせること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマは、スペイン語学および社会言語学、文化史の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられるものと思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代スペイン語の文法、語彙、地域変種（ラテンアメリカのスペイン語など） ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育 ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革と言語など <p>とにかく文章を読み、要約し、発表する。</p>																		
関連科目	スペイン語専攻の諸科目、言語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	日ごとの受講姿勢（読書や議論、発表に対する意欲と準備の有無、精度）と発表およびレポート等の質による。それぞれ50%ずつを目安として判断する。																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	読書会を通して「物語とは何か」という問題に取り組む。																		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>文学を難しい・堅苦しいと思っていませんか。しかし文学を〈物語〉に置き換えてみるとどうでしょう。小説、映画、演劇、おとぎ話など、私たちは子どもの頃より物語と共に成長してきました。物語をとおして／物語として、物事の感じ方、社会のルール、自分のこと、他人のことを学ぶのです。だから、私たちは自分のことを話すときに、物語にして語りたくなるのです。天野ゼミでは〈物語〉を楽しむコツを学びます。コツをつかんで面白く文学を読むことができれば、きっと新しい自分が発見できることでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館ガイダンスをおこなう 2. 読書会をする 3. レポートを書く 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>テーマ「戦後の日本の社会と文化の変遷」</p> <p>戦後日本社会の歴史的な変遷を追跡するなかで、様々な問題を取り上げる。教科書を中心として、さらに参考資料を読み合わせ、ディスカッションやディベートを行うことを通じて、問題の本質に迫っていくことを目指す。</p> <p>これと並行して、卒業研究レポートの準備を行う。テーマの選定、文献の蒐集と読解、またそれに必要なスキルを身につける。</p>																
到達目標	<p>現代社会の問題やそこで生きる人間のあり方について、自分なりに問題意識を涵養する。</p> <p>人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。</p> <p>必要な文献の蒐集と読解をする。</p>																
授業方法と留意点	<p>ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。</p> <p>卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】</p> <p>①日本の戦後の現代史を概観 政治・経済の問題も視野に入れつつ、日本の文化の変化について概観する。その際、経済・社会の基礎的知識も身につけて欲しいと思います。基本図書として、池上彰『そうだったのか！ 日本現代史』（集英社文庫）を使用。</p> <p>②掘り下げて調べるべき課題をそれぞれが見つける 興味を持ったテーマに関してグループないしは個人で資料や文献、さらに調査を進める。例えば、駅前の商店街の繁栄と衰退、郊外のショッピングセンターが開発と店舗の変化など</p> <p>③発表とディスカッションを通じて相互に理解する力を養う 調べた結果をパワーポイントで発表する。その際、お互いに質問や意見交換をすることで、多様なものの見方を獲得することを目指す。</p> <p>【方法】</p> <p>資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。</p> <p>【事前事後学習課題】</p> <p>発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 大学生のためのレポート・論文術</td> <td>小笠原喜康</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>そうだったのか！ 日本現代史</td> <td>池上彰</td> <td>集英社文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書	2	そうだったのか！ 日本現代史	池上彰	集英社文庫	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書														
2	そうだったのか！ 日本現代史	池上彰	集英社文庫														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション] (60%)、レポート (40%) で評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室																
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。前半は文化人類学者による調査に関する参考文献を講読する。文献の講読を通じて、人類学的なものの見方について学ぶ。後半は受講者自身による調査主題の設定に当てる。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。																		
到達目標	適切な調査テーマを設定するとともに、そのアプローチの仕方を知る。																		
授業方法と留意点	前半は文化人類学に関する文献講読を行う。毎回の授業では文献に関する内容の理解を問う。後半はディスカッション等に当てる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読と相互のディスカッションが中心になる。発表担当者は文献の内容について30分程度で報告をする。コメント担当者は5分程度のコメントが求められる。聴衆は発表についての質問をすることが求められる。いずれの役割を担うにしても、ゼミの時間を有意義に使うために、授業の前後には指定された文献を精読しておくこと。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発言や質問など、演習への主体的な取り組み (20%)、課題 (50%)、口頭発表 (30%) に基づいて行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 (上田研究室)																		
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。 総学修時間数は60時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力をもとに、自身が取り組む研究テーマを絞り込む。この演習では世界経済の構造、動向、企業間関係、企業行動、多様な商品のサプライチェーンについてグローバル・バリュー・チェーンの視角から検討し、世界に分散する生産ネットワークの発展およびそれが生み出す社会問題に焦点を当てて学ぶ。世界経済へのアプローチの仕方と分析的思考を養い、それと同時に文献検索、論文読解、資料調査、現地調査の手法を体得することを目的とする。なおこの演習はグループディスカッションとプレゼンテーションを中心に展開する。発言力、議論の調整力、意見の集約力を向上させることが期待される。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の批判的検討をもとに自らリサーチクエスチョンを設定し、検証に必要な資料を収集できる。 ・自身の研究課題の面白さと重要性、および研究の進捗状況を分かりやすくかつ興味深く発表することができる。 ・ディスカッションのために情報収集することができ、かつディスカッションにおいて意欲的に発言することができる。 ・多様な意見を調整し、グループ（あるいは個人）としての結論を導くことができる。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・文献からバリューチェーンの研究の理論的・実証的知識を得て、その知識をグループディスカッションのなかで応用し、自らの言葉で発表することによって理解を深めていく。 ・各自の研究課題が見えてきたら、研究手法、データの収集と分析、論文の技法といった技術面の解説も加えていく。 																
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>[授業テーマ・内容・方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①世界経済とバリューチェーンの文献の輪読、発表、議論。 ②ディスカッションとプレゼンテーションのマナーと技法 ③研究の方法（研究課題の設定の仕方、文献収集） <p>[事前事後学習課題]</p> <p>輪読、発表の準備等、随時授業にて指示する。 各自の研究の進捗状況について、学期中2～3回のレポートを課す。 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	ディスカッションと発表の質（討論の内容、運営、発表の内容）40%、レポートの内容（論点の絞り込みと論の展開）40%、輪読その他のゼミ活動への参加意欲 20%																
学生へのメッセージ	どんな些細な意見でもかまわないので、まずはしっかりと発言することと他人の言葉をしっかりと聞くことを強く意識してください。2年間さらにはその先もこだわり続けられるテーマを見つけてください。																
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後学習の総学修時間数は60時間 ・ディスカッションとプレゼンテーションへのフィードバックは授業中に、レポートに対するフィードバックは15回目の授業のなかで実施する。 																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への積極性 50% 授業での発言 20% 課題 30%		
学生へのメッセージ	これから2年間、一緒に頑張っていきましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室 (7号館5階)		
備考	総学修時間数は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 グループやペアでの活動を通して、卒業後も生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。 																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身につける。 想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。 実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 新聞やニュースの記事（日本語・英語）、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 いづれもスピードが要求されるので、毎回の授業に全力で取り組んでください。 																
授業テーマ・内容・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、英術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 今年のテーマは「文学と映画」です。</p> <p>なんとなく観ておもしろい、を超えた分析をできるように、いくつかの作品を例に文献を読んだりディスカッションしたりします。予習で映像をじっくり観ること、を指定する週もあります。</p> <p>また、学期中に複数回、ビブリオバトルを行います。おもしろい本をたくさん読んで準備してください。</p> <p>【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行き調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント教材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント教材			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	プリント教材																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業にて紹介します</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業にて紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	授業にて紹介します																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 授業での協働作業 30% プレゼンテーション 30% レポート 40% 																
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																
備考	担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方 ほか 事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	英書や和書の読解を通して、物事を深く理解し、自分の意見を表現できるようになることを目標とする。																		
授業方法と留意点	主な活動として文献読解を行い、授業中に理解度を確認します。他の活動として、英語の技能を向上させるための練習や、西洋・日本文化の理解を深めるための活動などを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 文献購読</p> <p>【内容・方法】 指定部分を全員が事前に読み、授業中は互いに理解度を確認しあう。 卒業研究の準備として、資料調査の実習を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業初回の話し合いで決定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業初回の話し合いで決定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業初回の話し合いで決定する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業にのぞむ姿勢や態度 (50%)、発表内容 (発表の仕方や積極性など) とレポート等 (50%) を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室																		
備考																			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	米国の社会学者 Harvey Sacks たちによって創始された会話分析 (Conversation Analysis) の方法論について、基本的な考え方や分析手続き・分析方法を、講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら議論する) を交えながら学んでいく。また、並行して、研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等についても随時触れていく。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会話分析の基本的な考え方や分析手続き・分析方法を理解する ・会話分析の方法論に基づき、実際の会話データを使って、基本的な構造を分析できる ・研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等に関する基本的な知識を身に付ける 																		
授業方法と留意点	授業では、講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する) を交えて進めていきます。特に、データ・セッション時には、議論に積極的に参加してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ： 会話分析の基礎を理解する</p> <p>内容： 1. 会話分析の視点と研究プロセス 2. 発話の順番交替に係る組織について 3. 発話の連鎖に係る組織と発話の「優先性」に係る組織について</p> <p>方法： 講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する) を交えて行います。また、講義の一部については、担当学生に教科書の指定範囲について発表してもらいます。</p> <p>事前、事後の学習課題： <ul style="list-style-type: none"> ・指定教科書を事前に読んだり、授業後に読んで復習する ・データ分析の課題に取り組んでもらいます </p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会話分析の基礎</td> <td>高木智世他</td> <td>ひつじ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会話分析の基礎	高木智世他	ひつじ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	会話分析の基礎	高木智世他	ひつじ書房																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎から分かる会話コミュニケーション</td> <td>高梨克也</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>会話分析基本論集</td> <td>H. サックス他 (西坂仰 訳)</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>会話分析入門</td> <td>串田秀也他</td> <td>勁草書房</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から分かる会話コミュニケーション	高梨克也	ナカニシヤ出版	2	会話分析基本論集	H. サックス他 (西坂仰 訳)	世界思想社	3	会話分析入門	串田秀也他	勁草書房
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基礎から分かる会話コミュニケーション	高梨克也	ナカニシヤ出版																
2	会話分析基本論集	H. サックス他 (西坂仰 訳)	世界思想社																
3	会話分析入門	串田秀也他	勁草書房																
評価方法 (基準)	期末レポート：50% 課題：30% 授業参加度 (ディスカッション・発表を含む)：20%																		
学生へのメッセージ	会話分析は、言葉の形や意味そのものの分析ではなく、私たちが言葉を使って何をしているか、という切り口から見ていきます。ありふれた (日常) 会話の分析を通じて、いっしょに新しい発見をしていきましょう！！																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 (これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。)		
授業方法と留意点	フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所に何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙 (調査)、観光地における英語の調査のため、京都などへ出向きます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・(人間の) 言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか (どのような違いがあるのか) 等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミおよび課題への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。 単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> *日本語学習者の言語習得 *日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 *外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション *海外における日本語教育 *在住外国人や留学生に関すること 等々です。 <p>海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> *専門的な知識を得る。 *文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 *テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 *アカデミックライティングのスキルを身につける。 *ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 *卒業研究のテーマの設定を行う。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、4年時の卒業研究につなげていく。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。 発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。 発表後は、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 (毎回 1.5H) 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。</p>																
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」																
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>文献資料、プリントを配布する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文献資料、プリントを配布する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	文献資料、プリントを配布する																
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業で指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	授業で指示する																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加度(10%)、発表及びその他課題 (30%)、レポート (60%) によって総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれら基になっているのは言語(日本語)です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人(日本語を母語としない人)に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語や日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。																
担当者の研究室等	門脇研究室 (7号館4階)																
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>Theme: Tourism and Hospitality</p> <p>We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, do tour-guiding and discuss the importance of good service and polite spoken and written English for hospitality.</p>																		
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook.</p> <p>Youtube will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged.</p> <p>We will also study the play to be attended during the first term, looking at four skills - speaking, listening, reading and writing to build up those skills.</p> <p>(Second term) Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ON-TIME attendance, oral presentations, reading books for pleasure in English, writing and research for the thesis questionnaire will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and outside events.																		
学生へのメッセージ	English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.																		
担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)																		
備考	事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>《近現代地域研究》</p> <p>各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。</p>																		
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	原則として隔週で発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	事前事後学習時間は、総計で60時間を目安とする。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマを各自が設定し、テーマについて関心を深めていく作業を行います。																		
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける																		
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ</p> <p>【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は60時間以上を目安とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況（議論での積極性等）（50%）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50%）によって評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 手代木研究室																		
備考	総学修時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文 (研究レポート) を書くゼミです。各自、3 年次終了時点で合計 12000 字 (40 字 x30 行で 10 ページ) 以上のレポートを書くことを目標にします。4 年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業論文に発展させることを目指します。</p> <p>各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。</p>																
到達目標	<p>前期のうちに、アメリカ合衆国についての基礎的な知識を増やし、各自の卒業研究の仮テーマを決め、資料を読み、文章を書く練習を始める。小さなレポートをいくつか積み重ね、合計で少なくとも 6000 字以上を提出する。</p>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の数週間は、全員で共通の資料を読み、アメリカ社会についての共通の理解事項を作ります。その後は、各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 ・毎週文書を PC で作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PC の基本操作は必須であり、自分の PC を所有しているか、好きな時に使える PC を学内および自宅に確保しておく必要があります。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。</p> <p>「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホントス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「白雪姫」 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】</p> <p>資料を探し、読み、資料に基づいて文章を書くことを日々の習慣にすること。少なくとも週あたり 2 時間程度は時間の確保が必要です。</p>																
関連科目	卒業研究 I、卒業研究 II																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	初回授業で指示																
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	初回授業で指示																
2																	
3																	
評価方法 (基準)	ゼミ活動への貢献 (50%) + 複数の小レポートの総量と質 (50%)																
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張っていたらと思います。																
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室																
備考	総学修時間数は 6 0 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次までに培った学修上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネスと文化・社会の関係を中心に具体的な事例とともに研究していきます。 ・文献・資料あるいは現地で調査し、それを分析する力や、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を養うことなどを授業目的とします。 		
到達目標	主にビジネスの観点から、国際社会や異文化に関する理解を深めることと、それに基づいて後期の文化演習Ⅱや4年次の卒業研究につながるような研究テーマを見つけることを目標とします。		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やビジネス誌の記事などを用いて、調査・発表・議論を軸とした演習形式で行います。 ・積極的かつ協動的な取り組みを心がけるようにしてください。 		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについては、「異文化ビジネス論」や「地域と国際ビジネス」の領域を中心にしながらも、ゼミ生の関心事も考慮して決めていきます。 ・まずは、文献・資料あるいは現地で調査し、それを客観的に分析します。次に、発表、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行いながら、仲間との議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていきます。 <p>【事前学習】 各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。</p> <p>※事前・事後学習の総時間数は60時間程度を目安とします。</p>		
関連科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱなど		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表、グループディスカッション、プレゼンテーションを中心とした授業に取り組む姿勢 (60%) ・課題やレポートなど (40%) 		
学生へのメッセージ	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室		
備考	課題やレポートに関するフィードバックは原則として翌週の授業で行います。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	Web には、解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある (Google マップや YouTube など)。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では、各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが、ゼミによる観光地取材も適宜行う。																		
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し、さらにそれを発表することができる。京都、大阪、奈良など関西の地理や歴史に対する知識も深めることができる。																		
授業方法と留意点	個人またはグループでテーマを決め、予め書籍や Web など調査したうえ現地へ行って写真やビデオの撮影を行う。さらにそれを素材として観光案内のための原稿を作成して授業で発表、必要な修正を加えて動画に編集したり Web サイトに登録するなどの作業を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は主として写真を動画に仕立ててそれにナレーションを付ける形式の観光案内ビデオを作成する。																		
関連科目	専攻言語の外国語科目および英語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (60%)、レポート、プレゼン (40%) をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	中西研究室 (7 号館 3 階)																		
備考	総学修時間数は 60 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究方法や考え方を体得します。																		
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。 さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べるできるようになります。 実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。																		
授業方法と留意点	毎回担当を決めて発表をします。担当者だけでなく、参加者全員が予習範囲のテキストをしっかりと読んで理解して授業に臨んでください。 コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得を心がけてください。 英語の文献も読みますので予習をしてきてください。 毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。 そのためには何度も練習しなければなりません。 そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返すことが決定的に重要になります。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>コミュニケーション論をつかむ</td> <td>辻 大介 他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	コミュニケーション論をつかむ	辻 大介 他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	コミュニケーション論をつかむ	辻 大介 他	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 40%、 課題・発表 30%、 期末レポート 30%																		
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。		
到達目標	様々なテーマについて議論できる。 自分の意見を述べ、考えを整理できる。		
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。		
関連科目	文化演習 II		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	平常点 (報告内容、参加態度、課題) 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階		
備考	事前事後学習時間 計60時間 発表や提出物はすぐにフィードバックします。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	方法論としての社会史の概要を理解し、自ら問題を発見する。																		
授業方法と留意点	前半は、西洋社会史関連の文献を読みながら、方法論について学んでいく。新たな史料として、小説や伝説、風刺画などの「読み解き」もおこなう。 後半は、文献収集や研究の進め方、発表や討論の仕方についてガイダンスをおこなった後、各自、社会史関連のテーマを一つ選び、関連文献を収集・整理し発表をおこなう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 (1) 西洋史学の方法論、(2) 社会史とは何か、(3) 図像史料の可能性、(4) テーマ別討論 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。																		
関連科目	文化演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発表内容 (テーマの掘り下げ方・発表の仕方など。40%)、討論 (積極的に発言しているかなど。20%)、レポート (40%) で評価する。																		
学生へのメッセージ	夢中になって取り組める研究課題を見つけてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室																		
備考	西洋の歴史 (世界史) に関する予備知識は必ずしも必要ではない。 研究発表に関するフィードバックは発表時、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。 総学修時間数は 60 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write academic papers in English. Additionally, students will learn how ideas are communicated through visual images and symbols, and will be able to apply this knowledge by working on practical projects.																		
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.																		
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different aspect of comics. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comic creators use words and images to communicate meaning. Week 1: Seminar Introduction Week 2: Describing Characters Week 3: Describing Narrative Week 4: Lettering and Word Balloons Week 5: Use of Line Week 6: Use of Color Week 7: Symbols and Sound Effects Week 8: Panel Layout Week 9: Poster Project Week 10: Poster Project Week 11: Poster Project Week 12: Poster Project Week 13: Talk Planning Week 14: Talk Practice Week 15: Talk Presentation																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Talk 20% Poster 20% Short Writing 15% Weekly Quiz 15% Notes 15% Participation 15%																		
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.																		
担当者の研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーパー研究室																		
備考	総学修時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	グローバル化、移民、ジェンダーをキーワードに、基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐり基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジュメの書き方、論文執筆の基本ルールなどを指導する。																		
到達目標	基本文献を精読していきながら、卒業研究レポートで取り組みたいテーマを徐々に絞り込んでいく。																		
授業方法と留意点	毎回担当を決めて発表をする。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養いましょう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 グローバリゼーション・移民・多文化社会 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジュメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、さらに深く調べたり自分の考えを練り文章化する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発表への取り組みと内容、議論への参加等 70%、レポート 30%																		
学生へのメッセージ	日本語と専攻言語の両言語の力を伸ばし続けましょう。専攻外国語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章構成力を高めることを目指してください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	授業中に出された課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること (総時間数は60時間)。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.		
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.		
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office.		
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。</p> <p>また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。</p>																		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で5万語、経験者で10万語を目標とします。																		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれませんがありません。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題準備 20%、発表 30%、理解度チェック%、多読 20%																		
学生へのメッセージ	絵本や本、映画などを通して、ことばのみならずその背景にある文化や歴史を楽しく学んでもらえればと思います。「やるときはやる！」ゼミですので、みなさんの頑張りに期待しています。																		
担当者の研究室等	7号館5階松田研究室																		
備考	総学修時間数は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。																		
到達目標	外国語の能力を高め、異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。学生の希望により、中国言語文化、あるいは中国の風俗、習慣、思考様式などを課題とする。中国言語文化や中国文化の特徴などを研究することによって、中国語や中国文化の知識、中国語表現力を涵養し、学習力、思考力を養い、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養い、同時に研究能力を身に付けることができる。																		
授業方法と留意点	授業では、教員から与えられた課題、あるいは各自決めたテーマについて、収集した資料などを持ち寄り、それらをパソコンディスプレイで提示しながら、他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】：①中国の語彙研究、②中国言語文化の研究、③中国文化の研究</p> <p>各授業において、前回は課題と内容を決め、必要に応じて調査した資料を提示する。次回は前課題をめぐって検討をする。</p> <p>【事前事後学習課題】</p> <p>指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来ること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語と中国文化</td> <td>魯宝元著・神里常雄訳</td> <td>華語教学出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中日言語文化漫歩</td> <td>上野恵司</td> <td>吉林大学出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本人が知りたい中国人の当たり前</td> <td>林松濤他</td> <td>三修社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語と中国文化	魯宝元著・神里常雄訳	華語教学出版社	2	中日言語文化漫歩	上野恵司	吉林大学出版社	3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中国語と中国文化	魯宝元著・神里常雄訳	華語教学出版社																
2	中日言語文化漫歩	上野恵司	吉林大学出版社																
3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社																
評価方法 (基準)	プレゼン 30%、提出物 70%。																		
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考	事前・事後学習の総時間を60時間とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	国内外の映画・ドラマ・文学作品を英語で読解し、自分たちでアレンジを加えながらスクリプトを作成し、実際に演じる/演出して、オリジナルの英語ムービーを作成する。インプット (リーディング・リスニング)・アウトプット (スピーキング・ライティング) 連動型の授業を行う。																		
到達目標	ただ漠然と対象作品を英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。																		
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。授業は active learning 形式で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> クラスメイトと協同で、英語ムービーを作成するためのスキルを学ぶ。 <p>【事前・事後学習課題】</p> 毎授業で目標を設定し、その目標を達成するための事前・事後学習を行う。授業の調べおよび学生同士のディスカッションをしておくこと (毎回 1 時間)。																		
関連科目	卒業研究 I、II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ショートムービー 50% グループワーク 30% 課題 20%																		
学生へのメッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、ゼミメンバーとクオリティの高い作品を完成させましょう!																		
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	中国語圏の社会や文化に関する文献を輪読するとともに、それぞれがテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学びます。また授業外での調査を通して、その方法についても検討します。																		
到達目標	中国語圏の社会や文化について自ら課題をみつけ、それを調査、分析、発表するための基礎的なスキルを身につける。																		
授業方法と留意点	文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のあるテーマを設定し、担当を決めて発表、討論する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 中国語圏の社会・文化に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄について文献リストおよびレビューを作成し、発表する。</p> <p>【事前事後学習】 課題文献をしっかりと読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への貢献 (50%)、発表・レポート (50%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室 (7号館3階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	<p>【イメージとテキスト】</p> <p>各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに準じる表現の視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを突き合わせることをとおして、その背後に存在するなにかしらの価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）を浮き彫りにすることを目指す。以下の2つの技術を習得すること。</p>																		
到達目標	<p>1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法</p>																		
授業方法と留意点	<p>学生主体で進めていく。それぞれが選んだテーマに関連するテキストを読み、その内容をまとめて報告する。その報告に対して、質問することが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>「イメージとテキスト」をキーワードに、視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。</p> <p>およそ隔週で作品描写や文献読解の報告を実施し、それに対して他の学生は質問することが求められる。</p> <p>自分が担当する報告については事前にしっかり準備すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>平常点（発表内容、質問内容、参加態度）100%</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>7号館5階 杉山研究室</p>																		
備考	<p>事前事後学習時間 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。</p>																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	文化やコミュニケーションについて「メディア」を通じて考察し、4年次の卒業研究につなげる。																		
到達目標	①メディアと文化・コミュニケーションに対する研究方法を学び、知識を得る ②プレゼンテーションやディスカッション、レポート作成の技術を学ぶ ③各自の関心に基づき、卒業研究のテーマを見つける ④ゼミを通じてチームワークを行う力を高める																		
授業方法と留意点	[授業方法] ・課題への取り組み (調査・考察、プレゼンテーション、ディスカッション等) を中心に進める ・教室外でのフィールドワーク、ゼミ雑誌作成などのアクティブラーニングを行う ・ゼミ生自身が企画した課題に取り組む ・学期末にレポートを作成する [留意点] 発表には相応の準備時間が必要になるため、計画的に進めること。ゼミ生同士で協力し合うことが望ましい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	[授業テーマ・内容・方法] 主要なマスメディアをとりあげ、その特徴や歴史について調査・考察し、発表・質疑応答を行う。本年度前期は「テレビ」を予定しているが、ゼミ生の関心に応じて柔軟に進める。 [事前事後の学習課題] 発表の準備、発表後の再調査・再考察、レポート作成など。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (発表、発言、積極性・協調性) 70% 期末レポート 30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 (古矢研究室)																		
備考	総学修時間数は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2年次までに培った基礎力と関心をもとに、国際語としての英語・英語教育に関する様々なトピックについて、知識を深めて考え、文献やデータを調べてまとめ、発表することを目的とする。		
到達目標	グローバル社会において、英語が様々な地域においてどのように学ばれ、どのように使われているかを理解する。 第二言語習得・英語教育の基礎理論について理解する。 国際語としての英語について理解し、自らの英語スキルをさらに向上させる。		
授業方法と留意点	自らの関心に基づき、授業に積極的・主体的に参加することを求める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは国際語としての英語・英語教育である。 文化演習 I では主に第二言語習得、世界での英語使用状況や英語教育の現状に焦点をあてる予定である。理論や実践について学ぶとともに、それに基づき、履修生自身の英語スキルが高められるよう、授業内で様々なアクティビティを行う。同時に、関心をもったトピックについて、自らさらに調べてまとめて担当回に発表してもらう。授業計画については、学生の希望をもとに変更する可能性がある。事前・事後学習課題は、担当者から指定された文献を読むことや選んだトピックについて調べることなどが含まれる。授業外での学習時間は 60 時間程度である。参考文献は随時、授業内で紹介する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 50% 担当回の発表 50%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。来年の卒業論文にむけて準備をする。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	設定したテーマについて報告と討論を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	【授業テーマ】 報告と討論を積み重ねることで、テーマにかかる理解を深め、卒業研究に向けて準備する。 【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミ活動への取り組み(100%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 赤澤研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題などのフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	後期では、前期の活動で提起した社会問題について、様々な角度から調査し、その原因や解決方法を導くプロセスを習得する。その中から、自分にあった卒業研究テーマを見つけ出す。		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確コミュニケーション能力を持つこと。		
授業方法と留意点	このゼミは、「夢」を持ちそれに向かって全力投球したい学生のゼミであることから様々な課題を自分自身で課すことになる。課題発見解決能力の開発や、現場ですぐに役立つ実践力を高めるプログラムを実践する。また、幼稚園、小学校、中学校の教員を目指す学生には教員採用試験の過去問題や面接対策の勉強会を行う。OB・先輩・外国人との交流が多く、年間3～4回のゼミ合宿に必ず参加することを強く希望する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べる。</p> <p>計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミ活動参加 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表力 20%で判断する。		
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	文章(本や論文、記事)を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。文献はスペイン語、英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献(本・資料)を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。																		
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	とにかく、毎日、論理的な書き物に触れること。日頃から、物事について思考を巡らせること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマは、スペイン語学および社会言語学、文化史の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代スペイン語の文法、語彙、地域変種(ラテンアメリカのスペイン語など) ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育 ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題(ラテン語から俗语へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル)、印刷技術(情報革命)、宗教改革と言語など <p>とにかく文章を読み、要約し、発表する。</p>																		
関連科目	スペイン語専攻の諸科目、言語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	日ごとの受講姿勢(読書や議論、発表に対する意欲と準備の有無、精度)と発表およびレポート等の質による。それぞれ50%ずつを目安として判断する。																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	読書会を通して「物語とは何か」という問題に取り組む。																		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>文学を難しい・堅苦しいと思いませんか。しかし文学を〈物語〉に置き換えてみるとどうでしょう。小説、映画、演劇、おとぎ話など、私たちは子どもの頃より物語と共に成長してきました。物語をとおして／物語として、物事の感じ方、社会のルール、自分のこと、他人のことを学ぶのです。だから、私たちは自分のことを話すときに、物語にして語りたくなるのです。天野ゼミでは〈物語〉を楽しむコツを学びます。コツをつかんで面白く文学を読むことができれば、きっと新しい自分が発見できることでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館ガイダンスをおこなう 2. 読書会をする 3. レポートを書く <p>後期は4年生と合同でゼミをおこなう。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3F 天野研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>テーマ「戦後の日本の社会と文化の変遷」</p> <p>戦後日本社会の歴史的な変遷を追跡するなかで、様々な問題を取り上げる。教科書を中心として、さらに参考資料を読み合わせ、ディスカッションやディベートを行うことを通じて、問題の本質に迫っていくことを目指す。</p> <p>これと並行して、卒業研究レポートの準備を行う。テーマの選定、文献の蒐集と読解、またそれに必要なスキルを身につける。</p>																
到達目標	<p>現代社会の問題やそこで生きる人間のあり方について、自分なりに問題意識を涵養する。</p> <p>人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。</p> <p>必要な文献の蒐集と読解をする。</p>																
授業方法と留意点	<p>ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。</p> <p>卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ・内容】</p> <p>①日本の戦後の現代史を概観 政治・経済の問題も視野に入れつつ、日本の文化の変化について概観する。その際、経済・社会の基礎的知識も身につけて欲しいと思います。基本図書として、池上彰『そうだったのか！ 日本現代史』（集英社文庫）を使用。</p> <p>②掘り下げて調べるべき課題をそれぞれが見つける 興味を持ったテーマに関してグループないしは個人で資料や文献、さらに調査を進める。例えば、駅前の商店街の繁栄と衰退、郊外のショッピングセンターが開発と店舗の変化など</p> <p>③発表とディスカッションを通じて相互に理解する力を養う 調べた結果をパワーポイントで発表する。その際、お互いに質問や意見交換をすることで、多様なものの見方を獲得することを目指す。</p> <p>【方法】</p> <p>資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。</p> <p>【事前事後学習課題】</p> <p>発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ30時間。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 大学生のためのレポート・論文術</td> <td>小笠原喜康</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>そうだったのか！ 日本現代史</td> <td>池上彰</td> <td>集英社文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書	2	そうだったのか！ 日本現代史	池上彰	集英社文庫	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書														
2	そうだったのか！ 日本現代史	池上彰	集英社文庫														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション] (60%)、レポート (40%) で評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室																
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。受講者自身が設定した調査主題に関連する文献の講読と、調査成果についての報告を行う。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。		
到達目標	主体的に「調べる」営みに取り組み、成果を適切な形でアウトプットする。		
授業方法と留意点	前半は文献講読を行う。 後半は調査報告とディスカッション等に当てる。		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読とディスカッションが中心になる。 文献講読時は、演習の時間を有意義に使うために、授業の前に指定された文献を精読することが強く望まれる。成果報告時は配付資料の準備、その他関連資料の収集と提示など含めて一人30分程度の発表時間がある。発表者、コメンテーター、聴衆のいずれも発言することが求められるため、授業時間外に行う作業の質と量が問われる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	発言や質問など、演習への主体的な取り組み(20%)、課題(50%)、口頭発表(30%)に基づいて行う。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室		
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力をもとに、自身が取り組む研究テーマを絞り込む。この演習では世界経済の構造、動向、企業間関係、企業行動、多様な商品のサプライチェーンについてグローバル・バリュー・チェーンの視点から検討し、世界に分散する生産ネットワークの発展およびそれが生み出す社会問題に焦点を当てて学ぶ。世界経済へのアプローチの仕方と分析的思考を養い、それと同時に文献検索、論文読解、資料調査、現地調査の手法を体得することを目的とする。なおこの演習はグループディスカッションとプレゼンテーションを中心に展開する。発言力、議論の調整力、意見の集約力を向上させることが期待される。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究に基づいて独自のリサーチクエスチョンを立て、必要な資料を用いて、説得的に論を展開できる。 研究に必要な資料・データを収集できる。 自身の研究課題の面白さと重要性、および研究の進捗状況を分かりやすくかつ興味深く発表することができる。 ディスカッションのために情報収集ことができ、かつディスカッションにおいて意欲的に発言することができる。 多様な意見を調整し、グループ(あるいは個人)としての結論を導くことができる。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 文献からバリューチェーンの研究の理論的・実証的知識を得て、その知識をグループディスカッションのなかで応用し、自らの言葉で発表することによって理解を深めていく。 各自の研究課題に即した研究方法、データの収集と分析、論文の技法といった技術面の解説も加えていく。 																
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	<p>[授業テーマ・内容・方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ①世界経済とバリューチェーンの文献の輪読、発表、議論。 ②ディスカッションとプレゼンテーションのマナーと技法 ③研究の方法(研究課題の設定の仕方、文献収集) <p>[事前事後学習課題]</p> <p>輪読、発表の準備等、随時授業にて指示する。 各自の研究の進捗状況について、学期中2~3回のレポートを課す。 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	ディスカッションと発表の質(討論の内容、運営、発表の内容)40%、レポートの内容(論点の絞り込みと論の展開)40%、輪読その他のゼミ活動への参加意欲20%																
学生へのメッセージ	どんな些細な意見でもかまわないので、まずはしっかりと発言することと他人の言葉をしっかりと聞くことを強く意識してください。2年間さらにはその先もこだわり続けられるテーマを見つけ、フィールドワークをして、現場を見て考える経験をしてほしい。																
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																
備考	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後学習の総学修時間数は60時間とする。 ディスカッションとプレゼンテーションへのフィードバックは授業中に、レポートに対するフィードバックは15回目の授業のなかで実施する。 																

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への積極性 50% 授業での発言 20% 課題 30%		
学生へのメッセージ	これから2年間、一緒に頑張っていきましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室(7号館5階)		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 グループやペアでの活動を通して、卒業後も生かせる、人の関わり方のバリエーションを増やします。 																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身につける。 想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。 実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 新聞やニュースの記事(日本語・英語)、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 いづれもスピードが要求されるので、毎回の授業に全力で取り組んでください。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、英術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 今年のテーマは「文学と映画」です。</p> <p>後期は、卒業後は社会に出る大学生に身につけてほしい言語の力に焦点をあてます。自分の言語能力を、言語以外の知識や技術と組み合わせ、他人のために役にたてられるようになるのが目標です。接客現場や医療現場、職場内、など、対人関係のなかで言語が果たす役割について、文献調査と同時に、文学や映画・ドラマに描かれた例を分析します。</p> <p>前期と比べて研究色の濃いゼミになるでしょう。大量に読み、聞き、考え、話して、書きます。</p> <p>また、学期中に複数回、プレゼンを行います。たくさん話す練習をしてください。</p> <p>【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行き調べて、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント教材</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント教材			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	プリント教材																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業にて紹介します</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業にて紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業にて紹介します																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> 授業での協働作業 30% プレゼンテーション 30% レポート 40% 																		
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。 課題等のフィードバックは授業中に行う。 担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方 ほか																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	英書や和書の読解を通して、物事を深く理解し、自分の意見を表現できるようになることを目標とする。																		
授業方法と留意点	主な活動として文献読解を行い、授業中に理解度を確認します。他の活動として、英語の技能を向上させるための練習や、西洋・日本文化の理解を深めるための活動などを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 文献購読</p> <p>【内容・方法】 指定部分を全員が事前に読み、授業中は互いに理解度を確認しあう。 卒業研究の準備として、資料調査の実習を行う。</p> <p>【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業初回の話し合いで決定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業初回の話し合いで決定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業初回の話し合いで決定する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業にのぞむ姿勢や態度(50%)、発表内容(発表の仕方や積極性など)とレポート等(50%)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 皆本研究室																		
備考	事前事後の総学修時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	文化演習Ⅰに引き続き、米国の社会学者 Harvey Sacks たちによって創始された会話分析 (Conversation Analysis) の方法論について、基本的な考え方や分析手続き・分析方法を、講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら議論する) を交えながら学んでいく。また、並行して、研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等についても随時触れていく。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会話分析の基本的な考え方や分析手続き・分析方法を理解する ・会話分析の方法論に基づき、実際の会話データを使って、基本的な構造を分析できる ・研究を進めていくための基本的な姿勢・態度、論文・レポートの執筆法、データの取り扱い方等に関する基本的な知識を身に付ける 																		
授業方法と留意点	授業では、講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する) を交えて進めていきます。特に、データ・セッション時には、議論に積極的に参加してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業テーマ： 会話分析の基礎を理解する</p> <p>内容： 1. 会話の修復に係る組織について 2. 会話における物語の構造・組織について 3. 発話の組み立て・デザインと成員カテゴリーという考え方について</p> <p>方法： 講義とデータ・セッション (実際のデータを見ながら講義で取り上げられた現象をみんなで分析し、議論する) を交えて行います。また、講義の一部については、担当学生に教科書の指定範囲について発表してもらいます。</p> <p>事前、事後の学習課題： ・指定教科書を事前に読んだり、授業後に読んで復習する ・データ分析の課題に取り組んでもらいます</p>																		
関連科目	文化演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>会話分析の基礎</td> <td>高木智世他</td> <td>ひつじ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会話分析の基礎	高木智世他	ひつじ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	会話分析の基礎	高木智世他	ひつじ書房																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>基礎から分かる会話コミュニケーション</td> <td>高梨克也</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>会話分析基本論集</td> <td>H. サックス他 (西坂仰 訳)</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>会話分析入門</td> <td>串田秀也他</td> <td>勁草書房</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	基礎から分かる会話コミュニケーション	高梨克也	ナカニシヤ出版	2	会話分析基本論集	H. サックス他 (西坂仰 訳)	世界思想社	3	会話分析入門	串田秀也他	勁草書房
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	基礎から分かる会話コミュニケーション	高梨克也	ナカニシヤ出版																
2	会話分析基本論集	H. サックス他 (西坂仰 訳)	世界思想社																
3	会話分析入門	串田秀也他	勁草書房																
評価方法 (基準)	期末レポート：50% 課題：30% 授業参加度 (ディスカッション・発表を含む)：20%																		
学生へのメッセージ	会話分析は、言葉の形や意味そのものの分析ではなく、私たちが言葉を使って何をしているか、という切り口から見ていきます。ありふれた (日常) 会話の分析を通じて、いっしょに新しい発見をしていきましょう！！																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉浦研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。(これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。) 		
授業方法と留意点	フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所に何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙(調査)、観光地における英語の調査のため、京都などへ出向きます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・(人間の)言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか(どのような違いがあるのか)等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	ゼミおよび課題への取り組み(100%)		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題などのフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。 単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> *日本語学習者の言語習得 *日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 *外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション *海外における日本語教育 *在住外国人や留学生に関すること 等々です。 <p>海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> *専門的な知識を得る。 *文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 *テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 *アカデミックライティングのスキルを身につける。 *ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 *卒業研究のテーマの設定を行う。 																
授業方法と留意点	<p>【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化間コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、4年時の卒業研究につなげていく。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当者を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。 発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。 発表後は、内容についてディスカッションを行う。</p> <p>【事前事後学習課題】(毎回 1.5H) 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。</p>																
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」																
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>文献資料、プリントを配布する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文献資料、プリントを配布する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	文献資料、プリントを配布する																
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業で指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	授業で指示する																
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業への参加度(10%)、発表及びその他課題(30%)、レポート(60%)によって総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれら基になっているのは言語(日本語)です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人(日本語を母語としない人)に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語は日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。																
担当者の研究室等	門脇研究室(7号館4階)																
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>Theme: Tourism, Hospitality and Australian culture</p> <p>We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, do tour-guiding and discuss the importance of good service. Australia will also be a focus for tourist destinations.</p>																		
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>(First term) We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook.</p> <p>Youtube will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged.</p> <p>We will also study the play to be attended during the first term, looking at four skills - speaking, listening, reading and writing to build up those skills.</p> <p>(Second term) Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English for International Tourism</td> <td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Basic steps to writing research papers</td> <td>Kluge and Taylor</td> <td>Cengage</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events. You will undertake a research project for your thesis in 2nd term.																		
学生へのメッセージ	English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on trying, and studying outside class on a daily basis.																		
担当者の研究室等	7号館5階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>《近現代地域研究》</p> <p>各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。</p>																		
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	原則として隔週で発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等)100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	事前事後学習時間は、総計で60時間を目安とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマについて各自が関心を深め、卒業論文にむけた準備作業を行います。																		
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける																		
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ</p> <p>【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は60時間以上を目安とする。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への参加状況（議論での積極性等）（50％）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50％）によって評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 手代木研究室																		
備考	事前事後の総学修時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>アメリカ合衆国の文化、歴史についての卒業論文(研究レポート)を書くゼミです。各自、3年次終了時点で合計12000字(40字x30行で10ページ)以上のレポートを書くことを目標にします。4年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業論文に発展させることを目指します。</p> <p>各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。</p>																		
到達目標	<p>前期からの通算で、合計少なくとも12000字以上のレポートを提出すること。</p>																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 毎週文書をPCで作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PCの基本操作は必須であり、自分のPCを所有しているか、好きな時に使えるPCを学内および自宅に確保しておく必要があります。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーグ、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」</p> <p>【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。</p>																		
関連科目	卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回授業で指示</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+3年次終了時点までの小レポートの総量と質(50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいねと思います。																		
担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室																		
備考	総学習時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・3年次前期までに培った修学上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネスと文化・社会の関係を中心に具体的な事例とともに研究していきます。 ・文献・資料あるいは現地で調査し、それを分析する力や、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を養うことなどを授業目的とします。 		
到達目標	主にビジネスの観点から、国際社会や異文化に関する理解を深めることと、それに基づいて4年次の卒業研究につながるような研究テーマを見つけることを目標とします。		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞やビジネス誌の記事などを用いて、調査・発表・議論を軸とした演習形式で行います。 ・積極的かつ協動的な取り組みを心がけるようにしてください。 		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマについては、「異文化ビジネス論」や「地域と国際ビジネス」の領域を中心にしながらも、ゼミ生の関心事も考慮して決めていきます。 ・まずは、文献・資料あるいは現地で調査し、それを客観的に分析します。次に、発表、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行いながら、仲間との議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていきます。 <p>【事前学習】 毎回の授業のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。</p> <p>【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。</p> <p>※事前・事後学習の総時間数は60時間程度を目安とします。</p>		
関連科目	文化演習Ⅰなど		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	授業中に指示したり、プリントを配布したりする。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・発表、グループディスカッション、プレゼンテーションを中心とした授業に取り組む姿勢(60%) ・課題やレポートなど(40%) 		
学生へのメッセージ	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室		
備考	課題やレポートに関するフィードバックは原則として翌週の授業で行います。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	Webには、解説つきの写真や動画を誰もが投稿できるサイトがある(GoogleマップやYouTubeなど)。当ゼミでは手元の写真のうち公開可能なものに日本語や外国語で案内文を作成しそれを投稿する活動を行う。授業では、各自が持ち寄った日本語文の内容や外国語への翻訳が適切かどうかを全員で検討しながら完成度を高める。撮影地は通常自由だが、ゼミによる観光地取材も適宜行う。																		
到達目標	日本の歴史や地理に関する情報について、書籍やWebで得る情報と、現地での調査で得られる情報の違いを知ることができる。観光情報の翻訳作業では、必要な情報をできるだけ分かりやすい外国語に翻訳する技術を身につけることができる。また、外国人観光客に対する観光動向の調査活動を通じて、外国語によるコミュニケーション能力の向上が期待できる。																		
授業方法と留意点	個人またはグループでテーマを決め、予め書籍やWebなどで調査したうえ現地へ行って写真やビデオの撮影を行う。さらにそれを素材として観光案内のための原稿を作成して授業で発表、必要な修正を加えて動画に編集したりWebサイトに登録するなどの作業を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	後期は、前期のゼミで身につけた技術や経験を活かしながら、ビデオカメラによる撮影を現地で行い、これをつかった映像作品の作成を課題とする。また、外国人観光客へのインタビューも課題の一つとしたい。																		
関連科目	専攻言語の外国語科目および英語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(60%)、レポート、プレゼン(40%)をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	中西研究室(7号館3階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究方法や考え方を体得します。																		
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べるできるようになります。実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。																		
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて発表をします。担当者だけでなく、参加者全員が予習範囲のテキストをしっかりと読んで理解して授業に臨んでください。コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得を心がけてください。英語の文献も読みますので予習をしてきてください。毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。 そのためには何度も練習しなければなりません。 そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返すことが決定的に重要になります。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とします。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>コミュニケーション論をつかむ</td> <td>辻 大介 他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	コミュニケーション論をつかむ	辻 大介 他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	コミュニケーション論をつかむ	辻 大介 他	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点 40%、課題・発表 30%、期末レポート 30%																		
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。		
到達目標	各自の関心あるテーマについて資料収集ができる。考えを整理し、報告できる。		
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。		
関連科目	文化演習Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	平常点(報告内容、参加態度、課題) 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階		
備考	事前事後学習時間 計60時間 発表や提出物は、すぐにフィードバックします。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究方法や考え方を体得します。		
到達目標	先行研究を網羅(整理・批判)した上で、問いを立てる。		
授業方法と留意点	自らテーマを設定し、個別発表・討論をおこなう。		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 文献収集、読解、レジユメの作成方法、討論の仕方等を指導する。</p> <p>【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。</p>		
関連科目	文化演習Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	発表内容(テーマの掘り下げ方・発表の仕方など。40%)、討論(積極的に発言しているかなど。20%)、レポート(40%)で評価する。		
学生へのメッセージ	できるだけ多くの文献を読み、積極的にフィールドワークに出かけることで、広い視野をもって研究に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7号館4階 林田研究室		
備考	研究発表に関するフィードバックは発表時、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。 西洋の歴史(世界史)に関する予備知識は必ずしも必要ではない。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write an academic paper in English. Additionally, students will learn how to do a close reading of comics in order to understand how comics can provide insight into social issues.																		
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.																		
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different social issue. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comics reflect the views of their creators on various social issues. Week 1: Introduction Week 2: Media and Power Week 3: Culture and Comics Week 4: Culture and Comics Week 5: Race and Comics Week 6: Gender and Comics Week 7: Class and Comics Week 8: Writing: Planning and Outline Week 9: Writing: Introduction Week 10: Writing: Literature Review Week 11: Writing: Content Week 12: Writing: Conclusion Week 13: Talk Planning Week 14: Talk Practice Week 15: Talk Presentation																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	Talk 20% Academic Paper 35% Weekly Quiz 15% Notes 15% Participation 15%																		
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.																		
担当者の研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーパー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	グローバルゼーション、移民、ジェンダーをキーワードに、基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジュメの書き方、論文執筆の基本ルールなど研究の手法を指導する。																		
到達目標	文化演習Ⅰで得た国際社会学をめぐる基礎知識と、見つけた関心領域・対象をもとに、卒業研究レポートのテーマを定めるまでに至る。																		
授業方法と留意点	毎回担当を決めて発表をする。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養いましょう。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 グローバリゼーション・移民・多文化社会 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジュメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。</p> <p>【事前事後学習課題】 文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、自分自身の研究課題に取り組む。各自の研究テーマに即した主要文献を薦める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	発表への取り組みと内容、議論への参加等 70%、レポート 30%。																		
学生へのメッセージ	専攻外国語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章校正力を高めることを目指してください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室																		
備考	授業中に与えられた課題に取り組むのに要する十分な時間を事前事後学習に充てること(総時間数は60時間)。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.		
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.		
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office.		
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は60時間。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。</p> <p>また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。</p>																		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で5万語、経験者で10万語を目標とします。																		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれませんがありません。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題準備20%、発表30%、理解度チェック%、多読20%																		
学生へのメッセージ	絵本や本、映画などを通して、ことばのみならずその背景にある文化や歴史を楽しく学んでもらえればと思います。「やるときはやる！」ゼミですので、みなさんの頑張りに期待しています。																		
担当者の研究室等	7号館5階松田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。																		
到達目標	外国語の能力を高め、異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。学生の希望により、中国言語文化、あるいは中国の風俗、習慣、思考様式などを課題とする。中国言語文化や中国文化の特徴などを研究することによって、中国語や中国文化の知識、中国語表現力を涵養し、学習力、思考力を養い、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養い、同時に研究能力を身に付けることができる。																		
授業方法と留意点	授業では、教員から与えられた課題、あるいは各自決めたテーマについて、収集した資料などを持ち寄り、それらをパソコンディスプレイで提示しながら、他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【テーマ】：①中国の語彙研究、②中国言語文化の研究、③中国文化の研究</p> <p>各授業において、前回は課題と内容を決め、必要に応じて調査した資料を提示する。次回は前課題をめぐって検討をする。</p> <p>【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来ること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国語と中国文化</td> <td>魯宝元著・神里常雄訳</td> <td>華語教学出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中日言語文化漫歩</td> <td>上野恵司</td> <td>吉林大学出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本人が知りたい中国人の当たり前</td> <td>林松濤他</td> <td>三修社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語と中国文化	魯宝元著・神里常雄訳	華語教学出版社	2	中日言語文化漫歩	上野恵司	吉林大学出版社	3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中国語と中国文化	魯宝元著・神里常雄訳	華語教学出版社																
2	中日言語文化漫歩	上野恵司	吉林大学出版社																
3	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤他	三修社																
評価方法(基準)	プレゼン 30%、提出物 70%。																		
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階(兪研究室)																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	国内外の映画・ドラマ・文学作品を英語で読解し、自分たちでアレンジを加えながらスクリプトを作成し、実際に演じる/演出して、オリジナルの英語ムービーを作成する。インプット(リーディング・リスニング)・アウトプット(スピーキング・ライティング)連動型の授業を行う。																		
到達目標	ただ漠然と対象作品を英語を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりするのではなく、自分たちが演じる/演出することを想定しながら、英文をインプット・アウトプットできるようになる。																		
授業方法と留意点	グループでの作業が多くなるので、協調性と責任感を持って、授業に臨むこと。授業は active learning 形式で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 クラスメイトと協同で、英語ムービーを作成するためのスキルを学ぶ。</p> <p>【事前・事後学習課題】 毎授業で目標を設定し、その目標を達成するための事前・事後学習を行う。授業の調べおよび学生同士のディスカッションをしておくこと(毎回1時間)。</p>																		
関連科目	卒業研究Ⅰ、Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	ショートムービー 50% グループワーク 30% 課題 20%																		
学生へのメッセージ	グループワークが基本になります。協調性を持って、ゼミメンバーとクオリティーの高い作品を完成させましょう!																		
担当者の研究室等	7号館3階 吉村 征洋 研究室																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	中国語圏の社会や文化に関する文献を輪読するとともに、それぞれがテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学びます。また授業外での調査を通して、その方法についても検討します。																		
到達目標	中国語圏の社会や文化について自ら課題をみつけ、それを調査、分析、発表するための基礎的なスキルを身につける。																		
授業方法と留意点	文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のあるテーマを設定し、担当を決めて発表、討論する。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 中国語圏の社会・文化に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄についてテーマ発表を行い、レポートを作成する。</p> <p>【事前事後学習】 課題文献をしっかりと読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業への貢献(50%)、発表・レポート(50%)によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室(7号館3階)																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	<p>【イメージとテキストの対話】</p> <p>各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに準じる表現の視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ(作品など)を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト(研究書、雑誌、論文など)を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを突き合わせることをとおして、その背後に存在するなにかしらの価値(人間観、社会観、自然観、宇宙観など)を浮き彫りにすることを目指す。以下の2つの技術を習得すること。</p>																		
到達目標	<p>1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法</p> <p>2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法</p>																		
授業方法と留意点	<p>学生主体で進めていく。それぞれが選んだテーマに関連するテキストを読み、その内容をまとめて報告する。その報告に対して、質問することが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>「イメージとテキスト」をキーワードに、視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。</p> <p>およそ隔週で作品描写や文献読解の報告を実施し、それに対して他の学生は質問することが求められる。</p> <p>自分が担当する報告については事前にしっかり準備すること。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(発表内容、質問内容、参加態度)100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室																		
備考	事前事後学習時間 計60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	文化やコミュニケーションについて「メディア」を通じて考察し、4年次の卒業研究につなげる。																		
到達目標	①メディアと文化・コミュニケーションに対する研究方法を学び、知識を得る ②プレゼンテーションやディスカッション、レポート作成の技術を学ぶ ③各自の関心に基づき、卒業研究のテーマを見つける ④ゼミを通じてチームワークを行う力を高める																		
授業方法と留意点	[授業方法] ・課題への取り組み(調査・考察、プレゼンテーション、ディスカッション等)を中心に進める ・教室外でのフィールドワーク、ゼミ雑誌作成などのアクティブラーニングを行う ・ゼミ生自身が企画した課題に取り組む ・学期末にレポートを作成する [留意点] 発表には相応の準備時間が必要になるため、計画的に進めること。ゼミ生同士で協力し合うことが望ましい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	[授業テーマ・内容・方法] 主要なマスメディアをとりあげ、その特徴や歴史について調査・考察し、発表・質疑応答を行う。本年度後期は「インターネット」を予定しているが、ゼミ生の関心に応じて柔軟に進める。 [事前事後の学習課題] 発表の準備、発表後の再調査・再考察、レポート作成など。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(発表、発言、積極性・協調性) 70% 期末レポート 30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階(古矢研究室)																		
備考	総学修時間数は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	自らの関心をもとに、国際語としての英語・英語教育に関する様々なトピックについて、さらに知識を深めて考え、文献やデータを調べてまとめ、発表することを目的とする。		
到達目標	英語がどのように国際語として使われているかを理解する。 英語教育の基礎理論・手法について理解する。 国際語としての英語について理解し、自らの英語スキルをさらに向上させる。		
授業方法と留意点	自らの関心に基づき、授業に積極的・主体的に参加することを求める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは国際語としての英語・英語教育である。 文化演習Ⅱでは主に英語教育の手法、国際語としての英語の使用状況に焦点をあてる予定である。卒業研究に向けて、様々な理論やデータに対する知識をさらに深めるとともに、関心をもったトピックについて、自らさらに調べてまとめて担当回に発表してもらおう。授業計画については、学生の希望をもとに変更する可能性がある。事前・事後学習課題は、担当者から指定された文献を読むことや選んだトピックについて調べるなどが含まれる。参考文献は随時、授業内で紹介する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業への積極的な参加 50% 担当回の発表 50%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室		
備考	授業外での学習時間は60時間程度である。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化観光実習演習	科目名 (英文)	Cultural Tourism Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦, 林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際教養」プログラム対応科目である。		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。</p> <p>【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h）</p>		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への取り組み (40%)、プレゼンテーションもしくはレポート (60%) をもとに総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	担当教員の豊富な実務経験を生かしながら演習をすすめます。パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。		
担当者の研究室等	7号館4階 (林田研究室)		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。		

科目名	文化と表現	科目名(英文)	Cultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>※2015年以降入学生には、この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。 我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。 この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。 それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわる人間になることを目指す。</p> <p>この授業は、レポートなどに必要な「正しい」日本語を書く技能を身につける授業ではありません。日本語と格闘する授業です。</p>																																																																		
到達目標	日本語表現の特徴について、他言語とも比較しつつ、具体的に説明できる。 日本語表現を客観的にとらえ、多様な視点から考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	皆さんの意見も聞きながら講義を進行します。 毎回、コメントペーパーを提出します。 全部で3節からなります。各節の最後にまとめのテストをします。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>日本語はどのような言語か 多様な視点から考える</td> <td>授業の内容を整理する(1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界の中の日本語</td> <td>日本語は特殊な言語なのか考える</td> <td>日本語の特徴について調べる(2時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語の構造</td> <td>日本語の構造を考える</td> <td>日本語の構造について本をもとに考える(2時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較</td> <td>複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える</td> <td>授業で指示する課題に取り組む(2時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1-2.日本語のレトリック</td> <td>様々なレトリックを学ぶ</td> <td>授業で指示する課題に取り組む(2時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1-3.日本語のオノマトペ</td> <td>日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える</td> <td>授業で指示する課題に取り組む(2時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1-4.まとめ</td> <td>レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>事前:第1節の内容を整理する(2時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2.詩文の日本語 2-1.和歌に見る語感</td> <td>和歌を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>授業で指示する課題に取り組む(2時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>2-2.俳句に見る語感</td> <td>俳句を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>授業で指示する課題に取り組む(2時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>2-3.歌詞の語感</td> <td>現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る</td> <td>授業で指示する課題に取り組む(2時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>2-4.まとめ</td> <td>レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>事前:第2節の内容を整理する(2時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称</td> <td>小説を例に、人称表現について考える</td> <td>授業で指示する課題に取り組む(2時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>3-2.現在形と過去形</td> <td>小説を例に、現在と過去の表現について考える</td> <td>授業で指示する課題に取り組む(2時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>3-3.多様な表現方法</td> <td>小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える</td> <td>授業で指示する課題に取り組む(2時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>3-4.まとめ</td> <td>レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト</td> <td>事前:第3節の内容を整理する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する(1時間)	2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	日本語の特徴について調べる(2時間)	3	日本語の構造	日本語の構造を考える	日本語の構造について本をもとに考える(2時間)	4	1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)	5	1-2.日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	授業で指示する課題に取り組む(2時間)	6	1-3.日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)	7	1-4.まとめ	レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト	事前:第1節の内容を整理する(2時間)	8	2.詩文の日本語 2-1.和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む(2時間)	9	2-2.俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む(2時間)	10	2-3.歌詞の語感	現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む(2時間)	11	2-4.まとめ	レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト	事前:第2節の内容を整理する(2時間)	12	3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)	13	3-2.現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)	14	3-3.多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)	15	3-4.まとめ	レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト	事前:第3節の内容を整理する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する(1時間)																																																																
2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	日本語の特徴について調べる(2時間)																																																																
3	日本語の構造	日本語の構造を考える	日本語の構造について本をもとに考える(2時間)																																																																
4	1.言葉にこだわる 1-1.辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)																																																																
5	1-2.日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	授業で指示する課題に取り組む(2時間)																																																																
6	1-3.日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)																																																																
7	1-4.まとめ	レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト	事前:第1節の内容を整理する(2時間)																																																																
8	2.詩文の日本語 2-1.和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む(2時間)																																																																
9	2-2.俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む(2時間)																																																																
10	2-3.歌詞の語感	現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む(2時間)																																																																
11	2-4.まとめ	レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト	事前:第2節の内容を整理する(2時間)																																																																
12	3.日本語表現を見直す 3-1.一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)																																																																
13	3-2.現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)																																																																
14	3-3.多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	授業で指示する課題に取り組む(2時間)																																																																
15	3-4.まとめ	レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト	事前:第3節の内容を整理する																																																																
関連科目	外国語専門職プログラム対応科目 日本語史概論、日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	レポート(3回)(70%) まとめテスト(15%) 授業参加度(コメントペーパー)(15%)																																																																		
学生へのメッセージ	言葉に敏感になろう																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階(橋本研究室)																																																																		
備考	コメントペーパー、レポートについては、次の回でフィードバックします。 上記時間にレポート作成に要する時間を加え、事前事後学習時間の目安は60時間。																																																																		

科目名	貿易中国語 a	科目名 (英文)	Chinese for International Trade a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3077e0		

授業概要・目的	本授業は 2020 日本オリンピック開催の際にでも役立つ、おもてなしの中国語表現や日本文化を紹介するのに必要な中国語を習得する。この学習を通して、将来ビジネスで活躍するための中国語の運用能力を高める。
到達目標	中国語検定 2 級に必要な語彙力、コミュニケーション力を高める。
授業方法と留意点	単語やカスタマイズによるフレーズの習得を重視する。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 2 級や通訳案内士試験の受験。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	おもてなしの中国語 1	・ごあいさつ① ・小さな親切 ・助言 ・提案 ○カスタマイズ練習	第 1-3 回の単語と表現を覚えること。 課題文 (富士山・桜) を覚えること。
2	おもてなしの中国語 2	・ごあいさつ② ・売店表現① ・万能フレーズ ・金額を伝える ○カスタマイズ練習	第 4-6 回の単語と表現を覚えること。 課題文 (寿司・京都) を覚えること。
3	おもてなしの中国語 3	・売店表現② ・品物の紹介 ・道案内① ○カスタマイズ練習	第 7-9 回の単語と表現を覚える。 前 3 回の会話文を復習すること。
4	おもてなしの中国語 4	☆テスト 1 (前 3 回の内容) ・道案内② ・タクシーでの表現 ・親切なご注意 ○カスタマイズ練習	第 10-12 回の単語と表現を覚えること。 課題文 (漆・お茶) を覚えること。
5	おもてなしの中国語 5	・飲食店内表現 (席への要望、注文時の確認事項、お薦めメニューなど) ○カスタマイズ練習	第 13-15 回の単語と表現を覚えること。 課題文 (カレー・東京) を覚えること。
6	おもてなしの中国語 6	・撮影の手助け ・連絡方法 ・アドレスの交換 ○カスタマイズ練習	第 16-18 回の単語と表現を覚える。 前 3 回の会話文を復習すること。
7	おもてなしの中国語 7	☆テスト 2 (前 3 回の内容) ・旅館表現 (Wi-Fi、温泉利用時の注意事項) ・雑談① ○カスタマイズ練習	第 19-21 回の単語と表現を覚えること。 課題文 (歌舞伎・ラーメン) を覚えること。
8	おもてなしの中国語 8	・雑談② ・料理提供時の表現 ・注文方法 ○カスタマイズ練習	第 22-24 回の単語と表現を覚えること。 課題文 (大阪・北海道) を覚えること。
9	おもてなしの中国語 9	・体調への気遣い ・器具の操作説明 ○カスタマイズ練習	第 25-27 回の単語と表現を覚える。 前 3 回の会話を復習すること。
10	おもてなしの中国語 10	☆テスト 3 (前 3 回の内容) ・乗り換えに役立つ表現 ・支払いに関する表現 ○カスタマイズ練習	第 28-30 回の単語と表現を覚えること。 課題文 (落語・浮世絵) を覚えること。
11	おもてなしの中国語 11	・サービス利用 ・ブランド品紹介 ・ごみ捨て① ○カスタマイズ練習	第 31-33 回の単語と表現を覚える。 課題文 (相撲・コンビニ) を覚えること。
12	おもてなしの中国語 12	・日本の伝統食品① ・商品の中国語資料 ・アニメ ○カスタマイズ練習	第 34-37 回の単語と表現を覚える。 前 3 回の会話文を復習すること。
13	おもてなしの中国語 13	☆テスト 4 (前 3 回の内容) ・日中文化の相違 ・茶道 ・日本の伝統食品② ○カスタマイズ練習	第 38-40 回の単語と表現を覚える。 課題文 (うどん・鎌倉・漫画) を覚えること。
14	おもてなしの中国語 14	・ごみ捨て② ・順番待ちなどの誘導 ・免税手続き ・包装関連表現 ○カスタマイズ練習	第 41-44 回の単語と表現を覚えること。 課題文 (日本酒・弁当) を覚えること。 前 2 回の会話文を復習すること。
15	おもてなしの中国語 15	☆テスト 5 (前 2 回の内容) ・理髪店・美容院での表現 ・観光地での表現	第 45-48 回の単語と表現を覚えること。 課題文 (神社・沖縄・城) を覚えること。

			・友好交流の表現 ○カスタマイズ練習	
関連科目	3年次の専門科目の中の各中国語科目（必修と選択）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おもてなしの中国語	日本放送協会	NHK 出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 30%、単元テスト 70%			
学生への メッセージ	フレーズをどんどん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。			
担当者の 研究室等	7号館 3階（愈研究室）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。			

科目名	貿易中国語 b	科目名 (英文)	Chinese for International Trade b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3078e0		

授業概要・目的	本授業はビジネス現場のいろんな場面に合わせて、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。
到達目標	中国語検定2級に必要な語彙力、コミュニケーション力を高める。
授業方法と留意点	単語やフレーズの習得を重視する。新しい言葉を辞書で調べておくこと。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験2級や通訳案内士試験の受験。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1章 オフィスの中国語①	オフィス用品、オフィス用語、自己紹介①など	p36-42の単語と表現を覚えること。
2	第1章 オフィスの中国語②	自己紹介②、電話対応など	p43-48の単語と表現を覚えること。
3	第1章 オフィスの中国語③	役職用語、社内案内など	p49-54の単語と表現を覚えること。 前3回の復習をすること。
4	第2章 会議と報告①	☆テスト1 (前3回の内容) グラフ用語、会議の司会など	p58-61の単語と表現を覚えること。
5	第2章 会議と報告②	担当者による話し合い、はっきり意見を述べる	p62-67の単語と表現を覚える。
6	第2章 会議と報告③	議論と調整、プレゼンテーションなど	p68-77の単語と表現を覚える。 前3回の復習をすること。
7	第3章 出張と接待①	☆テスト2 (前3回の内容) 関連用語、関連フレーズ、出張前の確認	p80-86の単語と表現を覚えること。
8	第3章 出張と接待②	空港での出迎え、展示会の説明	p87-91の単語と表現を覚えること。
9	第3章 出張と接待③	お客様をもてなすなど	p92-100の単語と表現を覚えること。 前3回の復習をすること。
10	第4章 交渉と契約①	☆テスト3 (前3回の内容) 製品供給用語、契約の交渉など	p102-105の単語と表現を覚えること。
11	第4章 交渉と契約②	仕入れと価格交渉、発注と支払いなど	p106-111の単語と表現を覚える。
12	第4章 交渉と契約③	包装と輸送、業界提携など	p112-122の単語と表現を覚えること。 前3回の復習をすること。
13	付録ービジネス文書①	☆テスト4 (前3回の内容) 総会通知、メールによる提議	p124-129の単語と表現を覚える。
14	付録ービジネス文書②	出張の申し送り、日程、確認メール	p130-135の単語と表現を覚える。 前2回の復習をすること。
15	付録ービジネス文書③	☆テスト5 (前2回の内容) 契約書、見積書	p136-139の単語と表現を覚える。

関連科目	3年次の専門科目の中の各中国語科目 (必修と選択)
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト30%、単元テスト70%
-----------	------------------

学生へのメッセージ	フレーズをたくさん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各60分の学習を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 (兪研究室)
----------	--------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する授業は演習形式で実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 1-76 の単語と例文の学習 (2 時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 77-152 の単語と例文の学習 (2 時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 153-228 の単語と例文の学習 (2 時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 229-304 の単語と例文の学習 (2 時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 305-380 の単語と例文の学習 (2 時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 381-456 の単語と例文の学習 (2 時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 457-523 の単語と例文の学習 (2 時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 524-602 の単語と例文の学習 (2 時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 603-680 の単語と例文の学習 (2 時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 681-753 の単語と例文の学習 (2 時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 754-808 の単語と例文の学習 (2 時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 1-400 の単語と例文の学習 (2 時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の No. 401-808 の単語と例文の学習 (2 時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	2 つのテストの振り返り学習を行う (2 時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習を行う (2 時間)

関連科目
 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3	Fact Book English Grammar Workbook advanced	桐原書店編集部	桐原書店	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
 TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ
 英語学習に近道はありませんので、コツコツと学習していきましょう。

担当者の研究室等
 7 号館 3 階 吉村研究室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名(英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
6	存在文(there 構文)と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
13	英作文(筆記)テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習(1時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志		成美堂
3	TOEIC TEST GRAMMAR 5 分間 TOEIC テストサプリメント 文法・語法	小池直己		南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
担当者の研究室等	7号館5階 松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	皆本 智美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志		成美堂
3	5分間 TOEIC テスト・サプリメント 文法・語法 A Shorter Course in TOEIC Test Grammar	小池直己		南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) TOEIC 基本語彙テスト 30%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ 基本をしっかり身につけましょう。

担当者の研究室等 7号館4階 皆本研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志		成美堂
3	Grammar Workouts!	Masao Yasumaru Akiko Watanabe		金星堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) TOEIC 基本語彙テスト 30%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ 語彙と文法の習得には、毎日コツコツ学習することが大切です。読んだり書いたりしながら楽しく学習しましょう。

担当者の研究室等 7 号館 4 階 西川研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7 号館 3 階 鳥居研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名(英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果(資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
13	英作文(筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)	

関連科目
 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3	TOEIC TEST GRAMMAR 5 分間 TOEIC テストサブリメント 文法・語法	小池直己	南雲堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)
 TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ
 文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。

担当者の研究室等
 7号館5階 後藤研究室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名(英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果(資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文(筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

関連科目
 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志		成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)
 TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ
 英文法は暗記ではなく、ロジックを理解することが最も重要です！ロジックさえ頭に入れてしまえば、後は応用が利きます！一緒にがんばりましょう！

担当者の研究室等
 7号館5階 杉浦研究室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) TOEIC 基本語彙テスト 30%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7 号 4 階 高橋研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)。
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)。

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英会話が上手になる英文法	松本 茂	NHK 出版
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30%、100SS 筆記テスト 30%、授業中の小テスト・発表、提出物等 40%
学生へのメッセージ	英語を好きになることから始めてみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 中島研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはスケジュールパワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7 号館 5 階 鈴木研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉浦 秀行
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中・高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	授業内での英語でのやり取りもたくさん入れていきます! 普段から「使える英語」を意識して、知識を吸収していきましょう!
担当者の研究室等	7 号館 5 階 杉浦研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)	
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)	

関連科目
 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
 TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ
 語彙と文法は語学力の基礎になりますので、しっかり学習していきましょう。

担当者の研究室等
 7号館4階 中島研究室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはチュードントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

関連科目
 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)
 TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
 7号館3階 鳥居研究室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。授業は演習形式で実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 809-916の単語と例文の学習 (2時間)
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 917-999の単語と例文の学習 (2時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 1000-1079の単語と例文の学習 (2時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 1080-1176の単語と例文の学習 (2時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 1177-1257の単語と例文の学習 (2時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 1258-1338の単語と例文の学習 (2時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 1339-1419の単語と例文の学習 (2時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 1420-1500の単語と例文の学習 (2時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 809-1000の単語と例文の学習 (2時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 1001-1200の単語と例文の学習 (2時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 1201-1350の単語と例文の学習 (2時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 1351-1500の単語と例文の学習 (2時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集のNo. 809-1500の単語と例文の学習 (2時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	2つのテストの振り返り学習を行う (2時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (2時間)

関連科目
 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ
 英語学習に近道はありませんので、コツコツ学習していきましょう。

担当者の研究室等
 7号館3階 吉村研究室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高一貫で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3	Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2	David E. Bramley	松柏社	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
担当者の研究室等	7号館5階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的
 共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高校で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。

到達目標
 英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。

授業方法と留意点
 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。

科目学習の効果 (資格)
 TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

関連科目
 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
 TOEIC 基本語彙テスト 30%
 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
 ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等
 7号館4階 高橋研究室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名(英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
13	英作文(筆記)テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習(1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習(1時間)

関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志		成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% ※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。
学生へのメッセージ	外国語を使えるようになるには、材料(語彙・構文)と技術(発音・話し方)が欠かせません。あなたの「気持ち」をきちんと相手に伝えられるようになるために、いい材料を仕込んで技術を磨きましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

関連科目 スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) TOEIC 基本語彙テスト 30%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
※「100SS 筆記テスト」の結果が合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。

学生へのメッセージ 文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。

担当者の研究室等 7号館5階 松田研究室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高校で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オンライン教材付きの共通テキストを使用し、学生の自発的かつ計画的な学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1時間)

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷 恒志	成美堂	
3	Grammar Workouts!	Masao Yasumaru, Akiko Watanabe	金星堂	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC 基本語彙テスト 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。

科目名	ホスピタリティ・インターンシップ	科目名(英文)	Hospitality Business Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3235a0		

授業概要・目的	<p>ANA総合研究所と連携し、観光ホスピタリティプログラムの授業で学んだ内容を実践する授業です。日本の主要航空会社で空港旅客業務やグランドハンドリング会社、グループ航空会社で人事・総務部門を長年にわたり担当してきた講師が、実務経験を踏まえた授業を実施する。</p> <p>ホスピタリティ・インターンシップの目的は、ホスピタリティ産業において実際の仕事の現場に接することにより、</p> <p>①社会における仕事の役割・意義 ②責任とやりがい ③ホスピタリティの本質を体感することである。</p> <p>※なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。</p>																
到達目標	ホスピタリティ産業の現場で実務を体験することにより、仕事の厳しさ、楽しさ、やりがいなどを実感して、就業意識を高めることを目標とする。また、ここまで授業で学んできたホスピタリティの知識や感性を実際に発揮する機会を得ることである。																
授業方法と留意点	<p>6月、対象企業、参加人数、実施日時確定後に説明会を開催。履修希望者はESを提出。選考後、履修者発表。(希望者多数の場合は、機会均等の観点から2年時に「体験型特別実習Aに参加していないものを優先する。)</p> <p>8月上旬、前期試験終了後、事前集中授業を開催(参加者は必ず受講のこと)。</p> <p>8月中下旬、各企業のインターンシップに参加。</p> <p>9月、後期授業開始前に事後授業(体験報告)を実施。</p> <p>受入企業に迷惑がかかるため、受講態度、マナーの悪いものには本インターンシップへの参加を認めない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>[事前・事後授業] 下記①、②は39時間、③は14時間</p> <p>(1) 事前授業 前期授業終了後、本学内で2～6回的事前集中授業を実施し、対象事業の基礎知識を習得するとともに、それぞれの目標、目的を見直し、参加にあたっての心構えを作り上げる。</p> <p>(2) インターンシップ(対象企業は確定していません。下記は過去の実績からの予定企業です)。</p> <p>① 海外空港実務体験(2名) ・台湾・台北空港での空港旅客取扱業務(GS業務)の実践 ・4泊5日程度で実際の訓練と実務を体験 ・対象企業 : ANA台北空港所 ・渡航費用 : 約15万円から16万円(2018年実績)</p> <p>② 海外空港実務体験(2名) ・ベトナム・ハノイ空港での空港旅客取扱業務(GS業務)の実践 ・4泊5日程度で実際の訓練と実務を体験 ・対象企業 : ANAハノイ空港所 ・渡航費用 : 約9万円から10万円(2018年実績、別途ビザ費用必要)</p> <p>③ ホテル業務訓練の体験(3～4名) ・ホテルでの新入訓練と同等の訓練の圧縮版を体験 ・2週間程度で実際の訓練と実務を体験(通い) ・対象企業 : ANAクラウンプラザホテル大阪</p> <p>(3) 事後授業 後期授業開始前に事後授業とし2コマの報告会を実施する。</p>																
関連科目	「観光ホスピタリティ」プログラム科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	各インターンシップとも受入企業先評価30%、事前・事後授業の参加姿勢30%、体験報告の内容40%																
学生へのメッセージ	憧れのホスピタリティ産業。ここまで学んできた知識や感性が実際の仕事を体験する中で、どこまで通用するか実感することは今後の大きな収穫です。是非、この機会に実際の宿場にチャレンジして、自分との距離を縮めてみましょう。																
担当者の研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタリティールーム)																
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になります。																

科目名	ホスピタリティ論	科目名(英文)	Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2218a0		

授業概要・目的	<p>・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、ホスピタリティを言語、文化、そして、個人(消費者)からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく授業である。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。</p> <p>※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。 ・コミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	Power point と配布資料で授業を進めていき、適宜ディスカッション等も交えていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。また、簡単な社会人としてのマナーの実習も行う。
科目学習の効果(資格)	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	積極的な参加
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを考えてみる。
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。
4	事例研究1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。
7	ホスピタリティとマニュアル	お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。	アルバイト先のマニュアルがどのようなものか考えてみる。
8	事例研究2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足No.1のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験(スポーツ、アルバイトなど)を振り返る。
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる、
11	事例研究3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。
13	事例研究4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
14	観光立国	日本の観光の現状はどうなっているのか	新聞で観光に関する記事を見つける。
15	まとめ	授業全体のまとめ	積極的な参加

関連科目 エアライン・ホスピタリティプログラム科目(～2014年度入学生)
観光ホスピタリティプログラム科目(2015年度～入学生) エアラインビジネス論 ホテルビジネス論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 参加態度10% 毎回の小レポート40% 定期試験50%

学生へのメッセージ
 ・授業には「適宜」社会人になる為の心得も盛り込んでいきます。
 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。
 ・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。

担当者の研究室等 7号館4階(塩崎・沖中研究室)

備考 事前・事後学習にかかる総時間数60時間
フィードバックの方法 15回目の授業内にて。テストのフィードバックは個々に対応。

科目名	ホスピタリティ論 I	科目名 (英文)	Hospitality I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、ホスピタリティを言語、文化、そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく授業である。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。</p> <p>※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。 ・コミュニケーション能力の向上
授業方法と留意点	Power point と配布資料で授業を進めていき、適宜ディスカッション等も交えていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。また、簡単な社会人としてのマナーの実習も行う。
科目学習の効果 (資格)	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	積極的な参加
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを考えてみる。
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。
4	事例研究1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。
7	ホスピタリティとマニュアル	お客様へ伝えるための留意点を考える。マニュアルとホスピタリティマインドについて考察する。	アルバイト先のマニュアルがどのようなものか考えてみる。
8	事例研究2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足No.1のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験（スポーツ、アルバイトなど）を振り返る。
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる、
11	事例研究3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。
13	事例研究4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。
14	観光立国	日本の観光の現状はどうなっているのか	新聞で観光に関する記事を見つける。
15	まとめ	授業全体のまとめ	積極的な参加

関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目（～2014年度入学生） 観光ホスピタリティプログラム科目（2015年度～入学生） エアラインビジネス論 ホテルビジネス論
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	参加態度 10% 毎回の小レポート 40% 定期試験 50%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	<p>・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。</p> <p>・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。</p> <p>・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。</p>
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階（塩崎・沖中研究室）
----------	-----------------

備考	事前・事後学習にかかる総時間数 60 時間 フィードバックの方法 15 回目の授業内にて。テストのフィードバックは個々に対応。
----	--

科目名	ホテルビジネス論	科目名(英文)	Hotel Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2219a0		

授業概要・目的	訪日外国人の増加や2020年東京オリンピック開催に向け、注目されるホテル業界に関心を持つ受講生に、その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を分かりやすく説明する。 また、観光業界の一角を担う航空会社の現業部門や本社人事、総務部門を担当した実務経験者の教員が企業経営や会社収支分析も含め、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。 ※この科目は、2015年度以降の入学を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。プリントの空欄となっている要点について、パワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。 日ごろからホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果(資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立つ事ができる(特に公的資格取得には繋がるものではない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
3	日本の宿泊業の歴史(1)第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
4	日本の宿泊業の歴史(2)終戦から現代まで	前回到引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
13	ホテルの組織と仕事(1)宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
14	ホテルの組織と仕事(2)料	前回到引き続き、料飲部門、宴会部門、	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積

	飲・宴会部門など	管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
関連科目	観光ホスピタリティプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館
評価方法 (基準)	10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験60%、授業毎のレポート、授業参加姿勢40%。 (定期試験は幅広い範囲への対応が求められるので、各回授業で配布される資料のポイントを復習して、自らの知識として整理することが重要となる)。			
学生への メッセージ	訪日外国人の増加、2020年の東京オリンピックに向け注目されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室)			
備考	毎回の授業でレポートを提出していただきます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックいたします。			

科目名	ホテルビジネス論 I	科目名 (英文)	Hotel Business I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	訪日外国人の増加や2020年東京オリンピック開催に向け、注目されるホテル業界に関心を持つ受講生に、その産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を分かりやすく説明する。 また、観光業界の一角を担う航空会社の現業部門や本社人事、総務部門を担当した実務経験者の教員が企業経営や会社収支分析も含め、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。 ※この科目は、2015年度以降の入学を対象とした「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目の一つです。
到達目標	ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	主にパワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿ったプリントを毎回配布する。 質問については随時受け付ける。また、授業終了時に毎回提出する小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。プリントの空欄となっている要点について、パワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。 日ごろからホテル関連の報道等に関心を持って接し、授業に臨んで欲しい。
科目学習の効果 (資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立つ事ができる (特に公的資格取得には繋がるものではない)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などを説明。	特になし。
	2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	3	日本の宿泊業の歴史(1) 第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	4	日本の宿泊業の歴史(2) 終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	13	ホテルの組織と仕事(1) 宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)
	14	ホテルの組織と仕事(2) 料	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積

	飲・宴会部門など	管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)	
関連科目	観光ホスピタリティプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館
評価方法 (基準)	10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 定期試験60%、授業毎のレポート、授業参加姿勢40%。 (定期試験は幅広い範囲への対応が求められるので、各回授業で配布される資料のポイントを復習して、自らの知識として整理することが重要となる)。			
学生への メッセージ	訪日外国人の増加、2020年の東京オリンピックに向け注目されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室)			
備考	毎回の授業でレポートを提出していただきます。そこに記載された質問については、次回授業でフィードバックいたします。			

科目名	ボランティア論	科目名(英文)	Volunteerism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2207a0		

授業概要・目的	本講義ではボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国内ボランティア、NGO、NPO、JICA ボランティア、民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国内外の社会常識と知識を深める。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際ボランティアの現状を知る。各講義の最後 15～20 分間は、質疑応答の時間とする。 事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。
科目学習の効果(資格)	日本の立場を国際的な視野から見る。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ(起承転結)を知る	ボランティア・社会奉仕・社会貢献についての概略
2	(起-1) ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	答えのない世界とは何かを考える
3	(起-2) ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	どこでなにが起きるかわからないということを理解する
4	(起-3) 社会貢献	社会貢献やCSRとは何かを知る	個人・団体・企業など様々な取り組みを考える
5	(承-1) 企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	慈善なのか、企業倫理なのかを考える
6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	偽善とは何なのかを考える
7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	目的別のボランティアを考える
8	(転-2) 国際ボランティア(青年海外協力隊)	国際ボランティア(青年海外協力隊)になるにはどうしたら良いのかを知る	チャレンジとは、何かを知る
9	(転-3) 国際ボランティア(国連ボランティア)	国際ボランティア(国連ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える①
10	(転-4) 国際ボランティア(NGO ボランティア)	国際ボランティア(NGO ボランティア)になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える②
11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	自覚と義務とのギャップを巻がる
12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える
13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	ボランティアを受ける側の事情を考察する
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	ボランティア活動10ヶ条を考える
15	総括的確認(必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	ボランティア活動を人生に生かす方法を考える

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階(浅野研究室)
----------	--------------

備考	この授業の担当教員は、国際協力機構(JICA)の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて10年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を33名、JICA ボランティア(青年海外協力隊)に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。
----	--

科目名	翻訳文化論	科目名(英文)	Translation and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL2213a0		

授業概要・目的	<p>「翻訳文化」ならびに「翻訳と文化」の問題について、海外の文化人による日本文化論を読みながら広範に考察する。</p> <p>ここで言う「翻訳」とは、単にある言語から別の言語に変換することではなく、「日本」を新しく創造的に問い直す視点を見出すことである。海外の文化人が「日本の外側」から捉えた「日本」を読解することで、履修者各自が自身の所属する「日本」を捉えなおすきっかけになるよう、ともに考察していきたい。</p> <p>文化論を読んだことのない学生、そもそも活字が苦手な学生にも理解できるように配慮する。</p> <p>なお本授業は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムに対応する科目です。</p>																																																																		
到達目標	<p>①文化論(特に海外のもの)を読解する力を身につける ②海外の日本文化論の特徴や歴史を理解する ③海外の日本文化論を通じて自身の所属する「日本」を捉えなおす視点を養う</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義を中心に行う。ドキュメンタリーなどの映像資料を鑑賞することもある。教材はプリントで配布する。</p> <p>毎回、扱う日本文化論についての感想や疑問を、コメントシートに自由に記載してもらい、次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。教員が一方的に話すのではなく、履修者との対話的な授業を心がけたい。</p> <p>授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進める。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「外」から見た「日本」</td> <td>ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロを題材に、「日本」を「外」から論じる視点の意義を考察する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ゴンチャロフ『日本渡航記』</td> <td>『日本渡航記』を中心にゴンチャロフを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>サトウ『一外交官の見た明治維新』</td> <td>『一外交官の見た明治維新』を中心にサトウを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ミットフォード『英国外交官の見た幕末維新』</td> <td>『英国外交官の見た幕末維新』を中心にミットフォードを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>バード『日本奥地紀行』</td> <td>『日本奥地紀行』を中心にバードを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ハーン『知られぬ日本の面影』</td> <td>『知られぬ日本の面影』を中心にハーンを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>タウト『日本文化私観』</td> <td>『日本文化私観』を中心にタウトを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ベネディクト『菊と刀』</td> <td>『菊と刀』を中心にベネディクトを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』</td> <td>『ジャパン・アズ・ナンバーワン』を中心にヴォーゲルを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>キーン『日本人の西洋発見』</td> <td>『日本人の西洋発見』を中心にキーンを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>バルト『表徴の帝国』</td> <td>『表徴の帝国』を中心にバルトを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ダワー『敗北を抱きしめて』</td> <td>『敗北を抱きしめて』を中心にダワーを講読する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>オリエンタリズムと日本</td> <td>「外」から「日本」を見るときに発する「オリエンタリズム」という問題について解説する</td> <td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総括・レポート提出指示</td> <td>授業内容全体を総括し、レポート作成の指示をする</td> <td>レポートの準備・作成・提出</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	2	「外」から見た「日本」	ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロを題材に、「日本」を「外」から論じる視点の意義を考察する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	3	ゴンチャロフ『日本渡航記』	『日本渡航記』を中心にゴンチャロフを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	4	サトウ『一外交官の見た明治維新』	『一外交官の見た明治維新』を中心にサトウを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	5	ミットフォード『英国外交官の見た幕末維新』	『英国外交官の見た幕末維新』を中心にミットフォードを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	6	バード『日本奥地紀行』	『日本奥地紀行』を中心にバードを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	7	ハーン『知られぬ日本の面影』	『知られぬ日本の面影』を中心にハーンを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	8	タウト『日本文化私観』	『日本文化私観』を中心にタウトを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	9	ベネディクト『菊と刀』	『菊と刀』を中心にベネディクトを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	10	ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』	『ジャパン・アズ・ナンバーワン』を中心にヴォーゲルを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	11	キーン『日本人の西洋発見』	『日本人の西洋発見』を中心にキーンを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	12	バルト『表徴の帝国』	『表徴の帝国』を中心にバルトを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	13	ダワー『敗北を抱きしめて』	『敗北を抱きしめて』を中心にダワーを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	14	オリエンタリズムと日本	「外」から「日本」を見るときに発する「オリエンタリズム」という問題について解説する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	15	総括・レポート提出指示	授業内容全体を総括し、レポート作成の指示をする	レポートの準備・作成・提出
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
2	「外」から見た「日本」	ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロを題材に、「日本」を「外」から論じる視点の意義を考察する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
3	ゴンチャロフ『日本渡航記』	『日本渡航記』を中心にゴンチャロフを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
4	サトウ『一外交官の見た明治維新』	『一外交官の見た明治維新』を中心にサトウを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
5	ミットフォード『英国外交官の見た幕末維新』	『英国外交官の見た幕末維新』を中心にミットフォードを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
6	バード『日本奥地紀行』	『日本奥地紀行』を中心にバードを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
7	ハーン『知られぬ日本の面影』	『知られぬ日本の面影』を中心にハーンを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
8	タウト『日本文化私観』	『日本文化私観』を中心にタウトを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
9	ベネディクト『菊と刀』	『菊と刀』を中心にベネディクトを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
10	ヴォーゲル『ジャパン・アズ・ナンバーワン』	『ジャパン・アズ・ナンバーワン』を中心にヴォーゲルを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
11	キーン『日本人の西洋発見』	『日本人の西洋発見』を中心にキーンを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
12	バルト『表徴の帝国』	『表徴の帝国』を中心にバルトを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
13	ダワー『敗北を抱きしめて』	『敗北を抱きしめて』を中心にダワーを講読する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
14	オリエンタリズムと日本	「外」から「日本」を見るときに発する「オリエンタリズム」という問題について解説する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
15	総括・レポート提出指示	授業内容全体を総括し、レポート作成の指示をする	レポートの準備・作成・提出																																																																
関連科目	日本文学・文化に関する科目(「日本文学」など)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1																																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1																																																											
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
評価方法(基準)	平常点(コメントシートの内容、積極性) 30% レポート 70%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館4階(古矢研究室)																																																																		
備考																																																																			

科目名	マスコミ論	科目名(英文)	Mass Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2225a0		

授業概要・目的	「マスコミとは何か」という基本的な問いかけを軸に、マスコミの役割や機能、個人や社会にもたらす影響などについて理解する。一方で、「報道とは何か」というジャーナリズムの根幹やその変遷について考え、マスコミの将来について考えたい。
到達目標	※この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目です。 マスコミの基本的な役割を理解し、新聞記事やテレビニュース、ネット情報などを、メディアリテラシーに基づく、判断ができる能力の開発を目指す。
授業方法と留意点	一方的な講義型授業ではなく、学生との対話やグループディスカッションや作業などを重視した双方向型の授業を目指したい。毎回、課題を設定し、学生自らが考え、自説を発表したり、書いたりする学生参加型授業を実践する。
科目学習の効果(資格)	マスコミを理解することによって、事態をうのみにするのではなく、リテラシー能力を持って、自分の考えをつくることことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	この科目の狙いや進め方、評価方法などを説明する。	新聞やテレビニュースなどに触れる。
2	マスコミって何だろう1	マスコミの現状を知る マスコミとマスメディア SNSはマスコミか	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
3	マスコミって何だろう2	新聞記事を基に5W1Hを考える	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
4	マスコミって何だろう3	ニュース記事を書いてみる 5W1Hを意識して書く 発信する責任 事実を考えるうえで主観と客観を意識する	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
5	振り返り	これまでの内容を振り返り、「マスコミとは何か」という自分の考えをまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
6	報道を考える1	多面的報道型とオピニオン型の違いや新聞とテレビの違いを理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
7	報道を考える2	客観報道の意味を考え、事実と真実の関係を理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
8	報道を考える3	ジャーナリストはなぜ深いのか、を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
9	振り返り	これまでの内容を振り返り、マスコミに対する自分の意見をまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
10	報道と情報1	ネット情報を読み解く。ネット情報は玉石混交、情報の確度を考える。四つの疑問(①事実か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
11	報道と情報2	誤報とやらせや「伝える」と「伝わる」を考える。四つの疑問(①事実か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
12	報道と情報3	informationとinteligencenの違い 四つの疑問(①事実か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
13	報道と情報4	民主主義を守る報道、権力監視という役割を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
14	振り返り	情報と報道の違いを意識して、論説文を書いてみる。	あらゆる媒体に触れ、自分の意見を構築してみる。
15	全体のまとめ	学んだことを踏まえ、改めて「マスコミとは何か」という自分の考えをつくる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。

関連科目	メディアビジネスプログラムの他の科目など。
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題・レポート(70%)、授業への取り組みなど(30%)により、総合的に評価する。
学生への	巷にあふれる情報をいかに取り入れ、正しく判断するか、を考える機会にしたいと思っています。スマホなどのネット情報だけではなく、新聞、

メッセージ	<p>テレビ、雑誌など幅広い媒体に興味を持つきっかけにしてください。</p> <p>※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってください。</p>
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師控室） 学習支援センター
備考	<p>事前・事後学習にかかる総時間は60時間です。</p> <p>課題や発表に対してはそのつどフィードバックを行います。</p> <p>全国紙などで30年間、経済部記者を中心に現場で記事を書いた。</p>

科目名	ミュージアムコレクション論	科目名(英文)	Studies on Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2186a0		

授業概要・目的	<p>【博物館資料をめぐる理論と方法】</p> <p>博物館資料の種類・特質・収集・整理・保管について「理論」と「方法」を習得する。博物館になくてはならない博物館資料は、美術・歴史・民俗・考古などさまざまな領域に属し、絵画・彫刻・工芸・映像など豊富なジャンルにわたる。その分類法をふまえつつ、まずは具体的な作品の魅力や鑑賞法に触れ、資料が持つ歴史的価値や美的価値の所在を見定めていく。個々人が練り上げた作品に対する興味や関心によって、博物館資料を仕事として取り扱う際の基本的知識を裏打ちしていくことを目指す。</p>
到達目標	<p>以下の3点について、自分の言葉で説明できるようになること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館が資料を収集する意義とその困難 2. 博物館が資料を分類する意義とその困難 3. 博物館が資料の情報発信する際のあたらしいトレンド
授業方法と留意点	<p>授業は全編スライドをもちいた講義形式で、スライド内の文字情報はハンドアウトとしてあらかじめ共有する。</p> <p>各回の最初に10分ほど前回の質問に対するフィードバックの時間を取り、各回の最後に10分ほど質問を入力する時間を取る。</p> <p>実際の博物館もしくは美術館の見学も実施する。</p>
科目学習の効果(資格)	【学芸員資格の取得(必修科目)】

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	博物館資料	博物館資料とはなにか、その定義を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、不明な用語を検索して確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
2	絵画資料#1	絵画資料のうち、フレスコ画、テンペラ画などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、具体的な作品名を検索して確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
3	絵画資料#2	絵画資料のうち、油彩画、水彩画などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、具体的な作品名を検索して確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
4	彫刻資料#1	彫刻資料のうち、木像、銅像などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、具体的な作品名を検索して確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
5	彫刻資料#2	彫刻資料のうち、現代美術、インスタレーションなどの特性を解説する【ゲストレクチャー】	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、具体的な作品名を検索して確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
6	工芸資料	工芸資料である陶磁、染織、ガラスなどの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、絵画作品を検索して確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
7	民俗資料	民俗資料である道具、家具、民家などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、不明な用語を検索して確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
8	歴史資料	歴史資料である古文書、武具などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、不明な用語を検索して確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
9	考古資料	考古資料である土器、遺跡などの特性を解説する。	事前:教材フォルダからハンドアウトをダウンロードし、不明な用語を検索して確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
10	資料収集	博物館資料の収集と収蔵をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:インターネットで博物館の資料収集について調べ、具体的な例を確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
11	資料整理	博物館資料の分類と整理をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:インターネットで博物館の資料整理について調べ、具体的な例を確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
12	資料調査	博物館資料の調査と研究をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:インターネットで博物館の資料調査について調べ、具体的な例を確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
13	資料公開	博物館資料から得られた情報の発信をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:インターネットで博物館の情報発信について調べ、具体的な例を確認する(30分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる(60分)。
14	博物館見学	博物館資料の展示と解説について実地に見学する。	事前:インターネットで見学先の博物館について調べ、実際に見て確かめたいことをリストアップする(30分)。 事後:レポートをまとめる。
15	博物館見学	博物館資料の展示と解説について実地に見学する。	事前:インターネットで見学先の博物館について調べ、実際に見て確かめたいことをリストアップする(30分)。 事後:レポートをまとめる。

関連科目	【博物館科目】ミュージアムへの招待/博物館資料保存論/ミュージアムマネジメント論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の質問 70%、レポート 30%			
学生への メッセージ	<p>毎回授業の終わりに質問をひとつ入力してもらおう。その質問の内容で評価をつけていく。評価の基準は「知識の豊富さ」ではなく「自分できちんと考えられるかどうか」である。この基準については、毎回のフィードバックをとおして具体的に認識していくことができるだろう。</p> <p>「彫刻資料#2」は、現代美術作品のエキスパートである保存修復士にゲストレクチャーをお願いする。実際の実施日はスケジュールのなかで動く可能性があり、確定次第告知する。</p>			
担当者の 研究室等	7号館 5階 杉山研究室			
備考	質問に対する応答は「Q&A シート」を作成し、次回の授業にてフィードバックする。			

科目名	ミュージアムへの招待	科目名(英文)	Introduction to Museum Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩間 香
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1185a0		

授業概要・目的	博物館には、美術館・歴史博物館・文学館・記念館・民俗資料館・動物園・水族館などの施設が含まれます。全国では5700館もの博物館があります。この授業ではさまざまな博物館について、その機能や役割を学びます。 かつて「博物館行き」という言葉は古くさいものの代名詞でしたが、今日の博物館はその姿を大きく変えています。カラフルなシンボル展示、IT技術を駆使した映像展示、実物大の家を再現した体感型展示、様々な参加型プログラムなど、おしゃれで楽しめる施設へと変化しつつあります。またミュージアムグッズも図録だけでなく、Tシャツ・ぬいぐるみ・お菓子などオリジナル商品を豊富に揃えている館が少なくありません。博物館とは何か、これからどう変化していくのかを、その歴史や現状を学びながら考えていきましょう。
到達目標	美術館・博物館の種類・機能・社会的な役割を理解し、学芸員に必要な基礎的な知識を修得します。
授業方法と留意点	毎回、パワーポイント・ビデオなどを使用し、プリントを配布します。また実際の博物館に出かけて見学します。見学の日程は講義内で学生諸君と相談して決めます。現地見学の交通費や入館料は受講者負担です。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	博物館とは何か	資格取得の条件・諸注意 話題のミュージアム紹介 印象に残る博物館や展覧会について学生が紹介する	事前:好きな博物館や記憶に残る展覧会についてコメントをまとめる。(1時間) 事後:ノートの整理(1時間)
2	日本の博物館(1)	歴史博物館 大阪歴史博物館 新潟県立博物館ほか	事前:さまざまな歴史博物館のサイトを見る(30分) 事後:授業でとりあげた博物館に関する本・サイトを参照し、ノートを整理する。(1時間)
3	日本の博物館(2)	美術館・工芸館・民芸館 京都国立近代美術館 佐川美術館ほか	事前:さまざまな美術館のサイトを見る(30分) 事後:授業でとりあげた美術館に関する本・サイトを参照し、ノートを整理する。(1時間)
4	日本の博物館(3)	体感型博物館・野外博物館 大阪くらしの今昔館 日本民家集落博物館ほか	事前:さまざまな博物館のサイトを見る(30分) 事後:授業でとりあげた博物館に関する本・サイトを参照し、ノートを整理する。(1時間)
5	日本の博物館(4)	企業博物館・大学博物館 動物園・水族館 カップヌードルミュージアム 大阪市立天王寺動物園ほか	事前:さまざまな博物館のサイトを見る(30分) 事後:授業でとりあげた博物館に関する本・サイトを参照し、ノートを整理する。(1時間)
6	「博物館法」を読む(1)	博物館法 博物館の定義 資料の定義 博物館の機能・分類	事前・事後:「博物館法」をよく読む。(1時間)
7	「博物館法」を読む(2)	博物館法施行規則 公立博物館に関する法律	事前・事後:講義で取り上げる各法律を良く読む。(1時間)
8	博物館の構造	博物館の空間 エントランス、展示室、収蔵庫、学習室、ミュージアムショップ、レストラン、学芸員室、事務室、駐車場	事前・事後:実際に博物館に足を運び、どのような施設があるか確認してください。(2時間)
9	博物館の活動(1)	保存 展示 常設展・企画展	事前・事後:実際に博物館に足を運び、活動を確認してください。(2時間)
10	博物館の活動(2)	研究 教育・普及 ワークショップ・講演会	事前:博物館のワークショップについて調べる。(30分) 事後:地域社会におけるミュージアムの役割を考える。(1時間)
11	博物館の歴史(1)	西洋のミュージアムの歴史	事後:講義で紹介した施設について、本・サイトを参照しノートを整理する。(1時間)
12	博物館の歴史(2)	日本の博物館の歴史	事後:講義で紹介した施設について、本・サイトを参照しノートを整理する。(1時間)
13	現地見学	関西の特徴的な博物館を見学する。日程・行先・その他は講義の中で指示する。	事前:見学する施設のサイトを見ておく。(30分) 事後:見学した施設についてレポートを作成する。詳細は講義で述べる。(1時間)
14	現地見学	関西の特徴的な博物館を見学する。日程・行先・その他は講義の中で指示する。	事前:見学する施設のサイトを見ておく。(30分) 事後:見学した施設についてレポートを作成する。詳細は講義で述べる。(1時間)
15	現地見学	関西の特徴的な博物館を見学する。日程・行先・その他は講義の中で指示する。	事前:見学する施設のサイトを見ておく。(30分) 事後:見学した施設についてレポートを作成する。詳細は講義で述べる。(1時間)

関連科目	学芸員資格の必修科目とその他の関連科目
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート 30%			
学生への メッセージ	担当者は国立・公立・私立の博物館で学芸員として勤務した経験があります。授業ではこれらの経験を活かし、博物館運営の実情や苦勞、学芸員の仕事の実際と楽しさを伝えたいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館 2階(非常勤講師室)			
備考	事前・事後に約 1 時間の学修時間を要する。			

科目名	ミュージアムマネジメント論	科目名(英文)	Museum Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2190a0		

授業概要・目的	博物館経営に関する行政制度を踏まえながら、さまざまな博物館の形態や多岐にわたる活動について講義する。今後の方向性を考えるとともに、学芸員に必要な博物館経営に関する基礎的知識の習得をめざす。
到達目標	博物館の現状と課題を認識しながら、博物館はどうあるべきかを考え、理想の博物館を実現するためには、どのようなミュージアムマネジメント(博物館経営)が必要であるのかを具体的に理解できる。
授業方法と留意点	配付資料やスライドを見ながら進め、適宜板書もする。受講生が調べたり、考えたりする作業を行い、毎回レポートを課すので欠席しないようにしてください。また、受講生と相談の上、博物館の臨地講義も実施する予定である。
科目学習の効果(資格)	学芸員資格の取得(必修科目)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ミュージアムマネジメントとは	博物館には、効果的なマネジメントが要求される現状にあることを解説する。	配布資料や参考書で復習する。
2	行財政制度と博物館	博物館に係る法律や財務に関する制度について解説する。	配布資料や参考書で復習する。
3	博物館をめぐる行政改革	指定管理者制度、PFI法、独立行政法人制度など、博物館に関する近年の行政改革について解説し、その問題点を考える。	PFI法、指定管理者制度について、本やWEBで調べておく。
4	博物館の財務	博物館の基本的な歳入と歳出などを解説し、財務状況や入館料をめぐる問題点を考える。	博物館の予算的な問題について調べる。
5	博物館の立地と環境	博物館にふさわしい立地条件や自然及び社会的環境について具体的に解説する。	実際の博物館の立地・環境を調べる。
6	博物館の施設と設備	博物館にどのような施設と設備が必要であるかを解説し、館種による相違点を比較する。	配布資料や参考書で復習する。
7	博物館の組織と職員	一般的な博物館の組織と職員、学芸員の具体的な業務内容を説明する。	配布資料や参考書で復習する。
8	博物館事業のあり方	博物館の理念と目的を説明し、その達成のためにどのような事業計画が必要かを検討する。	博物館が実施している事業の具体例を調べておく。
9	博物館の評価	博物館を評価するにはどのような基準・方法があるかを解説し、評価により得られる効果を検討する。	行ったことのある博物館の評価を試みる。
10	博物館の危機管理	博物館で想定されるさまざまな危機について解説し、その対策を具体的に検討する。	博物館にかかわる危機にはどのようなものがあるか考えておく。
11	博物館の広報活動	非営利組織のマーケティングリサーチと、博物館における広報活動の具体的な方法を解説する。	博物館のポスターやチラシなどを見ておく。
12	ミュージアムサービス	ミュージアムショップ、レストランなどに代表されるサービスの現状を説明し、今後の方向性を考える。	本やWEBで博物館のサービスの具体例を調べる。
13	市民参画をめざす博物館	友の会、ボランティアなどの支援組織や、市民参画を促す博物館事業について解説する。	WEBやリーフレットなどで、博物館の友の会などについて調べる。
14	博物館のネットワーク	いろいろな博物館のネットワークについて解説する。	WEBで、日本博物館協会、日本動物園水族館協会などのHPを見る。
15	対話と連携の博物館	博物館が目指す対話と連携を具体的に検討することで、これからの博物館の経営について考える。	配布資料や参考書で復習する。

関連科目 ほかの学芸員科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 講義最終日に行う筆記試験(持ち込み不可)、講義中に課すレポートをもとに評価する。筆記試験(70%)、レポート(30%)とします。

学生へのメッセージ 必ず毎回出席すること。また、本講義を受講する間、多くの博物館に訪れることを望みます。

担当者の研究室等 7号館4階(赤澤研究室)

備考 事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。レポートについては講義中にフィードバックする。

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/環境と経済に関する記事(テキストより)	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習 (2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 毎回、授業始めに復習テストを行います。 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	110
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	2	環境と経済に関する記事	環境と経済に関する学生による発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	4	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する学生による発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	6	気候に関する記事	気候に関する学生による発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	8	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する学生による発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	10	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する学生による発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	11	災害救助のニュース	災害救助のニュースに関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	12	災害救助のニュース	災害救助のニュースに関する学生による発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	13	高速鉄道のニュース	高速鉄道のニュースに関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	14	高速鉄道のニュース	高速鉄道のニュースに関する学生による発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現の講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習 (2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	社会の出来事をしっかりと理解し、それについて意見を持ち、英語で発信できる能力をもつことはこれからの社会で大きなスキルとなります。楽しんで頑張りましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習 (2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 夏津紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
	15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習 (2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% プレゼンテーション、授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	1. マナーを守ること、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備(2時間)
	15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習(2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習 (2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. マナーを守ること、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 ハーキー研究室
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	110
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習 (2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	社会の出来事、問題を理解し、意見をもち、それを英語で発信する力はこれからの社会では大きなスキルとなります。一緒に楽しんで頑張りましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習 (2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松井 夏津紀
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習 (2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% プレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 65%
-----------	---

学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア イングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション/核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (2時間)
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習 (2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Intro to Reading The Japan Times ST/『週刊 ST』からはじめる時事英語	富永美喜	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	1. マナーを守ること、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディア中国語 a	科目名 (英文)	Media Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2073e0		

授業概要・目的	様々なトピックを通じ、現代中国の現況を理解することに努めます。
到達目標	中国語を読み、聞き、書くことで総合力を養成したいと思います。検定3級レベルから2級レベルに焦点を合わせます。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。事前・事後に各60分の学修を要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定3級合格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	知り合いになりませんか?	会話練習 と 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	呼び名の変化 ①	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	呼び名の変化 ②	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	行きたいところはたくさんある	☆ 単元テスト (1) 第1回～第3回 会話練習 と 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	飲食の変化 ①	文章読解 と 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	飲食の変化 ②	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	おひさしぶりです	☆ 単元テスト (2) 第4回～6回 会話練習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	住まい ①	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	住まい ②	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	愛する子には旅をさせよ	☆ 単元テスト (3) 第7回～9回 会話練習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	現代の結婚観 ①	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	現代の結婚観 ②	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13	外国人はみな好きな食べ物	☆ 単元テスト (4) ト 第10回～12回 会話練習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	今日は私がおります	会話練習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	復習	☆ 単元テスト (5) 第13回～14回	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目	「中国語を読むIIa」「中国語を聞くIIa」「中国語を話すIIa」「中国語を書くIIa」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知ってる?今の中国	ダイジェスト版	山下輝彦・路元
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	学期中に7回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と会話発表: 30% 単元テスト: 70%
-----------	--

学生へのメッセージ	語学の習得には地道な努力が必要です。最後まであきらめず、頑張りぬきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師控室 (7号館2階)
----------	-----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	メディア中国語 b	科目名 (英文)	Media Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2074e0		

授業概要・目的	前期と同じく、様々なトピックを通じ、中国の現況に迫ります。
到達目標	中国語の総合力を養います。検定3級から2級合格を目指します。
授業方法と留意点	既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定3級～2級合格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの夢	会話練習・基礎知識の演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
2	海外旅行 ①	文章読解・基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
3	海外旅行 ②	文章読解・基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
4	ある願い	☆ 単元テスト (1) 第1～3回 会話練習・基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
5	Wechat ①	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
6	Wechat ②	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
7	プライベートについて語る	☆ 単元テスト (2) 第4～6回 会話練習・基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
8	服装の変化 ①	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
9	服装の変化 ②	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
10	連絡の取り方	☆ 単元テスト (3) 第7回～9回 会話練習・基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
11	移民 ①	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
12	移民 ②	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
13		☆ 単元テスト (4) 第10～12回	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
14	北京で集まる 我が家に遊びに来てください	会話練習・基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。
15	復習	☆ 単元テスト (5) 第14回	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を話す IIb」「中国語を書く IIb」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知ってる？今の中国 ダイジェスト版	山下輝彦・路元	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	学期中に5回実施する小テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と会話発表、平常評価 : 30% 単元テスト : 70%
学生へのメッセージ	教科書は前期購入したものを引き続き使用します。ご注意ください。 前期に引き続き、地道に着実にレベルアップしていきましょう。
担当者の研究室等	講師控室 (7号館2階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、新聞、雑誌、ウェブページ、ブログなどの様々なメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、「メディアのスペイン語」に慣れる。 国内外のさまざまな出来事・ニュースに敏感になる。
到達目標	スペイン語による様々な表現や文法知識の更なる習得を目指す。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をプリントにして配布する。 事前に配布されたプリントに目を通して行くこと。事前・事後学修に各1時間を要する。 また、関連記事やそれに限らない国内外でのニュースなどにも日頃から目を配っておくこと。レポートを課すことがある。授業計画はあくまで目安であり、集団の様子を見て、テーマやペースが変わる場合もある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4級、3級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	言語に関するスペイン語の記事 (1)	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
3	言語に関するスペイン語の記事 (2)	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
4	言語に関するスペイン語の記事 (3)	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
5	言語に関するスペイン語の記事 (4)	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認
7	スペインに関するスペイン語の記事 (1)	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
8	スペインに関するスペイン語の記事 (2)	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
9	スペインに関するスペイン語の記事 (3)	文化記事の訳読 3	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
10	復習 ボキャブラリーコンテスト	ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
11	中南米諸国に関するスペイン語の記事 (1)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
12	中南米に関するスペイン語の記事 (2)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
13	世界に関するスペイン語の記事 (1)	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
14	世界に関するスペイン語の記事 (2)	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
15	臨時試験と解説	既習事項の再確認	さらなる復習を

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間テストや臨時試験 50%、毎回の発表等の受講姿勢 50%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	文法事項ももう一度きちんと学習し直し、スペイン語のスキルアップにつなげよう。 日本語にももっと注意を向けること。 新聞、書籍を読み、言語を問わず読解力をつけること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室
----------	-------------

備考	とにかく文章を読むこと。 事前・事後学修に各1時間を要す。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の解説は次の週および最終回に行う。
----	--

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2101e0		

授業概要・目的	直説法過去未来までの文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法知識が深まり、直説法に限定した長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度の語彙を修得し、最小限の辞書の使用で比較的平易な新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。 ・授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。 ・和訳の確認をグループワーク形式で行うこともある。 ・語彙力の強化のために、定期的に単語テストを行う。また6月にはボキャブラリ・コンテストを実施する。

科目学習の効果 (資格) スペイン語検定 5級～4級 (4級合格には接続法の理解が必要です。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要説明と読解のための文の構造についての説明	教科書1課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.56-61の語彙を覚える (2時間)
2	1課 SNSと余暇 (1)	文法 (直説法現在と再帰動詞) および語彙の確認と発音練習	教科書1課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp.56-61の語彙を覚える (2時間)
3	1課 SNSと余暇 (2)	西文和訳	教科書1課の和訳の再確認、2課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.56-61の語彙を覚える (2時間)
4	2課 スペインテニス選手 (1)	文法 (gustarと不定詞)、語彙の確認、発音練習、単語テスト	教科書2課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp.62-65の語彙を覚える (2時間)
5	2課 スペインテニス選手 (2)	西文和訳	教科書2課の和訳の再確認、3課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.62-65の語彙を覚える (2時間)
6	3課 世界でもっとも古いレストラン (1)	文法 (現在完了と点過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書3課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp.66-71の語彙を覚える (2時間)
7	3課 世界でもっとも古いレストラン (2)	西文和訳	教科書3課の和訳の再確認および1～3課を総復習してテストに備える。(2時間)
8	1課～3課の中間テストおよび既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよびテストの解説	テストの見直しおよび教科書4課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.66-71の語彙を覚える (2時間)
9	4課 ファッション (1)	文法 (点過去と線過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書4課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp.72-77の語彙を覚える (2時間)
10	4課 ファッション (2)	西文和訳	教科書4課の和訳の再確認、5課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.72-77の語彙を覚える (2時間)
11	5課 養子縁組 (1)	文法 (過去時制の使い分け) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書5課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp.78-82の語彙を覚える (2時間)
12	5課 養子縁組 (2)	西文和訳	教科書5課の和訳の再確認、6課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.78-82の語彙を覚える (2時間)
13	6課 風力発電 (1)	文法 (未来と過去未来) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書6課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳 (2時間)
14	6課 風力発電 (2)	西文和訳	教科書6課の和訳の再確認および4～6課を総復習してテストに備える。(2時間)
15	臨時試験および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよびテストの解説	テストの見直し、学習事項の理解度の自己点検 (2時間)

関連科目 スペイン語オラルⅢ、スペイン語総合A・B、スペイン語文章構成Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースで学ぶ中級スペイン語 (La noticia de hoy)	中島聡子ほか	三修社
2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館

評価方法 (基準) 課題や提出物の状況 10%、単語テスト 20% (ボキャブラリ・コンテストを含む)、中間テスト 30%、臨時試験 40%
 欠席や遅刻は減点となるので注意すること。
 欠席が多い場合は学期末の臨時試験は受けられない。

学生へのメッセージ
 ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。
 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気がよく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。

担当者の研究室等 7号館5階 藤井研究室

備考 各回の事前・事後学習に要する総時間数は15時間を目安とする。
 テストは返却時に解答の見直しを行う。臨時試験の返却と見直しは藤井研究室で行う。
 ボキャブラリ・コンテスト (日程は未定) により授業進度が変更になる場合がある。

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2101e0		

授業概要・目的	直説法過去未来までの文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法知識が深まり、直説法に限定した長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度の語彙を修得し、最小限の辞書の使用で比較的平易な新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。 ・授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。 ・和訳の確認をグループワーク形式で行うこともある。 ・語彙力の強化のために、定期的に単語テストを行う。また6月にはボキャブラリ・コンテストを実施する。

科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5級～4級 (4級合格には接続法の理解が必要です。)
--------------	------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要説明と読解のための文の構造についての説明	教科書1課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.56-61の語彙を覚える (2時間)
2	1課 SNSと余暇 (1)	文法 (直説法現在と再帰動詞) および語彙の確認と発音練習	教科書1課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp.56-61の語彙を覚える (2時間)
3	1課 SNSと余暇 (2)	西文和訳	教科書1課の和訳の再確認、2課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.56-61の語彙を覚える (2時間)
4	2課 スペインテニス選手 (1)	文法 (gustarと不定詞)、語彙の確認、発音練習、単語テスト	教科書2課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp.62-65の語彙を覚える (2時間)
5	2課 スペインテニス選手 (2)	西文和訳	教科書2課の和訳の再確認、3課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.62-65の語彙を覚える (2時間)
6	3課 世界でもっとも古いレストラン (1)	文法 (現在完了と点過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書3課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp.66-71の語彙を覚える (2時間)
7	3課 世界でもっとも古いレストラン (2)	西文和訳	教科書3課の和訳の再確認および1～3課を総復習してテストに備える。(2時間)
8	1課～3課の中間テストおよび既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよびテストの解説	テストの見直しおよび教科書4課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.66-71の語彙を覚える (2時間)
9	4課 ファッション (1)	文法 (点過去と線過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書4課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp.72-77の語彙を覚える (2時間)
10	4課 ファッション (2)	西文和訳	教科書4課の和訳の再確認、5課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.72-77の語彙を覚える (2時間)
11	5課 養子縁組 (1)	文法 (過去時制の使い分け) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書5課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp.78-82の語彙を覚える (2時間)
12	5課 養子縁組 (2)	西文和訳	教科書5課の和訳の再確認、6課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp.78-82の語彙を覚える (2時間)
13	6課 風力発電 (1)	文法 (未来と過去未来) および語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書6課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳 (2時間)
14	6課 風力発電 (2)	西文和訳	教科書6課の和訳の再確認および4～6課を総復習してテストに備える。(2時間)
15	臨時試験および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよびテストの解説	テストの見直し、学習事項の理解度の自己点検 (2時間)

関連科目	スペイン語オラルⅢ、スペイン語総合A・B、スペイン語文章構成Ⅰ
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースで学ぶ中級スペイン語 (La noticia de hoy)	中島聡子ほか	三修社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館

評価方法 (基準)	課題や提出物の状況 10%、単語テスト 20% (ボキャブラリ・コンテストを含む)、中間テスト 30%、臨時試験 40% 欠席や遅刻は減点となるので注意すること。 欠席が多い場合は学期末の臨時試験は受けられない。
-----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	各回の事前・事後学習に要する総時間数は約30時間を目安とする。 テストは返却時に解答の見直しを行う。臨時試験の返却と見直しは藤井研究室で行う。 ボキャブラリ・コンテスト (日程は未定) により授業進度が変更になる場合がある。
----	--

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2102e0		

授業概要・目的	接続法を中心に文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法知識が深まり、接続法を含む長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度から一部の専門的な語彙を修得し、最小限の辞書の使用で難易度の高い新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。 ・授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。 ・和訳の確認をグループワーク形式で行うこともある。 ・語彙力の強化のために、定期的に単語テストを行う。

科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級～3級(3級の語彙は難易度が高いが挑戦して欲しい。)
-------------	-------------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	8 課 エラスムス留学制度(1)	文法(比較級)と語彙の確認と発音練習	教科書8課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
2	8 課 エラスムス留学制度(2)	西文和訳	教科書8課の和訳の確認、9課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
3	9 課 ホンジュラスの交番(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習	教科書9課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
4	9 課 ホンジュラスの交番(2)	西文和訳	教科書9課の和訳の確認、10課の文法問題、語彙の意味調べおよび8～9課の語彙の暗記(2時間)
5	10 課 スペインの観光政策(1)	文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書10課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
6	10 課 スペインの観光政策(2)	西文和訳	教科書10課の和訳の確認、8～10課を総復習しテストに備える(2時間)
7	8 課～10 課の間および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよび読解の要点の解説	テストの見直し、11課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
8	11 課 移民(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習	教科書11課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
9	11 課 移民(2)	西文和訳	教科書11課の和訳の確認、12課の文法問題、語彙の意味調べおよび10～11課の語彙の暗記(2時間)
10	12 課 闘牛反対運動(1)	文法(接続法現在全般)と語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書12課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
11	12 課 闘牛反対運動(2)	西文和訳	教科書12課の和訳の確認、13課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
12	13 課 バレンシアの祭り(1)	文法(接続法過去)と語彙の確認と発音練習	教科書13課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
13	13 課 バレンシアの祭り(2)	西文和訳	教科書13課の和訳の確認と14課の記事の本文写しと和訳および13～14課の語彙の暗記(2時間)
14	14 課 アカデミア辞書の改訂	文法(条件文)と西文和訳、単語テスト	14課の和訳の確認および11課～14課を総復習し臨時試験に備える。(2時間)
15	臨時試験および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認および読解の要点の解説	テストの見直し、学習事項の理解度の点検(2時間)

関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語文章構成Ⅱ、スペイン語トピックス、映画のスペイン語Ⅰ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースで学ぶ中級スペイン語(La noticia de hoy)	中島聡子ほか	三修社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

評価方法(基準)	課題や提出物の状況10%、単語テスト20%、中間テスト30%、臨時試験40% 欠席や遅刻は減点となる。 欠席が多い場合は学期末の臨時試験を受けられない。
----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
----------	---------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・各回とも事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・テストは返却時に解答の見直しを行う。臨時試験の返却と見直しは藤井研究室で行う。 ・スペイン語検定4級対策のために授業進度が変更になる場合がある。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。
----	---

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名(英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2102e0		

授業概要・目的	接続法を中心に文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・スペイン語の文法知識が深まり、接続法を含む長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度から一部の専門的な語彙を修得し、最小限の辞書の使用で難易度の高い新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の本文写しと和訳を指示に従ってやってくる。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・予習で作成した本文写しと和訳は毎回提出すること。 ・授業では文の構造と文と文のつながりを詳しく学ぶ。指示詞、代名詞、動詞の時制などの文法事項は質問するので、予習の段階でよく確認すること。 ・和訳の確認をグループワーク形式で行うこともある。 ・語彙力の強化のために、定期的に単語テストを行う。

科目学習の効果(資格)	スペイン語検定4級～3級(3級の語彙は難易度が高いが挑戦して欲しい。)
-------------	-------------------------------------

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	8 課 エラスムス留学制度(1)	文法(比較級)と語彙の確認と発音練習
2		8 課 エラスムス留学制度(2)	西文和訳	教科書8課の和訳の確認、9課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
3		9 課 ホンジュラスの交番(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習	教科書9課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
4		9 課 ホンジュラスの交番(2)	西文和訳	教科書9課の和訳の確認、10課の文法問題、語彙の意味調べおよび8～9課の語彙の暗記(2時間)
5		10 課 スペインの観光政策(1)	文法(形容詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書10課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
6		10 課 スペインの観光政策(2)	西文和訳	教科書10課の和訳の確認、8～10課を総復習しテストに備える(2時間)
7		8 課～10 課の中間および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認テストおよび読解の要点の解説	テストの見直し、11課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
8		11 課 移民(1)	文法(名詞節・副詞節での接続法)と語彙の確認と発音練習	教科書11課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
9		11 課 移民(2)	西文和訳	教科書11課の和訳の確認、12課の文法問題、語彙の意味調べおよび10～11課の語彙の暗記(2時間)
10		12 課 闘牛反対運動(1)	文法(接続法現在全般)と語彙の確認と発音練習、単語テスト	教科書12課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
11		12 課 闘牛反対運動(2)	西文和訳	教科書12課の和訳の確認、13課の文法問題、語彙の意味調べ(2時間)
12		13 課 バレンシアの祭り(1)	文法(接続法過去)と語彙の確認と発音練習	教科書13課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳(2時間)
13		13 課 バレンシアの祭り(2)	西文和訳	教科書13課の和訳の確認と14課の記事の本文写しと和訳および13～14課の語彙の暗記(2時間)
14		14 課 アカデミア辞書の改訂	文法(条件文)と西文和訳、単語テスト	14課の和訳の確認および11課～14課を総復習し臨時試験に備える。(2時間)
15		臨時試験および既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の臨時試験および読解の要点の解説	テストの見直し、学習事項の理解度の点検(2時間)

関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語文章構成Ⅱ、スペイン語トピックス、映画のスペイン語Ⅰ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースで学ぶ中級スペイン語(La noticia de hoy)	中島聡子ほか	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題や提出物の状況10%、単語テスト20%、中間テスト30%、臨時試験40% 欠席や遅刻は減点となる。 欠席が多い場合は学期末の臨時試験を受けられない。
----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直しながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室
----------	-------------

備考	<ul style="list-style-type: none"> ・各回とも事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・テストは返却時に解答の見直しを行う。臨時試験の返却と見直しは藤井研究室で行う。 ・スペイン語検定4級対策のために授業進度が変更になる場合がある。
----	---

科目名	メディアのスペイン語Ⅲ	科目名(英文)	Media Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL3110e0		

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、新聞、雑誌、ウェブページ、ブログなどの様々なメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、「メディアのスペイン語」に慣れる。 国内外のさまざまな出来事・ニュースに敏感になる。
到達目標	スペイン語による様々な表現や文法知識の更なる習得を目指す。
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をプリントにして配布する。 事前に配布されたプリントに目を通して頂くこと。事前・事後学修に各1時間を要する。 また、関連記事やそれに限らない国内外でのニュースなどにも日頃から目を配っておくこと。レポートを課すことがある。授業計画はあくまで目安であり、集団の様子を見て、テーマやペースが変わる場合もある。

科目学習の 効果(資格)	スペイン語検定4級、3級
-----------------	--------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	言語に関するスペイン語の記事(1)	文化記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
3	言語に関するスペイン語の記事(2)	文化記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
4	言語に関するスペイン語の記事(3)	社会記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
5	言語に関するスペイン語の記事(4)	社会記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認
7	スペインに関するスペイン語の記事(1)	文化記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
8	スペインに関するスペイン語の記事(2)	文化記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
9	スペインに関するスペイン語の記事(3)	文化記事の訳読3	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
10	復習 ボキャブラリーコンテスト	ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
11	中南米諸国に関するスペイン語の記事(1)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
12	中南米に関するスペイン語の記事(2)	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
13	世界に関するスペイン語の記事(1)	社会記事の訳読1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
14	世界に関するスペイン語の記事(2)	社会記事の訳読2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。
15	臨時試験と解説	既習事項の再確認	さらなる復習を

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間テストや臨時試験50%、毎回の発表等の受講姿勢50%
--------------	------------------------------

学生への メッセージ	文法事項ももう一度きちんと学習し直し、スペイン語のスキルアップにつなげよう。 日本語にもっと注意を向けること。 新聞、書籍を読み、言語を問わず読解力をつけること。
---------------	---

担当者の 研究室等	7号館5階 安達研究室
--------------	-------------

備考	とにかく文章を読むこと。 事前・事後学修に各1時間を要す。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の解説は次の週および最終回に行う。
----	--

科目名	メディア文化論	科目名(英文)	Media Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2224a0		

授業概要・目的	<p>私たちはさまざまなメディアに囲まれて生活しています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。この授業ではメディアについての理解を知識として深めるだけでなく、ワークショップやグループワークを通じてさまざまなメディアに触れ、情報を編集・加工・発信することでメディアの技法を修得するとともに、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを身につけます。</p> <p>なお、この科目はメディアビジネスプログラム科目です。</p>
到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) メディアリテラシーが身についている (2) さまざまなメディアの特性について理解している (3) メディアを通じて情報を得たり、編集・加工したり、発信したりするスキル(メディア技法)を身につけている</p>
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、ワークショップや受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。事前・事後学習は総時間60時間を目安とします。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。
2	メディアリテラシー	インターネットの登場により私たちの生活は劇的に変化してきました。LineやFacebook、twitterといったSNSは私たちの生活やコミュニケーションのあり方、ひいては人間関係にも大きな影響を及ぼしています。 私たちはこうした技術をどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。今回の授業では情報社会にあつて必須の能力であるメディアリテラシーを涵養します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
3	まわしよみ新聞を作る	インターネットの普及にともなう、新聞や活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。 今回の授業では、ワークショップで「まわしよみ新聞」を作り新聞に触れるとともに、情報を編集・加工・発信することがどういうことなのかを学修します。	まわしよみ新聞について調べておきましょう。 まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持ってきましょう。
4	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)	SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の特性に触れつつ、SNSがどのようなものなのかを学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
5	SNSを使いこなす	SNSの特性を理解したうえで、SNSを使って情報を得たり発信したりする技術を身につけます。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
6	名刺を作る——自己をブランディングする	ブランディングについて学修します。ワークショップを通じて自身と他者による自己分析を行い自らの魅力を発見します。その上で、自らの魅力を効果的にアピールするための手段として名刺を作成します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
7	チラシを作る——広告デザインの作法	インターネット、SNSの普及にともなう、新聞、雑誌など紙媒体のメディアが発行部数を減らす一方で、チラシやポスターは依然として身の回りにあふれています。 今回の授業では、ワークショップを通じてチラシを作ります。そのなかで、広告、デザインの作法について学修します。	あなたの基準でよいと思われるチラシを探して持参すること。また、授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。 日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
8	中間のふり返り	前半の授業をふり返ります。不明な点が	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学

			あれば質疑応答により解決します。	修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査しましょう。
9	メディア文化史		メディア文化の歴史について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
10	映像を撮る——世界を切り取るということ		誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
11	映像を編集する——切り取った世界を加工すること		動画を撮影することが世界を切り取ることでありとするならば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。 今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
12	映像制作論		今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのようにして作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
13	大衆文化と政治		テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
14	メディアと権力		権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいものなのです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
15	まとめ、全体のふり返り		これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり返りながら期末試験に向けて準備をしましょう。

関連科目 メディアビジネスプログラム科目(2015年度入学生)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) この授業は、授業内課題(リフレクションシート)15%、ワークショップ30%、講義内容に関連する課題調査10%、期末試験45%で評価します。

学生へのメッセージ 決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。

担当者の研究室等 この科目の履修上の相談については、授業の前もしくはメールにて受け付けます。
7号館2階 非常勤講師室
メールアドレス: xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp
([*]を半角の@に置き換え)

備考

科目名	メディアリテラシー論	科目名(英文)	Media Literacy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2226a0		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会においては、インターネットの発達に伴い、メディアからの情報の量も質も大きく様変わりしている。文字通り、情報の洪水の奔流の中で、嘘と真実を見分ける能力が必要とされている。また、ソーシャルメディアを通じて、自ら情報発信をする機会も格段に増えており、情報を読みとる力と発信する力の両方が必要とされているのである。 この講義では、メディアの社会的特性を理解し、適切な情報読解と発信をするために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。
到達目標	新聞・テレビの情報が歪んでしまうメカニズムを理解する。 インターネットの情報の真偽を見抜くためのスキルを修得する。 インターネットでの発信を正しく行うための倫理とスキルを身につける。
授業方法と留意点	講義方式で行う。適宜、資料を配布・紹介する。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	メディアとメディアリテラシー	メディアとは何か メディアリテラシーとは何か メディアリテラシーのレベル	メディアリテラシーという言葉の意味についてまとめる。
2	新聞とニュースについて(1)	新聞と世論形成 新聞の中立性と「偏向」	新聞各紙のニュースの取り上げ方の違いについて調べる。
3	新聞とニュースについて(2)	日本の新聞の経営面における問題 新聞とインターネット 新聞のデジタル化とニュースサイト	ニュースサイトのまとめと新聞記事の違いについて調べる。
4	新聞とニュースについて(3)	事例研究。朝日新聞における「慰安婦報道」について	朝日新聞と読売・産経新聞の対立の本当の理由は何かを考える。
5	テレビについて(1)	テレビの映像の特性 番組編集 「やらせ」の問題 「ムスタン王国」について	テレビの「やらせ」の事例について、さらに各自で調べてみる。
6	テレビについて(3)	NHKと民放 NHKの受信料問題 テレビの番組編成・広告における問題 ニュース番組における報道の問題	NHKと民放の違いについて考えてみる。 NHKの受信料問題についての各自の考えをまとめる。
7	テレビについて(3)	事例研究。「発掘!あるある大事典」捏造事件	テレビの捏造事件が起きる背景についてまとめる。
8	メディアと広告	広告・CMの影響と価値 産業としてのメディアと広告	テレビCMが喚起するイメージについて、各自で調べてみる。
9	メディアと(権力)	新聞・テレビの権力との関わり メディアの支配者としての(資本)	授業内容をまとめる。 権力によるメディアへの介入について他の事例を調べる。
10	インターネット社会について	インターネット社会の過去 インターネット社会の現在 インターネット社会の今後のあり方	授業内容をまとめる。 インターネットの将来について議論する。
11	インターネットと倫理	ネット社会とリアル社会の倫理のズレ インターネットとプライバシー 著作権の問題 匿名性の問題	ネット社会での倫理的逸脱について各自で調べる。
12	ソーシャルメディアについて(1)	コミュニケーション空間としてのSNS 電子掲示板の問題 ブログ、ホームページ ネット炎上の問題	電子掲示板やブログでの炎上の事例を調べる。
13	ソーシャルメディアについて(2)	まとめサイト フェイスブック ツイッター ソーシャルメディアと情報の商業的利用	フェイスブック、ツイッターについて、各自の利用法について報告する。
14	ソーシャルメディアについて(3)	まとめサイト閉鎖の問題 アメリカ大統領選挙におけるフェイク・ニュース問題	インターネットにおける嘘と本当を見抜くために何が必要かについて各自の考えをまとめる。
15	まとめ	メディアリテラシーについてのまとめ	

関連科目: メディアビジネスプログラム科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上の研究	田中辰雄・山口真一	勁草書房
2	池上彰に聞くどうなってるの?ニッポンの新聞	池上彰	東京堂出版	
3	信じてはいけない: 民主主義を壊すフェイクニュ	平和博	朝日新聞出版	

	ースの正体
評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (40%) と授業後のレポート課題 (60%)
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館4階 (有馬研究室)
備考	事前事後学習 計60時間 レポートはMoodleを通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。

科目名	ヨーロッパ史学	科目名(英文)	European History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3168a0		

授業概要・目的	ヨーロッパ世界を中心に世界の歴史をたどる。ヨーロッパ諸国は、「大航海時代」以来、アジアやアフリカ、アメリカ世界と密接なかかわりをもってきた。時代によってその「中心」(覇権国)は刻々と変化するものの、ヨーロッパ世界は今日にいたるまで、ある種の一体性を有しながら発展してきたといえる。常に世界史上の重大局面にかかわってきたヨーロッパを中心に、世界の歴史を読み解くことで、現代社会を歴史的観点からとらえかえす。
到達目標	ヨーロッパ、ひいては(日本を含めた)アジアの未来に関する明確なビジョンをもつために、古代、中世、近世、近代の歴史的特質を把握する。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、図像史料を活用しながら、板書をまじえて授業をすすめる。
科目学習の効果(資格)	ヨーロッパを中心とする世界の歴史への知見を深め、歴史的思考を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	古代エジプト(1)	時代区分と歴史学	古代エジプトの歴史について予習してくる。
2	古代エジプト(2)	ナイル川・ピラミッド・ファラオ	古代エジプトにおける王権についてまとめる。
3	古代エジプト(3)	ミイラ信仰に見る古代の死生観	エジプトと宗教の関係についてまとめる。
4	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(1)	「魔女」とは誰か? ~時代による変遷~	「魔女」に関するイメージと、その源泉について考えてくる。
5	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(2)	魔女裁判の社会的・宗教的意義	魔女裁判がもつ社会的機能についてまとめる。
6	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(3)	魔女狩りの時代差・地域差	魔女狩りの時代差・地域差魔女裁判が中世社会においてもった意義についてまとめる。
7	中世ヨーロッパにおける魔女狩り(4)	古代および中世ヨーロッパと宗教・王権(中間テスト)	これまでの授業内容をまとめ、テスト対策をしてくる。
8	「大航海時代」~アジアへの道~(1)	ヨーロッパはなぜ「大航海時代」を必要としたか?(中間テスト解説)	「大航海時代」の新航路の開拓を地図上にまとめる。
9	「大航海時代」~アジアへの道~(2)	覇権国の移り変わり	「覇権国」としてのスペイン、ポルトガル、オランダ、フランス、イギリスについてまとめる。
10	「大航海時代」~アジアへの道~(3)	ヨーロッパとアジアの「出会い」がもたらしたこと	ヨーロッパとアジア、双方の観点から「大航海」がもたらした影響についてまとめる。
11	フランス革命(1)	フランス革命とは何か? ~何が革命的だったのか~	フランス革命に関する年表を作成する。
12	フランス革命(2)	フランス革命の進展	フランス革命を描いたカリカチュア(風刺画)を検索してくる。
13	フランス革命(3)	王権の廃止と諸外国の干渉	周辺国がフランス革命にどのような反応をとったか、調べてくる。
14	フランス革命(4)	習俗の革命~「普通の人びと」は革命にどう反応したか~	フランス革命が「暮らし」に与えた変化についてまとめる。
15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習してくる。

関連科目	社会文化史(世界の歴史)
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	第15回目の授業で実施する小テスト(80%)、中間テストおよび提出物(20%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	歴史学とは、過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(林田研究室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 中間試験に関するフィードバックは第9回目、小テストに関するフィードバックは第15回目の授業のなかで実施する。
----	--

科目名	ライティング b	科目名 (英文)	Writing b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	In this course students will begin to develop writing skills to help them express themselves directly in English rather than translating. Writing practice will focus on descriptive writing (people and places) and narrative writing (personal experiences). Part of the course will focus on vocabulary development directed at these topics. Students will also learn how to effectively incorporate photos and other visual information into their written work.
到達目標	The goal of this class is for the students to be able to introduce a topic, develop an idea and clearly express themselves in an organised and coherent manner using complete sentences and paragraphs.
授業方法と留意点	Each new writing activity will include new vocabulary and practical grammar practice. All of the completed coursework will be organized into a comprehensive notebook. Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
科目学習の効果 (資格)	In this class you will have the opportunity to write about yourselves and your daily life. You will also learn how to write for different purposes in English.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Exercises: パラグラフエッセイとはなにか Questionnaire	Individual Task, Pair Work or Group Work: パラグラフの構成を学ぶ Writing and grammar activity	Finishing up or making revisions of classwork. (1 時間)
3	Exercises: トピックの選択 Self-introductions	Individual Task, Pair Work or Group Work: 与えられたトピックを吟味する Writing and grammar activity	Finishing up and making revisions of classwork. (1 時間)
4	Exercises: トピックに応じた議論の流れを考える Vocabulary building	Individual Task, Pair Work or Group Work: トピックについて賛成・反対のどちらの意見をとるか考える Reading and writing activities	Finishing up or making revisions of classwork. (1 時間)
5	Exercises: 議論データの収集 Daily routines	Individual Task, Pair Work or Group Work: 自分の意見を支持するデータを収集する Writing activity and computer skills	Finishing up and making revisions of classwork. (1 時間)
6	Exercises: パラグラフの作成 Review	Individual Task, Pair Work or Group Work: 収集したデータを使ってパラグラフを作成していく Comprehensive notebook organization	Finishing up or making revisions of classwork. (1 時間)
7	Exercises: センテンスを整える Timed writing	Individual Task, Pair Work or Group Work: パラグラフを構成する英文を正確に整える Writing activity	Finishing up or making revisions of classwork. (1 時間)
8	Exercises: センテンスどうしの論理関係を作る Past experience	Individual Task, Pair Work or Group Work: センテンスの論理関係を示す表現について学ぶ Grammar and writing activity	Finishing up and making revisions of classwork. (1 時間)
9	Exercises: エッセイ全体を整える Favorite places	Individual Task, Pair Work or Group Work: パラグラフの論理関係を示す表現を学ぶ Reading and writing activities	Finishing up and making revisions of classwork. (1 時間)
10	Exercises: エッセイを完成させる Photos and illustrations	Individual Task, Pair Work or Group Work: エッセイの起承転結に気を付けながら全体を完成させる Information design activity	Finishing up and making revisions of classwork. (1 時間)
11	Exercises: エッセイを発表する Timed writing	Individual Task, Pair Work or Group Work: クラスメートの前でエッセイの概要を発表し、論理関係に破たんがないか考える Writing activity	Finishing up or making revisions of classwork. (1 時間)
12	Exercises: エッセイを発表する Mini research report	Individual Task, Pair Work or Group Work: Writing activity: クラスメートの前でエッセイの概要を発表し、反論のデータなどがないか考える	Finishing up or making revisions of classwork. (1 時間)
13	Exercises: 講評をもとにエッセイの改訂をする Vocabulary building	Individual Task, Pair Work or Group Work: 論理関係、反論データなどをさらに追加し、エッセイを書き直していく Listening, reading and writing activities	Finishing up or making revisions of classwork. (1 時間)

	14	Exercises: エッセイの改訂をする Spring plans	Individual Task, Pair Work or Group Work: 書き直したエッセイの起承転結に気を付けて、エッセイを改訂していく Writing activities	Finishing up or making revisions of classwork. (1時間)
	15	Exercises: エッセイを完成させる Review	Individual Task, Pair Work or Group Work: エッセイを整えて完成させる Comprehensive notebook organization	Finishing up or making revisions of classwork. (1時間)
関連科目	アドバンスト ライティングなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing from Within 1	Kelly & Gargagliano	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Grades are based on regular attendance with active participation, 50%; comprehensive notebook 40%; 共通単語試験 (vocabulary examination) 10%.			
学生へのメッセージ	All the coursework in this class will be done in English. Attending class regularly and arriving on time is important.			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ラテンアメリカの社会と文化	科目名(英文)	Latin American Society and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	ラテンアメリカは、古来先住民の文化的伝統を有しながらも、15世紀末以降のヨーロッパによる征服と植民地支配を3世紀以上にわたって経験した地域です。その後19世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べて150年ほど早く植民地支配からの独立を遂げました。この地域がたどった歴史的独自性を知るだけではなく、隣接する北米のアンゴロアメリカとの歴史的關係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い関係構築について展望できるようになることをめざします。同時に、6つのサブ・リージョンに分け、視聴覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。 地理的に日本からは遠隔地に位置していますが、ラテンアメリカ諸国と日本との関係はますます緊密化しています。親日的な国々と人々のことを知ることで世界観を広げてください。ラテンアメリカで最も広く使われている言語はスペイン語です。
到達目標	広大なラテンアメリカという地域は、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた33ヶ国から構成されています。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことで、異文化理解を深める一助となります。
授業方法と留意点	教材は授業で配布します。 毎回、質問票を提出してもらい、次の授業で解説を行います。
科目学習の効果(資格)	日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる視点を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ラテンアメリカの地理(1)	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する33ヶ国・13非独立領を地図上で確認する
2	ラテンアメリカの地理(2)	地域の歴史の概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
3	ラテンアメリカの地理(3)	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
4	ラテンアメリカの歴史(1)	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
5	ラテンアメリカの歴史(2)	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
6	ラテンアメリカの歴史(3)	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
7	ラテンアメリカの歴史(4)	20世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
8	ラテンアメリカの文化(1)	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
9	ラテンアメリカの文化(2)	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
10	ラテンアメリカの文化(3)	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史の変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ ラテンアメリカ域内の地域統合と対米関係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
14	ラテンアメリカと日本の関係	移住と日系社会、政治・外交関係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
15	総括	臨時試験の後、アメリカ合衆国への移民および「ラティノス」がもたらす影響についての解説	広く西半球(米州)の相互関係に対して目を向ける。

関連科目	スペイン語圏概論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業内容に関する質問票、小レポート等 60%、臨時試験 40%により総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	日本から遠く離れた地域ですが、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室
----------	-------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。 臨時試験に関するフィードバックは15回目のなかで実施する。
----	---

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Can Babies Choose between Good and Bad?	速読活動 精読活動: Unit 1 の後半部を終える。 Unit 2 にはいる。	多読学習 Unit 1 を最後までと Unit2 の予習。(1時間)
3	Unit 2: Half-Empty or Half-Full?	速読活動 精読活動: 楽観思考と悲観思考についてのニュース記事	多読学習 テキストの予習 (1時間)
4	Unit 3: How to Pass a Test	速読活動 精読活動: テストを受けるための心構えや受け方についてのニュース記事	多読学習 テキストの予習 (1時間)
5	Unit 4: Soccer Brain Study	速読活動 精読活動: サッカーを例にとりプレー中の頭への衝撃についてのニュース	多読学習 テキストの予習 (1時間)
6	Unit 5: Google Glass for Firefighters	速読活動 精読活動: コンピューターの役割をもつ Google Glass についてのニュース	多読学習 テキストの予習 (1時間)
7	Unit 6: Women on Submarine	速読活動 精読活動: 海軍での任務を選択したアメリカ人女性のニュース	多読学習 テキストの予習 (1時間)
8	Unit 7: iPhone Musician	速読活動 精読活動: iPhone で作曲を始めて有名になったミュージシャンのニュース	多読学習 テキストの予習 (1時間)
9	Unit 8: Bringing People Back to Baseball	速読活動 精読活動: 集客率をあげる工夫をした日本の球団、横浜 Bay Stars のニュース	多読学習 テキストの予習 (1時間)
10	Unit 9: Smell of Success	速読活動 精読活動: 食品の売り上げを伸ばすために香りを出すマシーンを導入したスーパーのニュース	多読学習 テキストの予習 (1時間)
11	Unit 10: Octocopter	速読活動 精読活動: Amazon が模索する新たな配送方法についてのニュース	多読学習 テキストの予習 (1時間)
12	Unit 11: Staying Safe Online	速読活動 精読活動: フリーWi-Fi 地域での危険についてのニュース	多読学習 テキストの予習 (1時間)
13	Unit 12: Air Pollution in Asian Cities	速読活動 精読活動: 香港、インド、東京をとりあげアジアの大気汚染を伝えるニュース	多読学習 テキストの予習 (1時間)
14	unit 15: Light Pollution	速読活動 精読活動: 夜の都市の明かりが引き起こす汚染やその他の問題についてのニュース	多読学習 これまでの復習 (1時間)
15	まとめの確認	これまで読んだ記事をもとに、理解を確認し、内容把握を行う	多読学習 前期学習範囲の復習と確認 (1時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	CNN Student News for Reading & Writing	関戸冬彦 他	朝日出版社
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (1) 速読活動 10%

(基準)	(2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)
学生への メッセージ	テキストは前期使用です。しっかり予習をして授業に臨んでください。授業は予習が終わっているものとして進めていきます。精読、速読、多読をすることでリーディング能力の向上を目指してください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後、教室または非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようにする。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようにする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	・速読、多読活動 ・現在のリーディング力を測定する	・Unit 1の速読活動 ・速読力、精読力、および単語力を測定し、現在のリーディング力を把握する	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
3	・速読、多読活動 ・メインアイデアを理解する	・Unit 2の速読活動 ・メインアイデアとは何か	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
4	・速読、多読活動 ・トピックセンテンスを理解する	・Unit 3の速読活動 ・トピックセンテンスを探す	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
5	・速読、多読活動 ・サポーティングセンテンスを理解する	・Unit 4の速読活動 ・サポーティングセンテンスを学ぶ	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
6	・速読、多読活動 ・シグナルワード	・Unit 5の速読活動 ・シグナルワードを理解する	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
7	・速読、多読活動 ・指示語	・Unit 6の速読活動 ・指示語について理解する	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
8	・速読、多読活動 ・中間テスト	・Unit 7の速読活動 ・中間テストの実施	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
9	・速読、多読活動 ・パラグラフ構造(1)	・Unit 8の速読活動 ・パラグラフ構造(比較)を学ぶ	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
10	・速読、多読活動 ・パラグラフ構造(2)	・Unit 9の速読活動 ・パラグラフ構造(原因・結果)を学ぶ	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
11	・速読、多読活動 ・パラグラフ構造(3)	・Unit 10の速読活動 ・パラグラフ構造(時間)を学ぶ	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
12	・速読、多読活動 ・パラグラフ構造(4)	・Unit 11の速読活動 ・パラグラフ構造(問題解決)を学ぶ	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
13	・速読、多読活動 ・視覚情報を活用する	・Unit 12の速読活動 ・視覚情報を効果的に利用する	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
14	・速読、多読活動 ・要約	・Unit 13の速読活動 ・メッセージを要約する	授業の下調べをすること、多読活動を行うこと(2時間)
15	前期の総復習とまとめのテスト	前期内容のまとめのテストを実施	授業の総復習をすること、多読活動を行うこと(2時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	速読の指定教科書以外の教材は、プリントを配布します。
担当者の研究室等	7号館3階 吉村研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Harry Potter and Chocolate Frogs	速読活動: Dolphin Talks 精読活動: AI と社会についての文章	多読学習 AI についての追加記事を読んでくる (1時間)
3	Peter Rabbit and Pie	速読活動: Levels in Nature 精読活動: AI についての文章	多読学習 テキストの予習 社会経済に関する単語の学習 (1時間)
4	Mrs. Rabbit and Herb Tea	速読活動: A Dangerous Wind 精読活動: 地域社会経済についての文章	多読学習 社会経済についての追加記事を読んでくる (1時間)
5	Winnie-the-Pooh and Honey	速読活動: A Hard-Working Plant 精読活動: 社会経済についての文章	多読学習 テキストの予習 経済活動に関する単語の学習 (1時間)
6	Daddy-Long -Legs and Ice Cream	速読活動: Lost Forever? 精読活動: 国境を越える商売についての文章	多読学習 商売についての追加記事を読んでくる (1時間)
7	Chaptver 1- 5 Review	速読活動: Fun and Games and Music 精読活動: 文化を超えた商売についての文章	多読学習 テキストの予習 観光に関する単語の学習 (1時間)
8	中間試験	Chapter 1-5 試験	多読学習 外国人観光客についての追加記事を読んでくる (1時間)
9	中間試験評	中間試験返却及び見直し	多読学習 テキストの予習 生活に関する単語の学習 (1時間)
10	Kenji Miyazawa and Tomatoes	速読活動: Music That Stays in Your Head 速読活動: 人々の生活の変化についての文章	多読学習 生き方の多様性についての追加記事を読んでくる (1時間)
11	O. Henry and "Witches' Loaves"	速読活動: Only Voices 精読活動: 生き方の多様性についての文章	多読学習 テキストの予習 技術革新に関する単語の学習 (1時間)
12	The old man and the Fish	速読活動: Sleep -- You Need It! 精読活動: 技術革新についての文章	多読学習 最新科学についての追加記事を読んでくる (1時間)
13	East of eden and Lettuce	速読活動: Doctor Trees 精読活動: 最新科学技術についての文章	多読学習 テキストの予習 日本社会に関する単語の学習 (1時間)
14	Chapter 6-9 Review	Chapter 6-9 復習	多読学習 これまで読んだ記事の内容について理解を深め、自分の意見が言えるようにしておく (1時間)
15	まとめの確認	これまで読んだ記事をもとに、理解を確認し、内容把握を行う	多読学習 (1時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
2	A Taste of English: Food and Fiction	Fiona Wall Minami et al.	朝日出版社	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準) 速読・多読活動 20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後、教室または非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ヘト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Lesson 1 London - The Houses of Parliament	授業内容についての説明 読解・問題 (pp.6~7)	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	2	Lesson 2 London - Horse Lesson 3 London - Baker Street Guards	Review 読解・問題 (pp.8~10) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	3	Lesson 3 London - Baker Street Lesson 4 London - Victoria and Albert	Review 読解・問題 (pp.11~13) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	4	Lesson 5 Palaces Lesson 6 Brighton	Review 読解・問題 (pp.14~17) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	5	Lesson 7 Stonehenge Lesson 8 Oxbridge	Review 読解・問題 (pp.18~21) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	6	Lesson 9 Stratford-Upon-Avon Lesson 10 Robin Hood	Review 読解・問題 (pp.22~25) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	7	Lesson 11 Lincoln Lesson 12 York	Review 読解・問題 (pp.26~29) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	8	Lesson 13 Yorkshire - Haworth Village Lesson 14 The Lake District	Review 読解・問題 (pp.30~33) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	9	Lesson 15 Liverpool Lesson 16 The Peak National Park	Review 読解・問題 (pp.34~37) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	10	Lesson 17 A Wedding Lesson 18 Dover	Review 読解・問題 (pp.38~41) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	11	Lesson 19 The Cotswolds Lesson 20 People	Review 読解・問題 (pp.42~45) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	12	Lesson 21 London - The Tower of London Lesson 22 London - Westminster Abbey	Review 読解・問題 (pp.46~49) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	13	Lesson 23 London - The Globe Theater Lesson 24 London - Covent Garden	Review 読解・問題 (pp.50~53) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	14	Lesson 25 London - The Millennium Bridge	Review 読解・問題 (pp.54~55) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	15	General Review	Lesson 1~Lesson 25 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと。(1時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Looking Around England <Revised Edition>	Terry O'brien 他	南雲堂
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む) 80%
学生への メッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	1 An Accident	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
3	2 Did You See Anything?	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
4	3 The Bryson Engineering Company	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
5	4 An Interview	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
6	5 The Police Are puzzled.	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
7	6 Two Witnesses	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
8	中間テスト	前半の既習内容の確認テスト	テスト勉強 (1 時間)
9	7 The Car Driver	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
10	8 Office Security	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
11	9 Her Memory Is Coming Back!	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
12	10 Is Ted Bryson a Criminal?	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
13	11 Who Is She?	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
14	12 Do You Realize Who You Are?	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ、exercise の予習 多読活動 (1 時間)
15	期末テスト	後半の既習内容の確認テスト	テスト勉強 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
2	Kickoff English Mystery	Terry O'brien/三原京 /他 2 名	南雲堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	速読活動 10% 多読活動 10% 精読学習 80%—課題、発表、中間・期末テスト
----------	---

学生へのメッセージ	精読は、多読や速読と違って、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン バーマン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Levels in Nature Extensive Reading	TRFF Unit One Reading 2 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson (1 hour)
3	A Dangerous Wind Extensive Reading	TRFF Unit 2 Reading 3 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson (1 hour)
4	A Hard Working Plant Lost Forever? Extensive Reading	TRFF Unit 2 Readings 4 and 5 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
5	Music - Fun and Games and Music Extensive Reading	TRFF Reading 6 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
6	That Can Make Music? Extensive Reading	TRFF Reading 7 extensive reading score check Extensive Reading score check/troubleshooting	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
7	Healthy to hear Extensive Reading	TRFF Reading 8 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
8	Music that stays in your head Only Voices Extensive Reading	TRFF Readings 9 and 10 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
9	Health Extensive Reading	TRFF Reading 11 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
10	Doctor Trees Blood Work Extensive Reading	TRFF Readings 12/13 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
11	Are You Under Stress? Getting Vitamin D Extensive Reading	TRFF Readings 14/15 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
12	Education Extensive Reading	TRFF Readings 16/17	Extensive Reading at home review class lesson (1 hour)
13	How to take Notes A Part of Learning	TRFF Readings 18/19 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
14	Private Vs Public Schools Extensive Reading	TRFF Reading-20 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
15	Reading Activity - handout (to be planned) Extensive Reading Collect Extensive Reading Records and Speed Reading Records	Fun Reading Activity Extensive Reading End of Term Wrap Up	Keep Reading over the holidays! (1 hour)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation/Casey Malarcher	Seed Learning

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準) 速読・多読活動 20%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%

学生へのメッセージ I'm looking forward to meeting you and exploring English through reading together! Please relax and ask questions at anytime! It's a good idea to bring a dictionary to class too.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 2: In the Pole Position	速読活動 精読活動: 日本の祭りに魅せられたアメリカ人のチャレンジを取り上げる。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
3	Unit 3: Easing Off	速読活動 精読活動: 今、日本で見られる働き方の変化をあるパン屋さんを通して見る。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
4	Unit 4: In Memory of Monty	速読活動 精読活動: 東日本大震災で亡くなった一人の外国人の日本での足跡をたどる。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
5	Unit 5: Dating the AI Way	速読活動 精読活動: 最近の男女の出会いと IT 事情を探る。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
6	Unit 6: Floating on a Dream	速読活動 精読活動: 一人の男性の「青森ねぶた祭」の伝統継承を通しての苦労を取り上げる。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
7	Unit 7: Japan Adventurer Completes Grand Slam	速読活動 精読活動: 大学生冒険家が世界最年少でやり遂げた夢を語る。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
8	Unit 8: Sorting It Out	速読活動 精読活動: 徳島県上勝町が取り組むゴミゼロ実現の計画を見る。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
9	Unit 9: Haircuts for Charity	速読活動 精読活動: 事故や病気で髪の毛を失った人へ髪を寄付する活動を見る。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
10	Unit 10: Peer Group Consumption	速読活動 精読活動: 現代の若者たちのライフスタイルを消費や友人関係の視点から取り上げる。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
11	Unit 11: Taste of Temple Life	速読活動 精読活動: 寺院やその関連施設に宿泊し、宗教について学ぶ「宿坊」ビジネスを見る。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
12	Unit 12: New Take on Tatami	速読活動 精読活動: 畳の原料で知られる「いぐさ」が、今では多様な利用法で注目されているニュース	多読学習 テキストの予習 (1時間)
13	Unit 13: Traveling with Confidence	速読活動 精読活動: 旅行などで外食する時の食物アレルギー対策についてのレポートを読む。	多読学習 テキストの予習 (1時間)
14	Unit 14: Tanzanian Students Discover Japan	速読活動 精読活動: 日本の支援で設立されたタンザニアの「さくら女子中学校」から日本に招待された未来の「リケジョ」のニュース	多読学習 これまで読んだ記事の内容について理解を深め、復習しておくこと (1時間)
15	まとめの確認	これまで読んだ記事をもとに、理解を確認し、内容理解のテストを行う。	多読学習 後期内容の復習と確認 (1時間)

関連科目 スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	NHK NEWSLINE 2	山崎達朗・Stella M. Yamazaki・Erika C. Yamazaki	金星堂
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)			
学生への メッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。精読、速読、多読に真面目に取り組むことで英文読解力は必ず向上します。予習は必ず行い、授業では予習を終わっているものとして進めていきます。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後、教室または非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ロハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度が多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit 2: Food	教科書 pp.8-13	予習と復習 (教科書 pp.8-13) 小テスト準備 (1 時間)
3	Unit 3: Japanese Culture	教科書 pp.14-19 小テスト Unit1-3	予習と復習 (教科書 pp.14-19) (1 時間)
4	Unit 4: Sport	教科書 pp.20-25	予習と復習 (教科書 pp.20-25) 小テスト準備 (1 時間)
5	Unit 5: Fashion	教科書 pp.26-32 Unit 4-5 の小テスト	予習と復習 (教科書 pp.26-32) (1 時間)
6	Unit 6: Living Things	教科書 pp.33-37	予習と復習 (教科書 pp.33-37) 小テスト準備 (1 時間)
7	Unit 7: Art	教科書 pp.38-43 Unit 6-7 の小テスト	予習と復習 (教科書 pp.38-43) (1 時間)
8	Unit 8: Global Issues	教科書 pp.44-49	予習と復習 (教科書 pp.44-49) 小テスト準備 (1 時間)
9	Unit 9: Japanese Culture	教科書 pp.50-55 Unit 8-9 の小テスト	予習と復習 (教科書 pp.50-55) (1 時間)
10	Unit 10: Human Rights	教科書 pp.56-61	予習と復習 (教科書 pp.56-61) 小テスト準備 (1 時間)
11	Unit 11: Health & Medical Issues	教科書 pp.62-67 Unit 10-11 の小テスト	予習と復習 (教科書 pp.62-67) (1 時間)
12	Unit 12: Environmental Issues	教科書 pp.68-73	予習と復習 (教科書 pp.68-73) 小テスト準備 (1 時間)
13	Unit 13: Economy & Industry	教科書 pp.74-79 Unit 12-13 の小テスト	予習と復習 (教科書 pp.74-79) (1 時間)
14	Unit 14: Legal Issues	教科書 pp.80-85	予習と復習 (教科書 pp.80-85) まとめのテスト準備 (1 時間)
15	後期の総復習とまとめのテスト	後期内容のまとめのテストを実施	まとめのテスト準備 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)
----------	---

学生へのメッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチュードントアワーにて対応する。
----	--

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ニホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業、評価方法等説明	教科書のはしがきをしっかりと読む (1 時間)
2	Chapter 1 Murder Most Foul	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 1 の予習・復習 (1 時間)
3	Chapter 2 Conscience Does Make Cowards of Us All	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 2 の予習・復習 (1 時間)
4	Chapter 3 The Moustrap	速読・多読 読解・問題	Chapter 3 の予習・復習 (1 時間)
5	Chapter 4 Words Without Thoghts Never to Heaven Go	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 4 の予習・復習 (1 時間)
6	Chapter 5 To Whet Thy Almost Blunted Sword	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 5 の予習・復習
7	Chapter 1-5 復習	Chapter 1-5 の復習及び質問受付	Chapter 1-5 の復習 (1 時間)
8	中間試験	Chapter 1-5 中間試験	Chapter 1-5 の復習 (試験勉強) (1 時間)
9	中間試験評	中間試験返却及び解説	Chapter 1-5 の復習 (1 時間)
10	Chapter 6 One Woe Doth Tread upon Another's Heel	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 6 の予習・復習 (1 時間)
11	Chapter 7 Revenge Should Have No Bounds	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 7 の予習・復習 (1 時間)
12	Chapter 8 Then Venom, to Thy Work	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 8 の予習・復習 (1 時間)
13	Chapter 1 Love's Transgression	Review 速読・多読 読解・問題	Chapter 1 の予習・復習 (1 時間)
14	Chapter 6-8 & Chapter 1 復習	Review Chapter 6-8 & 1	Review Chapter 6-8 & 1 の復習 (1 時間)
15	General Review	Chapter 6 - 8 & 1 までの総まとめ	Chapter 6 - 8 & 1 までの授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Simply Shakespear	Jim Kunudsen and Takao Taguchi	NAN' UN-DO
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)
-----------	---

学生へのメッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1年	クラス	ホへ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Chapter 1 The Royal Mail	授業内容についての説明 読解・問題 (pp.9~14)	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	2	Chapter 2 British Sports Everywhere Chapter 3 The Beatles Forever!	Review 読解・問題 (pp.15~21) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	3	Chapter 3 The Beatles Forever! Chapter 4 From the Cradle to the Grave?	Review 読解・問題 (pp.22~28) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	4	Chapter 4 From the Cradle to the Grave? Chapter 5 Great Novelists	Review 読解・問題 (pp.28~34) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	5	Chapter 5 Great Novelists Chapter 6 History of the Royal Families	Review 読解・問題 (pp.34~39) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	6	Chapter 6 History of the Royal Families Chapter 7 Pound or Euro?	Review 読解・問題 (pp.40~45) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	7	Chapter 7 Pound or Euro? Chapter 8 What is the Tube?	Review 読解・問題 (pp.46~51) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	8	Chapter 8 What is the Tube? Chapter 9 Two-Party Politics?	Review 読解・問題 (pp.52~58) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	9	Chapter 9 Two-Party Politics? Chapter 10 Art Collections in Britain	Review 読解・問題 (pp.58~63) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	10	Chapter 10 Art Collections in Britain Chapter 11 New House, Old House	Review 読解・問題 (pp.64~70) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	11	Chapter 11 New House, Old House Chapter 12 Are British Foods Tasty?	Review 読解・問題 (pp.70~76) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	12	Chapter 12 Are British Foods Tasty? Chapter 13 Newspaper, TV or iPad?	Review 読解・問題 (pp.76~82) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	13	Chapter 13 Newspaper, TV or iPad? Chapter 14 Public School and Hogwarts	Review 読解・問題 (pp.82~88) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	14	Chapter 14 Public School and Hogwarts Chapter 15 VAT and Consumption Tax	Review 読解・問題 (pp.89~98) Quiz	授業範囲の予習と復習 (1時間)
	15	General Review	Chapter 1~Chapter 15 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと。(1時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Cross-Cultural Views on Britain	Richard H. Bent 他	南雲堂
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む) 80%			
学生への メッセージ	英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	チリ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	1 What Non-Japanese people Expect from Japan	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
3	2 What Inbound Tourists Expect from Japanese People	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
4	3 Productive Intercultural Interactions	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
5	4 Utilizing Silence and Space in Japanese Culture	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
6	5 The Needs of Hotel Guests	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
7	6 Clear Messages in a Lawsuit Society	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
8	中間テスト	前半の既習内容の確認テスト	Chapters 1-6 の復習 (テスト勉強) (1 時間)
9	7 Information Wars	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
10	8 A Victor in Information Wars-1	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
11	9 A Victor in Information Wars-2	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
12	10 Falling Occupations and Rising occupations	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
13	11 Fair Survey	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
14	12 Diversifying Risks	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1 時間)
15	期末テスト	後半の既習内容の確認テスト	Chapters 7-12 の復習 (テスト勉強) (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
2	Coping with Globalization(「総合英語-グローバル化への対処」)	小林純子/ Brian Bond	三修社
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	精読は、多読や速読と違って、辞書をしっかりと引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン ボーメンター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	The Work Week	TRFF Unit 5 Reading 22 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson (1 hour)
3	Desks at the Office Brands and Colours Extensive Reading	TRFF Unit 5 Readings 23/24 Extensive Reading	Extensive reading at home Review class lesson (1 hour)
4	Who Owns a Song? Extensive Reading	TRFF Unit 5 Reading 25 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
5	Food Extensive Reading	TRFF Unit 6 Reading 26 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
6	Green Tea Waste Not Extensive Reading	TRFF Unit 6 Readings 27/28 extensive reading score check Extensive Reading score check/troubleshooting	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
7	Marmite Extensive Reading	TRFF Reading 29 (plus taste test!) Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
8	Urban Legends Extensive Reading	TRFF Reading 30 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
9	Stack Your Engines Cup Stacking Extensive Reading	TRFF Readings 31/32 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
10	Kicking it for fun Believe it or Not Extensive Reading	TRFF Readings 33/34 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
11	The No-sweat Sport Extensive Reading	TRFF Reading 35 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
12	People Extensive Reading	TRFF Readings 36/37 Extensive Reading	Extensive Reading at home review class lesson (1 hour)
13	Making Beautiful Music An Internet Star Extensive Reading	TRFF Readings 38/39 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
14	Review of Reading Strategies Born to be the same? Extensive Reading	TRFF Reading 40 Extensive Reading	Extensive Reading at home Review class lesson (1 hour)
15	Reading Activity - handout (to be planned) Extensive Reading Collect Extensive Reading Records and Speed Reading Records	Fun Reading Activity Extensive Reading End of Term Wrap Up	Keep Reading over the holidays! (1 hour)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation/Casey Malarcher	Seed Learning

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	I'm looking forward to meeting you and exploring English through reading together! Please relax and ask questions at anytime! It's a good idea to bring a dictionary to class too.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディングⅡ a	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・オリエンテーション ・文学的表現とは? 日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
2	・比喩表現について(1) 直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
4	比喩表現について(2) 暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
6	比喩表現について(3) 換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
8	比喩表現について(4) 比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	授業の総復習、および多読活動(2時間)

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Choice	Yasuko Okino, Miwako Yamashina, Mitsuru Yokoyama	Cengage Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガボルト)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生への メッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう！
担当者の 研究室等	7号館3階 吉村 征洋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	110
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現(直喩)について予習する。(2時間)
2	比喩表現について(1)直喩	直喩に関する英語を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。(2時間)
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
4	比喩表現について(2)暗喩	暗喩に関する英語を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。(2時間)
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
6	比喩表現について(3)換喩	換喩に関する英語を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。(2時間)
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
8	比喩表現について(4)比喩複合	比喩複合に関する英語を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。(2時間)
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
10	擬人法について	比喩複合に関する英語を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。(2時間)
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
12	倒置法について	倒置法に関する英語を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。(2時間)
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
14	反復法について	反復法に関する英語を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。(2時間)

関連科目 リーディングⅠa, Ⅰb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	NHK NEWSLINE 2	山崎達朗・Stella M. Yamazaki・Erika C. Yamazaki	金星堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガボルト)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生への メッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう！
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現(直喩)について予習する。(2時間)
2	比喩表現について(1)直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。(2時間)
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
4	比喩表現について(2)暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。(2時間)
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
6	比喩表現について(3)換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。(2時間)
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
8	比喩表現について(4)比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。(2時間)
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。(2時間)
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。(2時間)
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。(2時間)

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガボルト)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディングⅡ a	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現(直喩)について予習する。(2時間)
2	比喩表現について(1)直喩	直喩に関する英語を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。(2時間)
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
4	比喩表現について(2)暗喩	暗喩に関する英語を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。(2時間)
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
6	比喩表現について(3)換喩	換喩に関する英語を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。(2時間)
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
8	比喩表現について(4)比喩複合	比喩複合に関する英語を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。(2時間)
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
10	擬人法について	比喩複合に関する英語を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。(2時間)
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
12	倒置法について	倒置法に関する英語を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。(2時間)
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
14	反復法について	反復法に関する英語を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。(2時間)

関連科目 リーディングⅠa, Ⅰb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336543	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガボルト)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名(英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グラント バーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学的作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Course introduction. Speed reading Exercises 1&2 Unit 1 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2 (2 hours)
2	Speed reading Exercises 3&4 Unit 2 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2 (2 hours)
3	Speed reading Exercises 5&6 Unit 3 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
4	Speed reading Exercises 7&8 Unit 4 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
5	Speed reading Exercises 9&10 Unit 5 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
6	Speed reading Exercises 11&12 Review Unit 1-5 From Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and Lingua porta progress.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
7	Speed reading Exercises 13&14 Unit 6 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
8	Speed reading Exercises 15&16 Unit 7 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
9	Speed reading Exercises 17&18 Unit 8 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
10	Speed reading Exercises 19&20 Unit 9 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
11	Unit 10 from Reading	Vocabulary, everyday phrase and idiom	Extensive Reading of Graded Readers

	Advantage 2	practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)	
12	Review Unit 6-10 from Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and Lingua porta progress.	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)	
13	TOEIC Vocabulary Test	Muli-choice test. and review	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)	
14	Test of Intensive Reading. Chapters 1-10 Reading Advantage 2.	Test of vocabulary, everyday phrase and idioms and intensive reading for comprehension.	Ensure all tasks are complete and records handed in. (2 hours)	
15	Final Review and check on progress and completion of tasks. Reading of Selected Current Topic.	Intensive reading for comprehension	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)	
関連科目	リーディング Ia, Ib			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814352710
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Extensive Reading 10% Speed Reading 10% Lingua porta E-learning Exercises 20% TOEIC Vocabulary Test 10% Intensive Reading 50%			
学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようにする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・速読・多読活動 ・Language について	・Unit 16 を速読する ・Language に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
2	・速読・多読活動 ・Loneliness について	・Unit 17 を速読する ・Loneliness に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
3	・速読・多読活動 ・Importance of Grandmothers について	・Unit 18 を速読する ・Importance of Grandmothers に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
4	・速読・多読活動 ・Justice and crime について	・Unit 19 を速読する ・Justice and crime に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
5	・速読・多読活動 ・The Reliability of Eyewitnesses について	・Unit 20 を速読する ・The Reliability of Eyewitnesses に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
6	・速読・多読活動 ・Innocent until Proven Guilty について	・Unit 21 を速読する ・Innocent until Proven Guilty に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
7	・速読・多読活動 ・Solving Crimes について	・Unit 22 を速読する ・Solving Crimes に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
8	・速読・多読活動 ・中間テスト	・Unit 23 を速読する ・中間テストを実施する	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
9	・速読・多読活動 ・Science and history について	・Unit 24 を速読する ・science and history に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
10	・速読・多読活動 ・Ancient artifacts について	・Unit 25 を速読する ・Ancient artifacts に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
11	・速読・多読活動 ・Medical technology について	・Unit 26 を速読する ・Medical technology に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
12	・速読・多読活動 ・Mars について	・Unit 27 を速読する ・Mars に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
13	・速読・多読活動 ・Trends in Living について	・Unit 28 を速読する ・Trends in Living に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
14	・速読・多読活動 ・Issues in society について	・Unit 29 を速読する ・Issues in society に関する英文を読み、理解を深める。	授業の下調べ、および多読活動(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	授業の総復習、および多読活動(2時間)

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Choice	Yasuko Okino, Miwako Yamashina, Mitsuru Yokoyama	Cengage Learning	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				

	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガポルタ)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%			
学生への メッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう！			
担当者の 研究室等	7号館3階 吉村 征洋研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	110
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(2時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(2時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(2時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(2時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(2時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(2時間)

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	NHK NEWSLINE 2	山崎達朗・Stella M. Yamazaki・Erika C. Yamazaki	金星堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガボルト)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生への メッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう！
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IIB
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(2時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(2時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(2時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(2時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(2時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(2時間)

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガボルト)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語の本を読んで、英語力を高めていきましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようにする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(2時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(2時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
5	韻について(1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(2時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
7	韻について(2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
9	韻について(3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(2時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(2時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(2時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(2時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(2時間)

関連科目	リーディングⅠa, Ⅰb
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336543	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% TOEIC 基本語彙テスト 10% E-learning(リンガボルト)課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 50%
----------	--

学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡb	科目名(英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グラント バーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現(隠喩・暗喩など)などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Speed reading Exercises 23&24 Unit 12 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
3	Speed reading Exercises 25&26 Unit 13 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
4	Speed reading Exercises 27&28 Unit 14 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
5	Speed reading Exercises 29&30 Unit 15 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
6	Speed reading Exercises 31&32 Review Unit 11-15 From Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and Lingua porta progress.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
7	Speed reading Exercises 33&34 Unit 16 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
8	Speed reading Exercises 35&36 Unit 17 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
9	Speed reading Exercises 37&38 Unit 18 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
10	Speed reading Exercises 39&40 Unit 19 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
11	Unit 20 from Reading	Vocabulary, everyday phrase and idiom	Extensive Reading of Graded Readers

	Advantage 2	practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)																
12	Review Unit 16-20 from Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and Lingua porta progress.	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)																
13	TOEIC Vocabulary Test	Muli-choice test. and review	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)																
14	Test of Intensive Reading. Chapters 11-20 Reading Advantage 2.	Test of vocabulary, everyday phrase and idioms and intensive reading for comprehension.	Ensure all tasks are complete and records handed in. (2 hours)																
15	Final Review and check on progress and completion of tasks. Reading of Selected Current Topic.	Intensive reading for comprehension	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)																
関連科目	リーディング Ia, Ib																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Timed Reading for Fluency 2</td> <td>Paul Nation & Casey Malarcher</td> <td>Seed Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Reading Advantage 2</td> <td>Casey Malarcher</td> <td>Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																
2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Graded Readers シリーズ</td> <td></td> <td>Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Extensive Reading 10% Speed Reading 10% Lingua porta E-learning Exercises 20% TOEIC Vocabulary Test 10% Intensive Reading 50%																		
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																		

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディングⅡ a, bより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括(1時間)

関連科目	リーディングⅢb など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	100
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。
到達目標	この授業では、リーディングⅡ a, bより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

関連科目	リーディングⅢb など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように、英語学習に王道(easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディングⅢ a	科目名(英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	井寺 利奈
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力の養成を目的とする。
到達目標	この授業では、リーディングⅡ a, bより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

関連科目	リーディングⅢb など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	ただ英文を読むだけでなく、内容についてもじっくり考えることのできる授業にしたいと思っています。英文を「正確」かつ「深く」読み、世界の出来事について自分なりに考えてみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢ a	科目名(英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディングⅡ a, bより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

関連科目	リーディングⅢb など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディングⅡ a, bより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入(速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく(1時間)
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

関連科目	リーディングⅢb など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	100
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

関連科目	リーディングⅢa など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ
There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし)にあるように、英語学習に王道(easy way)などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ)を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	井寺 利奈
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディングⅡ a, bより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入(速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく(1時間)
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

関連科目	リーディングⅢa など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	ただ英文を読むだけでなく、内容についてもじっくり考えることのできる授業にしたいと思っています。英文を「正確」かつ「深く」読み、世界の出来事について自分なりに考えてみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディングⅡ a, bより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)

関連科目	リーディングⅢa など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ
この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	旅行インドネシア・マレー語	科目名(英文)	Indonesian-Malay for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	インドネシアへ実際に旅行に出かけることを想定し、さまざまな状況に応じた実践的なインドネシア語の会話表現を学ぶことを目的とする。
到達目標	インドネシアを旅行する際、また実際にインドネシアで生活する際に困らない、基本的かつ日常的なインドネシア語運用能力を身に付けることができる。
授業方法と留意点	テキストはテーマに応じたプリントを配布する。辞書を必ず携帯すること。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1年次で学んだ文法事項を確認しておくこと。 授業で学んだことを復習しておくこと。
1	オリエンテーション	授業の進め方、1年次で学んだことの確認	1年次で学んだ会話表現を確認しておくこと。 旅行にも用いる会話表現の復習をしておくこと。
2	基本的な表現	1年次で学んだ基本的表現、中でも旅行にも用いることができる会話表現	配布された「飛行機内にて」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
3	飛行機内にて	飛行機内での会話表現	配布された「空港にて」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
4	空港にて	イミグレーションや税関、両替所等での 会話表現	配布された「交通機関」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
5	交通機関	タクシーやバスに乗って移動する際の 会話表現	配布された「ホテルにて」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
6	ホテルにて	チェックインからチェックアウトまで、 ホテルで過ごす際によく使う会話表現	配布された「旅行会社にて」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
7	旅行会社にて	インドネシア国内で旅行会社を訪れる 際の会話表現	これまでの配布された全てのプリントで学んだ ことを復習しておくこと。 中間テストで間違えたところを再確認しておく こと。
8	7回までのまとめ	中間テストおよび解説	配布された「道を尋ねる」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
9	道を尋ねる	道に迷った際、目的地までの道のりを尋 ねる際の会話表現	配布された「観光する」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
10	観光する	観光する際によく用いられる会話表現	配布された「レストランにて」のプリントに目通 しておくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
11	レストランにて	レストランを利用する際によく用いら れる会話表現	配布された「買い物をする」のプリントに目を通 しておくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
12	買い物をする	買い物をする際によく用いられる会話 表現	配布された「病院や薬局にて」のプリントに目通 しておくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
13	病院や薬局にて	病院や薬局を利用する際によく用いら れる会話表現	配布された「トラブルに遭遇する」のプリントに目 を通しておくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
14	トラブルに遭遇する	トラブルに遭遇してしまった際に用い ることができる会話表現	理解度確認テストに臨むため、これまでに学ん だことを振り返っておくこと。 理解度確認テストで間違えたところを再度復習 しておくこと。
15	総復習	理解度確認テストおよび解説	

関連科目 インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語辞典ポケット版(8,000円+税)	末永晃	大学書林

評価方法(基準) 授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%
詳細は、第1回目の授業で伝える。

学生へのメッセージ 授業には積極的に取り組みましょう。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60時間以上行うこと。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。

科目名	旅行インドネシア語	科目名(英文)	Indonesian for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 玲子
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2129e0		

授業概要・目的	インドネシアへ実際に旅行に出かけることを想定し、さまざまな状況に応じた実践的なインドネシア語の会話表現を学ぶことを目的とする。
到達目標	インドネシアを旅行する際、また実際にインドネシアで生活する際に困らない、基本的かつ日常的なインドネシア語運用能力を身に付けることができる。
授業方法と留意点	テキストはテーマに応じたプリントを配布する。辞書を必ず携帯すること。
科目学習の効果(資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	基本的な表現	1年次で学んだ基本的表現、中でも旅行にも用いることができる会話表現	1年次で学んだ会話表現を確認しておくこと。 旅行にも用いる会話表現の復習をしておくこと。
3	飛行機内にて	飛行機内での会話表現	配布された「飛行機内にて」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
4	空港にて	イミグレーションや税関、両替所等での 会話表現	配布された「空港にて」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
5	交通機関	タクシーやバスに乗って移動する際の 会話表現	配布された「交通機関」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
6	ホテルにて	チェックインからチェックアウトまで、 ホテルで過ごす際によく使う会話表現	配布された「ホテルにて」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
7	旅行会社にて	インドネシア国内で旅行会社を訪れる 際の会話表現	配布された「旅行会社にて」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
8	7回までのまとめ	中間テストおよび解説	これまでに配布された全てのプリントで学んだ ことを復習しておくこと。 中間テストで間違えたところを再確認しておく こと。
9	道を探ねる	道に迷った際、目的地までの道のりを 探ねる際の会話表現	配布された「道を探ねる」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
10	観光する	観光する際によく用いられる会話表現	配布された「観光する」のプリントに目を通して おくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
11	レストランにて	レストランを利用する際によく用いら れる会話表現	配布された「レストランにて」のプリントに目を通 しておくこと。 新しく学んだ会話表現の定着をはかること。
12	買い物を する	買い物を する際によく用いられる会話 表現	配布された「買い物を する」のプリントに目を通 しておくこと。 新しく学んだ会話表現の定着 をはかること。
13	病院や薬 局にて	病院や薬 局を利用する際によく用いら れる会話表現	配布された「病院や薬 局にて」のプリントに目を通 しておくこと。 新しく学んだ会話表現の定着 をはかること。
14	トラブル に遭遇す る	トラブル に遭遇してしまっ た際によく用い ることができる 会話表現	配布された「トラブル に遭遇する」の プリントに目を通 しておくこと。 新しく学んだ 会話表現の定着 をはかること。
15	総復習	理解度確認 テストおよび 解説	理解度確認 テストに臨む ため、これま でに学んできた ことを振り返 っておくこと。 理解度確認 テストで間違 えたところを 再度復習し ておくこと。

関連科目 インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語辞典ポケット版(8,000円+税)	末永晃	大学書林

評価方法(基準) 授業への積極的な参加度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%
詳細は、第1回目の授業で伝える。

学生へのメッセージ 授業には積極的に取り組みましょう。

担当者の研究室等 7号館2階(非常勤講師室)

備考 予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60時間以上行うこと。授業時間外での質問等は非常勤講師室にてお昼休みに対応する。

発行 2019年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

枚方校地

〒573-0101

大阪府枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3100 【枚方事務室・薬学部】

電話(072)-807-6001 【枚方事務室・看護学部】

